

ものごとの仕組みに注目する  
—作業療法における問題解決の糸口として—

# 第57回日本作業療法学会

The 57th Japanese Occupational Therapy Congress & Expo in Okinawa 2023

## プログラム

2023年11月10日(金)~12日(日)

会場 沖縄コンベンションセンター 学会長 長尾 徹

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4丁目3-1

神戸大学大学院 保健学研究科

主催 一般社団法人日本作業療法士協会







# 第57回日本作業療法学会

The 57<sup>th</sup> Japanese Occupational Therapy Congress & Expo in Okinawa 2023

## ものごとの仕組みに注目する ー作業療法における問題解決の糸口としてー

主催／ 一般社団法人日本作業療法士協会

後援／ NPO法人日本リハビリテーション看護学会

一般社団法人シルバーサービス振興会

一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会

一般社団法人全国デイ・ケア協会

一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会

一般社団法人日本ケアマネジメント学会

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会

一般社団法人日本医療法人協会

一般社団法人日本介護支援専門員協会

一般社団法人日本義肢協会

公益社団法人日本義肢装具士協会

一般社団法人日本言語聴覚士協会

一般社団法人日本高次脳機能障害学会

一般社団法人日本在宅介護協会

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

公益財団法人日本訪問看護財団

公益財団法人テクノエイド協会

公益社団法人全国精神保健福祉会連合会

公益社団法人全国有料老人ホーム協会

公益社団法人日本看護協会

公益社団法人日本精神神経学会

沖縄県

公益財団法人日本パラスポーツ協会

公益社団法人全国老人福祉施設協議会

公益社団法人全国老人保健施設協会

公益社団法人全日本病院協会

公益社団法人日本栄養士会

公益社団法人日本社会福祉士会

公益社団法人日本整形外科学会

公益社団法人日本精神保健福祉士協会

公益社団法人日本生体医工学会

一般社団法人日本精神科看護協会

一般社団法人日本病院会

一般社団法人日本福祉用具供給協会

一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会

一般社団法人日本慢性期医療協会

公益社団法人日本介護福祉士会

公益社団法人日本理学療法士協会

特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会

公益社団法人日本医師会

日本病院・地域精神医学会

一般社団法人日本脳卒中学会

日本職業リハビリテーション学会

公益社団法人日本リハビリテーション医学会

公益社団法人日本精神科病院協会

宜野湾市

厚生労働省









会場別日程表

1日目 2023年11月10日(金) 受付開始時間9:00～ LIVE :ライブ配信

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30																								
参加受付 (展示棟)	受付																																												
第1会場 (劇場棟)		開会式 LIVE	10:00～10:50 学会長講演 ものごとの仕組みに注目する ー作業療法における問題解決の糸口としてー <sup>LIVE</sup>			11:10～12:10 スペシャルセッション SS-1～4 <sup>LIVE</sup>				13:00～14:30 基調講演1 認知バイアス (人の思考や行動を決める際の特徴を知る) <sup>LIVE</sup>			15:00～16:30 シンポジウム1 脳法障害者等への支援を考える ～医療観察対象者・矯正施設入所者等の地域生活支援～ <sup>LIVE</sup>					17:00～18:00 企画セミナー1 日本義肢装具学会																											
第2会場 (会議棟A1)						11:00～12:30 教育講演1 精神科作業療法の行方ー仕組みから考えるー				13:10～14:20(Oral) 地域 2 ON-2			14:30～15:30(Oral) 脳血管疾患等 4 OA-4		15:40～16:50(Oral) 脳血管疾患等 6 OA-6			17:00～18:00 企画セミナー2 日本作業療法士協会学術部 LGBT+ ガイドライン班																											
第3会場 (会議棟B1)						11:00～12:00 専門作業療法士セミナー1 (脳血管障害)		12:10～13:10(Oral) 脳血管疾患等 1 OA-1		13:20～14:20(Oral) 脳血管疾患等 2 OA-2			14:30～15:30(Oral) 脳血管疾患等 5/MTDLP 1 OA-5		15:40～16:50(Oral) がん 2 OF-2			17:00～18:00 企画セミナー3 長崎発達障害領域作業療法勉強会																											
第4会場 (会議棟B5-7)						11:00～12:00 専門作業療法士セミナー2 (がん)		12:10～13:10(Oral) 地域 1 ON-1		13:20～14:20(Oral) 脳血管疾患等 3 OA-3			14:30～15:30(Oral) 地域 3/MTDLP 2 ON-3		15:40～16:50(Oral) 発達障害 2 OI-2			17:00～18:00 企画セミナー4 循環器臨床作業療法研究会																											
第5会場 (会議棟B2)						11:00～12:00 専門作業療法士セミナー3 (特別支援教育)		12:10～13:10(Oral) 精神障害 1 OH-1		13:20～14:20(Oral) 発達障害 1 OI-1			14:30～15:30(Oral) 精神障害 2 OH-2		15:40～16:50(Oral) 神経難病 1 OE-1			17:00～18:00 企画セミナー5 ICTリハビリテーション研究会																											
第6会場 (会議棟A2)						11:00～12:00 専門作業療法士セミナー4 (訪問作業療法)		12:10～13:10(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む)1 OK-1		13:20～14:20(Oral) 高齢期 1 OJ-1			14:30～15:30(Oral) 運動器疾患 1 OD-1		15:40～16:50(Oral) 英語セッション 1 OES-1			17:00～18:00 企画セミナー6 老年療法学会																											
第7会場 (会議棟B3-4)						11:00～12:00 専門作業療法士セミナー5 (手外科)		12:10～13:10(Oral) がん 1 OF-1		13:20～14:20(Oral) 呼吸器疾患 1 OC-1			14:30～15:30(Oral) 基礎研究 1 OP-1		15:40～16:50(Oral) 教育 1 OR-1			17:00～18:00 企画セミナー7 Park-OT Journal Club																											
ポスター会場 (展示棟)	ポスター受付・掲示																																												
																						11:00～12:00 脳血管疾患等 1 PA-1	12:00～13:00 脳血管疾患等 2 PA-2	13:00～14:00 脳血管疾患等 3 PA-3	14:00～14:30 午前ポスター 撤去	15:00～16:00 脳血管疾患等 4 PA-4	16:00～17:00 脳血管疾患等 5 PA-5	17:00～18:00 脳血管疾患等 6 PA-6	※時間内にポスターが撤去されていない場合、運営側で撤去させていただきます。	13:00～14:00 心大血管疾患 1 PB-1	14:30～15:00 午後ポスター 掲示	15:00～16:00 脳血管疾患等 4 PA-4	16:00～17:00 脳血管疾患等 5 PA-5	17:00～18:00 脳血管疾患等 6 PA-6	ポスター撤去										
																						11:00～12:00 運動器疾患 1 PD-1	12:00～13:00 運動器疾患 2 PD-2	13:00～14:00 運動器疾患 3 PD-3	15:00～16:00 運動器疾患 4 PD-4	16:00～17:00 運動器疾患 5 PD-5	17:00～18:00 運動器疾患 6 PD-6																		
																						11:00～12:00 神経難病 1 PE-1	12:00～13:00 神経難病 2 PE-2	13:00～14:00 がん 3 PF-3	15:00～16:00 神経難病 3 PE-3	16:00～17:00 神経難病 4 PE-4	17:00～18:00 がん 6 PF-6																		
																						11:00～12:00 がん 1 PF-1	12:00～13:00 がん 2 PF-2	13:00～14:00 精神障害 3 PH-3	15:00～16:00 がん 4 PF-4	16:00～17:00 がん 5 PF-5	17:00～18:00 がん 6 PF-6																		
																						11:00～12:00 精神障害 1 PH-1	12:00～13:00 精神障害 2 PH-2	13:00～14:00 精神障害 3 PH-3	15:00～16:00 精神障害 4 PH-4	16:00～17:00 精神障害 5 PH-5	17:00～18:00 精神障害 6 PH-6																		
																						11:00～12:00 発達障害 1 PI-1	12:00～13:00 発達障害 2 PI-2	13:00～14:00 発達障害 3 PI-3	15:00～16:00 発達障害 4 PI-4	16:00～17:00 発達障害 5 PI-5	17:00～18:00 発達障害 6 PI-6																		
																						11:00～12:00 高齢期 1 PJ-1	12:00～13:00 高齢期 2 PJ-2	13:00～14:00 高齢期 3 PJ-3	15:00～16:00 高齢期 4 PJ-4	16:00～17:00 高齢期 5 PJ-5	17:00～18:00 高齢期 6 PJ-6																		
																						11:00～12:00 認知障害(高次脳機能障害を含む)1 PK-1	12:00～13:00 認知障害(高次脳機能障害を含む)2 PK-2	13:00～14:00 認知障害(高次脳機能障害を含む)3 PK-3	15:00～16:00 認知障害(高次脳機能障害を含む)4 PK-4	16:00～17:00 認知障害(高次脳機能障害を含む)5 PK-5	17:00～18:00 認知障害(高次脳機能障害を含む)6 PK-6																		
																						11:00～12:00 MTDLP 1 PM-1	12:00～13:00 MTDLP 2 PM-2	13:00～14:00 地域 3 PN-3	15:00～16:00 援助機器 1 PL-1	16:00～17:00 援助機器 2 PL-2	17:00～18:00 援助機器 3 PL-3																		
																						11:00～12:00 地域 1 PN-1	12:00～13:00 地域 2 PN-2	13:00～14:00 地域 3 PN-3	15:00～16:00 地域 4 PN-4	16:00～17:00 地域 5 PN-5	17:00～18:00 地域 6 PN-6																		
																						11:00～12:00 基礎研究 1 PP-1	12:00～13:00 基礎研究 2 PP-2	13:00～14:00 基礎研究 3 PP-3	15:00～16:00 理論 1 PO-1	16:00～17:00 理論 2 PO-2	17:00～18:00 基礎研究 6 PP-6																		
																						11:00～12:00 管理運営 1 PQ-1	12:00～13:00 管理運営 2 PQ-2	13:00～14:00 管理運営 3 PQ-3	15:00～16:00 基礎研究 4 PA-4	16:00～17:00 基礎研究 5 PP-5	17:00～18:00 基礎研究 6 PP-6																		
																						11:00～12:00 教育 1 PR-1	12:00～13:00 教育 2 PR-2	13:00～14:00 教育 3 PR-3	15:00～16:00 教育 4 PR-4	16:00～17:00 教育 5 PR-5	17:00～18:00 教育 6 PR-6																		
																						展示会場 (展示棟)	企業展示、大学院紹介、書籍販売、ご当地PR(沖縄県士会)、台湾OT協会																						

キリトリ



会場別日程表

2日目 2023年11月11日(土) 受付開始時間8:00~ LIVE :ライブ配信

		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30			
参加受付 (展示棟)		受付																							
第1会場 (劇場棟)		9:00~10:30 シンポジウム2 障害福祉領域で求められる作業療法士の専門性 ~児童通所支援で活躍するために~ <b>LIVE</b>			10:40~12:10 基調講演2 痛みの仕組み -作業療法における「痛み」解決の糸口を探る- <b>LIVE</b>			13:00~14:30 基調講演3 新時代の認知症医療におけるOTの役割と期待 <b>LIVE</b>			15:00~16:30 教育講演2 臨床研究のデータ解析~回帰分析について~ <b>LIVE</b>														
第2会場 (会議棟A1)		9:00~12:00 日本-台湾作業療法ジョイントシンポジウム (テーマ1) Continuous Training for Occupational Therapists (テーマ2) Community Inclusive Services for People with Mental Health Conditions						12:20~13:30(Oral) 地域 6 ON-6			13:40~14:40(Oral) 脳血管疾患等 10 OA-10			14:50~16:00(Oral) 高齢期 3 OJ-3			16:10~17:10 企画セミナー8 日本臨床作業療法学会								
第3会場 (会議棟B1)		9:00~10:00 専門作業療法士セミナー6 (認知症)		10:10~11:10(Oral) 脳血管疾患等 7 OA-7		11:20~12:20(Oral) 脳血管疾患等 8 OA-8		12:30~13:30(Oral) 脳血管疾患等 9/援助機器 1 OA-9		13:40~14:40(Oral) 脳血管疾患等 11 OA-11		14:50~16:00(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む) 3 OK-3		16:10~17:10 企画セミナー9 日本セラピー研究会											
第4会場 (会議棟B5-7)		9:00~10:00 専門作業療法士セミナー7 (摂食嚥下)		10:10~11:10(Oral) 地域 4 ON-4		11:20~12:20(Oral) 地域 5 ON-5		12:30~13:30(Oral) 基礎研究 2 OP-2		13:40~14:40(Oral) 地域 7/援助機器 2 ON-7		14:50~16:00(Oral) 発達障害 4 OI-4		16:10~17:10 企画セミナー10 日本作業療法研究学会											
第5会場 (会議棟B2)		9:00~10:00 専門作業療法士セミナー8 (精神科急性期)		10:10~11:10(Oral) 精神障害 3/MTDLP 3 OH-3		11:20~12:20(Oral) 教育 2 OR-2				13:40~14:40(Oral) 管理運営 1 OQ-1		14:50~16:00(Oral) 心大血管疾患 1/神経難病 2 OB-1		16:10~17:10 企画セミナー11 CIOTS Japan											
第6会場 (会議棟A2)		9:00~10:00 専門作業療法士セミナー9 (福祉用具)		10:10~11:10(Oral) 発達障害 3 OI-3		11:20~12:30(Oral) 高齢期 2 OJ-2				13:00~14:30 国際企画プログラム The Development of Occupational Therapy and Cultural Impact on Occupational Therapy Services in Indonesia		14:50~16:00(Oral) 英語セッション 2 OES-2		16:10~17:10 企画セミナー12 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会											
第7会場 (会議棟B3-4)		9:00~10:00 専門作業療法士セミナー10 (就労支援)		10:10~11:10(Oral) 運動器疾患 2 OD-2		11:20~12:20(Oral) がん 3 OF-3		12:30~13:30(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む) 2 OK-2		13:40~14:40(Oral) 運動器疾患 3/援助機器 3 OD-3		14:50~16:00(Oral) 援助機器 4/理論 1 OL-1		16:10~17:10 企画セミナー13 作業療法神経科学研究会											
ポスター会場 (展示棟)	ポスター受付・掲示			10:10~11:10 脳血管疾患等 7 PA-7		11:10~12:10 脳血管疾患等 8 PA-8		12:10~13:10 脳血管疾患等 9 PA-9				14:10~15:10 脳血管疾患等 10 PA-10		15:10~16:10 脳血管疾患等 11 PA-11		16:10~17:10 脳血管疾患等 12 PA-12									
										12:10~13:10 心大血管疾患 2 PB-2								16:10~17:10 心大血管疾患 3 PB-3							
								11:10~12:10 呼吸器疾患 3 PC-3		12:10~13:10 呼吸器疾患 4 PC-4															
						10:10~11:10 運動器疾患 7 PD-7		11:10~12:10 運動器疾患 8 PD-8		12:10~13:10 運動器疾患 9 PD-9				14:10~15:10 運動器疾患 10 PD-10		15:10~16:10 運動器疾患 11 PD-11		16:10~17:10 運動器疾患 12 PD-12							
						10:10~11:10 神経難病 5 PE-5		11:10~12:10 神経難病 6 PE-6						14:10~15:10 神経難病 7 PE-7		15:10~16:10 神経難病 8 PE-8									
						10:10~11:10 がん 7 PF-7		11:10~12:10 がん 8 PF-8		12:10~13:10 がん 9 PF-9				14:10~15:10 がん 10 PF-10		15:10~16:10 がん 11 PF-11		16:10~17:10 がん 12 PF-12							
						10:10~11:10 内科疾患 2 PG-2		11:10~12:10 内科疾患 3 PG-3																	
						10:10~11:10 精神障害 7 PH-7		11:10~12:10 精神障害 8 PH-8		12:10~13:10 精神障害 9 PH-9				14:10~15:10 精神障害 10 PH-10		15:10~16:10 精神障害 11 PH-11		16:10~17:10 精神障害 12 PH-12							
						10:10~11:10 発達障害 7 PI-7		11:10~12:10 発達障害 8 PI-8		12:10~13:10 発達障害 9 PI-9				14:10~15:10 発達障害 10 PI-10		15:10~16:10 発達障害 11 PI-11		16:10~17:10 発達障害 12 PI-12							
						10:10~11:10 高齢期 7 PJ-7		11:10~12:10 高齢期 8 PJ-8		12:10~13:10 高齢期 9 PJ-9				14:10~15:10 高齢期 10 PJ-10		15:10~16:10 高齢期 11 PJ-11		16:10~17:10 高齢期 12 PJ-12							
						10:10~11:10 認知障害(高次脳機能障害を含む) 7 PK-7		11:10~12:10 認知障害(高次脳機能障害を含む) 8 PK-8		12:10~13:10 認知障害(高次脳機能障害を含む) 9 PK-9				14:10~15:10 認知障害(高次脳機能障害を含む) 10 PK-10		15:10~16:10 認知障害(高次脳機能障害を含む) 11 PK-11		16:10~17:10 認知障害(高次脳機能障害を含む) 12 PK-12							
						10:10~11:10 MTDLP 3 PM-3		11:10~12:10 MTDLP 4 PM-4																	
						10:10~11:10 地域 7 PN-7		11:10~12:10 地域 8 PN-8		12:10~13:10 地域 9 PN-9				14:10~15:10 地域 10 PN-10		15:10~16:10 地域 11 PN-11		16:10~17:10 地域 12 PN-12							
														14:10~15:10 理論 3 PO-3		15:10~16:10 理論 4 PO-4									
						10:10~11:10 基礎研究 7 PP-7		11:10~12:10 基礎研究 8 PP-8		12:10~13:10 基礎研究 9 PP-9				14:10~15:10 基礎研究 10 PP-10		15:10~16:10 基礎研究 11 PP-11		16:10~17:10 基礎研究 12 PP-12							
												14:10~15:10 管理運営 4 PQ-4		15:10~16:10 管理運営 5 PQ-5		16:10~17:10 管理運営 6 PQ-6									
				10:10~11:10 教育 7 PR-7		11:10~12:10 教育 8 PR-8		12:10~13:10 教育 9 PR-9				14:10~15:10 教育 10 PR-10		15:10~16:10 教育 11 PR-11		16:10~17:10 教育 12 PR-12									
展示会場 (展示棟)		企業展示、大学院紹介、書籍販売、ご当地PR(沖縄県士会)、台湾OT協会																							

キリトリ





会場別日程表

3日目 2023年11月12日(日) 受付開始時間8:30～ LIVE :ライブ配信

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	
参加受付 (劇場棟)	受付										
第1会場 (劇場棟)	8:30～9:30 専門作業療法士セミナー11 (高次脳機能障害)			10:10～11:40 シンポジウム3 出版の仕組み(文字による知の伝達) <b>LIVE</b>				閉会式・表彰式 <b>LIVE</b>			
第2会場 (会議棟A1)	8:30～9:30(Oral) 脳血管疾患等 12 OA-12			9:40～10:40(Oral) 脳血管疾患等 14 OA-14		10:50～11:50 企画セミナー14 Review Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD)					
第3会場 (会議棟B1)	8:30～9:30(Oral) 脳血管疾患等 13 OA-13			9:40～10:40(Oral) 脳血管疾患等 15 OA-15		10:50～11:50 企画セミナー15 日本集中治療作業療法研究会					
第4会場 (会議棟B5-7)	8:30～9:30(Oral) 地域 8 ON-8			9:40～10:40(Oral) 地域 9 ON-9		10:50～11:50 企画セミナー16 高次脳機能障害作業療法研究会					
第5会場 (会議棟B2)	8:30～9:30(Oral) 教育 3 OR-3			9:40～10:40(Oral) 基礎研究 3 OP-3		10:50～11:50 企画セミナー17 認知症臨床研究会in 佐賀					
第6会場 (会議棟A2)	8:30～9:30(Oral) 高齢期 4 OJ-4			9:40～10:40(Oral) 運動器疾患 4 OD-4		10:50～11:50 企画セミナー18 日本コンチネンス協会					
第7会場 (会議棟B3-4)	8:30～9:30(Oral) 発達障害 5 OI-5			9:40～10:40(Oral) 精神障害 4 OH-4		10:50～11:50 企画セミナー19 湘南 OT 交流会					

[オンデマンド配信]日程表

2023年11月13日(月)～12月24日(日)

オンデマンド : 現地講演の録画をオンデマンド配信

オンデマンド : 事前収録データをオンデマンド配信

※質疑はオンデマンド配信のシステムから可能

学会長講演 (50分)	学会長講演 ものごとの仕組みに注目する ー作業療法における問題解決の糸口としてー 座長:仙石 泰仁 講師:長尾 徹 <b>オンデマンド</b>					
国際企画プログラム (90分)	国際企画プログラム The Development of Occupational Therapy and Cultural Impact on Occupational Therapy Services in Indonesia 座長:石橋 英恵 講師:Tri Budi Santoso <b>オンデマンド</b>					
教育講演 (90分)	教育講演1 精神科作業療法の行方ー仕組みから考えるー 座長:四本かやの 講師:小林 正義 <b>オンデマンド</b>		教育講演2 臨床研究のデータ解析ー帰帰分析についてー 座長:長山 洋史 講師:新谷 歩 <b>オンデマンド</b>			
基調講演 (90分)	基調講演1 認知バイアス(人の思考や行動を決める際の特徴を知る) 座長:長尾 徹 講師:川合 伸幸 <b>オンデマンド</b>		基調講演2 痛みの仕組み ー作業療法における「痛み」解決の糸口を探るー 座長:野田 和恵 講師:松原 貴子 <b>オンデマンド</b>		基調講演3 新時代の認知症医療におけるOTの役割と期待 座長:田平 隆行 講師:池田 学 <b>オンデマンド</b>	
シンポジウム (90分)	シンポジウム1 触法障害者等への支援を考えるー医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援ー 座長:宮口 英樹 シンポジスト:宮口 英樹、棟近 辰行、岡庭 隆門、足立 一 <b>オンデマンド</b>		シンポジウム2 障害福祉領域で求められる作業療法士の専門性ー児童通所支援で活躍するためにー 座長:酒井 康年 シンポジスト:酒井 康年、嘉門 邦岳、仲間 知穂 <b>オンデマンド</b>		シンポジウム3 出版の仕組み(文字による知の伝達) 座長:新宮 尚人 シンポジスト:新宮 尚人、青山 智、関川 宏、五十嵐陽子 <b>オンデマンド</b>	
日台シンポジウム (180分)	日本ー台湾作業療法ジョイントシンポジウム (テーマ1)座長:大庭 潤平 台湾/日本講師:Hui-Fen Mao/竹中佐江子 (テーマ2)座長:池田 望 台湾/日本講師:Chen Te-Chun/早坂 友成 <b>オンデマンド</b>					
スペシャルセッション (70分)	スペシャルセッション 座長:村田 和香 演者:日高 雄磨、鮫脇 健司、山鹿 隆義、竹林 崇 <b>オンデマンド</b>					
専門療法士セミナー (60分)	専門作業療法士セミナー1(脳血管障害) 講師:長谷川敬一、小瀧 浩平、高橋 啓吾 <b>オンデマンド</b>		専門作業療法士セミナー2(がん) 司会:阿瀬 寛幸 講師:藤井 美希、稲田 雅也、西山菜々子 <b>オンデマンド</b>		専門作業療法士セミナー3(特別支援教育) 講師:宮嶋 愛弓 <b>オンデマンド</b>	
	専門作業療法士セミナー7(摂食嚥下) 講師:太田 有美、神作 一実、青木 佑介 <b>オンデマンド</b>		専門作業療法士セミナー8(精神科急性期) 講師:若根 達郎、早坂 友成 <b>オンデマンド</b>		専門作業療法士セミナー9(福祉用具) 講師:松本 琢磨、中川 正己 <b>オンデマンド</b>	
企画セミナー (60分)	企画セミナー1 日本義肢装具学会 <b>オンデマンド</b>		企画セミナー2 日本作業療法士協会学術部 LGBT+ ガイドライン班 <b>オンデマンド</b>		企画セミナー3 長崎発達障害領域作業療法勉強会 <b>オンデマンド</b>	
	企画セミナー6 老年療学会 <b>オンデマンド</b>		企画セミナー7 Park-OT Journal Club <b>オンデマンド</b>		企画セミナー8 日本臨床作業療法学会 <b>オンデマンド</b>	
	企画セミナー11 CIOTS Japan <b>オンデマンド</b>		企画セミナー12 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会 <b>オンデマンド</b>		企画セミナー13 作業療法神経科学研究会 <b>オンデマンド</b>	
	企画セミナー16 高次脳機能障害作業療法研究会 <b>オンデマンド</b>		企画セミナー17 認知症臨床研究会in 佐賀 <b>オンデマンド</b>		企画セミナー18 日本コンチネン協会 <b>オンデマンド</b>	
一般演題 (Oral)	A 脳血管疾患等 <b>オンデマンド</b>		B 心大血管疾患 <b>オンデマンド</b>		C 呼吸器疾患 <b>オンデマンド</b>	
	H 精神障害 <b>オンデマンド</b>		I 発達障害 <b>オンデマンド</b>		J 高齢期 <b>オンデマンド</b>	
	O 理論 <b>オンデマンド</b>		P 基礎研究 <b>オンデマンド</b>		Q 管理運営 <b>オンデマンド</b>	
一般演題 (ポスター) PDF	A 脳血管疾患等 <b>オンデマンド</b>		B 心大血管疾患 <b>オンデマンド</b>		C 呼吸器疾患 <b>オンデマンド</b>	
	G 内科疾患 <b>オンデマンド</b>		H 精神障害 <b>オンデマンド</b>		I 発達障害 <b>オンデマンド</b>	
	M MTDLP <b>オンデマンド</b>		N 地域 <b>オンデマンド</b>		O 理論 <b>オンデマンド</b>	
	D 運動器疾患 <b>オンデマンド</b>		E 神経難病 <b>オンデマンド</b>		F がん <b>オンデマンド</b>	
	K 認知障害 (高次脳機能障害を含む) <b>オンデマンド</b>		L 援助機器 <b>オンデマンド</b>		M MTDLP <b>オンデマンド</b>	
	R 教育 <b>オンデマンド</b>		ES 英語セッション <b>オンデマンド</b>		G 内科疾患 <b>オンデマンド</b>	
	D 運動器疾患 <b>オンデマンド</b>		E 神経難病 <b>オンデマンド</b>		F がん <b>オンデマンド</b>	
	J 高齢期 <b>オンデマンド</b>		K 認知障害 (高次脳機能障害を含む) <b>オンデマンド</b>		L 援助機器 <b>オンデマンド</b>	
	P 基礎研究 <b>オンデマンド</b>		Q 管理運営 <b>オンデマンド</b>		R 教育 <b>オンデマンド</b>	





## 第57回日本作業療法学会

### 目 次

実施要綱……………	2	一般演題	スペシャルセッション……………	80
協会長挨拶……………	3		英語発表……………	80
学会長挨拶……………	4		口述発表……………	80
式次第……………	5		ポスター発表……………	98
交通アクセス・会場周辺図……………	6	広告団体・企業 / 機器展示出展企業 /		
会場案内図……………	8	書籍展示企業 / 大学院説明ブース一覧…	157	
参加者へのご案内……………	12	第57回日本作業療法学会組織 ……	158	
口述発表者の皆様へ……………	20	編集後記……………	159	
口述発表（一般演題）の座長・司会の皆様へ…	22			
ポスター発表者の皆様へ……………	23			
講演・シンポジウム等一覧……………	25			
抄録 学会長講演……………	34			
基調講演……………	35			
教育講演……………	38			
シンポジウム……………	40			
日本・台湾作業療法ジョイントシンポジウム…	45			
国際企画プログラム……………	49			
専門作業療法士セミナー……………	50			
企画セミナー……………	61			

## 実施要綱

会 期	2023年11月10日(金)、11日(土)、12日(日) オンデマンド配信 2023年11月13日(月)～12月24日(日)
テ ー マ	ものごとの仕組みに注目する －作業療法における問題解決の糸口として－
会 場	沖縄コンベンションセンター (〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4丁目3-1)
主 催	一般社団法人日本作業療法士協会
学 会 長	長尾 徹 (神戸大学大学院 保健学研究科)
運営事務局	株式会社インターグループ内 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル TEL: 06-6372-3052 / FAX: 06-6376-2362 E-mail : ot57@intergroup.co.jp

## 協会長挨拶

### 第57回日本作業療法学会の開催に寄せて



一般社団法人 日本作業療法士協会  
会 長 山本 伸一

2023年11月10日(金)～12日(日)、第57回日本作業療法学会が沖縄で開催されます。誠におめでとうございます。コロナ禍という苦境が3年以上も続きましたが、会員の皆様や運営事務局等のご努力ご尽力によって盛大に催されますことを心よりお祝い申し上げます。

このたび、長尾徹学会長のもと、テーマは「ものごとの仕組みに注目する－作業療法における問題解決の糸口として－」でございます。学会長の思いは、「仕組みに着目することで、作業療法を実践する上での問題解決に少しでも役立つような場を提供したい。人の特徴や、人の営みのみならず、生活環境(道具や設備をはじめ、理論や制度など)も、ものごととして視野に入れ、作業療法を進めて欲しい。」とのこと。まさに、仕組みを知ることは、具体的な作業療法支援には欠かせない背景です。ぜひとも、それぞれの気づきとなり、それぞれの臨床で活かされることを期待しています。

さて、ウクライナ問題やアフター(With)コロナに影響される生活様式は、物価高騰の影響やICTの導入等により様々な場面で転変しています。私たちの暮らしそのものだけでなく、高齢者や障害を持った方々の生活においても同様です。作業療法場面でも、環境づくりや効率的な介入の工夫等、これまでとは異なった関わりが必要でしょう。一方、作業療法の「核」として、対象者の生活に寄り添うことは何ら変わりません。作業療法士だからわかること、作業療法士だから出来ること。専門職としての自覚をさらに深めつつ、臨床に励んでいただきたい、そう思います。

今回の学会につきましてもハイブリット開催でございます。Webには、その特有の良さがあります。また、直接会うことの素晴らしさもございます。その両面を大切に、それぞれが研鑽し合える作業療法学会を創り上げてまいりましょう。皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。



## 学会長挨拶

# ものごとの仕組みに注目する —作業療法における問題解決の糸口として—



第57回日本作業療法学会

学会長 **長尾 徹**

(神戸大学大学院 保健学研究科)

世間の関心ごとは、ロシアによるウクライナ侵攻やウィズコロナの生活様式、絶えることのない自然災害による被災をはじめ、政治や物価の高騰など心を休める暇がないといった感じである。そしてそれらの状況は短期間で解決するとは思えない。作業療法界も新型コロナウイルス感染症のため、臨床現場や教育現場でも多大な制限を受け、学会運営もICTを用いた開催を余儀なくされた。今となっては、複数の学会や研修会がICTを用いて開催されている。

世間が関心をおくのは、単に興味深いからだけではなく、自身の生活に影響を受けるのではないかと感じるからだろう。自分に関係のある環境の変化は、自分には関係のない環境の変化よりも重要であると感じるし、すぐにでも対処せねばならない事項ととらえてしまう。一見、自己中心的な判断であるように思うが、生活する上ではまっとうな判断である。主観的な体験や経験が人の行動を左右する。こういった「生きる上での仕組み」を意識することで、他者の行動を理解することができる。ものごとには仕組みが存在するが、すべての仕組みが判明しているわけではない。しかし、仕組みは分かっているがそれを知らないという状況もある。今まで知らなかった仕組みに気づいたとき、対応策が見つかることがある。仕組みを知らないと、いつまでも試行錯誤が続いたり、不安が高まって合理的な行動が取れない。

本学会ではそういったものごとの仕組みに着目することで、作業療法を実践する上での問題解決に少しでも役立つような場を提供したいと考えた。人の特徴や、人の営みのみならず、生活環境（道具や設備をはじめ、理論や制度など）も、ものごととして視野に入れ、情報交換できるような場を提供したい。可能な限り「ものごとの仕組み」に注目し、作業療法の発展や会員諸氏の研鑽の場となるよう、基調講演、教育講演、シンポジウム、セミナー、国際企画、機器等の展示を企画している。なにより、たくさんの一般演題（口述発表、ポスター発表）にも「仕組み」が含まれているだろうし、気づきの場になることを期待している。

**式次第** 於：第1会場（劇場棟）

**開会式**

**2023年11月10日(金) 9:30～9:50**

司会：泉 良太

1. 学会長挨拶 …………… 長尾 徹
2. 協会長挨拶 …………… 山本 伸一
3. 来賓挨拶

**協会表彰式**

**2023年11月12日(日) 12:00～12:30**

**閉会式**

**2023年11月12日(日) 12:00～12:30**

司会：泉 良太

1. 学会長挨拶 …………… 長尾 徹
2. 次期学会長挨拶 …………… 仙石 泰仁

## 交通アクセス・会場周辺図

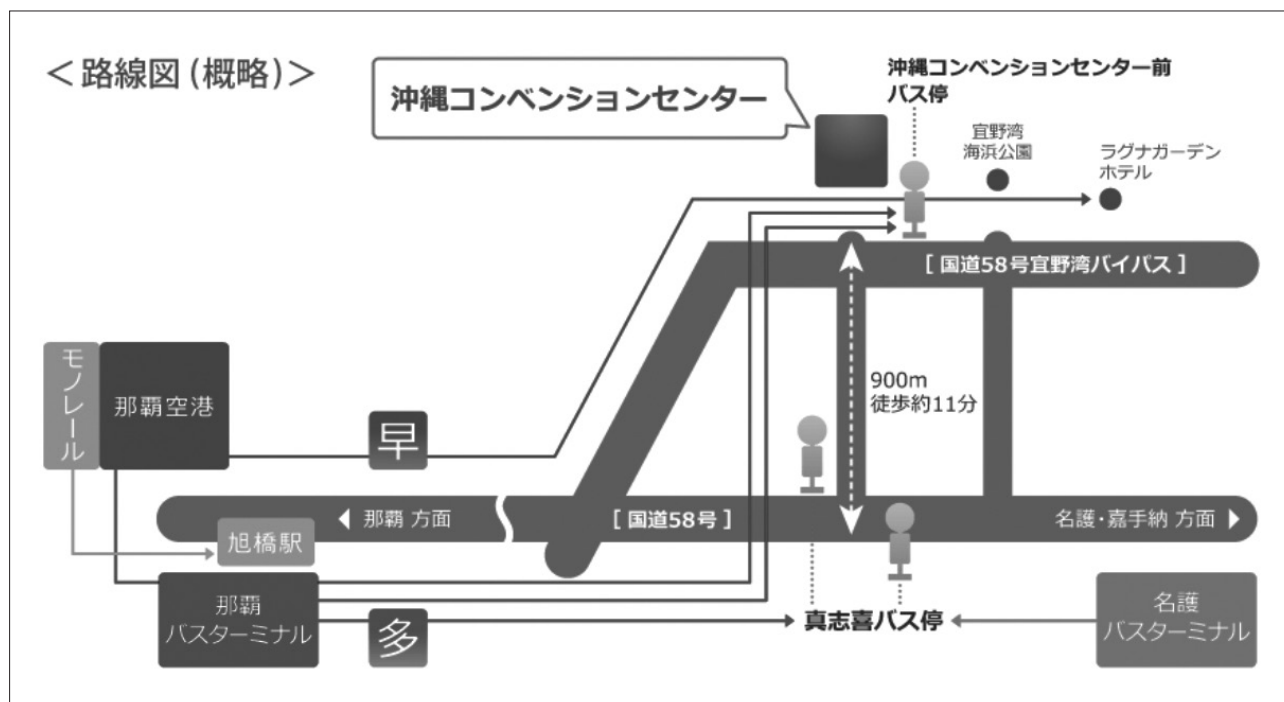
### ○会場周辺図





## ご来場方法

### ○バス・モノレールでのご来場



### ○那覇バスターミナルから

- ・沖縄コンベンションセンター前バス停まで約40～60分(540円)
  - －系統番号26番・32番・43番・55番(約40分)・112番(約50分)・99番(約60分)
- ・真志喜バス停まで約40～45分(540円/徒歩約11分)
  - －系統番号20番・77番・120番(約45分/国際通り経由)・23番・29番・63番(約35分/久茂地経由)・31番(約50分/久茂地経由)

### ○空港から

- ・空港3番乗り場から那覇バスターミナル経由沖縄コンベンションセンター前バス停まで約50～70分(580円)
  - －系統番号26番(50分)・99番(70分)
- ・空港から便利な「空港リムジンバス」
  - 空港12番乗り場からラグナガーデンホテルまで約55分(610円)
  - ※沖縄コンベンションセンター前には止まりません。
  - ラグナガーデンホテルから沖縄コンベンションセンターまで徒歩約10分
- ・モノレール(乗り継ぎで便利な旭橋駅と古島駅まで)
  - 空港から旭橋駅まで約11分(270円)、旭橋駅からバスターミナルまで徒歩3分・空港から古島駅まで約21分(340円)、古島駅からOCCまでタクシーで約15分

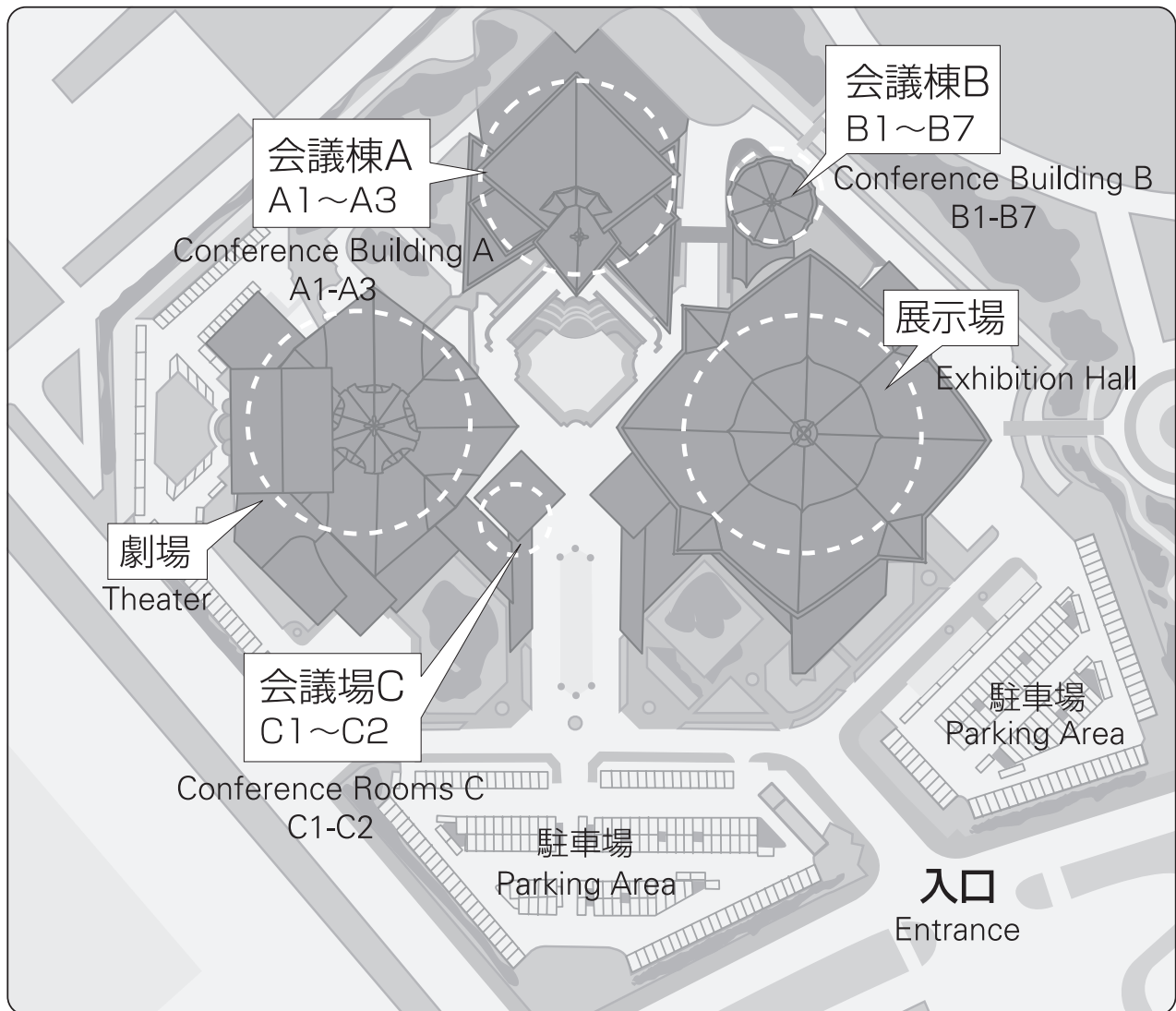
### ○名護バスターミナルから

- ・名護バスターミナルから真志喜バス停まで約120分(1,680円)
  - －系統番号20番・120番

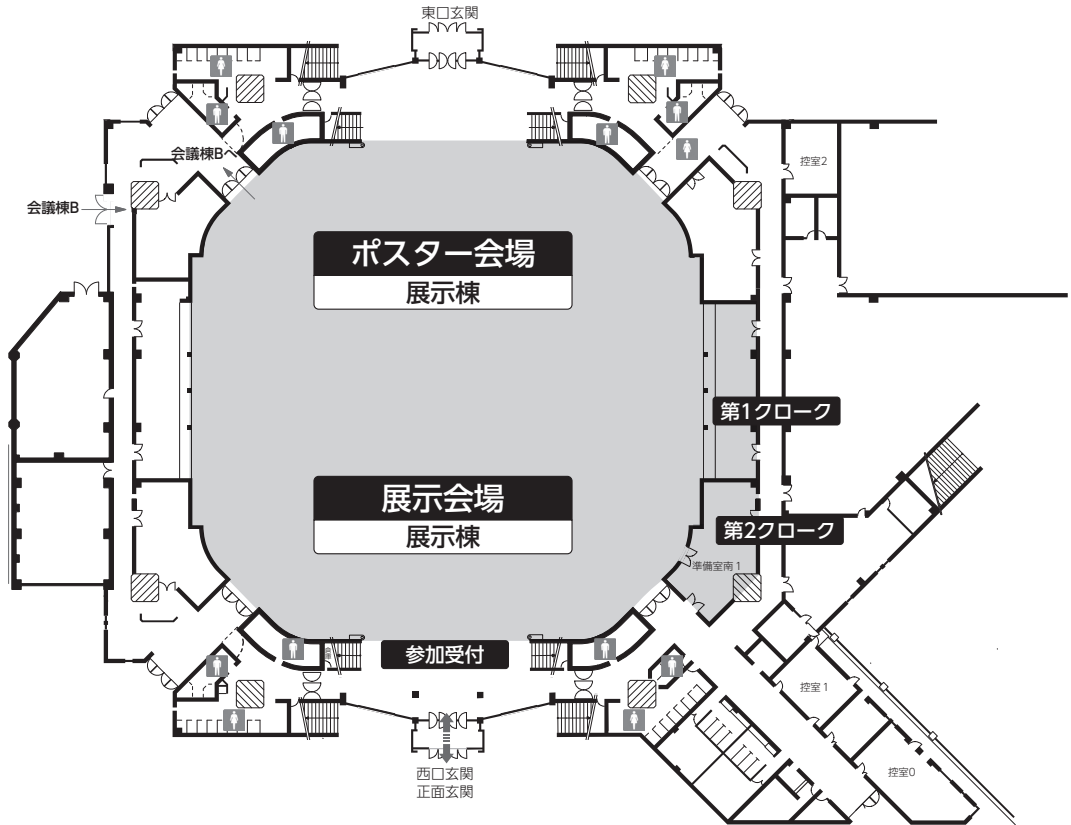
(注) 1. 所要時間は交通事情により大きく異なることがあります。

(注) 2. 土日祝日は便数が少なく運行されます。

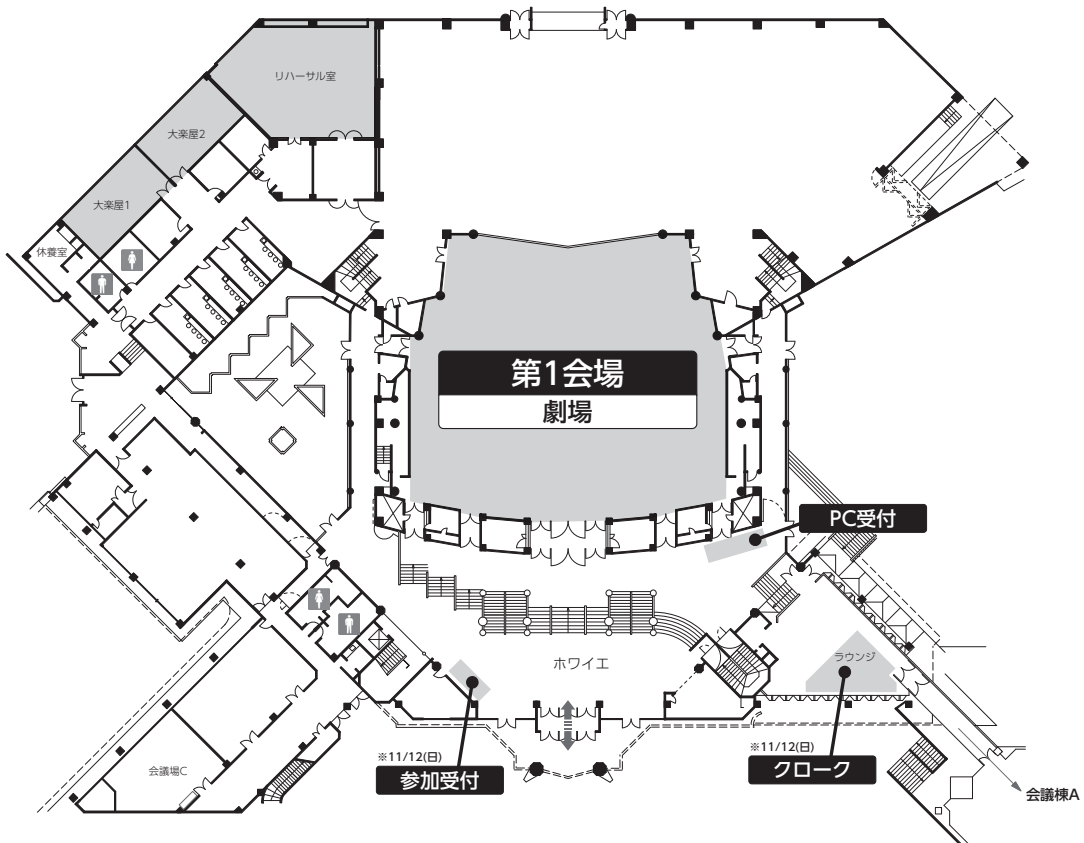
## 会場案内図



## 展示棟

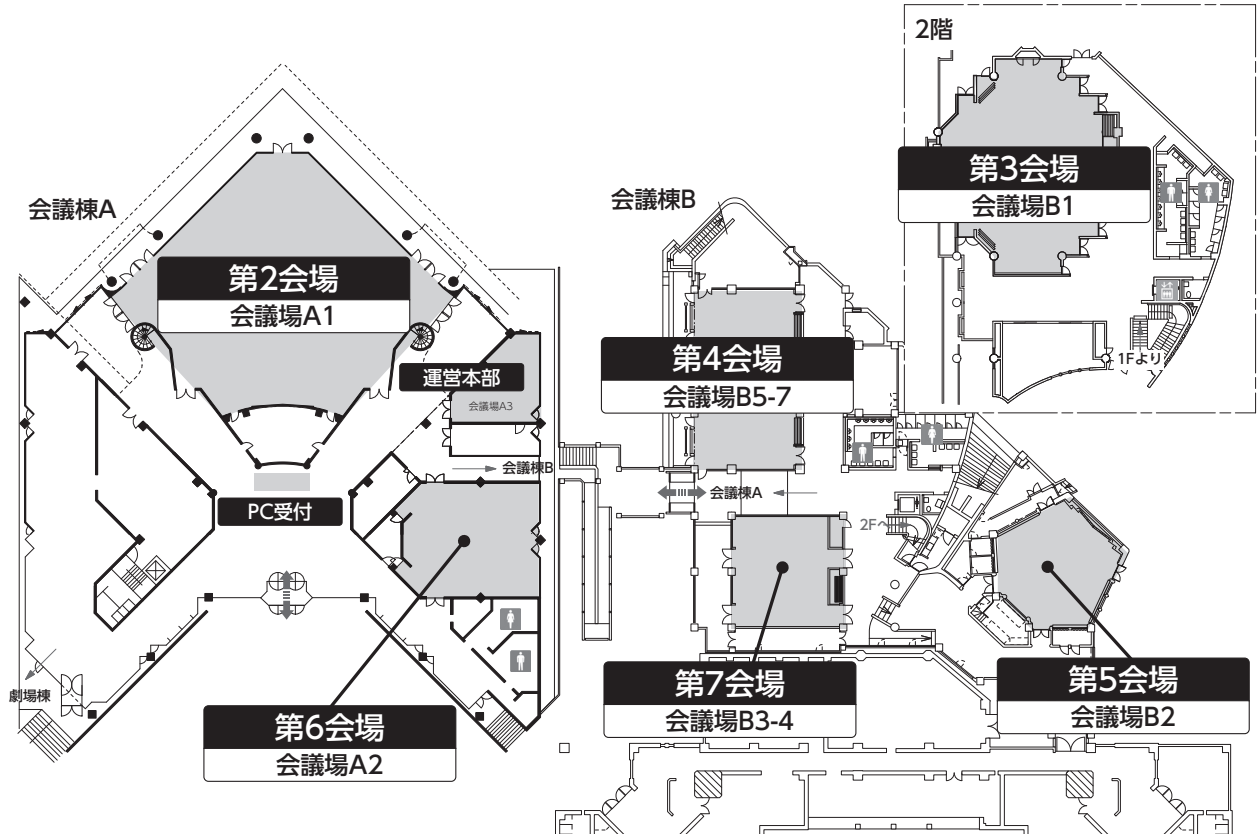


## 劇場棟

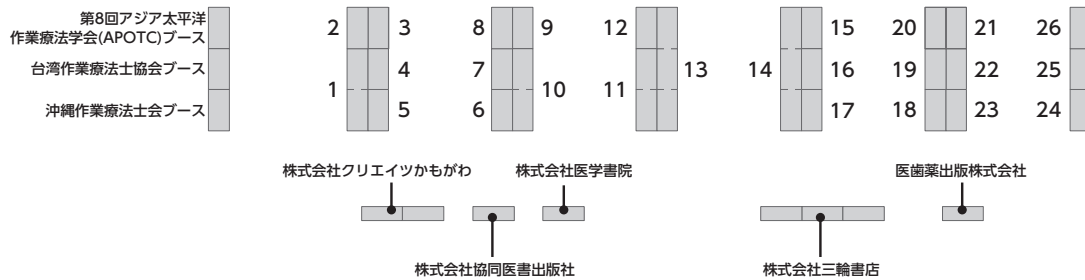




## 会議棟



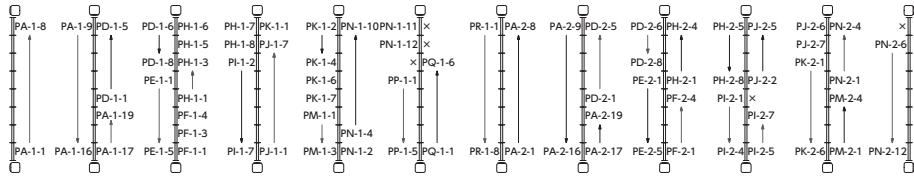
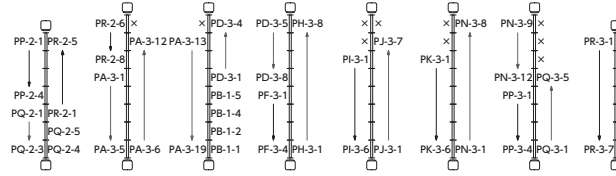
## 展示会場レイアウト



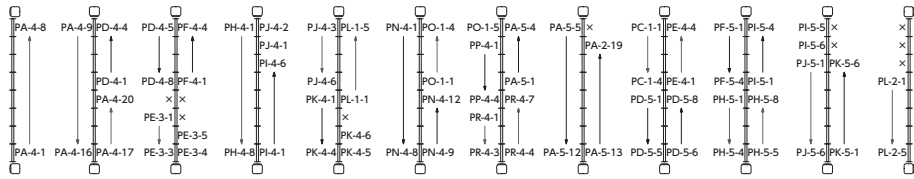
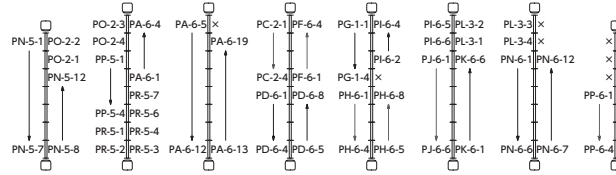
- |                            |                    |                    |
|----------------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 住友ファーマ株式会社/株式会社メルティンMMI | 10. インターリハ株式会社     | 21. 吉備国際大学大学院      |
| 2. サン情報サービス株式会社            | 11. 株式会社ビーエーエス     | 22. 株式会社トータルブレインケア |
| 3. シスネット株式会社               | 12. 株式会社LIFESCAPES | 23. 伊藤超短波株式会社      |
| 4. 未来航路株式会社                | 13. 株式会社アネビー       | 24. マクセル株式会社       |
| 5. アクセスエール株式会社             | 14. 酒井医療株式会社       | 25. 株式会社クリアクト      |
| 6. 有限会社ハニーインターナショナル        | 15. テクノツール株式会社     | 26. スレプトウェル        |
| 7. 日本光電工業株式会社              | 16. オージー技研株式会社     |                    |
| 8. 株式会社サンクト・ジャパン           | 17. 名古屋工業大学        |                    |
| 9. 総合せき損センター               | 18. 株式会社テクリコ       |                    |
|                            | 19. 株式会社ニッシリ       |                    |
|                            | 20. 国際医療福祉大学大学院    |                    |

# ポスターレイアウト

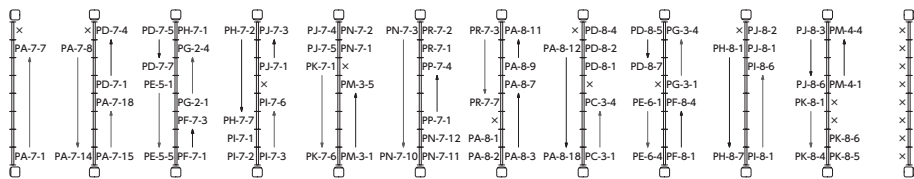
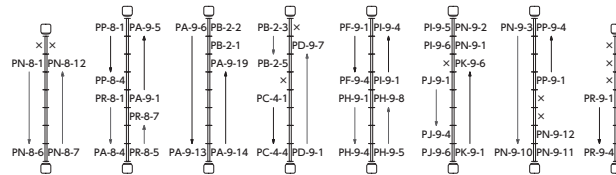
ポスター会場：11月10日  
11:00～14:00



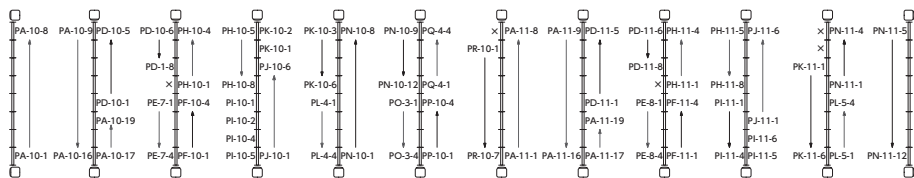
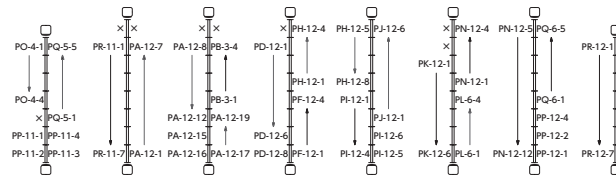
ポスター会場：11月10日  
15:00～18:00



ポスター会場：11月11日  
10:00～13:00



ポスター会場：11月11日  
14:00～17:00



## 参加者へのご案内

### 学会参加費

区分	正会員	日本国外での 免許取得者 (WHOT 会員含む)	一般 / 他職種	学生	非会員
事前参加登録 2023/5/8～ 2023/10/31 (現地全日参加＋ オンデマンド)	13,000 円	13,000 円	-	団体登録 (5名以上) 5,000 円 / 人	-
当日受付登録 (現地全日参加＋ オンデマンド)	16,000 円	16,000 円	16,000 円	個人登録 6,000 円	30,000 円
Web 参加登録 2023/5/8～ 2023/12/17 ※ 11/1 はメンテ ナンスのため参 加登録を休止い たします	10,000 円	10,000 円	10,000 円	2,000 円	30,000 円

- ・一般演題筆頭発表者とセミナーなどの発表者（登壇者全員）は、事前参加登録が必須です。他職種の発表者は、当日参加受付で参加費を納入してください。
- ・参加登録期間を過ぎての参加申し込みはできません。必ず期間内にご登録およびお支払いをお願いいたします。なお、**事前参加登録は、ご入金の確認をもって完了となります。10月31日(火) 15:00 までにご入金を確認されない場合には、事前参加登録者とはなりません。**
- ・日本作業療法士協会の会員であり、かつ学生（学部生・大学院生）の方は、正会員区分で登録してください。非会員の場合は非会員区分の参加費をお支払いください。
- ・本学会では学生の団体参加登録を受付けます。詳細は、**「学生団体参加登録」**をご確認ください。
- ・「WFOT 会員」は、WFOT 加盟国（日本を除く）の作業療法士を指します。

### 学会参加受付について

#### 【受付場所】

	日時		設置場所
事前参加受付・当日受付	11月10日(金)	9:00～17:00	沖縄コンベンションセンター 展示棟
	11月11日(土)	8:00～16:00	
	11月12日(日)	8:30～11:30	沖縄コンベンションセンター 劇場棟

### 現地（沖縄コンベンションセンター）参加者へのご案内

- ※会場での受付完了後、会場内では、ネームカードを首から提げてください。ネームカードが確認できない場合は、入場をお断りすることがございます。

**【10/31 までに事前参加登録を完了された方】**

事前参加登録と決済の完了後、参加登録サイトのマイページの「ご予約確認書」左上に QR コードが表示されます。この QR コードで会場にて受付を行います。

※ QR コードは受付時に必要です。当日は QR コードの記載された予約確認書を印刷してご持参、もしくはスマートフォンなどの画面に QR コードを表示して受付を行ってください。  
(充電切れ、通信不良に備えて、予約確認書を印刷してご持参されることを推奨いたします。)

※なお、決済が完了している場合のみ、予約確認書左上に QR コードが表示されます。

※予約確認書は参加登録サイトのマイページからダウンロードいただけます。

第 57 回日本作業療法学会予約確認書 (例)

印刷する

SAMPLE

ご予約確認書

お問合せ番号: 〇〇〇〇〇〇  
〒 〇〇〇-〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇

株式会社日本銀行 埼玉法人営業部  
〒330-0802  
埼玉県さいたま市大宮区桜木4-129  
大宮インテックビル4階  
TEL: 048-248-8111  
部長 平田 浩

大会名  
第57回日本作業療法学会(会員)

ご利用金額	お支払い額	残額
¥14,500	¥14,500	¥0

実行番号	利用者/内容備考	ご利用額	お支払い額
01参加	【事前登録】 【¥13,000】	¥13,000	
...	...		
58シートのみの予約	山田 太郎 (ヤマダ タロウ)	¥1,500	
...	申込み手続費 >> 11/10(金) ¥500		
...	申込み手続費 >> 11/11(土) ¥500		
...	申込み手続費 >> 11/12(日) ¥500		
前入金	入金日 2023/08/18 決済方法クレジットオンライン		¥14,500

ご利用の予定内容		
11/10①	11/11①	11/12①
11/10②	11/11②	11/12②
○	○	○

**【当日受付登録の方】**

下記を参照の上、必要な書類等をご持参ください。

書類等を確認後、ご自身で参加登録システムから手続きをしていただきます。

決済方法はクレジットカードのみとなります。

**当日受付で必要なもの**

- ・参加費 (クレジットカード決済のみ)
- ・電子会員証 (日本作業療法士協会正会員のみ) : 印刷したものでも可
- ・他職種であることを証明できるもの (国家資格証明のコピーや職場の ID カードなど)
- ・学生 (学部生) : 学生証 (作業療法士免許を取得している学生・院生は対象外です。)



### 日本作業療法士協会正会員の方へ（必ずご確認ください）

- ・当日、会場での入会受付および年会費納入や入会の受付は致しませんので、ご注意ください。  
必ず、参加当日の2週間前までに2023年度の年会費を納入の上、受付で「電子会員証」をご提示ください。電子会員証をご提示いただけない場合は、当日参加受付はできません。
- ・電子会員証は、事前に会員ポータルサイトからご自身で準備をしてご来場ください。  
なお、電子会員証は、協会ホームページ>会員ポータルサイト>会員証>印刷 から印刷できます。

#### 電子会員証（例）



### 非会員の皆様

学会に関する規程に基づき、学会には日本作業療法士協会の会員か非会員かを問わず参加することができます。

ただし、参加費は会員区分の方が割安でございますので、ぜひ入会をご検討ください。

### 他職種の皆様

他職種であることを証明できるもの（国家資格証明のコピーや職場のIDカードなど）をご持参ください。

### 学生（学部生）の皆様

学生証をご持参ください。

\*日本作業療法士協会の会員であり、かつ学生（学部生・大学院生）の方は、正会員区分で登録してください。非会員の場合は非会員区分の参加費をお支払いください。

### クロークについて

※日程によって時間が変わりますのでご注意ください。

日付	時間帯	場所
11月10日（金）	9：00～18：00	展示棟
11月11日（土）	8：30～17：00	
11月12日（日）	8：30～10：00	劇場棟

お預かりできないもの：現金などの貴重品、PC、傘（日傘）、割れ物、食品・生もの

### クロークご利用の皆様へお願い

- ・荷物は必ず当日中にお引き取りください。
- ・万が一、所定の時間内にお引き取りのない荷物は、スタッフの判断にて保管場所の移動などを行う場合があります。あらかじめご了承ください。

### シャトルバス（有料）の申し込みについて（\*事前参加登録者のみ対象）

会期中は、那覇空港～会場（沖縄コンベンションセンター）間のシャトルバスを運行いたします。（完全事前予約制）

午前には那覇空港から会場までの直行便、午後は会場から県庁前（国際通り付近）を經由して那覇空港までの運行ルートでございます。

席数に限りがあるため、事前参加登録とシャトルバスの両方のご入金確認ができた方より、先着順に受け付けます。

料 金	¥500-（往復 ¥1,000-）
所要時間	30～40分

\*事前参加登録と同時にお申し込みください。

\*事前参加登録完了後、別途シャトルバスの追加申込も可能です。マイページより残席数をご確認の上、お申し込みください。

#### 〈注意〉

11月上旬の沖縄は、一般観光客や修学旅行のピークと重なりレンタカーの予約や、タクシーの確保が難しいことが懸念されます。

空港から公共交通機関の路線バスを利用される場合も、40-50分程の所要時間となりますのでご注意くださいませ。

※上記所要時刻は目安でございます。交通事情によっては前後する場合がございますのでご了承ください。

### 現時点での予定運行経路

（午前）那覇空港 ⇒ 沖縄コンベンションセンター

（午後）沖縄コンベンションセンター ⇒ 県庁前 ⇒ 那覇空港

#### 〈注意〉

- ・県庁前は降車のみとなり、ご乗車いただけません。
- ・バスは座席が埋まり次第出発致します。お時間に余裕をもって（10分前）お越しください。

11月上旬の沖縄は一般観光客や修学旅行のピークと重なり、レンタカーの予約やタクシーの確保が難しいことが懸念されますので、ご希望される方はお早目のお申込みをお願いいたします。

空港から公共交通機関の路線バスを利用される場合は、運賃 580 円で 50-70 分ほどの所要時間となりますのでご注意くださいませ。

参考：<https://www.oki-conven.jp/access/>

なお、お申込みや内容のご変更は、参加登録マイページよりお手続きをお願いいたします。

**往路：那覇空港→沖縄コンベンションセンター**

	11月10日(金)	11月11日(土)	11月12日(日)
那覇空港発	7:45	7:45	7:15
沖縄コンベンションセンター着	8:30頃	8:30頃	8:00頃

**復路：沖縄コンベンションセンター→県庁前→那覇空港**

	11月10日(金)	11月11日(土)	11月12日(日)
沖縄コンベンションセンター前	18:15	17:30	12:45
県庁前※降車のみ	18:45	18:00	13:15
那覇空港着	19:00頃	18:15頃	13:30頃

**Web 参加者へのご案内**

**【視聴に際しての注意】**

第 57 回日本作業療法学会に関わる抄録ならびに Web 視聴で掲載されるスライド（スライド・画像・動画など）に関して、ビデオ撮影・録音・写真撮影（スクリーンショットを含む）を行うこと、Web 上（SNS を含む）に公開することは固く禁じます。著作権や肖像権の侵害にあたる際は、法的措置が適用される可能性があります。

**1. 配信内容**

**<ライブ配信>**

**■ 11月10日(金)・11月11日(土)・11月12日(日)**

※各セッションの配信日時は、プログラムページの日程表をご確認ください。

学会長講演、基調講演 1～3、教育講演 2、シンポジウム 1～3、一般演題（スペシャルセッション）、開会式、閉会式抄録・ライブ映像

**<オンデマンド配信>**

**■ 11月13日(月)～12月24日(日)**

国際企画プログラム

抄録・発表動画

**■ 11月10日(金)～12月24日(日)**

一般演題（口述発表）

抄録・発表動画（事前提出）

一般演題（ポスター発表）

ポスターのPDF

### ■ 11月14日（火）より順次公開～12月24日（日）

学会長講演、基調講演1～3、教育講演1～2、シンポジウム1～3、一般演題（スペシャルセッション）、専門作業療法士セミナー、企画セミナー、開会式、閉会式  
抄録・ライブ配信動画

## 2. Web 配信期間（閲覧できる期間）

### ◆ライブ配信：2023年11月10日（金）～11月12日（日）

ライブ配信されたセッションは、11月14日（火）以降、準備が整い次第、オンデマンド配信を開始いたします。

### ◆オンデマンド配信：2023年11月13日（月）～12月24日（日）

上記期間内のご都合の良い時間にいつでも視聴が可能です。

※一部のコンテンツは11月14日（火）より順次公開いたします。

## 3. 視聴方法

参加登録および入金確認がお済みの方に Web 閲覧用の ID とパスワードを発行いたします。

その ID と PW でログインいただくと、Web サイトを閲覧できます。

## 学生団体参加登録

本学会では、学生の団体参加登録を受け付けます。

学生団体参加登録期間：2023年5月8日（月）～10月31日（火）

お振込み期限：2023年10月31日（火）15：00

### 注意事項

- ・養成校の教員が代表者となり、申込手続きを行ってください。
- ・学生団体参加登録は5名以上の参加申込の場合のみ、申込可能です。4名以下の場合は、学生本人が参加登録を行ってください。
- ・学生団体参加登録申込時には下記の情報が必要です。
  - \* 申込代表者氏名および連絡先
  - \* 請求書送付先
  - \* 参加証送付先
  - \* 参加登録者リスト（参加者名、学年）※指定フォーマットあり
  - \* シャトルバス利用のご希望がある場合は、利用便・利用者氏名をメール本文に記載してください。（シャトルバスの運行スケジュールや料金等は、事前参加登録の項「シャトルバス（有料）の申し込みについて」をご確認ください。）
- ・支払方法は、銀行振込に限ります。



- ・ご登録いただく内容は、修正のないようご記入ください。  
万が一修正がございませぬ場合には、運営事務局 ot57@intergroup.co.jp までご連絡ください。
- ・お支払い後のキャンセル・取り消しは返金いたしません。
- ・作業療法士の資格を持った学生は、学生として登録いただけませぬ。
- ・代表者の作業療法士は、団体参加登録ではなく正会員として参加登録を行ってください。

### 申込の流れ

- ・学会 HP より参加登録者リストをダウンロードいただき、必要事項を記入の上、10月31日（火）までに参加登録窓口（日本旅行：ot\_57@nta.co.jp）にメールで送付ください。
  1. メールのは名は「養成校名\_参加登録者リスト」としてください。
  2. 参加登録者リスト（指定フォーマット）を添付してください。  
ファイル名は「養成校名\_student\_group」としてください。
- ・登録後、運営事務局にて登録内容を確認し、請求書を発行いたします。（9月末以降順次）
- ・入金確認後、入金完了メールを代表者にお送りいたします。
- ・学会のプログラム集は、会場で配布いたします。（抄録は、学会ホームページからご確認ください。）  
なお、Web 参加の場合は、電子版プログラム・抄録集をご利用くださいませぬ。

上記の注意事項を必ずお読みいただき、登録フォーマットに入力の上、運営事務局までメールにてお申込みください。

### 領収書・決済反映時期・抄録について

#### ■領収証

領収証は、参加登録のマイページアカウントページでログインし、ご自身で領収書の印刷を行ってください。学会終了後のダウンロードはできませんので必ず会期中（12月24日迄）にダウンロードをお願いします。

\*運営事務局および日本作業療法士協会事務局からは送付致しません。

#### ■決済反映時期

参加登録が完了すると随時、「参加登録受付完了通知」メールが届きます。

入金状況については、クレジットカードオンライン決済は即時反映、コンビニ決済は30分程度、銀行振り込みは振込完了から2-3営業日後に反映されます。

#### ■抄録集

学会プログラム集は、会場で配布いたします。（抄録は、学会ホームページからご確認ください。）

なお、Web 参加の場合は、電子版プログラム・抄録集をご利用ください。

## Web 学会閲覧システムの閲覧 ID、パスワードについて

---

閲覧システムの ID・パスワードについては、確定次第、参加登録申込の際に登録したメールアドレスにお送りいたします。迷惑メールに振り分けられている場合もあるかもしれませんので、各自で確認してください。

## 参加証明書について

---

**学会終了後は、ダウンロードできませんので必ず会期中（12月24日迄）に、ご自身でダウンロードをお願いします。**会期終了後の対応は致しかねます。

- \* 運営事務局および日本作業療法士協会事務局からは送付致しません。
- \* 日本作業療法士協会の生涯教育のポイントは、会期終了後、協会事務局で一括入力します。ご自身での手続きは不要です。

## 個人情報の取扱について

---

お預かりする個人情報は、日本作業療法士協会から個人情報の取扱いの委託を受け、日本旅行の「個人情報の取扱い」に従い、日本作業療法士協会および第 57 回日本作業療法学会の、学会運営に関連する業務遂行の目的で利用いたします。

## 請求書について

---

請求書は、参加登録サイトマイページ内「お支払い」ページの「ご請求書・予約確認書の表示へ」から、ご自身で請求書の印刷を行ってください。

**※学会終了後は、ダウンロードできませんので必ず会期中（12月24日迄）にご自身でダウンロードをお願いします。**会期終了後の対応は致しかねます。

## 単位取得について

---

正会員（現地・Web とも） 参加：4 ポイント、発表：2 ポイント

## 口述発表者の皆様へ

### 講師・演者（一般演題を含む）の方

#### 1. 講師・演者受付（発表データ受付）

※セッション開始1時間前までにデータ受付をお済ませください。

なお、11/12（日）の一般演題発表者は11/11（土）までにデータ受付を完了しておいてください。

※一般演題の筆頭発表者は、「事前参加登録」の区分にて参加登録が必須です。お支払い（着金）も含め、9月29日（金）正午までにお願ひします。

発表者が他職種の場合は、当日受付で参加費（¥13,000）を納入してください。

なお、当日参加登録はクレジットカード決済のみとなります。

当日は受付の混雑が予想されますので、受付前にご自身でアカウント登録を済ませていただくことを推奨いたします。

#### < 演者・講師受付（発表データ受付） >

日付	時間帯	場所
11月10日（金）	9：00～16：00	会議棟 A・劇場棟
11月11日（土）	8：00～17：00	
11月12日（日）	7：30～9：30	

#### 2. 発表の環境・手続き

- 1) 発表機材はPCプレゼンテーション（1面映写）のみといたします。PC本体は持ち込めません。プロジェクターの解像度はフルHD（1920×1080ピクセル）です。スライド原稿の解像度がこれより大きい場合は、画面周囲が切れる可能性がございますのでご注意ください。
- 2) 学会で準備するパソコンはOS：Windows10で、プレゼンテーションソフト：office PowerPoint2013・2019です。  
スライド作成は必ずWindows版Microsoft PowerPoint2013・2019を使用してください。Macintoshのご用意はございません。
- 3) 再生できない等のトラブルが多いため、動画の使用はお控えください。
- 4) Windowsに標準装備されているフォント「MS・MSPゴシック」「MS・MSP明朝」「Times New Roman」「Century」のみ使用可能です。  
これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ、文字化け、表示されない等のトラブルが起こる可能性がございます。
- 5) 作成したスライドのファイルはUSBメモリに保存してご持参ください。USBメモリおよび発表者のファイルは必ずウイルスチェックを行ってください。  
また、保存ファイルが作成されたパソコン以外の環境でも再生できることを事前にご確認ください。
- 6) PowerPointのファイルには下記のように「演題番号—氏名—所属」というファイル名をつけてください。  
例) 01—山田太郎—〇〇大学
- 7) トラブルに備え発表スライドのバックアップCD-R、もしくはDVD-Rをご持参ください。バッ

クアッブメディアについても作成されたパソコン以外の環境での動作確認を事前に行ってください。

ファイナライズを行っていないCD-R、もしくはDVD-Rについては作成したパソコン以外ではデータを開くことができませんのでご注意ください。

- 8) 発表用データは、会場内のパソコンにいったんコピーさせていただきますが、学会終了後に責任を持って削除いたします。

### 3. 口述発表（一般演題 / スペシャルセッション）の方法

- 1) 発表者はセッション開始の1時間前までに講師・演者受付（発表データ受付）をお済ませの上、ご担当セッション開始10分前までに次演者席にご着席ください。

#### 発表時間

一般演題：発表7分、質疑応答3分

スペシャルセッション：発表10分、質疑応答5分

※終了1分前と終了時に合図をします。発表者は時間厳守でお願いします。

- 2) 発表用データの画面送りは、発表者に行っていただきます。演台上にはモニター、キーボード、マウスを準備しておりますので、演台上のPCモニターを確認しながら、画面送りの操作を行ってください。レーザーポインターも演台上に準備いたしますのでご利用ください。



## 口述発表（一般演題）の座長・司会の皆様へ

### 座長・司会の方

座長・司会の受付は「座長・司会受付」にて行っております。

※日程によって時間が変わりますのでご注意ください。

ご担当セッション開始 30 分前までに受付をお済ませの上、10 分前までに次座長席にご着席ください。

### <座長・司会受付>

日付	時間帯	場所
11月10日(金)	9:00～16:30	展示棟
11月11日(土)	8:00～15:40	
11月12日(日)	8:00～10:20	劇場棟

## ポスター発表者の皆様へ

### 1. ポスター受付

ポスター受付は、開催期間中に行ってください。学会参加受付を済ませた後に、各自でポスター発表会場にご持参いただいたポスターを掲示してください。

日付	時間帯	場所
11月10日(金)	9:00～10:00	展示棟
11月11日(土)	8:00～9:00	

※発表者は事前参加登録(全日参加)が必要です。

### 2. ポスターの掲示・撤去方法

#### 1) ポスター掲示・撤去時間

11月10日(金) 午前：受付・掲示	9:00～10:00	→	撤去	14:00～14:30
11月10日(金) 午後：掲示	14:30～15:00	→	撤去	18:00～19:00
11月11日(土) 午前：受付・掲示	8:00～9:00	→	撤去	13:10～13:40
11月11日(土) 午後：掲示	13:40～14:10	→	撤去	17:10～18:00

※円滑な学会運営のため、時間内に完了いただきますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

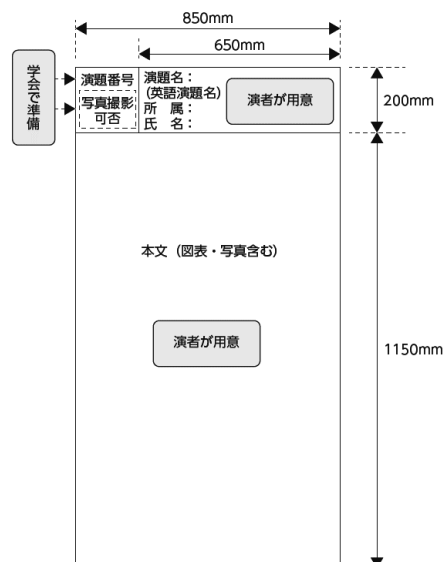
※撤去時間を過ぎても掲示してあるポスターは、学会側で撤去処分いたしますのであらかじめご了承ください。

#### 2) 学会準備備品

- ・ 掲示パネル：1題ごとにパネルを用意します。
- ・ 演題番号：掲示パネルの左上部に、演題番号を取り付け表示します。
- ・ 画鋏：ポスターを貼り付けるための画鋏をご用意します。
- ・ 写真撮影可否のシール：写真撮影可否シールは、ポスターボードに準備します。  
演題番号下部に貼り付けてください。

#### 3) ポスターフォーム

ポスターフォームは右図を参照し、演題名・英語演題名・所属・氏名、本文を作成してください。なお、文字サイズ、フォントの種類、図表、写真等の枚数は特に定めませんが、必ず指定したサイズ内に収まるように作成してください。



### 3. ポスター発表の方法

---

1. 学会参加受付を済ませた後、各自で上記時間内にポスター発表会場に持参したポスターを掲示してください。
2. 発表者は上記時間内にポスター掲示をお済ませの上、所定の時間の開始 10 分前までに各自のポスター前で待機してください。
3. 座長や発表時間は設けておりません。指定時間にポスター前に待機していただき、質問等への対応をお願いいたします。

## 講演・シンポジウム等一覧

### 学会長講演

11月10日(金) 10:00～10:50

第1会場

#### ものごとの仕組みに注目するー作業療法における問題解決の糸口としてー

講師 長尾 徹 神戸大学大学院 保健学研究科  
座長 仙石 泰仁 札幌医科大学保健医療学部 作業療法学科

### 基調講演 1

11月10日(金) 13:00～14:30

第1会場

#### 認知バイアス (人の思考や行動を決める際の特徴を知る)

講師 川合 伸幸 名古屋大学 情報学研究科 心理・認知科学専攻  
座長 長尾 徹 神戸大学大学院 保健学研究科

### 基調講演 2

11月11日(土) 10:40～12:10

第1会場

#### 痛みの仕組み ー作業療法における「痛み」解決の糸口を探るー

講師 松原 貴子 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部  
座長 野田 和恵 神戸大学大学院 保健学研究科

### 基調講演 3

11月11日(土) 13:00～14:30

第1会場

#### 新時代の認知症医療におけるOTの役割と期待

講師 池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室  
座長 田平 隆行 鹿児島大学医学部保健学科

### 教育講演 1

11月10日(金) 11:00～12:30

第2会場

#### 精神科作業療法の行方ー仕組みから考えるー

講師 小林 正義 信州大学医学部保健学科・大学院総合医理工学研究科  
座長 四本かやの 神戸大学大学院 保健学研究科

### 教育講演 2

11月11日(土) 15:00～16:30

第1会場

#### 臨床研究のデータ解析～回帰分析について～

講師 新谷 歩 大阪公立大学大学院医学研究科 医療統計学  
座長 長山 洋史 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科

## シンポジウム 1

11月10日(金) 15:00～16:30

第1会場

### 触法障害者等への支援を考える ～医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援～

シンポジスト	宮口 英樹	広島大学大学院 医系科学研究科
	棟近 展行	法務省府中刑務所
	岡庭 隆門	静岡県立こころの医療センター
	足立 一	高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科
座長	宮口 英樹	広島大学大学院 医系科学研究科

## シンポジウム 2

11月11日(土) 9:00～10:30

第1会場

### 障害福祉領域で求められる作業療法士の専門性～児童通所支援で活躍するために～

シンポジスト	酒井 康年	うめだ・あけぼの学園／日本作業療法士協会
	嘉門 邦岳	株式会社アクト・デザイン こども発達支援ルームまあち／日本作業療法士協会
	仲間 知穂	YUIMAWARU (株) こどもセンターゆいまわる 代表取締役
座長	酒井 康年	うめだ・あけぼの学園／日本作業療法士協会

## シンポジウム 3

11月12日(日) 10:10～11:40

第1会場

### 出版の仕組み (文字による知の伝達)

シンポジスト	新宮 尚人	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
	青山 智	株式会社三輪書店 代表取締役社長
	関川 宏	株式会社協同医書出版社 代表取締役社長
	五十嵐陽子	医歯薬出版株式会社 取締役
座長	新宮 尚人	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

## 日本－台湾作業療法ジョイントシンポジウム

### (Japan - Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium) テーマ 1

11月11日(土) 9:00～12:00

第2会場

### 作業療法士の卒後教育

台湾講師	Hui-Fen Mao	Associate professor, School of Occupational Therapy, College of Medicine, National Taiwan University, Taiwan
日本講師	竹中佐江子	株式会社リニエR
座長	大庭 潤平	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科



**日本－台湾作業療法ジョイントシンポジウム  
(Japan - Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium) テーマ2**

11月11日(土) 9:00～12:00

第2会場

**精神障害者の地域支援**

台湾講師 Chen Te-Chun Head of Jin-Shan Community Rehabilitation Center, Yilan, Taiwan

日本講師 早坂 友成 杏林大学 保健学部 リハビリテーション学科  
座長 池田 望 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

**国際企画プログラム**

11月11日(土) 13:00～14:30

第6会場

**インドネシアにおける作業療法の発展と作業療法の提供に対する文化的影響**

講師 Tri Budi Santoso Surakarta Health Polytechnic作業療法学科 上級講師/  
インドネシア作業療法協会 WFOT代表

座長・オーガナイザー 石橋 英恵 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 准教授/日本作業療法協会  
WFOT代理(2009年～2021年)

**専門作業療法士セミナー1 (脳血管障害)**

11月10日(金) 11:00～12:00

第3会場

**脳血管障害の作業療法**

講師 長谷川敬一 一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院 リハビリテーション部  
小淵 浩平 JA長野厚生連 長野松代総合病院 リハビリテーション部  
高橋 啓吾 リハビリテーション天草病院 リハビリテーション部

**専門作業療法士セミナー2 (がん)**

11月10日(金) 11:00～12:00

第4会場

**がんの作業療法の「今」に注目し、課題解決の糸口を探る**

講師 藤井 美希 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科  
稲田 雅也 横浜市立大学附属病院 リハビリテーション部  
西山菜々子 大阪公立大学 大学院 リハビリテーション学研究科  
司会 阿瀬 寛幸 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリ  
テーション科

**専門作業療法士セミナー3 (特別支援教育)**

11月10日(金) 11:00～12:00

第5会場

**特別支援教育と学校給食～作業療法士の偏食への取り組み～**

講師 宮嶋 愛弓 四條畷学園大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

**専門作業療法士セミナー4（訪問作業療法）**

11月10日(金) 11:00～12:00

第6会場

**訪問作業療法で大切なこと～礎を知り、発展・追求するために～**

講師 宇田 薫 医療法人おもと会 統括リハビリテーション部 訪問リハビリテーション科  
寺本 千秋 紀州リハビリケア訪問看護ステーション

**専門作業療法士セミナー5（手外科）**

11月10日(金) 11:00～12:00

第7会場

**Useful handを目指す臨床の現状と課題**

講師 野中 信宏 愛野記念病院 手外科センター  
司会 岡野 昭夫 中部大学 生命健康科学部 作業療法学科

**専門作業療法士セミナー6（認知症）**

11月11日(土) 9:00～10:00

第3会場

**認知症の人のWell-being を考える**

講師 松下 太 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科/大学院保健医療学研究科

**専門作業療法士セミナー7（摂食嚥下）**

11月11日(土) 9:00～10:00

第4会場

**「そのスプーンで大丈夫？」～食べる機能に合わせた食具選びを考える～**

講師 太田 有美 津山中央病院 リハビリテーション部  
神作 一実 文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科  
青木 佑介 鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科

**専門作業療法士セミナー8（精神科急性期）**

11月11日(土) 9:00～10:00

第5会場

**精神科救急急性期のリハビリテーション**

講師 岩根 達郎 京都府立洛南病院  
早坂 友成 杏林大学 保健学部 リハビリテーション学科

**専門作業療法士セミナー9（福祉用具）**

11月11日(土) 9:00～10:00

第6会場

**福祉用具の支給制度：ものごとの仕組みに注目する  
－福祉用具援助における問題解決の糸口として－**

講師 松本 琢磨 神奈川県総合リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院 作業療法科  
中川 正己 岡山労災病院 中央リハビリテーション部

**専門作業療法士セミナー10 (就労支援)**

11月11日(土) 9:00～10:00

第7会場

**作業療法士が取り組む両立支援の実際 —病院・訪問の現場から—**

講師 大川 浩子 北海道文教大学/NPO法人コミュネット楽創  
 富永 雅子 独立行政法人労働者健康安全機構 中国労災病院 中央リハビリテーション部/治療就労両立支援センター  
 浅野友佳子 文屋内科消化器医院 訪問リハビリテーション らいらっく

**専門作業療法士セミナー11 (高次脳機能障害)**

11月12日(日) 8:30～9:30

第1会場

**作業につながる高次脳機能～左のパンツがあがらない?!～**

講師 浅野友佳子 文屋内科消化器医院 訪問リハビリテーション らいらっく  
 中島ともみ 藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

**企画セミナー1 日本義肢装具学会**

11月10日(金) 17:00～18:00

第1会場

**新しい能動義手の適合検査の紹介**

講師 柴田八衣子 兵庫県リハビリテーション中央病院  
 妹尾 勝利 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部  
 司会(コーディネーター) 大庭 潤平 神戸学院大学総合リハビリテーション学部

**企画セミナー2 日本作業療法士協会学術部 LGBT+ ガイドライン班**

11月10日(金) 17:00～18:00

第2会場

**作業の視点で考える性の多様性～作業療法士の役割とは**

講師 松本 武士 大内病院  
 池谷 政直 名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科  
 高島 理沙 北海道大学 大学院保健科学研究院  
 鈴木 洋介 東京都立大学 大学院人間健康科学研究科  
 星野 藍子 名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻  
 司会(コーディネーター) 星野 藍子 名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻

**企画セミナー3 長崎発達障害領域作業療法勉強会**

11月10日(金) 17:00～18:00

第3会場

**発達性協調運動症(DCD)の現状と適切な支援に向けて**

講師 岩永竜一郎 長崎大学  
 塩津 裕康 中部大学  
 東恩納拓也 東京家政大学  
 司会(コーディネーター) 東恩納拓也 東京家政大学

### 企画セミナー4 循環器臨床作業療法研究会

11月10日(金) 17:00～18:00

第4会場

#### 組織で行う心大血管疾患の作業療法

講師	塚越 大智	信州大学医学部附属病院
	児島 範明	関西電力病院
	塩田 繁人	広島大学病院
司会 (コーディネーター)	笹井 祥充	自治医科大学附属さいたま医療センター
	内藤 喜隆	心臓病センター榊原病院

### 企画セミナー5 ICTリハビリテーション研究会

11月10日(金) 17:00～18:00

第5会場

#### デジタルファブリケーションで拓く新たな作業療法の可能性Ⅳ

#### － 3Dプリンタでの自助具づくりを全国へ、そして自助具を提供する上で考慮すべきこととは－

講師	林 園子	一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会
	濱中 直樹	ファブラボ品川
司会 (コーディネーター)	上原 亮介	一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会

### 企画セミナー6 老年療法学会

11月10日(金) 17:00～18:00

第6会場

#### 認知症の予防から診断後のリハビリテーション 老年療法領域における作業療法士が果たす役割

講師	横井賀津志	大阪公立大学医学部リハビリテーション学科
	浅野 雅子	北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科
司会 (コーディネーター)	田中 寛之	大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

### 企画セミナー7 Park-OT Journal Club

11月10日(金) 17:00～18:00

第7会場

#### パーキンソン病 up-to-date ～世界の最新情報から作業療法ならではの介入を再考する～

講師	高橋香代子	北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
	川崎 伊織	福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科
司会 (コーディネーター)	長城 晃一	福岡大学 医学部 脳神経内科学教室

### 企画セミナー8 日本臨床作業療法学会

11月11日(土) 16:10～17:10

第2会場

#### 未来を創る作業療法の社会実装

講師	仲間 知穂	YUIMAWARU株式会社
	元廣 淳	株式会社Canvas
	竹林 崇	大阪公立大学医学部リハビリテーション学科
司会 (コーディネーター)	竹林 崇	大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

**企画セミナー9 日本CIセラピー研究会**

11月11日(土) 16:10～17:10

第3会場

**再生医療への作業療法士の役割と期待**

講師	森田 良文	名古屋工業大学大学院
	宮本 直也	大西病院
	高田 雄一	北海道文教大学
	奥田 正作	明治国際医療大学
	新泉 一美	湘南医療大学
司会(コーディネーター)	田邊 浩文	湘南医療大学大学院

**企画セミナー10 日本作業療法研究学会**

11月11日(土) 16:10～17:10

第4会場

**どうする、動作解析！**

講師	上谷 英史	弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域
	齋藤 剛史	東京歯科大学市川総合病院
司会(コーディネーター)	中村 充雄	札幌医科大学保健医療学部

**企画セミナー11 CIOTS Japan**

11月11日(土) 16:10～17:10

第5会場

**作業に焦点を当てた実践を可能にするコツ**

講師	吉川ひろみ	県立広島大学
	松澤 良平	イムス板橋リハビリテーション病院
	中澤 紀子	岩国市医療センター医師会病院
	古山千佳子	県立広島大学
司会(コーディネーター)	南 庄一郎	大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

**企画セミナー12 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会**

11月11日(土) 16:10～17:10

第6会場

**呼吸器疾患患者へのOT strategy ～さらなる発展を目指して～**

講師	川邊 利子	自宅
	武田 優	近畿大学病院 リハビリテーション部
	岡島 聡	ぼると訪問看護ステーション
司会(コーディネーター)	熊野 宏治	パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室

**企画セミナー13 作業療法神経科学研究会**

11月11日(土) 16:10～17:10

第7会場

**作業療法士は神経心理学を応用して何ができるのか  
-クライアントとその家族を支援するための神経心理学的評価と介入-**

講師	石岡 俊之	埼玉県立大学
	細川 大瑛	国立病院機構 仙台西多賀病院 リハビリテーション科
司会(コーディネーター)	石岡 俊之	埼玉県立大学



## 企画セミナー14 Review Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD)

11月12日(日) 10:50～11:50

第2会場

### 本人と家族のより良い生活を紡ぐ認知症作業療法

講師 久米 裕 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座  
 西田 征治 県立広島大学大学院総合学術研究科作業遂行障害領域  
 司会(コーディネーター) 横山 和樹 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

## 企画セミナー15 日本集中治療作業療法研究会

11月12日(日) 10:50～11:50

第3会場

### 集中治療領域における作業療法士の役割を創成する

－オーディエンス参加型企画：ICUでは作業療法士が求められている！－

講師 駒場 一貴 昭和大学保健医療学部作業療法学科  
 児島 範明 関西電力病院 リハビリテーション部  
 司会(コーディネーター) 山下 遊平 群馬県立心臓血管センター  
 塚越 大智 信州大学医学部付属病院

## 企画セミナー16 高次脳機能障害作業療法研究会

11月12日(日) 10:50～11:50

第4会場

### みんなでじっくり考えよう！ 高次脳機能障害事例の解釈とアプローチ検討

講師 浅野友佳子 文屋内科消化器科医院訪問リハビリテーションらいらく  
 司会(コーディネーター) 原 麻理子 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科

## 企画セミナー17 認知症臨床研究会 in 佐賀

11月12日(日) 10:50～11:50

第5会場

### 地域における世代間交流と作業療法士ができること －地域を元気にする“仕掛け”－

講師 北山 淳 医療創生大学 健康医療科学部 作業療法学科  
 原田 瞬 京都橘大学 健康科学部 作業療法学科  
 上城 憲司 宝塚医療大学  
 司会(コーディネーター) 菅沼 一平 京都橘大学 健康科学部 作業療法学科

## 企画セミナー18 日本コンチネンス協会

11月12日(日) 10:50～11:50

第6会場

### 作業療法士も関わる排泄リハビリテーションのための評価

～現場で活かす排泄ケアのための評価法講座～

講師 今西 里佳 新潟医療福祉大学  
 長嶺ふじ子 回復堂Mahanalab  
 司会(コーディネーター) 下里 綱 大浜第一病院



**企画セミナー19 湘南OT交流会**

11月12日(日) 10:50～11:50

第7会場

**リーズニングを用いて「作業療法の実践の仕組み」を可視化する**

講師 小川 真寛 神戸学院大学

藤本 一博 茅ヶ崎新北陵病院

司会(コーディネーター) 真下いずみ 藍野大学医療保健学部作業療法学科

## 学会長講演

11月10日(金) 10:00～10:50 第1会場

### ものごとの仕組みに注目する－作業療法における問題解決の糸口として－

#### Focusing on the Mechanism of Things

#### —As a Clue to Solving Problems in Occupational Therapy—

座長

仙石 泰仁 Yasuhito Sengoku

札幌医科大学保健医療学部 作業療法学科

Sapporo Medical University, School of Health Science

#### ◆講師

長尾 徹

Toru Nagao

神戸大学大学院 保健学研究科

Kobe University Graduate School of Health Sciences



#### 略歴

学歴	昭和60年3月	神戸大学医療技術短期大学部卒業
	平成12年3月	佛教大学社会学部社会福祉学科卒業 (社会学士)
	平成16年3月	神戸大学医学部保健学科・助手 神戸大学医学系研究科博士課程後期課程修了 博士(保健学)
職歴	昭和60年4月	三木市立三木市民病院
	平成6年10月	神戸大学医学部保健学科・助手
	平成16年4月	神戸大学医学部保健学科・助教授 (平成19年4月～准教授)
	平成20年4月	神戸大学大学院保健学研究科・准教授 (所属名称変更)
受賞	平成25年6月	日本作業療法士協会 協会表彰
	平成28年9月	厚生労働大臣表彰(社会福祉功労)
	令和3年5月	兵庫県功労者表彰(健康功労)
著書(分担執筆、直近)		

長尾徹, 井澤幸子, 浅井康紀: 第5章 医療安全のマネジメント, 大庭潤平編著, 作業療法管理學入門 第2版, 医歯薬出版, 2021, pp.48～62.

長尾徹, 古川昭人: 上肢機能の検査, 石川齊・古川宏編, 図説作業療法技術ガイド第4版, 文光堂, 2021, pp.122～142.

長尾徹: 第11章 作業の分析と治療への適用 1 作業の分析, 能登真一編, 標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論第4版, 医学書院, 2021, pp.51～61.

長尾徹: ADL総論, 石川朗・種村留美編, 15レクチャーシリーズ, 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習, 中山書店, 2021, pp.1～10.

本学会のテーマは「ものごとの仕組みに注目する－作業療法における問題解決の糸口として－」としました。残念ながら作業療法に関するすべての仕組みが判明しているわけではありませんが、仕組みが見つかっていてもそれを知らないという状況があるかも知れません。今まで知らなかった仕組みに気づいたとき、対応策が見つかることもあります。仕組みを知らないと、いつまでも試行錯誤が続いたり、不安が高まったりすることで合理的な行動が取れないでしょう。本学会ではそういったものごとの仕組みに着目し、作業療法を実践するうえでの問題解決に少しでも役立つような場を提供したいと考えました。

学会長講演では作業療法士として働き始めてから、私が気づいた仕組みについて開陳を試みたいと考えています。参加者の経験や知識のレベルは異なるので、万人が関心を引く内容にはならないかも知れません。数名であっても仕組みに気がついたり、新たな仕組みを発見するためのきっかけとなるお話ができればと考えています。

たとえば、多くの方がご存じの仕組みに、マズローの欲求階層説があると思います。アブラハム・マズローは、人間の欲求を「生理的欲求」「安全の欲求」「社会的欲求」「承認欲求」「自己実現の欲求」という5つに分類し、それらが階層構造を持っており、前の段階の欲求が充足されると、次の階層の欲求の充足段階へ移ると考えました。臨床において患者様を担当していた頃は、近年の急性期から回復期における身体障害を対象としていたことから、「生理的欲求」を満たすことが多くの目標でした。患者様もデマンドとして私に目標を提示していました。目標が達成されたら、次はこうしたい、その次はこうなりたいと際限のないデマンドの出現に、いつまで対応せねばならないのかと思った経験があります。マズローの欲求階層説は学んだことがあったはずでしたが、その存在に気づいていませんでした。再認識したとき、「そりゃそうだ」「そうなるものだ」と納得した経験があります。人の欲求は変化し、次々と湧いて出るものであり、それが普通であることを。この経験を通して目の前の対象者の理解が大きく進んだのです。現状を理解するだけでなく、次に発生するデマンドをある程度予測できるようにもなりました。本講演ではこうした経験を元に話題を展開したいと考えています。

基調講演1

11月10日(金) 13:00～14:30 第1会場

認知バイアス (人の思考や行動を決める際の特徴を知る)

Cognitive Biases: What Determines Our Thoughts and Behaviors

座長

長尾 徹 Toru Nagao

神戸大学大学院 保健学研究科

Kobe University Graduate School of Health Sciences

◆講師

川合 伸幸

Nobuyuki Kawai

名古屋大学 情報学研究科 心理・認知科学専攻

Department of Cognitive and Psychological Sciences, Nagoya University



わたしたちは、合理的で正しい判断をしていると信じています。しかし、わたしたちの判断や行動、感情はそれほど合理的ではありません。たとえば、「鉛筆と消しゴムが合計で110円です。消しゴムは鉛筆より100円高い。では、鉛筆の値段は」と問われれば、10円と答える人が少なくありません。答えが5円ということは、よく考えればわかるのですが、つい100と10という分けやすい数字に飛びついてしまった結果、10円と答えてしまうことがあります。心理学者のカーネマンは、このような思考パターンを自動的思考と呼び、人間は思った以上に、熟慮しないで計算・判断・行動していることを示してノーベル経済学賞を受賞しました。

これは、人間が案外賢くないということを意味しているわけではありません。わたしたちが脳で処理できる容量には限りがあるので、そのリソースの負荷をなるべく減らそうとしてのことです。また、かならずしも時間をかけて合理的な判断を下すわけではないからです。脳は、これまでの経験から、もっともらしい結論に飛びついてしまうことが少なくありません。いわば、脳の特徴のせいで、合理的ではない判断や、それまでの経験にもとづいた偏った見方をしてしまうことがあります。自分の思い込みや周囲の環境、他人からの影響、これまでの経験によって、論理的な思考が妨げられ、不合理な判断や選択をしてしまうことを「認知バイアス」といいます。

たとえば、小さい子どもに服をプレゼントするときに、男の子には青系統の服を、女の子なら赤系統の服を、と無意識のうちに考えてしまうのも、その例です。ある種の脳のくせである認知バイアスは、簡単に修正することは難しく、そのため誰もが認知バイアスに陥ります。

職場や家庭での何気ない言葉に、自分では気づかないバイアスが潜んでおり、知らないうちに他人を傷つけているかもしれません。あるいは自分の思考のくせのせいで、不要な悩みを抱えているかもしれません。

本講演では、論理的な判断だけでなく、対人場面を含めたさまざまな認知バイアスを紹介します。わたしたちは、知らないうちに他人に対してある種の認知バイアスで接したり、逆にバイアスのある態度で接せられていることもあります。認知バイアスを知ることで、自身の考えや他人の態度、社会での風潮がこれまでとは違って見えるようになるかもしれません。

略歴

学歴

1990年 関西学院大学文学部心理学科卒業

1995年 同大学 文学研究科満期退学

職歴

1994-1999年 日本学術振興会 特別研究員

1999-2001年 京都大学霊長類研究所 COE研究員

2001年 名古屋大学人間情報学研究科 助手、

2004年 同大学 情報科学研究科 助准教授を経て現職

中部大学創発学術院 客員教授

受賞

2005年 文部科学大臣表彰 若手科学者賞

2010年 日本学術振興会賞

2010年 日本学士院 学術奨励賞

2010年 米国心理学会 比較心理学賞

2023年 文部科学大臣表彰 科学技術賞、その他

著書

川合伸幸 (2006). 『心の輪郭 比較認知科学から見た知性の進化』

北大路書房

川合伸幸 (2015). 『ヒトの本性 なぜ助け、なぜ助け合うのか』

講談社現代新書 講談社

川合伸幸 (2016). 『コワイの認知科学』 新曜社

川合伸幸 (2017). 『科学の知恵 怒りを鎮める うまく謝る』 講

談社現代新書 講談社

川合伸幸 (2018). 『凶暴老人 認知科学が解明する「古い」の正体』

小学館新書 小学館

Kawai N. (2019). 『The fear of snakes: Evolutionary

and psychobiological perspectives on our innate fear』

Springer Nature

川合伸幸 (2022). (監修) 『「脳のクセ」に気づけば、見かたが変わ

る 認知科学大全』 ナツメ社

川合伸幸 (2022). (編著) 『心と脳』 認知科学講座2 東京大学出

版会

## 基調講演2

11月11日(土) 10:40~12:10 第1会場

### 痛みの仕組み - 作業療法における「痛み」解決の糸口を探る -

## Mechanisms of Pain: Exploring the Thread of Resolving 'Pain' in Occupational Therapy

座長

野田 和恵 Kazue Noda

神戸大学大学院 保健学研究科

Kobe University Graduate School of Health Sciences

#### ◆講師

松原 貴子

Takako Matsubara

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

Faculty of Rehabilitation, Kobe Gakuin University



#### 略歴

1991年 神戸大学医療技術短期大学部理学療法学科 卒業  
 1991年 医療法人愛仁会千船病院 理学療法士  
 1997年 神戸大学医学部保健学科 助手  
 2006年 神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了 博士(保健学)  
 2006年 名古屋学院大学人間健康学部リハビリテーション学科 講師  
 2007年~愛知医科大学学際的痛みセンター  
 (現 疼痛緩和外科・いたみセンター) 理学療法士  
 2008年 日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科 准教授,  
 2011年 教授  
 2017年~愛知医科大学医学部 客員教授  
 2018年~神戸学院大学総合リハビリテーション学部理学療法学科/  
 大学院総合リハビリテーション学研究科 教授  
 2023年~神戸学院大学研究支援センター所長

#### <学会・社会活動>

日本ペインリハビリテーション学会(理事長), 日本運動器疼痛学会(常務理事), 日本疼痛学会(理事), 日本慢性疼痛学会(理事), 日本ペインクリニック学会(特任評議員), 国際疼痛学会, 日本解剖学会, 日本生理学会, 日本基礎理学療法学会(専門理学療法士), 日本運動器理学療法学会(専門会員A), 日本神経理学療法学会(専門会員A), 日本精神・心理領域理学療法研究会(専門会員A)  
 日本痛み関連学会連合(監事), 一般財団法人日本いたみ財団(評議員), 厚生労働行政推進調査「慢性の痛み」政策研究事業班, 他

痛みは、年齢や性別、疾患の種類を問わず、頻繁に対応を求められる症状のひとつである。この数年で痛みを取り巻く環境が大きく変化した。痛みの定義が40年ぶりに改訂され(国際疼痛学会IASP, 2020), 30年ぶりに改訂された国際疾病分類改訂版(ICD-11)に「慢性疼痛」が記載され(WHO, 2019), さらに、新たな機構分類として「痛覚変調性疼痛nociceptive pain」が提唱された(IASP, 2021)。

痛みは、機構(仕組み)分類によって、①侵害受容性疼痛(末梢の組織損傷により侵害受容器が刺激されることで生じる痛み)、②神経障害性疼痛(侵害受容器や痛覚伝導路を含む体性感覚神経系の病変によって生じる痛み)、③痛覚変調性疼痛(侵害受容の変化によって生じる痛みで、“第3の痛み”として提唱され、侵害受容性疼痛あるいは神経障害性疼痛がないにもかかわらず生じる痛み)に分けられる。一方、慢性疼痛は、各疾患名が一次性または二次性に分類される。慢性二次性疼痛は、器質的な原因が痛み発症に明確に関与していることが説明できるもので、慢性術後痛、慢性神経障害性疼痛、慢性二次性筋骨格痛などがある。慢性一次性疼痛は、3か月以上持続し、心理社会的または機能障害に関連し、原因不明で説明困難な1か所以上に生じる痛みで、現象学的な診断名である。つまり、侵害受容性または神経障害性疼痛に同定されず、痛覚変調性疼痛の関与が大きく、慢性広範性疼痛、線維筋痛症、複合性局所疼痛症候群などがここに分類される。

“Decade of Pain Control and Research (2001-2010)”により痛み医療・研究は大きく発展し、痛みの病態概念の整理はずいぶん進歩した。その後、現在の世界的な課題は慢性疼痛に対する標準的診療法の確立である。慢性疼痛診療ガイドライン(厚生労働研究班他, 2021)で病態に挙げられる「末梢・中枢感作」と「心理社会的問題」に対し、治療アルゴリズムのfirst-lineや診療ガイドラインの推奨に運動(活動)、教育、認知行動療法(第3世代含む)のような行動変容アプローチが掲げられ、これらは作業療法士が得意とするところでもある。

現在、慢性疼痛は作業療法士国家試験出題基準の大項目に位置付けられるが、卒前・卒後教育ともまったく不足する現状は深刻な問題である。発展を遂げた痛み医療の先鋒としてリハセラピスト、特に作業療法士が果たす役割は非常に大きい。痛みの仕組みについて最新かつ正確な知識を学び、作業療法における痛み解決の糸口を探るために、本講演が役立つことを期待する。



基調講演3

11月11日(土) 13:00～14:30 第1会場

新時代の認知症医療におけるOTの役割と期待

Department of Psychiatry Course of Integrated Medicine Graduate School of Medicine Osaka University

座長

田平 隆行 Takayuki Tabira

鹿児島大学医学部保健学科 School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University

◆講師

池田 学

Manabu Ikeda

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

Department of Psychiatry Course of Integrated Medicine Graduate School of Medicine Osaka University



略歴

大阪大学大学院 医学系研究科 精神医学教室教授

1984年東京大学理学部卒業。1988年大阪大学医学部卒業。1994年兵庫県立高齢者脳機能研究センター研究員兼医長。1996年愛媛大学医学部精神科神経科助手。2000年よりケンブリッジ大学神経科へ留学。2007年より、熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野教授。2016年5月より、現職。

主要研究領域

老年精神医学, 神経心理学など

所属学会等

- ・日本老年精神医学会理事長
  - ・日本神経心理学会理事長
  - ・日本精神神経学会副理事長
  - ・International Psychogeriatric Association (国際老年精神医学会) 理事長
  - ・Asian Society Against Dementia (アジア認知症学会) 理事
  - ・日本認知症学会理事
- など

主要著書

- ・池田 学. 中公新書 認知症. 中央公論新社, 東京, 2010
- ・池田 学 (編著) . 日常診療に必要な認知症候学. 新興医学出版社, 東京, 2014 など

高齢者、とりわけ認知症を抱える高齢者にやさしい地域社会 (Dementia Friendly Community) づくりは、認知症施策推進戦略 (新オレンジプラン) の副題にも掲げられているが、このように強調されなければならないほど、現代社会は高齢者、特に認知症を抱える高齢者にはやさしくない、生きづらい社会になっているということの裏返しと考えるべきであろう。特に、65歳以上を含む全世帯の60%を超えた独居高齢者ならびに高齢者夫婦だけの世帯の急速な増加に伴い、地域における一人暮らしの初期認知症や軽度認知障害 (MCI) 段階の高齢者が急増し、このような虚弱高齢者に対する生活支援が喫緊の課題になりつつある。

本年6月に成立した認知症基本法でも、認知症の人が地域において尊厳を保持しつつ、他の人と共生することの重要性が強調されるとともに、認知症の予防、診断・治療・リハビリ等に関する研究成果の普及・活用・発展させるという基本理念が示されている。今後、本法律の理念に沿って、さまざまな認知症施策が展開されることになるため、地域での生活支援に科学的な介入や環境調整が実施できるOTの役割は重要である。また、本年7月には米食品医薬品局がアルツハイマー病に対する疾患修飾薬レカネマブを正式承認したが、今後超早期診断が加速し、就労支援や自立した生活の維持のための支援が、認知症治療の大きな流れになることが予想される。多職種チームによる疾患特徴に基づく介入の中心的な役割を果たす専門職としてのOTに対する期待は大きい。

我々も、独居のMCIや初期認知症高齢者に対する見守ることを目的に、OTを中心とした多職種のアウトリーチによる生活支援と、虚弱高齢者の日常生活にウェアラブルセンサーやカメラなどのデバイス/センサ、ヒト型会話ロボットを導入して、自宅での観察と働きかけから身体的不活発や認知的不活発、睡眠障害を検出し、予防的介入を可能とするヘルスケアサービスモデルの実現を目指している。さらに、コロナ蔓延化で多職種による訪問が困難になる中で、予めOTが作成したマニュアルに沿って患者家族が患者宅のポイントになる場所を写真撮影し、そのデータを基に多職種で環境調整の提案をする (カメラを用いた非訪問型の居住環境および生活機能評価ツール) の手法も開発している。本講演では、このような最近の研究成果についても紹介してみたい。

## 教育講演1

11月10日(金) 11:00~12:30 第2会場

### 精神科作業療法の行方 - 仕組みから考える -

### The Future of Psychiatric Occupational Therapy ; Thinking through the Mechanism

座長

四本かやの Kayano Yotsumoto

神戸大学大学院 保健学研究科

Kobe University Graduate School of Health Sciences

#### ◆講師

小林 正義

Masayoshi Kobayashi

信州大学医学部保健学科・大学院総合医理工学研究科

School of Health Science, Graduate School of Medicine, Science and Technology, SHINSHU UNIVERSITY



#### 略歴

1986 国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院卒業

1991 信州大学医療技術短期大学部助手  
(信州大学医学部附属病院リハビリテーション部兼務)

1992-1998 信州大学医学部精神医学講座研究生

1997 信州大学医療技術短期大学部講師

2002 信州大学医学部保健学科助教授

2003 信州大学大学院医学研究科修了 博士(医学)

2007 信州大学医学部保健学科・大学院医学系研究科  
(現総合医理工学研究科) 教授

日本作業療法士協会理事(2003-2017),  
常務理事・学術部長(2011-2017), ~学術部員(現在)

第16回WFOT大会学術委員長(2014),

第51回日本作業療法学会会長(2017)

日本発汗学会(監事), 日本精神保健・予防学会(評議員),

世界作業療法士連盟会員, 日本精神障害者リハビリテーション学会会員,

CEPD研究会特別会員

1974年に精神科作業療法(OT)が制度化され49年が経過した。当時の算定基準は「患者1人当たり1日2時間を標準、患者数は25人を1単位とし1日3単位75人を標準とする」というもので、生活療法時代の画一的な集団作業を想定した基準といえる。その後、精神保健福祉法の改正を経て、精神保健福祉の改革ビジョンの「入院医療中心から地域生活中心へ」の基本方針のもと、障害者自立支援法(総合支援法)によるサービスが運用されている。精神科病院では、長期在院者の退院促進と地域移行、救急・急性期治療病棟や、認知症、気分障害、発達障害、物質依存などの多様化する疾患への対応、訪問を含む外来医療、就労支援、司法精神医療、地域包括ケアへの参画など、精神科OTに期待される役割は格段に増加している。これらの期待に応じるには個別対応が不可欠であるが、「2時間を標準、25人を1単位」とする算定基準は未だ改正されておらず、OT業務拡大の大きな足枷となっている。

会員統計資料によると、過去10年間(2011-2020)の作業療法士の増加数(増加率)は、身体障害領域10,291人(45%)、老年期障害1,770人(22%)、発達障害領域946人(63%)、精神障害領域778人(13%)で、精神障害領域が最も少ない。2019年の調査では、精神科に従事する会員の85%が民間病院に所属し、平均39人の患者を受けもち、1日に19.6件の精神科OTを算定している。対象者は60歳代の長期入院患者が最も多く、身体合併症への対応が求められている。84%の施設が救急病棟の患者に関与し、90%以上がカンファレンスに参加しているが、外来OTの実施率は47%、退院前訪問は35%、退院時指導は22%と少ない。手工芸・創作・芸術活動は約90%、身体運動は85%、余暇活動は83%、ADL/IADLは63%の施設で実施されていたが、生活圏拡大活動は35%、心理教育は33%、認知リハは27%、職業関連活動は16%程度の実施率に留まっている。

これらの調査結果は、需給バランスの悪さ(マンパワー不足)を背景に、役割期待に充分応えられていない精神科OTの実情を表し、課題解決には量と質を担保する組織的な取り組みが必要である。作業療法士の多くが入院患者の精神科OTに携わっている現状を踏まえ、本講では有効性が検証された個別OTのプログラムと研究成果を紹介し、精神科OTの行方を考える機会としたい。

教育講演2

11月11日(土) 15:00～16:30 第1会場

臨床研究のデータ解析～回帰分析について～

Statistics for Clinical Research. Regression analysis

座長

長山 洋史 Hirofumi Nagayama

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科

Department of Occupational Therapy, Kanagawa University of Human Services

◆講師

新谷 歩

Ayumi Shintani

大阪公立大学大学院医学研究科  
医療統計学

Department of Medical Statistics  
Graduate School of Medicine and  
Faculty of Medicine Osaka Metropolitan  
University



厚生労働省 厚生科学審議会 患者申出療養評価会議 評価員  
厚生労働省 中央社会保険医療協議会 費用対効果評価専門部会委員  
2000年に米国エール大学で生物統計学の博士号を取得後、テネシー州  
ヴァンダービルト大学で講師准教授を経て、2013年より大阪大学医学  
部臨床統計疫学寄附講座教授。2016年より現職。ヴァンダービルト在  
籍中は医師研究者の育成を目的とした臨床研究修士コースで10年以上  
150人に及ぶ医師サイエンティストの育成に携わる。著書に「今日か  
ら使える医療統計(医学書院)」「みんなの医療統計(講談社)」「臨床研  
究を応援します(羊土社)」がある。日本REDCapコンソーシアム代表。  
2022年9月にスタンフォード大学が発表した「世界で最も影響力のある  
研究者トップ2%」に生涯区分・単年区分両方で選出された。

臨床研究のエビデンスレベルは無作為化比較試験が最も高いとされる。それは、無作為化試験では未収集の背景情報も含め無作為化により、比較群間の背景が揃うことでアウトカムの直接比較が可能となるからである。しかし、無作為化比較試験等の介入研究は組み入れ基準が厳格で実臨床を反映しがたい、良くなりたいと思う気持ちの強い被験者が組み入れられ、実臨床のデータと比べて予後が良くなる可能性が高いなど、治療薬の効果も出にくいという欠点がある。

一方、実臨床の結果を用いた観察研究(レジストリ研究等)では、さまざまな患者の背景によって治療法が選択されるため、治療された群とされなかったコントロール群で患者の特性が異なり、アウトカムの直接比較が困難となる。解析でこの違いを無視してしまうと、治療群はコントロール群に比べ病状が悪化していることが多いので、研究対象となる治療の効果なし、またはあたかも害であるかのような思いもかけない結果に結びつくことがしばしば起こる。このように比較群間で患者背景の異なりから治療の効果を間違えて解析してしまうことを「交絡」と呼び、多くのリアルワールドデータの解析で問題とされている。

この交絡をいかに防ぐことができるかが、リアルワールドデータを用いた研究の科学性を高める重要なポイントとなる。交絡を防ぐためには重回帰、または多変量解析とよばれる統計モデルを用いて背景のデータのズレを調整することが一般的であるが、最近では傾向スコアを用いた交絡の調整法など、新たな手法が開発されている。本講演では臨床研究における回帰分析のメカニズムと、結果の解釈や無料統計ソフトEZRを用いた解析手法について説明する。

略歴

現職:

大阪公立大学大学院医学研究科医療統計学教室 教授  
大阪公立大学医学部附属病院臨床研究イノベーション推進センター臨床研究分野長  
独立行政法人国立病院機構総合研究センター生物統計室長  
東海大学 客員教授  
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院 統計アドバイザー  
Vanderbilt 大学 客員教授  
厚生労働省 厚生科学審議会 臨床研究部会委員



## シンポジウム1

11月10日(金) 15:00~16:30 第1会場

触法障害者等への支援を考える ~医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援~

Consideration of Support for Persons with Disabilities offenders

~ Persons Who Have Caused Serious Cases Under the Condition of Insanity · Person Released From Prison for Community Life Support ~

### 【趣旨】

2005年、医療観察法の施行により、指定医療機関における司法精神科作業療法が開始され、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った精神障害者に対して、OTはリスクマネジメントだけでなく、本人の健康的な側面、その人の強み（ストレングス）に着目し、地域生活支援に尽力してきた。

2007年、刑事収容施設法の改正に伴い、矯正施設において、OTが受刑者に関与し始め、病や障害を有する受刑者に対する関わりを展開してきた。2009年には、地域生活定着支援センターが設置され、受刑中の障害者や高齢者に対する「出口支援」が始まり、支援対象の位置付けが明確化された。

本シンポジウムでは、司法領域におけるOTの具体的な実践報告を基に、触法障害者等への支援について、私たちOTにできることは何か、今後の司法領域における作業療法の可能性を踏まえ、皆さんとともに考える機会としたい。

### 【流れ】 90分

コーディネーター：宮口英樹・棟近展行

- ① 趣旨説明（宮口）5分
- ② 司法領域の作業療法の概要（棟近）10分
- ③ 医療観察領域の実践～入院から通院への引継ぎと地域生活支援事例（岡庭）15分
- ④ 矯正施設領域の実践～矯正施設での取り組みから出口支援、出所後の地域生活支援事例（足立）15分
- ⑤ シンポジスト・参加者との意見交換20分
- ⑥ 作業療法士のかかわりの可能性～コグトレの取り組み～（宮口）10分
- ⑦ まとめ（各演者一言ずつメッセージ）10分

### 座長

宮口 英樹 Hideki Miyaguchi

広島大学大学院 医系科学研究科

Hiroshima University Graduate School

### ◆シンポジスト

宮口 英樹

Hideki Miyaguchi

広島大学大学院 医系科学研究科

Hiroshima University Graduate School



### 略歴

- 1986年 同志社大学文学部社会学科社会福祉学専攻卒業
- 1989年 国立善通寺病院付属リハビリテーション学院作業療法学科卒業
- 1989年 奈良県心身障害者リハビリテーションセンター
- 1996年 広島県立保健福祉短期大学作業療法学科助手
- 2004年 広島大学大学院保健学研究科 教授

### 【作業療法士協会関連】

(一社)日本作業療法士協会副会長(学術部、教育部、国際部担当、学術部長兼務、研究倫理審査委員会委員長兼務 2023年まで)

### ◆シンポジスト

棟近 展行

Nobuyuki Munechika

法務省府中刑務所

Ministry of Justice Fuchu Prison



### 略歴

- 1999年 高知リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業  
 佛教大学社会学部 社会福祉学科 卒業  
 東京武蔵野病院(作業療法士)入職
- 2008年 法務省横浜保護観察所 社会復帰調整官室 社会復帰調整官
- 2017年 法務省保護局 精神保健観察企画官室 生活環境調整係長
- 2019年 法務省東京保護観察所立川支部 処遇部門 保護観察官
- 2021年 厚生労働省社会・援護局 医療観察法医療体制整備推進室 室長補佐
- 2022年 日本司法作業療法学会 理事
- 2023年 法務省府中刑務所 分類審議室 上席統括矯正処遇官  
 現在に至る。

### ◆シンポジスト

岡庭 隆門

Takato Okaniwa

静岡県立こころの医療センター

Shizuoka Psychiatric Medical Center



### 略歴

- 1988年 国立療養所箱根病院付属リハビリテーション学院 作業療法学科卒
- 1988年 静岡県立こころの医療センター(旧 養心荘)入職
- 2011年 当院医療観察法病棟棟立ち上げ、医療観察法指定医入院・指定通院担当
- 2018年 同院 在宅医療支援室長
- 2019年 公益社団法人 静岡県作業療法士会 会長

◆シンポジスト

足立 一

Hajime Adachi

高知リハビリテーション専門職大学  
リハビリテーション学部 リハビリテー  
ション学科

*Kochi Professional University of  
Rehabilitation*



司法作業療法の可能性

Possibility of judicial occupational therapy

略歴

1995年～2002年 精神科病院勤務  
2002年～2010年 大阪リハビリテーション専門学校勤務  
2006年～ 姫路少年刑務所 外部講師  
2009年～ 播磨社会復帰促進センター 非常勤作業療法士  
2010年～2021年 大阪保健医療大学/大学院勤務(2017年～)  
2021年～ 高知リハビリテーション専門職大学  
GoGo-OT-NET(刑務所等出所者に対する  
オンライン支援) 委員  
2022年～ 加古川学園 外部講師/篤志面接委員(2023年～)  
2022年～ 日本司法作業療法学会 理事  
現在に至る。



## シンポジウム2

11月11日(土) 9:00~10:30 第1会場

### 障害福祉領域で求められる作業療法士の専門性～児童通所支援で活躍するために～ Specialty of Occupational Therapists Required in the Field of Welfare for Children with Developmental Special Needs

現在の障害児通所支援の体系は2012年の障害福祉の構造改革により創設された。10年が経過する中で様々な成果と課題が得られてきているところである。国としても、この間の課題を整理するために、2021年に障害児通所支援の在り方に関する検討会を、2022年に通所支援に関する検討会を開催し、検討を進めてきた。21年検討会では児童発達支援センターが医療型と福祉型の一元化が決められた。また、支援の類型化（総合支援型と特定プログラム型）が話題となったが、22年検討会において、児童発達支援・放課後等デイサービスは5領域を含める総合支援型が基本であることが確認された。同時に児童発達支援センターの機能強化、総合的なアセスメントの重要性が確認された。

現時点では総合的に支援するという理念は確認されたものの、各事業所においてどのような実践の仕方が求められるのかは明らかになっていない。総合的なアセスメントも同様に具体的なものはまだ示されていない。

しかし、総合的に支援をするということは、取りも直さず子どもの育ちや生活全体を見ることであるといえよう。子どもの発達や育ちを多角的に見ることができる作業療法士の得意なことであると考えられる。また、生活全体を視野に入れるということは、通所している施設での生活だけでなく、その対象となる子の家庭生活や地域生活も視野に入れる必要が求められており、これもまた活動と参加を支援する専門家である作業療法士の得意とするところと言えるだろう。

しかしながら、作業療法士の現状はどうであろうか。この領域で働き、活躍する人が増えており、積極的に活動展開している人が増えている。一方で、通所における作業療法士の役割がわからないとか、専門性に迷うとか、アイデンティティに不安があるなどの悩みを耳にすることも少なくない。

本シンポジウムでは、上記のような国における制度変更の流れを踏まえて、作業療法士に何が期待されるのか、何が求められるのかを議論する。そして、それが実現されるための作業療法士の専門性をどのように考えるかを議論する。

座長

酒井 康年 Yasutoshi Sakai

うめだ・あけぼの学園 / 日本作業療法士協会

Center for Children with Developmental Special Needs UMEDA・AKEBONO GAKUEN /

Japanese Association of Occupational Therapists

#### ◆シンポジスト

酒井 康年

Yasutoshi Sakai

うめだ・あけぼの学園 /

日本作業療法士協会

Center for Children with  
Developmental Special Needs UMEDA・

AKEBONO GAKUEN /

Japanese Association of Occupational  
Therapists



#### ◆シンポジスト

嘉門 邦岳

Kunitake Kamon

株式会社アクト・デザイン こども発達  
支援ルームまあち / 日本作業療法士協会

ACT・DESIGN, Inc Child

Development Support Room MAACHI /

Japanese Association of Occupational  
Therapists



作業療法士の専門性×地域支援＝

Expertise in Occupational Therapists ×  
Community Based Practice

#### 略歴

大学を卒業後、都内の特別支援学校の教員として5年間勤務。  
その後作業療法士の資格を取得し、現在のうめだ・あけぼの学園に入職。  
現在

児童発達支援センター うめだ・あけぼの学園 副園長 児童発達支援  
管理責任者

一般社団法人 日本作業療法士協会 常務理事

一般社団法人 東京都作業療法士会 監事 子ども委員会 委員 地域  
包括ケア対策委員会 委員

他

#### 略歴

2004 一部事務組合下北医療センター むつ総合病院

2007 地域医療振興協会 東京北社会保険病院  
(現：東京北医療センター)

2014 株式会社アクト・デザイン設立 代表取締役

現在 児童発達支援管理責任者 相談支援専門員

日本作業療法士協会 制度対策委員

千葉県作業療法士会 こども連携委員長

千葉県総合支援協議会 療育支援専門部会委員

流山市児童支援事業所連絡会 副会長

柏市在宅リハビリテーション連絡会 理事

柏市障害支援区分等審査会 委員等

◆シンポジスト

仲間 知穂

Chiho Nakama

YUIMAWARU (株)

こどもセンターゆいまわる 代表取締役

*YUIMAWARU Co., Ltd. Children's*

*Center YUIMAWARU. CEO*



略歴

東京都立保健科学大学(現 首都大)卒業後、回復期リハビリテーション病院に6年勤務(河北リハビリテーション病院, タピック沖縄リハビリテーション病院), その後7年間琉球リハビリテーション学院で教務をしていました。

2016年よりYUIMAWARU株式会社を設立し, 作業療法士による学校訪問を行っている。2020年には福祉型児童発達支援センターを開設し, 委託事業でも親子通園や保育園から小中学校までの幅広い学校作業療法を提供している。

## シンポジウム3

11月12日(日) 10:10~11:40 第1会場

### 出版の仕組み (文字による知の伝達)

### Mechanism of Publishing (Communication of Knowledge through characters)

近年、画像や音声、テキストなどさまざまなコンテンツを手軽に生成できる生成系AIが開発されるなど、多くの情報がWebを介して容易に入手できるようになった。しかし、一部の情報には、出典が明確に示されていないものも見受けられ、主観的で偏った情報との区別が困難であることも少なくない。そのため、情報を利用する個人には、その確かさを判断し、目的に適合するように使用できる能力(情報リテラシー)が必要となる。一方、紙媒体や電子媒体で出版される学術関連の書籍・雑誌においては、原稿の推敲や査読による修正を重ねるなど、複数のチェックプロセスを経たものが世の中に出ている。また、発行主体も個人ではなく、学術団体や出版社であるため、非常に信頼性の高い情報と認識されている。このような観点から、作業療法が「社会においてどのように機能し、どのように役立つのかを根拠と共に示す手段」として、書籍や雑誌の果たす役割は非常に大きいと考えられる。

本シンポジウムでは、作業療法関連書籍を発行する出版社から登壇する3名と共に、学術出版と商業出版における「出版の仕組み」をひも解き、フローと共に共有する時間としたい。まずは、学術出版物の1つである『学術誌作業療法』の意義・目的と、投稿から掲載までのプロセスについて概説する。その後、商業出版について、企画・構成、著者への依頼、文章の推敲、出版までの確認等を中心的に担う「編集者」の具体的な仕事について、著者とのやり取りの経験を交えながら話していただく予定である。

これから論文投稿を考えている方や、書籍の著者になってみたいと考えている方が、本当に知りたいと思うような内容について、ディスカッション出来れば幸いである。

座長

新宮 尚人 Naohito Shingu

聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 Seirei Christopher University

#### ◆シンポジスト

新宮 尚人  
Naohito Shingu

聖隷クリストファー大学  
リハビリテーション学部 作業療法学科  
Seirei Christopher University



#### 略歴

経歴:

1989年名古屋大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業。同年、医療法人八誠会守山荘病院にて作業療法士として勤務(2002年3月まで)。2005年広島大学大学院保健学研究科保健学専攻博士課程後期修了(博士(保健学))。同年、聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学専攻助教授。2008年よりリハビリテーション学部・大学院リハビリテーション科学研究科教授(現在に至る)。

関連活動:

2005年より日本作業療法士協会学術部員、2017年より学術部学術誌編集委員会委員長(2023年3月まで)

#### ◆シンポジスト

青山 智  
Satoshi Aoyama

株式会社三輪書店 代表取締役社長  
MIWA-SHOTEN Ltd.



#### 略歴

1961年生まれ。86年和光大学人文学部中退。88年三輪書店へ入社、リハビリテーション、整形外科、脳神経外科、循環器内科領域で書籍や雑誌の編集に携わる。

2004年代表取締役就任。10年東京リハビリテーションサービス(23年4月リニエRに名称変更)設立し代表取締役兼務。

#### ◆シンポジスト

関川 宏  
Hiroshi Sekikawa

株式会社協同医書出版社 代表取締役社長  
Kyodo-isho Shuppan Co., Ltd.

#### 略歴

2000年1月株式会社協同医書出版社入社。主に作業療法、理学療法、言語聴覚療法に関する書籍編集を担当。2023年6月より代表取締役社長(現在に至る)。

#### ◆シンポジスト

五十嵐陽子  
Yoko Igarashi

医歯薬出版株式会社 取締役  
Ishiyaku Publishers, Inc.

#### 略歴

法律系や医療系雑誌出版社勤務を経て、医歯薬出版株式会社入社後は主に書籍編集を担当。その後、編集部の執行役員(いわゆる“現場の選手兼監督”)として編集業務と管理業務に従事。2016年から取締役(現職)、医歯薬出版第一出版部(医科領域)の編集部を統括。出版業界が電子化の大波に揉まれるなか、造本装幀も含めて創造し、書誌を総合的にプロデュースする編集の仕事はどう変化したのか、変化していないのか、また変わるべき方向はなにかと、頭を悩ませる日々である。

**日本－台湾作業療法ジョイントシンポジウム**  
**(Japan - Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium) テーマ1**  
**11月11日(土) 9:00～12:00 第2会場**

**作業療法士の卒後教育**  
**Continuous Training for Occupational Therapists**

座長

大庭 潤平 Jumpei Oba

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科

*Kobe Gakuin University Faculty of Rehabilitation, Department of Occupational Therapy*

◆台湾講師

**Hui-Fen Mao**

Associate professor, School of Occupational Therapy, College of Medicine, National Taiwan University, Taiwan



**Certification Regulations and Professional Continuing Education of Occupational Therapy in Taiwan**

Promoting the health and well-being of the public requires occupational therapists to continuously enhance their expertise in specialized fields and consistently improve the quality of their professional services and competence in clinical education. This presentation provides an overview of the occupational therapy specialty certification and continuing education framework focused on educating clinical preceptors, which has been established by the Taiwan Occupational Therapy Association (TOTA) over the past twenty years.

TOTA has made steadfast efforts to develop and promote three certification regulations:

1. "Occupational Therapy Clinical Ladder System" (2004): This certification system recognizes four levels of clinical occupational therapists, allowing professionals to advance based on their clinical competencies.
2. "Certification of Occupational Therapy Clinical Preceptor" (2010) & "Certification of Clinical Preceptor" regulated by the Ministry of Health and Welfare of Taiwan" (2011): Only certified therapists are eligible to supervise occupational therapy fieldwork or newly recruited therapists in teaching hospitals, ensuring high-quality clinical training and mentorship.
3. "Certification of Clinical Preceptor in Occupational Therapy Community-based Practice" (2018): Only certified therapists can supervise occupational therapy community-based fieldwork, which was formally recognized as a fieldwork option for occupational therapy licensure requirements in 2017.

To maintain the standard of specialized professional services, various ministries in Taiwan have implemented certification systems that require individuals to complete required continuing education courses to provide related services. These services

encompass:

1. Special education school system services.
2. Long-term care services 2.0 (LTC 2.0) .
3. Community health promotion programs for older adults.
4. Assistive technology and environment modification services for people with disabilities.
5. Vocational rehabilitation services for people with disabilities, including vocational evaluation, job accommodation, and employment services.
6. Labor Occupational Safety Services.

These certification systems are designed to ensure that the therapists possess the necessary skills and knowledge to deliver high-quality services to the public.

In summary, the Taiwan Occupational Therapy Association, in collaboration with the government, has worked diligently to develop occupational therapy certification regulations and continuing education initiatives. Our commitment lies in fostering expertise, improving service quality, and promoting the overall well-being of individuals receiving occupational therapy services.

略歴

**[Education]**

- Licensed Occupational Therapist, ROC (1988)
- National Board of Certification in Occupational Therapist, USA (1990)

**[Professional Memberships and Activities]**

- Member of Dementia Care and Prevention Committee, Hao-Shen Organization, Legislative Yuan2020~ Present (2020-)
- Director, Taiwan Alzheimer Disease Association Supervisor, Taiwan Occupational Therapist Association President, Taiwan Occupational Therapist Association (2017-)

**[Research subject]**

- Occupational therapy in long-term care
- Dementia care and prevention
- Occupational therapy for physical dysfunctions
- Assistive technology & applications



◆日本講師

竹中佐江子  
Saeko Takenaka

株式会社リニエR

Company director, Linie R, Inc.



### Professional Continuing Education at the Japanese Association of Occupational Therapists

The Continuing Education of the Japanese Association of Occupational Therapists (hereafter JAOT) began in 1998 as the "Continuing Education Credit Recognition System. It was later revised to the "Professional Continuing Education System" in 2003.

The current Continuing Education System has undergone four revisions and has been in operation since FY2023.

The Continuing Education System consists of three certification systems: the Basic Training System, the Certified Occupational Therapist System, and the specialized occupational therapist system.

In the basic training system, trainees learn basic and common knowledge for clinical practice as occupational therapists. It is a system to deepen understanding of the significance and direction of lifelong learning and to learn the basics of clinical practice. The system consists of a common training program and an elective training program for incumbents, each consisting of compulsory training and free elective training.

The two mandatory training programs are operated in cooperation with prefectural occupational therapist associations.

The Certified Occupational Therapist System aims to improve the quality of occupational therapists and maintain and raise the standards for occupational therapy. In order to further establish the expertise and social status of occupational therapists, JAOT trains, examines, and certifies occupational therapists by setting certain standards. The objective is for certified occupational therapists to contribute to the health, medical care, and welfare of the nation. 1,390 people have been certified as of May 2023.

The specialized occupational therapist system educates practitioners with outstanding clinical practice skills. The objective is to provide high quality and effective occupational therapy services to people with disabilities and to contribute to the support of their lives. As of May 2023, a total of 152 individuals in 11 fields have been certified.

Each of the above three certification systems by JAOT has a five-year validity period for renewal of certification. As of fiscal year 2023, the renewal requirement for completion of basic training requires completion of the clinical practice instructor training course designated by the Ministry of Health, Labor, and Welfare.

This renewal is related to compliance with the following ethical requirements set forth by the JAOT:  
"2. Occupational therapists shall maintain the highest standards of knowledge and skill. "

"9. Occupational therapists shall be mutually disciplined in their academic studies and character development." It is essential that all occupational therapists, not only members of the JAOT, be aware of these principles in their daily clinical practice, education, research, and administration.

#### 略歴

#### [Professional Memberships and Activities]

Director, Japanese Association of Occupational Therapists (2021-)

General Manager, Education Department, Japanese Association of Occupational Therapists (2023-)

Director, Japan Association for Home-visit Rehabilitation (2018-)

Managing Director, Home-Visit Rehabilitation Promotion Foundation (2022-)

Councilor, Japanese Association of Rehabilitation Medicine for Children (2023-)

**日本－台湾作業療法ジョイントシンポジウム**  
**(Japan - Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium) テーマ2**  
**11月11日(土) 9:00～12:00 第2会場**

**精神障害者の地域支援**

**Community Inclusive Services for People with Mental Health Conditions**

座長

池田 望 Nozomu Ikeda

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

*Sapporo Medical University School of Health Sciences, Department of Occupational Therapy*

◆台湾講師

**Chen Te-Chun**

Head of Jin-Shan Community  
 Rehabilitation Center, Yilan,  
 Taiwan



**The Role of Occupational Therapy in  
 Community Inclusive Services for People with  
 Mental Health Conditions**

The stigma of mental illness often leads to the exclusion or discrimination of people with mental health conditions in the community. Social inclusion is achieved by providing appropriate support and services to ensure that all people can participate in economic, social, and cultural life of their community and contribute to society.

Providing recovery-oriented services is an international trend, and the components of recovery are quite consistent with the philosophy of occupational therapy. In the field of community services, occupational therapists' professional assessment and analysis of individuals, occupations, and environments help develop strategies that promote social inclusion for individuals.

Occupational therapists not only enhance the functional performance of individuals through occupational activities but also establish connections between groups and communities through co-occupation in the community. This allows people with mental health conditions and community members to understand each other and achieve reduction of self-stigma and social stigma.

The purpose of Jin-Shan Community Rehabilitation Center (JSCRC) is "Living with Heart, Learning with Joy." Support for people with mental health conditions can come from professionals, peers, neighbors, and various people in the community. The institution adopts a recovery-oriented service model and tries to connect with the community as much as possible when planning activities of daily living, work training, leisure activities, volunteer work, religious activities, etc. Through various community interactions and advocacy, it enhances the mental health literacy of community residents so that they can naturally interact with

people with mental health conditions.

When providing services to clients, staffs value the needs, strengths, and occupational roles of individuals with mental health conditions, enabling them to participate in meaningful and purposeful activities in the real world. By improving functional performance and promoting social inclusion, people with mental health conditions can have roles in their community and create their value.

略歴

**[Professional Memberships and Activities]**

- Director of Taiwan Occupational Therapy Association, Taiwan (2016-)
- President of Taiwan Community Mental Health Rehabilitation Development Association, Taiwan (2015-2016)
- Director of Occupational Therapists Union of Taiwan, Taiwan (2014-2017)
- President of Yi-Lan County Occupational Therapists Union, Taiwan (2011-2014)

◆日本講師

**早坂 友成**

**Tomonari Hayasaka**

杏林大学 保健学部  
 リハビリテーション学科

*Associate Professor, Department of  
 Occupational Therapy, Faculty of  
 Health Sciences, Kyorin University,  
 Japan*



**The Role of Psychiatric Occupational  
 Therapists in Promoting Citizen Health and  
 Well-being**

Recent developments in psychiatric treatment and support have enabled early treatment due to the early discovery of mental illness; social insurance systems, etc. for public health and welfare have also made remarkable progress. However, these initiatives do not coordinate sufficiently with medical and nursing care, and the establishment of a comprehensive care system is anticipated in the future.

Amid these circumstances, the Vision for Reform of Mental Health and Medical Welfare, formulated



in Japan in 2004, clearly set out the idea of “shifting from a focus on inpatient treatment to a focus on community life.” Further, a conference consisting of experts, stakeholders, and others that pertains to the construction of a community-based integrated care system that would also cover mental health issues has been held since 2020 to examine reviews of various systems, in specific detail, as necessary. The aim of these reviews is to enable anyone to lead a life that suits them peacefully in the community they are familiar with and promote the construction of a “community-based integrated care system” that comprehensively ensures healthcare, nursing care, prevention, housing, and lifestyle support.

The role of occupational therapists in the community-based integrated care system is to elucidate the issues faced by patients in society from the perspective of occupational therapy and provide support for improving them so that citizens can lead healthy lives. Patients with mental disorders in particular are often forced to live with their illnesses and disorders, which gives rise to the need to understand their “difficulty in living” and “difficulty in life” and offer specific means to resolve these challenges.

About 60% of psychiatric occupational therapists in Japan are employed by psychiatric hospitals, which have many patients who have been forced to live as inpatients for the long term. This symposium aims to share the current state of psychiatric departments in each country and examine the roles of occupational therapists in promoting people’s health and well-being.

#### 略歴

##### **[Professional Memberships and Activities]**

- ・ Managing Director, Japanese Association of Occupational Therapists
- ・ Executive Committee Member, 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
- ・ Secretary-General, Japanese Research Association for Occupational Therapy of Mood Disorders

##### **[Research subject]**

- ・ Occupational Performance Characteristics in Occupational Therapy with Difficult-to-treat Depression
- ・ Factors that Improve the Social Activity Status of Patients with Mental Disorders Participating in Occupational Therapy.

国際企画プログラム

11月11日(土) 13:00～14:30 第6会場

インドネシアにおける作業療法の発展と作業療法の提供に対する文化的影響

The Development of Occupational Therapy and Cultural Impact on Occupational Therapy Services in Indonesia

国際部主催の本企画は、第16回世界作業療法士連盟大会の日本開催決定をきっかけとして、2008年から実施されており、日本の作業療法士が世界の作業療法の状況を俯瞰して捉えられるようになることが狙いの一つである。

今回は、APOTC2024に向け、アジアの国の一つであるインドネシアに講演を依頼し、アジア太平洋地域の作業療法の現状について、会員が思いを馳せる機会になればと考えている。インドネシアは日本とは歴史的にも政治経済的にも深い関わりをもち、保健医療面でも接点のある重要なパートナーである<sup>1)</sup>。また、その地形的な条件により、日本と同様に災害問題が多い地域と知られている<sup>2)</sup>。

今回の講義では1994年からインドネシアにおける作業療法職の発展から現在の状況、様々な環境における作業療法の提供、そしてインドネシアの作業療法士が直面する課題などについて、研究結果にも基づきながらご講演いただく予定である。

本企画を通じて、インドネシアにおける作業療法の発展と課題について理解を深め、異なる文化背景での作業療法の重要性を再認識することができる機会になると思われる。

1) 江上由里子: インドネシア共和国の保健医療の現状. 国際保健医療. 27 (2), 171-181, 2012

2) 日本のインドネシアに対する経済協力～半世紀のパートナーシップ～ [https://www.id.emb-japan.go.jp/oda/jp/whatisoda\\_04g.htm](https://www.id.emb-japan.go.jp/oda/jp/whatisoda_04g.htm)

座長・オーガナイザー

石橋 英恵 Fusae Ishibashi

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 准教授 / 日本作業療法協会 WFOT代理 (2009年～2021年)

Associated Professor at Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences at Fukuoka, International University of Health and Welfare. / Alternate Delegate, World Federation of Occupational Therapists (2009-2021)

◆講師

Tri Budi Santoso

Surakarta Health Polytechnic 作業療法学科 上級講師 / インドネシア作業療法協会 WFOT代表

Senior Lecturer in the Department of Occupational Therapy and Department of Speech Therapy of Surakarta Health Polytechnic, Surakarta, Indonesia / Indonesian Delegate to the World Federation of Occupational Therapists



本発表では、1994年からインドネシアにおける作業療法職の発展から現在の状況、様々な環境における作業療法サービスの提供、そしてインドネシアの作業療法士が直面する課題について説明する。そして、文化的側面の作業療法サービスへの影響について、2022年に行った質的調査に基づきに言及したい。質的調査の結果、伝統的な治療と健康文化が、医学的な治療方法に関連する診断に影響を与えることが確認された。さらに、文化的要素が遵守されているほど、医療的な治療/セラピーに対するコミュニティの拒絶反応が大きく、その逆もまた然りである。インドネシアにおける作業療法に影響を与えるいくつかの要因は、経済・教育レベル、地域の信念や患者の病気に対する認識、伝統的な治療方法、家父長制文化、社会規範、言語、コミュニケーションである。

This paper will describe the development of the occupational therapy profession in Indonesia from 1994 to the current situation, occupational therapy service delivery in various settings, and challenges Indonesian Occupational Therapists to face. The second topic will describe how cultural aspects influence the occupational therapy service (based on the qualitative study

done in 2022). The result of the qualitative research documented that traditional healing and health culture influence diagnoses related to medical healing methods. Furthermore, the higher the cultural elements adhered to, the greater the community's rejection of medical healing/therapy and vice versa. Several factors that impact occupational therapy in Indonesia are economic & educational level, local beliefs & patient perceptions of disease, traditional healing methods, patriarchal culture, social norms, language, and communication.

略歴

Tri Budi Santoso先生はインドネシアのスラカルタにあるAcademy of Physical Therapyを卒業後、カナダ・アルバータ州リハビリテーション医学部にて作業療法士、オーストラリア、ラ・トロープ大学健康科学部にて作業療法修士、東京都立大学人間健康科学部作業療法学科にて作業療法学博士号を取得されている。ラカルタ保健ポリテクニクの作業療法学科に約30年間勤務し、以前は作業療法学科長を務めていた。上級講師、研究者、小児作業療法士として、25年以上の臨床経験を持ち、インドネシアにおける作業療法の創始者の一人である。以前にインドネシア作業療法士協会の会長を務め、現在は世界作業療法士連盟のインドネシア代表を務めている。研究テーマは、子どもの発達、特別なニーズを持つ子どもの子育てとレジリエンス、作業科学、プレイベースの作業である。

※当日の発表は、同時通訳がつき、日本語か英語のいずれかを選択して視聴することができる。

**専門作業療法士セミナー1 (脳血管障害) 11月10日(金) 11:00~12:00 第3会場**

**脳血管障害の作業療法**

**Occupational therapy for cerebrovascular disorder**

専門作業療法士(脳血管障害)が誕生し2年目を迎え、2023年5月1日現在で34名となりました。昨年に続いて今回も3名の専門作業療法士からそれぞれに「今一番みなさんにお伝えしたいこと」を短い時間ではありますが述べさせていただきます。

はじめに(1)「脳血管障害患者の作業療法の現状と課題」と題し長谷川が、急性期・回復期における脳血管障害患者の作業療法(訓練・治療・介入方法を中心に)について、ガイドラインなどを参考に整理するとともに、その一方で現場の作業療法士達がどのように思い、感じているのかにも少し触れながら考えてみたいと思います。加えてこれからの作業療法士達にいくつかの提案をさせていただきたいと思います。

次に高橋啓吾氏に(2)「回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害者へのADL訓練と退院支援」のテーマで、臨床現場で実際的な内容を通じてお話しいたします。回復期リハビリテーション病棟では、リハビリテーション実績指数と自宅復帰率のアウトカムが求められています。作業療法士もこれらのアウトカムを意識した臨床実践が求められ、なかでもADLの支援と自宅退院へのマネジメントが大きな役割と考えられます。回復期での臨床実践について、姿勢制御の観点からADLの客観的な動作解析と、環境との適応に根ざしたADLの支援を紹介し、また“MTDLP”を用いた退院支援を紹介させていただきます。

最後に(3)「専門作業療法士(脳血管障害)としてのエビデンスの向き合い方:脳卒中後の上肢麻痺に対するアプローチを中心に」と題し、小淵浩平氏に臨床現場で働く作業療法士がどのようにエビデンスある治療について取り組んでいくかについて具体的に述べていただきます。昨今、医療・介護領域でエビデンスに注目が集まっていますが、作業療法の領域では、ナラティブとエビデンスの融和が十分に図られていないのが現状です。脳卒中領域で比較のエビデンスが豊富な上肢麻痺に関するエビデンス構築の推移を、氏が取り組んできた事例報告からケースコントロール研究まで報告していただきます。一般の総合病院に勤務する一臨床家というお立場で、エビデンスを「調べる」「使う」「創る」の具体的な流れについて伝えていただきます。

本セミナーでの報告が、みなさんの臨床や研究の一助になれば幸いです。

◆講師

長谷川敬一

Keiichi Hasegawa

一般財団法人竹田健康財団竹田綜合病院 リハビリテーション部  
Takeda General Hospital

脳血管障害の作業療法の現状と課題

Current status and issues in occupational therapy for cerebrovascular disorder

◆講師

小淵 浩平

Kohei Obuchi

JA長野厚生連 長野松代綜合病院 リハビリテーション部  
Nagano Matsushiro General Hospital

専門作業療法士(脳血管障害)としてのエビデンスの向き合い方:脳卒中後の上肢麻痺に対するアプローチを中心に

Facing the evidence as a specialist occupational therapist (cerebrovascular disorders): Focusing on the approach to upper limb paralysis after stroke

◆講師

高橋 啓吾

Keigo Takahashi

リハビリテーション天草病院 リハビリテーション部  
Amakusa Rehabilitation Hospital

回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害者へのADL訓練と退院支援

ADL exercise and hospital discharge management for the stroke patient in recovery phase rehabilitation ward

**専門作業療法士セミナー2 (がん)**

**11月10日(金) 11:00～12:00 第4会場**

**がんの作業療法の「今」に注目し、課題解決の糸口を探る**

**Focusing on the "Now" of Occupational Therapy for Cancer and Seeking Solutions to Issues**

医療保険において、がん患者リハビリテーション料が保険収載されてから十数年が経過した。がん対策基本法は2023年度より第4期を迎え、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」をスローガンに、がんリハビリテーションも重点課題として挙げられている。そのような中、がんの作業療法に従事する作業療法士も増え、がんは作業療法士が日常的に診療を行う疾患の1つになっている。また、近年は医療機関のみならず、在宅などを含め、広く普及が求められるようになり、全ての世代、治療期から終末期まで全ての段階での支援が求められている。一方、がんのリハビリテーション研修でも多くの問題点が挙げられるように、日本、地域、施設内、部門内、自分自身など、様々なレベルで多くの問題を抱えながら展開されていることも事実である。そこで本セミナーでは、がんの作業療法に求められるニーズ・課題が変化する中、この10年の変遷から、がん作業療法の「今」に注目し、どのような課題があり、これからのようなことが求められるのか、また将来を見据えて取り組むべきかについて、問題解決の糸口を紐解ききっかけを探っていく。

はじめに、様々な立場でご活躍されている3名のがん専門作業療法士にご登壇いただき、現状と明日への提言をいただく。藤井先生には、複数のがんセンターにおける作業療法の実践から、がん作業療法の最前線の紹介、そして、がん患者さんをこれから担当する、あるいは、担当し始めた療法士の様々な悩みに対し、問題解決の糸口となるメッセージをいただきたい。次に、稲田先生には、一般病院・大学病院を中心とした臨床実践から、ペイシェントジャーニーに沿った治療や生活の場所の変遷における実践、現在の問題点、そしてがんの作業療法の未来に向けたメッセージをいただきたい。西山先生には、次の世代へのがん作業療法の継承に向けて、がん領域の卒前教育の現状と先生ご自身の臨床実践から、今後の卒前・卒後教育の展開に向けたメッセージをいただきたい。

そして、全体討論では、フロアの皆様からも日々お困りの点や、今後のがん作業療法に期待することについて議論を交わし、今までがんの教育研修や経験を十分に得られていない作業療法士も含め、「誰一人取り残さない」がん作業療法の実践に向けて、私たち作業療法士がどのようなアクションを起こすべきか、共に考えていきたい。

司会

阿瀬 寛幸 Hiroyuki Ase

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科

*Department of Rehabilitation Medicine, Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center*

◆講師

藤井 美希

Miki Fujii

大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科

*Osaka International Cancer Institute*

◆講師

稲田 雅也

Masanari Inada

横浜市立大学附属病院 リハビリテーション部

*Department of rehabilitation, Yokohama City university hospital*

◆講師

西山菜々子

Nanako Nishiyama

大阪公立大学 大学院 リハビリテーション学研究科

*Osaka Metropolitan University, Graduate School of Rehabilitation Science*



**専門作業療法士セミナー3 (特別支援教育)**

11月10日(金) 11:00~12:00 第5会場

**特別支援教育と学校給食~作業療法士の偏食への取り組み~****Special needs education and School lunch****~Strategies for Selective Eating of Occupational Therapist~**

日本作業療法士協会誌の報告によると、統計資料(2022年3月)では、会員数64230名のうち、特別支援教育関わっている作業療法士(以下OT)は388名(0.6%)、学校教育を主業務としているOTは81名(0.1%)に過ぎない。また、2023年5月における協会認定OT、1390名の内、専門作業療法士は延べ152名に上るが、特別支援教育領域の専門作業療法士数は14名である。

しかしながら、学校からは教育現場で対応できるOT数の増加を切望する声が多いと実感しており、教育委員会や支援学校に作業療法士が関わりを持つ地域も少しずつではあるが拡大しつつある。

筆者は2010年頃より自閉スペクトラム症児の偏食の要因と対応に関する探索的研究を開始した。学校教育現場での外部専門家としての巡回相談において、学校給食への作業療法的視点を取り入れたアドバイスをを行い、教員との協働により偏食への取り組みを継続している。

子どもたちの食事における悩みにもよく出てくる偏食状況をアセスメントできる質問紙(SAS)の作成、偏食がある子どもの保護者の自己効力感尺度(SAPS)の開発、偏食がある子どもの保護者向け講座の実施をしてきた。発達支援センターでの偏食に関する保護者向け講座を実施するに伴い、興味関心の輪は徐々に広がり、発達支援に関わるスタッフや学校教員向けの講演会や、食に関する好き嫌いや食嗜好・こだわりをテーマにしたワークショップなどを依頼される機会も増えてきている。また最近では、相談支援センターの相談員としても栄養士や保育士対象に講演会を行ったり、実際の調理を実技として取り入れた講演なども行っている。

保護者や教員の困り感・ニーズの非常に高い偏食だが、その背景にある要因にはどういったものがあるのか、どのような対応が保護者や支援者によってなされているのか、どういったアプローチが効果的なのか、感覚面・口腔面・認知面・環境面からのアセスメントを通して、これまでの研究でわかってきたことを紹介する。加えて学校給食での偏食がある事例を取り上げながら、最新の取り組みについて、OTとしての関わりと学校教員との連携を紹介する。

医療・教育・療育・福祉領域のチーム医療と多職種連携を進め、対象児・者を支援するにあたり、共通テーマである「食事」について、アセスメントと支援のあり方を今一度考えるきっかけになればと願っている。

**◆講師****宮嶋 愛弓****Ayumi Miyajima**

四條畷学園大学 リハビリテーション学部

リハビリテーション学科

*Shijonawate Gakuen University, Faculty of Rehabilitation*

## 専門作業療法士セミナー4 (訪問作業療法)

11月10日(金) 11:00～12:00 第6会場

訪問作業療法で大切なこと～礎を知り、発展・追求するために～

**What is important in home-based occupational therapy  
- To know the foundation, develop and pursue it -**

訪問専門作業療法士セミナーでは、2021年「訪問作業療法の真髄～礎から未来へ～」、2022年「訪問作業療法の礎～備えておくべき気づき力と考え方～」というテーマを掲げました。今回も「礎」というキーワードを含め、過去と同様のテーマとしました。日々、悩みながら、自分の実践に間違いはないのか？訪問作業療法とは何か？と不安を抱いてきたのは、これらのテーマにあるように、「これぞ訪問作業療法！」という礎や道標が存在しなかったからではないでしょうか？おそらく、今までは訪問に携わる作業療法士が自らが、それらを明らかにしていく過程にいたのだと思います。しかし、もうその過程は終わり、今は、次のステージに進める状況になったと考えます。

私は、先輩方が確信された「在宅、地域という環境での作業療法の意義」「そこに作業療法士が必要であるということ」を受け継ぎ、当時、協会主催で開催していた訪問作業療法研修会に携わっていました。そこで出会った作業療法士は真摯に利用者の生活環境での作業療法に取り組んでおられ、どの実践も「作業療法」であるのに、それを確かめる場所、書籍、人が居ないために、誰もが常に不安を脱ぐことができない様子でした。「それでよいですよ。」「あなたが提供しているのは作業療法ですよ。」という言葉で安心され、「このような視点も加えてみるのはどうでしょうか？」などのアドバイスで、何かに閃いた表情を見せられたことなどを、今でも鮮明に覚えています。それは、徐々に私達ベテランから若い世代へのアドバイスに終わらず、世代に関係なく、訪問作業療法に携わる作業療法士同士が、情報・意見交換することで「訪問作業療法」の礎を作り上げるという過程に変化したと感じています。

今回は現在から未来に向けて、訪問作業療法に携わる作業療法士が、現在までの「訪問作業療法実践」を取りまとめました。今後の発展に向けた意見を出し合い、次のステージに向かうための時間としたいと思います。

### ◆講師

宇田 薫

Kaoru Uda

医療法人おもと会 統括リハビリテーション部  
訪問リハビリテーション科

Medical Corporation Omotokai

### ◆講師

寺本 千秋

Kazuaki Teramoto

紀州リハビリケア訪問看護ステーション

Kishu Rehabilitation Visiting Care Station



## 専門作業療法士セミナー5 (手外科)

11月10日(金) 11:00~12:00 第7会場

## Useful handを目指す臨床の現状と課題

## Clinical practice and challenges in aiming for a useful hand

現在、ハンドセラピー領域においては脳と手、手のパフォーマンス、運動学習、ADL場面での手の使用困難感、心理・思考的側面、QOLなどがキーワードとして、研究が変遷している。ハンドセラピーの真の治療効果が生活で使える手、使いやすい手、思い通りに動く手、支障ない手などと表現されるuseful handを獲得したかどうかにあると考えると当然の潮流といえる。

一方、臨床では長らく拘縮をいかにして予防するかという問題に直面してきた。現在も柔らかい関節、十分な腱の滑走・筋収縮など円滑な可動域を持ったしなやかな手の獲得が当面の目標に変わりはない。これらは損傷組織を修復する外科的治療の発展に加えて、専門的知識や技術をもったハンドセラピストによる早期ハンドセラピーによって多くは解決できるようになってきた。しかしながら、神経系を由来とする痛みやしびれ、知覚障害、運動麻痺、それらの再建後の再教育等に対する効果的な治療法は、useful handを目指す上でいまだ実臨床の大きな課題となっている。本セミナーの前半では、本邦におけるハンドセラピー研究の動向や臨床の現況を振り返り、後半は演者が取り組んでいるuseful handを目指した運動機能再建術後の急性期からの機能転換訓練を紹介する。

司会

岡野 昭夫 Akio Okano

中部大学 生命健康科学部 作業療法学科 Chubu University

## ◆講師

野中 信宏

Nobuhiro Nonaka

愛野記念病院 手外科センター

Aino memorial hospital Hand surgery center

専門作業療法士セミナー6 (認知症)

11月11日(土) 9:00～10:00 第3会場

認知症の人のWell-being を考える

Thinking about “Well-being” for people with dementia

時には「問題行動」として扱われる認知症の人のBPSD (Behavioral and psychological symptoms of dementia)。このBPSDは、脳の障害による認知機能障害も影響しているが、そのほとんどは身体脳健康状態、生活歴、性格傾向、社会心理による認知症の人の心理的ニーズが満たされない状況、さらにはストレスへの対処能力の低下のために引き起こされている。逆に、認知症の人の身体的ニーズや心理的ニーズが満たされることは、彼らの Well-beingを高めることに繋がる。

認知症の人の Well-beingを高めることは、作業療法士にとっても大切な目標となり得るが、どうすれば Well-beingが高まるのか、何をもって Well-beingの変化を捉えることができるのかなど、疑問は尽きないと思われる。

今回のセミナーでは、この認知症の人のWell-beingについて考えるきっかけにいただければ幸いです。

◆講師

松下 太

Futoshi Matsushita

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科/  
大学院保健医療学研究科

Morinomiya University of Medical Sciences

## 専門作業療法士セミナー7 (摂食嚥下)

11月11日(土) 9:00~10:00 第4会場

## 「そのスプーンで大丈夫？」～食べる機能に合わせた食具選びを考える～

"Does that spoon fit?" ~ Revisit the assessment of eating utensils according to the subject's eating function ~

〔セミナーの内容〕

## ◆専門作業療法士取得までの研修の流れ

摂食嚥下分野での研修の内容と流れを紹介する。

## ◆「そのスプーンで大丈夫？」～食べる機能に合わせた食具選びを考える～

対象者の食事に介入する際、何気なく食事を行うための器具である食具を選んでいないだろうか。対象者の食具を作業療法士が選択する場面は日常的に遭遇するが、誤った判断により対象者の安全でおいしい食事を妨げているかもしれない。今回のセミナーでは、スプーンなどの食具を選ぶ時の視点から、食事の評価やアプローチ方法について、発達途上の子どもの分野と身体障害分野で考えてみたい。

## •発達途上の子どもの食具について

子どもの場合、口腔機能も上肢の操作性も発達段階である。子どもの食具の選択には手（上肢の操作性）と口（口腔機能）をセットで使用した際にどのように機能が発揮されるか、すなわち手と口の協調性の評価が不可欠である。自食は、自食準備期、手づかみ食べ機能獲得期を経て、食具食べ機能獲得期に移行する。自食を開始する時点では、基本的に大人とほぼ同じ口腔機能を獲得している必要がある。しかし、口腔機能が未熟な段階で食具を与えると、一口量の調整やペースングが不十分となり、口いっぱい詰り込んで丸のみするなどの誤学習が発生する。

そこでこの分野では、口腔機能の発達と自食のための機能発達の関係を概観しながら、発達段階に見合った食具はどのように選択するかを考えてみたい。

## •身体障害分野の対象者の食具について

脳卒中や脊髄損傷などの対象者の食事動作に関わる際は、嚥下機能を考慮した上で対応する必要がある。食事動作への介入は、スプーンなどの食具や自助具の選択、姿勢、環境設定など多くの視点を必要とし、個別性も高い。臨床においては、スプーンの操作方法など食具の選択が摂食姿勢に関連し、嚥下機能に影響を及ぼすことがよくみられる。

この分野では、スプーンなどの食具や自助具、環境と摂食嚥下機能との関連について、先行研究や自験例を提示することにより、食事動作に関わる作業療法士の臨床のヒントになることを期待したい。

## ◆講師

太田 有美

Yumi Ota

津山中央病院 リハビリテーション部

Tsuayama Chuo Hospital

## ◆講師

神作 一実

Hitomi Kamisaku

文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科

Bunkyo Gakuin University

## ◆講師

青木 佑介

Yusuke Aoki

鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科

Suzuka Chuo General Hospital

**専門作業療法士セミナー8 (精神科急性期) 11月11日(土) 9:00～10:00 第5会場**

**精神科救急急性期のリハビリテーション**

**Rehabilitation for acute psychiatric emergencies**

専門作業療法士における専門分野としての「精神科急性期」は、狭義の急性期のみならず、地域生活期における症状悪化等もその範疇としている。「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」にも関連しているように、地域生活において精神疾患の再発が生じた対象者への支援については、誰もが住み慣れた地域で生活できる未来を確立するための重要課題である。

一方で、精神科救急急性期医療入院料病棟や精神科急性期治療病棟における作業療法の実践は多くの精神科病院や大学病院、総合病院において取り組まれるようになった。しかし、その内容は標準化されているとは言い難く、その内容においても報告は少ない。精神科における急性期症状の緩和については、作業を用いた刺激量の調整を主眼とした個別作業療法による介入などが推奨されるが、ガイドラインなどは示されていない。これらの構築には、救急や急性期病棟に携わる作業療法の実施者のみでは困難である。また、多職種とともにディスカッションする学術的な場を設ける必要があるが、現状においてそのような場は確保されておらず、今後の新たな展開が期待されている。

この度のセミナーでは、精神科急性期の作業療法を効果的に実践するエッセンスを具体的に紹介し、参加者の皆様とディスカッションできる時間を通して、この分野に関わる作業療法士が継続的に関与できる仕組み作りについても考えてみたい。

◆講師

岩根 達郎

Tatsuro Iwane

京都府立洛南病院

Kyoto Prefectural Rakunan Hospital

◆講師

早坂 友成

Tomonari Hayasaka

杏林大学 保健学部 リハビリテーション学科

Kyorin University

## 専門作業療法士セミナー9 (福祉用具)

11月11日(土) 9:00~10:00 第6会場

福祉用具の支給制度：ものごとの仕組みに注目する  
- 福祉用具援助における問題解決の糸口として -Welfare Equipment Supply System: Focusing on the Mechanism of Things  
- As a Clue to Solving Problems in Welfare equipment assistance -

我が国は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現することを目標としています。近年、家族の介護力低下や介護人材の不足が叫ばれるなか、高齢者や障害児・者が住まいで暮らすためには、生活自立度を維持・向上し介護負担を軽減させるような環境調整を必要としています。そして日常生活や社会参加を促すことができる作業療法士（OT）が、地域包括ケアに貢献できる専門職として注目されています。

その一方、最近、若手・中堅OTの方々から「用具の効果や具体的変化がわからない」、「自助具を作らない／作れないOTが増えた」、「多く作る自助具や福祉用具を製品化したい」等、聞かれます。そのため昨年度の本セミナーでは、『持続可能な社会を創るための福祉用具分野の作業療法』をテーマとして、(1)福祉用具の効果検証、(2)自助具作成の発想や技術伝承、(3)商品化や製品開発のそれぞれの観点から、以下のようにまとめました。

- ・いつの時代もOTは対象者の生活動作を「見て」「触って」「一緒に動き」、モノの適応を判断することが大切
- ・二次障害で悩まず、身体機能や活動性を維持・向上ができる視点が必要
- ・このような視点による作製技術や適応技術、製品開発はOTの得意分野

今年度のセミナーでは、『福祉用具の支給制度：ものごとの仕組みに注目する』をテーマとしました。まず福祉用具援助における問題解決の糸口として、福祉用具の種類や入手方法などを説明しながら、福祉用具の支給制度を概説していきます。そのあと「用具は交換できるのか?」、「一般品や高機能なものは手に入るのか?」、「障害者総合支援法と介護保険法による両方の制度は利用できるのか?」、「住宅改修は何回もできるのか?」等、福祉用具の支給制度を利用した場合に起きる様々な疑問について、事例を通して考えていきたいと思います。

『福祉用具の支給制度：ものごとの仕組みに着目する』ことで、福祉用具援助を実践する上での問題解決に少しでも役立つような場になれば幸いです。

## ◆講師

松本 琢磨

Takuma Matsumoto

神奈川県総合リハビリテーションセンター 神奈川リハビリ  
テーション病院 作業療法科

Kanagawa Rehabilitation Center

## ◆講師

中川 正己

Masami Nakagawa

岡山労災病院 中央リハビリテーション部

Okayama Rosai Hospital





**専門作業療法士セミナー10 (就労支援) 11月11日(土) 9:00～10:00 第7会場**

**作業療法士が取り組む両立支援の実際 –病院・訪問の現場から–**

**Occupational therapists' efforts to the Promotion of Health and Employment Support - from the Hospital and Home-Based Rehabilitations**

本セミナーでは昨年度に引き続き「両立支援」を取り上げる。昨年度は「両立支援」の概要と身体障害領域での事例について、会場とディスカッションを行った。今年度は、昨年度の振り返り（大川）後、病院（富永）と訪問（浅野）における実践を紹介していただく。異なる現場の実践について会場とディスカッションし、作業療法士が両立支援を行う上でポイントや工夫について、明日からの実践にいかせる時間としたい。

＜病院における両立支援＞

当院では、疾患に関わらず発症早期より（同意が得られ次第）両立支援を実施している。ここでは今まで関わってきた脳卒中分野を中心にお話したい。脳卒中に限った話ではないが、職場に迷惑がかかるからと退職してしまう場合もあるため、早期離職を予防することが大切である。また、安心して療養できるよう休職期間等を知るために就業規則を確認することや、復職したいという意志を職場に伝えておくことも重要となる。

脳卒中の場合、自宅退院時にADLは自立していることが多いが、移動を含むADLは自立に至っていない場合も多い。そのため、当院では自宅退院後に外来リハビリテーションを実施している。外来では復職に向けて生活リズムを整え、週5日程度勤務できるよう体力を回復しておくこと、通勤が自立するために交通機関の利用や自動車運転を再開できることを目標に支援を行っている。また、復職へのモチベーションを保てるよう定期的に介入することも重要である。

＜訪問における両立支援＞

在院日数の短縮化などにより訪問リハビリテーションにおいても就労支援が必要な場面が増えている。地域における就労支援では、介護保険領域や障害領域においても他職種連携・地域連携が必要であり、個別事例の障害特性に応じた配慮や地域特性や職場環境の違いへの対応等、様々な面で異なることがあると考えられる。そのような中、介入回数が少ない訪問リハビリテーションの立場ではどのようなことができるのでしょうか？過疎が進む地方都市において就労をする前に必要な交通手段の確保はどのようにするのが良いのか？実際に職場との交渉をどのようにすると円滑に進むのか？訪問リハビリテーションの時間内ではできない支援に関し、どのように対処していくのか？など両下肢麻痺事例と高次脳機能障害事例の2事例の就労までの経過を紹介し、より良い就労支援について皆さんと一緒に考えていきたい。

◆講師

大川 浩子

Hiroko Ohkawa

北海道文教大学/NPO法人コミュネット楽創

Hokkaido Bunkyo University

◆講師

富永 雅子

Masako Tominaga

独立行政法人労働者健康安全機構 中国労災病院 中央リハビリテーション部/治療就労両立支援センター

Central Department of Rehabilitation, Chugoku Rosai Hospital/Research Center for the Promotion of Health and Employment Support

病院における両立支援

Promotion of Health and Employment Support from Hospital

◆講師

浅野友佳子

Yukako Asano

文屋内科消化器医院 訪問リハビリテーション らいらっく

Bunya Gastrointestinal Medicine Clinic

訪問における両立支援

Promotion of Health and Employment Support from Home-Based Rehabilitation

## 専門作業療法士セミナー11 (高次脳機能障害)

11月12日(日) 8:30~9:30 第1会場

### 作業につながる高次脳機能～左のパンツがあがらない?!～

Try to Link the Higher Brain Function and "Occupation"

～ Why is the left side of my pants so hard to lift up? ! ～

**【はじめに】** 第56回作業療法学会での本セミナーでは、エビデンスを学び、高次脳機能障害を読み解き、仮説生成を通して作業療法につなげる方法を皆様と共有しました。第57回では、作業遂行の要因分析を行ったうえで、高次脳機能障害の視点で作業療法を考えます。

トイレ動作の後、左側の下衣(パンツ)に手が届かない、引き上げが不十分、不十分なことにさえ気づけないということはよくある下衣の更衣動作ですね。様々な高次脳機能が関与しますが、出来ない理由を十分分析できているでしょうか。作業遂行は、人・環境・作業の要素で成り立っています。たとえ主たる問題が高次脳機能障害であっても、脳の機能だけを見ては、作業遂行を改善することはできないと考えます。処理技能である高次脳機能とともに運動技能にも注目し、さらには、どんな時にどの様な環境でその作業が行われるのかにも注目しなくては、適切な作業療法プログラムにたどり着くことはできないのではないのでしょうか。

**【事例紹介】** もともと人との交流が好きで、一人であることが寂しくて仕方がない一人暮らしの女性。支援者が訪れる度に「お尻でていない?」と確認します。更衣動作がうまくいかないことは事例自身も気づいているが、うまくできない…そのため、近所の友達の家にも行けず、一人で過ごす日々…。病院では当たり前前に練習し、退院してきましたが「家」という場所ではうまくできないのはなぜなのでしょう?事例の情報から原因や介入方法を一緒に考えていきましょう。

事例へのリンク:

[https://docs.google.com/presentation/d/18dvDvNbFp4eTPA3fO\\_1YyhdObPaVMbul/edit?usp=sharing&oid=118258845452407562615&rtopof=true&sd=true](https://docs.google.com/presentation/d/18dvDvNbFp4eTPA3fO_1YyhdObPaVMbul/edit?usp=sharing&oid=118258845452407562615&rtopof=true&sd=true)



### 【下衣操作に必要な運動技能を考えるための知識】

今回は、運動技能の部分を事前学習してから事例を考えてみましょう。

事前学習(動画)へのリンク:

[https://drive.google.com/file/d/1AnAw4PdJvJ0731NrrZOD5WCc-WRj9ae\\_/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1AnAw4PdJvJ0731NrrZOD5WCc-WRj9ae_/view?usp=sharing)



参考文献:

小池 祐士等. (2014). 脳卒中片麻痺者の体幹機能が下衣操作に与える影響. 総合リハビリテーション 42 (12), 1177-1183.

### 【下衣操作に必要な処理技能を考えるための知識】

参考文献:

水野勝広. (2021). 半側空間無視のリハビリテーション治療. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 58 (1), 53-58.

瀧雅子. (2019). 半側空間無視のリハビリテーションの原点とトピック~ 機能障害から生活障害へ~. 高次脳機能研究(旧失語症研究), 39 (2), 189-195.

豊倉穰. (2008). 注意障害の臨床. 高次脳機能研究(旧失語症研究), 28 (3), 320-328.

#### ◆講師

浅野友佳子

Yukako Asano

文屋内科消化器医院 訪問リハビリテーション らいらっく

Bunya Gastrointestinal Medicine Clinic

#### ◆講師

中島ともみ

Tomomi Nakajima

藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

Fujita Health University Faculty of Rehabilitation

**企画セミナー1 日本義肢装具学会**

**11月10日(金) 17:00～18:00 第1会場**

**新しい能動義手の適合検査の紹介**

**Introducing a new upper-extremity prostheses checkout**

我が国で「義手」は補装具の正式種目として上肢切断者に処方されている。また、義手の適合検査は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則や理学療法士作業療法士国家試験出題基準に明記され、作業療法士養成課程では必須科目として教授されている。

完成した義手への適合検査は、義手が処方どおりに製作され切断者に対し十分な機能が発揮できているかを確認するために実施する。しかし、その基準は必ずしも明確ではなく、能動義手の適合検査の表記方法や基準値が異なっている。そのばらつきが、臨床や教育場面、国家試験に至るまでの課題となっていた。

そこで、一般社団法人日本義肢装具学会では、医師・作業療法士・義肢装具士・エンジニアなどの多職種のメンバーで構成した、特設委員会「義手適合判定検討委員会」を設置した。

委員会のゴールは、義手適合検査の目的、既存項目、追加項目について検討し、検査方法および基準値の設定とその妥当性を確認し、新しい適合検査を作成することである。委員会では、義手適合判定に関わる情報の収集（文献調査・既存項目の整理・義肢装具士や作業療法士養成校での教育）や臨床現場で適合検査をどの職種がどのように行っているか関係職種で意見交換を行い、役割や内容など現状の把握や課題整理を行ってきた。特に、2021年度は作業療法士養成課程に対して義手適合検査に関する調査を実施した。そして、教育の現状を確認し、課題を解決すべく取り組んできた。

新しい能動義手の適合検査は、①適合検査のための身体機能検査、②義手検査、③義手装着適合検査、④義手操作適合検査の4段階で構成され、前腕切断（前腕義手）用・上腕切断（上腕義手）用があり、それぞれ検査方法のマニュアルと検査用紙をセットにしている。

今後、この新しい能動義手の適合検査は、臨床や教育で活用され、また、国家試験出題基準に反映されることも予測される。

本セミナーでは、義手適合判定検討委員会に在籍する作業療法士を講師に迎え、新しい能動義手の適合検査について紹介する。この機会に、適合検査が変わろうとしていること、そして、その経緯と内容を知っていただければ幸いである。

司会（コーディネーター）

**大庭 潤平 Jumpei Oba**

神戸学院大学総合リハビリテーション学部

KOBE GAKUIN UNIVERSITY, Faculty of Rehabilitation

◆講師

**柴田八衣子**

**Yaeko Shibata**

兵庫県リハビリテーション中央病院

Hyogo Rehabilitation Center Central Hospital

◆講師

**妹尾 勝利**

**Katsutoshi Senoo**

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部

Kawasaki University of Medical Welfare, Faculty of Rehabilitation

## 企画セミナー2 日本作業療法士協会学術部 LGBT+ ガイドライン班

11月10日(金) 17:00~18:00 第2会場

### 作業の視点で考える性の多様性~作業療法士の役割とは

#### Sexual/gender diversity from the occupational perspective: what we can do

恋愛感情や性的な関心がどのような性別に向くか（性的指向）、どのような性別にアイデンティティを持っているか（性自認）、社会や文化の中でどう表現するか（性表現）等、性のあり方はその人の作業を形作る重要な要素の一つである。つまり、服装の選択など目に見える性表現や家族の在り方等、可視化できる要素としてだけではなく、作業的存在にまで影響を及ぼす。

現在の社会や医療の中では特定の性のあり方を理由に、作業をする権利（作業権）が侵害されてしまうことがある。自分ではどうにもできない理由により作業権が侵害された状態を「作業的不公正」と呼ぶ。作業的に公正な社会を目指すことは、我々作業療法士が専門職として担うべき役割の一つである。例えばトランスジェンダーの人々は、自身の望む服装を選ぶことができないため、通学や就労という作業に繋がれないことがある。同性カップルは、住居を借りることが出来ず、一緒に住むという作業を剥奪されやすい。またこれらは、LGBT+の人々のみならず、女性や男性が社会的にイメージされる活動を求められた結果、自身の望む作業に繋がれないことにも共通する。男性が育休を取りにくく、育児から阻害される。女性が職場でもサポート役を求められ自身の仕事が周縁化するなどが該当する。この結果、特にLGBT+などの性的マイノリティでは、マイノリティストレスや医療アクセスの困難から重大な健康問題に至りやすい。

WFOTおよび日本作業療法士協会の倫理綱領では、性別による差別を禁じており、すべての人の作業の実現には性の多様性を包摂したホリスティックな実践が重要であることは言うまでもない。しかしその議論は始まったばかりであり、養成過程でも性の多様性に関する教育を行っている国は未だ乏しい。すなわちこれまで作業療法士は「性の多様性が作業にどのように影響を及ぼし、どのような社会的不公正や作業的不公正をもたらすのか」という点に十分に目を向けて来なかった。その結果、これらを明確に自分たちの役割の中に取り入れられていない。

本セミナーでは、日本作業療法士協会学術部LGBT+ガイドライン班の班員により、2022年度に実施した全国調査の結果をはじめ、多側面からセッションを行う。これらを通して性の多様性と作業について理解を深め、作業療法士として、我々ができること、取り組むべきことについてディスカッションを行う。

司会（コーディネーター）

星野 藍子 Aiko Hoshino

名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻

Department of Integrated Health Sciences, Graduate School of Medicine, Nagoya University

#### ◆講師

松本 武士

Takeshi Matsumoto

大内病院

Oouchi Hospital

#### ◆講師

池谷 政直

Masanao Ikeya

名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, Nagoya Women's University

#### ◆講師

高島 理沙

Risa Takashima

北海道大学 大学院保健科学研究院

Faculty of Health Sciences, Hokkaido University

#### ◆講師

鈴木 洋介

Yosuke Suzuki

東京都立大学 大学院人間健康科学研究科

Graduate school of Health sciences, Tokyo Metropolitan University

#### ◆講師

星野 藍子

Aiko Hoshino

名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻

Department of Integrated Health Sciences, Graduate School of Medicine, Nagoya University



## 企画セミナー3 長崎発達障害領域作業療法勉強会

11月10日(金) 17:00～18:00 第3会場

### 発達性協調運動症 (DCD) の現状と適切な支援に向けて

### The current situation and to enhance support of children with Developmental Coordination Disorder: DCD

本企画セミナーは、今後の発達性協調運動症 (DCD) 児／者の支援における作業療法士が担うべき役割について議論が進むきっかけになることを目的としている。そのための背景は以下があげられる。

#### 1) 疫学とDCD国際ガイドライン

DCDの有病率は学童期の5-6%とされている。これは他の神経発達症群と比較しても有病率が高く (ASD: 1%, AD/HD: 5%), 併存割合も高い (ASD: 約80%, AD/HD: 約50%, SLD: 約50%)。また、文部科学省の調査において、通常の学級に在籍する小中学生の8.8%に学習や行動に困難のある発達障害の可能性が示された (文部科学省, 2022)。近年のDCD国際ガイドラインでは、活動・参加志向アプローチが推奨されている (Blankら, 2019)。これらのことより、改めてわが国においても作業療法士によるDCD児／者への支援を検討するタイミングにあると考える。

\* ASD: 自閉スペクトラム症, AD/HD: 注意欠陥多動症, SLD: 限局性学習症

#### 2) 令和4年度障害者総合福祉推進事業

令和4年度障害者総合福祉推進事業「協調運動の障害の早期の発見と適切な支援の普及のための調査」(研究責任者: 岩永, 分担研究者: 塩津/東恩納 他) が実施された。わが国の保育・教育現場の現状として、発達性協調運動症 (DCD) の認知度が他の神経発達症群に比べて低いことが明らかとなった。そのため、本事業ではDCDを有する子どもたちが、現在/将来においてよりよく生きていくこと願い『DCD支援マニュアル』を作成した。マニュアルは、定義、気づき/アセスメント、支援、医療、施策など、さまざまな専門家によって作成された。今後はDCDを有する子ども (成人) に対する支援がさらに普及していくことが予想される。

今回のセミナーでは、研究に携わった3名から実施した事業に関する情報提供をおこなう。DCD支援マニュアルでは、岩永が調査結果に基づく「DCDのスクリーニング・状態把握のための簡便な評価法/DCD児に対して行われている支援の具体例」、塩津が「DCD児のスキルを伸ばすアプローチ」、東恩納が「DCD児の生活場面での支援」を担当した。これらの内容を中心に話題提供を行う。

司会 (コーディネーター)

東恩納拓也 Takuya Higashionna  
東京家政大学 Tokyo Kasei University

#### ◆講師

岩永竜一郎  
Ryoichiro Iwanaga  
長崎大学  
Nagasaki University

#### ◆講師

塩津 裕康  
Hiroyasu Shiozu  
中部大学  
Chubu University

#### ◆講師

東恩納拓也  
Takuya Higashionna  
東京家政大学  
Tokyo Kasei University



## 企画セミナー4 循環器臨床作業療法研究会

11月10日(金) 17:00~18:00 第4会場

### 組織で行う心大血管疾患の作業療法

### Team-based practice of Occupational Therapy in Cardiac Rehabilitation

2020年に循環器病対策基本計画が閣議決定され、急性期から回復期、生活期まで一貫したリハビリテーション提供体制の整備が求められている。また、2020年の診療報酬改定では、回復期リハビリテーション病棟の算定要件として「心大血管疾患リハビリテーション」が追加され、心大血管疾患を持つ対象者に安全で効果的な作業療法を提供することが求められている。

心臓リハビリテーション（心リハ）は、心大血管疾患患者の再発・再入院・死亡を減少させ、快適で活動的な生活を実現するための長期的な包括的なプログラムである。プログラムの一つである運動療法や疾病管理は多くのエビデンスが蓄積されており、循環器治療の一つである。作業療法士の心臓リハビリテーション指導士取得累計数は100名を超え、心リハ領域の実践報告は増加してはきている。一方、作業療法に関する研究報告は散見する程度であり、評価・治療内容・アウトカムについても一定の見解を得ていない。

近年、急性期病棟の入院期間は短縮してきており、①ICUからの早期介入、②回復期リハ病棟との連携、③地域連携などにより、効率的かつ効果的に心リハを提供する必要性がある。そのためには、『組織的に』質の高い実践を行うことが必要であり、人の知識・技術の研鑽に加え、その知識・技術を発揮できる環境を現場に築くことが重要である。そこには本学会のテーマである「ものごとの仕組み」に焦点を当てた、作業療法を持続的に発展させ、提供できる仕組み作りが必要となる。

本企画セミナーでは、ICU・病院・地域という3つの作業療法提供体制の「仕組み」に焦点を当て、3名の作業療法士からそれぞれの環境を巻き込んだ意欲的な取り組みを紹介する。参加者とのディスカッションを通じて、心大血管疾患を持つ対象者に対して、いつ・誰が・何を・どのように行うべきなのかを考える機会としたい。皆さんとの時間が、組織的な取り組みの促進となり、作業療法を実践する上での問題解決に少しでも役立つことを願っている。

司会（コーディネーター）

笹井 祥充 Yoshimitsu Sasai

自治医科大学附属さいたま医療センター Saitama Medical Center Jichi Medical University

内藤 喜隆 Yoshitaka Naito

心臓病センター榊原病院 The Sakakibara Heart Institute of Okayama

#### ◆講師

塚越 大智

Daichi Tsukakoshi

信州大学医学部附属病院

Shinshu University Hospital

#### ◆講師

児島 範明

Noriaki Kojima

関西電力病院

Kansai Electric Power Hospital

#### ◆講師

塩田 繁人

Shigehito Shiota

広島大学病院

Hiroshima University Hospital

## 企画セミナー5 ICTリハビリテーション研究会

11月10日(金) 17:00～18:00 第5会場

### デジタルファブリケーションで拓く新たな作業療法の可能性Ⅳ

－ 3Dプリンタでの自助具づくりを全国へ、そして自助具を提供する上で考慮すべきこととは－  
**Opening Up New Possibilities for Occupational Therapy with Digital Fabrication IV - Spreading the Use of 3D Printers for Creating Assistive Devices to the Nationwide Community and Discussion of the Key Points to be Considered When Providing Assistive Devi**

デジタルファブリケーション（以下DFと略す）は、インターネット接続環境を前提とした3Dプリンタなどのデジタル工作機械を使った「ものづくり」である。近年それは価格やソフトウェアの使い勝手において、かなり身近なものになってきている。そして昨今、作業療法場面においてもDFの利活用は少しずつ拡がりを見せている。

前回の企画セミナーでは、自助具を3Dプリンタで製作する際のガイドライン作成に至った経緯やDFを利活用した生活支援用具の作製について作製者が持つべき態度や考え方をお示するとともに、参加者の方々と意見交換を行った。それを踏まえ当研究会では、多くの当事者や支援者が自助具を3Dプリンタで作製することに気軽にチャレンジできるよう、チートシート（何かを操作する際によく参照される情報を、簡潔な表現や表記で一枚から数枚の紙にまとめて一覧できるようにしたもの）を作成した。

チートシートの内容は、1.製作の流れ、2.フィラメント（材料）ごとの特徴、3.おすすめ用途・出力設定、4.安全性や耐久性を高める工夫、5.「作業」をつくるための工夫からなる。

そして3Dプリンタを活用した自助具作製が作業療法士のスキルとして一般的に、そして標準化していくために、全国各地でハブとなる方々がチートシートを元にした実際の材料や製作物を用いたハンズオン形式の研修会を展開できるよう支援している。

今回のセミナーでは、実際に開催している様子や教材の一部を紹介する。

また、我々は作業療法の臨床場面で自助具を提供する上で、考慮すべき視点を10項目にまとめた。

そちらを紹介するとともに、その視点に沿い、3Dプリントを具体的にどのように組み込んでいくべきかの考え方を共有したい。作業療法のクライアントとともに自助具を用いて、クライアントの活動をポジティブに導くための「仕組み」について議論する。

司会（コーディネーター）

上原 亮介 Ryosuke Kanbara

一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会

General Incorporated Association ICT Rehabilitation Reseach Laboratory

#### ◆講師

林 園子

Sonoko Hayashi

一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会

General Incorporated Association ICT Rehabilitation Reseach Laboratory

#### ◆講師

濱中 直樹

Naoki Hamanaka

ファブラボ品川

Fablab Shinagawa

## 企画セミナー6 老年療法学会

11月10日(金) 17:00~18:00 第6会場

### 認知症の予防から診断後のリハビリテーション 老年療法領域における作業療法士が果たす役割

#### rehabilitation for dementia from prevention to post-diagnosis

老年療法学会は2021年に創設された新しい学術団体である。本団体は作業・理学療法士、言語聴覚士などの多職種で構成されており、それぞれの専門性から創出された知見を共有することで、リハビリテーションを通してよりよい高齢者保健、医療、福祉の実現に近づくことを目指した学術団体である。とくに、老年療法領域において作業療法士に求められる役割は、「認知症の予防や診断後のリハビリテーション」である。今回のセミナーでは、老年療法領域とくに認知症の予防や進行の抑制について、作業療法士が求められている役割やこれまで培ってきた技術・研究的知見について発表し、これらの知見の地域展開、多職種との協働、行政・省庁の施策に反映するためにどのようにすればよいか、将来の展望についてまでも議論したいと考えている。

本セミナーは二人の講師で発表する。第一演者の横井賀津志氏においては、演者自身が医師や理学療法士らの多職種とともに「作業」に焦点を当てた地域在住の高齢者を対象としたコホート研究を実践してきた。その中で、作業療法士の視点が組み込まれた認知症・転倒の予防に関するアプローチ方法について、従来の知見とともに発表する。第二演者の浅野雅子氏においては、作業療法の臨床で頻りに用いられる「音楽」について焦点をあてた研究を音楽療法士と共に実践してきた。作業療法士における音楽の有用性は言うまでもないことであるが、具体的にどのように音楽を用いて認知症予防に資するか、診断後のリハビリテーションについて活用するか、その根拠と臨床実践の応用については、十分に明らかではなかった。本発表では、浅野氏らの研究の知見も含めて、作業療法士にとって役立つ、臨床応用できる知見を発表する。

高齢者をとりまく諸課題を解決するための方法は作業療法士だけでなく、多職種で解決することが必要である。老年療法学会は、作業療法士だけでなく多職種で構成される学会であり、この学会で得られた知見を作業療法学会で発表することは重要な意義があると思われる。本学会のテーマである「ものごとの仕組みに着目する」という点においても、どのような仕組み、役割によって多職種による協業実践が成功したのかを演者らの例によって示すことができると考えている。

司会（コーディネーター）

田中 寛之 Hiroyuki Tanaka

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

*School of Rehabilitation, Faculty of Medicine, Osaka Metropolitan University*

#### ◆講師

横井賀津志

Katsushi Yokoi

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

*School of Rehabilitation, Faculty of Medicine, Osaka Metropolitan University*

#### ◆講師

浅野 雅子

Masako Asano

北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科

*School of Rehabilitation Sciences, Health Sciences University of Hokkaido*

**企画セミナー7 Park-OT Journal Club 11月10日(金) 17:00～18:00 第7会場**

**パーキンソン病 up-to-date ～世界の最新情報から作業療法ならではの介入を再考する～  
Parkinson's disease up-to-date: Rethinking occupational therapy's unique interventions on the latest information from the international**

パーキンソン病 (PD) は安静時の振戦や動作緩慢、姿勢反射障害といった運動症状に加え、睡眠障害のような自律神経症状、認知・精神症状などの非運動症状を呈する疾患である。このような多彩な症状の出現は対象者の生活行為に支障をきたすだけでなく、介護者の負担も大きくなる。

PD患者に対するリハビリテーション診療では、近年、早期からの運動療法を中心とした支援の重要性が数多く報告され、進行予防の一つの手段として確立されている。しかしながら、緩徐進行性の経過を辿る疾患特性として、いかなる手段でも病状の進行を食い止めることは現時点で困難である。

こういった状況の中、最近では“対象者中心”や“多職種連携”、“well-being”、“テクノロジー”といったキーワードがPDを取り巻く学術領域においても浸透しつつある。つまり病状が進行したとしても、生活のしやすさや生きがい、日常生活における症状の可視化といった“生活者としての視点”に寄り添った思考性が徐々に広がっている印象である。そのため、我々作業療法士が重要視する理念や世界観が徐々に受け入れられやすくなりつつあるが、一方で作業療法士自身がその思考性に基づく実践や実証を行い発信していかなければ、専売特許な視点すらもコモディティ化してしまうと強く感じている。

以上のことから、今回のセミナーでは、近年のパーキンソン病診療における国際的潮流から、今後作業療法士が取り組むべき課題を提示し、その流れを取り入れた臨床実践の思考過程について知見を交えて紹介したい。

まず、第一演者の高橋香代子氏からは、世界保健機関のPDリハビリテーションガイドラインや、海外におけるPDに関連する作業療法研究からトピックや課題を整理し、これから日本で作業療法士が取り組むべきPDリハビリテーション、特に活動・参加を促進するための手段を中心に提案する。

次に第二演者の川崎伊織氏からは、本邦におけるPDに対する作業療法の実践を例に、PD特有の問題と作業療法の視点双方から臨床実践における思考過程を共有する。

そして、これまでのPDに対する作業療法を再考し、これからのPDに対する作業療法を再構築していくために、全国の作業療法士と議論を深めたい。これらが確立されることで、各ステークホルダーに対しても作業療法の役割を認識してもらいやすく、PDリハビリテーションにおける作業療法の理念や世界観を形にできると考える。

司会 (コーディネーター)

**長城 晃一** Koichi Nagaki

福岡大学 医学部 脳神経内科学教室 *Department of Neurology, Faculty of Medicine, Fukuoka University*

◆講師

**高橋香代子**

**Kayoko Takahashi**

北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

*Department of Occupational Therapy, School of Allied Health Science, Kitasato University*

◆講師

**川崎 伊織**

**Iori Kawasaki**

福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科

*Department of Occupational Therapy, Fukushima Medical University*

**企画セミナー8 日本臨床作業療法学会 11月11日(土) 16:10~17:10 第2会場****未来を創る作業療法の社会実装****Social implementation of occupational therapy to create the future**

我が国に作業療法が国家資格として認められてから50年以上が経過した。社会情勢は大きく変化しているものの、我々の身分を定めている理学療法士及び作業療法士では、「作業療法士とは厚生労働大臣の免許を受けて、作業療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、作業療法を行うことを業とする者をいう」と規定されており、現在でも約70%の作業療法士が医療機関で勤務している。ただし海外に目を向けてみると、作業療法発祥の地であるアメリカ合衆国では学校に勤務する作業療法士が15%ほど存在しており、またオーストラリアでは約40%の作業療法士が地域で従事し、運転支援など独自の高いサービスを展開している。このように、海外ではその時の時流や社会からの要請に応じて、作業療法士も柔軟に適応している。

一方、2018年に日本作業療法士協会によって改定された作業療法定義では、「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と、従来の公的保険制度の枠内にとどまらず、広い分野で国民の健康や幸福に寄与できるような内容にアップデートされた。

そして近年、新たな領域において、作業療法のコンセプトを活かし、作業遂行に焦点を当てた支援が展開されている。我々日本臨床作業療法学会は、作業を大切にしたい臨床実践を育み、その学術的基盤を創るという使命をもって設立された学会であり、新規領域の開拓においても我々の専門性をどのように活用すべきか、検討を重ねてきた。そこで本セミナーにおいては、そのような新規領域で先駆的な臨床実践といえる、学校作業療法、産業作業療法、自費リハビリテーションにおける脳卒中者への作業療法について、それぞれの現状と未来について考えていく。そして、公的保険制度下で連続と培われてきた「作業療法の知識、技術」、そして「作業療法士」を如何に社会実装するかについて会場の皆さまと議論を試みたい。

司会 (コーディネーター)

竹林 崇 Takashi Takebayashi

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

*Department of Rehabilitation, School of Medicine, Osaka Metropolitan University*

## ◆講師

仲間 知穂

Chiho Nakama

YUIMAWARU株式会社

*YUIMAWARU CO., Ltd.*

## ◆講師

元廣 淳

Atsushi Motohiro

株式会社Canvas

*Canvas Co., Ltd.*

## ◆講師

竹林 崇

Takashi Takebayashi

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

*Department of rehabilitation, School of medicine, Osaka Metropolitan University*



**企画セミナー9 日本CIセラピー研究会 11月11日(土) 16:10～17:10 第3会場**

**再生医療への作業療法士の役割と期待**

**Roles and Expectations of Occupational Therapists in Regenerative Medicine**

研究会代表の田邊らは、2021年から間葉系幹細胞治療（以下、MSC）とリハビリテーション（以下、リハ）の併用効果について脳卒中を主な対象として東京大学細胞治療研究グループ、名古屋工業大学などとコラボレートして臨床研究を行っています。MSCは①神経栄養因子による神経栄養・保護作用、②血管新生作用、③神経再生作用を有しており、脳卒中などの機能回復にも期待されています。脳卒中を対象としたMSC治療を国の認可を受けて行っている医療機関は全国に15箇所あり、その医療機関数や治療対象者は年々増加しています。これらの医療機関の再生医療認定医は、皆、同じことを口にします。「疾患の別に関わらず、MSCは移植だけでは効果がない。移植後の長期にわたる適切なリハが効果に影響する」と誰もが言います。リハの方法論について、再生医療認定医は、どのように進めればよいのか不明であり、仮に伝統的リハを行ったとしても全く効果がないため苦渋されています。田邊らは、再生医療認定医の依頼を受け、現在までに、脳卒中後の遷延性弛緩麻痺、痙攣性片麻痺、小脳脊髄変性疾患にMSC投与後の様々な作業療法方法について試行介入を繰り返し、時には全く効果が出ないことも経験し、また工学研究者とロボットを開発した臨床試験を試みながら、ようやく、細胞のエクソソームを利用した血管新生や神経再生と脳の再構築を誘発できそうな成果も修められるようになってきました。当初は理学療法士が行う徒手の介入が効果的かと考えていましたが、主たる介入は、作業療法になるのではないかと感じています。再生医療は「ロボットが主を担うこと」はありえないし、「療法士いらなくなる」こともないと感じています。それどころか、「療法士が新たに担う分野」、おそらく「地域作業療法士」が再生医療を担うのではないかと考えています。「細胞が勝手に治してくれる」はおとぎ話であり、地道なテーラーメイドリハが再生医療リハビリテーションの成果を決めます。細胞培養治療技術は進化し、医師先導により臨床応用も進んでいます。超高齢化社会に伴う医療費の削減を視野に入れ、再生医療は今後、ますます発展することを考えると作業療法士もこれに備えなければならないと思います。再生医療の「しくみ」を知り、臨床応用の現状とリハの効果の現状を知り、未来の作業療法について論考するセミナーを開催させていただきたいと思います。

司会（コーディネーター）

田邊 浩文 Hirofumi Tanabe

湘南医療大学大学院 Graduate School in Shonan University of Medical Sciences

◆講師

森田 良文

Yoshifumi Morita

名古屋工業大学大学院

Nagoya Institute of Technology Graduate School

◆講師

新泉 一美

Kazuyoshi Niizumi

湘南医療大学

Shonan University of Medical Science

◆講師

宮本 直也

Naoya Miyamoto

大西病院

Ohnishi Hospital

◆講師

高田 雄一

Yuichi Takata

北海道文教大学

HOKKAIDO Bunkyo University

◆講師

奥田 正作

Shosaku Okuda

明治国際医療大学

Meiji University of Integrative Medicine

**企画セミナー10 日本作業療法研究学会 11月11日(土) 16:10~17:10 第4会場**

**どうする、動作解析！**

**What to do, Motion Analysis!**

臨床の作業療法場面では、「動きが良くなったよね」「姿勢が良くなった」「(日常生活動作が)できるようになった」など、治療効果を表現することが日常的にあります。観察評価は状態の変化を捉える作業療法士にとって重要なスキルである一方で、評価には再現性や客観性が必要です。

客観的に治療効果として動作の変化を示す手段として動作分析・解析がありますが、光学式三次元動作解析装置など、高精度なシステムを用いて多面的な指標を高精度に分析する手法が主流で、取り組むにはハードルが高い、大がかりな印象を持っていたのではないのでしょうか。近年では高額なカメラや反射マーカ等が不要なウェアラブルセンサー(慣性計測装置:IMU)や重力加速度計を用いた測定機器が開発され、作業環境やスペースを選ばず臨床場面での測定が可能になっています。さらに筋電図解析などを併用することでより詳細に動作分析を行う研究報告などもみられます。関節可動範囲、運動のタイミング、速度、角速度など、対象操作に係る脳内プログラム・戦略の表出として動作を客観的に評価することができます。健常動作の理解のみならず患者の生活行為の評価や治療介入へのヒント、介入効果を定量的に示すことができます。

実際に動作解析を行うには、道具の取扱い方法や解析データの読み取り方、工学的な原理など、押さえておかなければならないポイントがいくつもありますが、ここ数年の作業療法学会でも動作解析を手法に用いた発表は散見されており、導入へのハードルが低くなっているのも事実です。

本セミナーでは、現在研究で動作解析を用いて研究をされている2名の先生に、臨床介入でよく用いる箸動作や書字の動作分析と、最新の手指モニターシステムの開発についてご講演いただき、動作解析を用いた研究内容・成果のご紹介を中心に、臨床への応用例、これから様々なセンサーを用いて動作解析を行ってみたいと考えている皆さんへヒントや提言をいただきます。演者から動作解析装置を実際に用いている作業療法士だからわかるよさと問題点、アイデアを引き出して動作解析に対する苦手意識をなくし、臨床での着眼点から積極的に動作分析を行う、客観的指標となるシステムを活用できる、様々な動作解析を中心とした研究を臨床に活かせるスキルを身につけられる機会となってくれたらと思います。

司会(コーディネーター)

**中村 充雄 Mitsuo Nakamura**

札幌医科大学保健医療学部 *Sapporo Medical University School of Health Sciences*

◆講師

**上谷 英史**

**Hidefumi Kamitani**

弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域

*Department of Comprehensive Rehabilitation Science,*

*Graduate School of Health Sciences, Hirosaki University*

◆講師

**齋藤 剛史**

**Takeshi Saito**

東京歯科大学市川総合病院

*Department of Rehabilitation, Tokyo Dental College*

*Ichikawa General Hospital*

**企画セミナー11 CIOTS Japan**

**11月11日(土) 16:10～17:10 第5会場**

**作業に焦点を当てた実践を可能にするコツ**

**Tips to enable occupation-focused practice**

本学会のテーマは「ものごとの仕組みに注目するー作業療法における問題解決の糸口として」である。この「作業療法における問題」の一つには「作業療法士の役割の不明瞭さ」が含まれるのではないだろうか。作業療法とは「人々の健康と幸福を促進するために医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である」と定義される(日本作業療法士協会, 2018)。この定義に則って、私たち作業療法士は対象者のしたい／必要がある／することが期待される作業に焦点を当て、対象者の健康と幸福に寄与する必要がある。

こうした対象者の個別的な意味のある作業を可能にする方略の一つに、作業療法介入プロセスモデル(Occupational Therapy Intervention Process Model; 以下, OTIPM)がある。OTIPMとは、Fisherらによって開発されたトップダウンのクライアント中心の作業を基盤とした介入の計画と実行のためのモデルである。OTIPMでは、まず対象者から希望する作業を聴取し、ADL・IADLに関してはAMPS、対人交流技能に関してはESI、学校課題に関してはSchool AMPSを用いて、対象者が実際に作業を行う様子(作業遂行)を評価する。そして、これらの評価結果から、対象者が希望する作業の可能性を目指して、様々な介入モデルを選択して実行する。

しかし、AMPSやESI、School AMPSを用いた評価は行えても、評価結果からどのように対象者の作業遂行上の課題を捉え、その改善に向けたプログラムを立案すれば良いか悩む作業療法士は多い。そこで、本セミナーではAMPS・ESI・School AMPSの講師がそれぞれの臨床で対象者の作業遂行を評価し、その評価結果から課題と考えられる技能項目をどのように結び合わせ(クラスター化し)、効果的なプログラムを立案しているかを紹介する。本セミナーを通して、参加された皆様とともに、作業に焦点を当てた実践についての議論を深めたい。

司会(コーディネーター)

南 庄一郎 Shoichiro Minami

大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

*Osaka Prefectural Hospital Organization Osaka psychiatric medical center*

◆講師

吉川ひろみ

Hiromi Yoshikawa

県立広島大学

*Prefectural University of Hiroshima*

◆講師

松澤 良平

Ryohei Matsuzawa

イムス板橋リハビリテーション病院

*IMS Itabashi Rehabilitation Hospital*

◆講師

中澤 紀子

Noriko Nakazawa

岩国市医療センター医師会病院

*Iwakuni Medical Center Medical Association Hospital*

◆講師

古山千佳子

Chikako Koyama

県立広島大学

*Prefectural University of Hiroshima*

**企画セミナー12 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会**

11月11日(土) 16:10~17:10 第6会場

**呼吸器疾患患者へのOT strategy ~さらなる発展を目指して~****OT strategy for patients with respiratory disease - ~ further development- ~**

2008年度の診療報酬改定で呼吸器リハビリテーション料の算定が作業療法も可能となり、包括的呼吸リハビリテーションの中にも作業療法士が必要職種として加えられた。しかし、現状では呼吸器疾患分野への作業療法士の介入は十分とはえない。この原因について本研究会で調査した結果「運動器疾患などとは異なり外見上では判断できない呼吸器症状を的確に評価し作業療法介入を実施するのが難しい」「酸素が下がらず呼吸困難が強い患者の作業療法介入をどうしたらいいか悩む」「ADLやIADLが自立している呼吸器疾患患者に対して作業療法士としての着眼点・評価方法について日々悩む。」などの理由で呼吸器疾患分野に対する積極的な作業療法介入が難しい点が挙げられた。

近年、呼吸器疾患患者において身体活動が生命予後や健康寿命との関連が深いとされることから、身体活動の維持・向上が治療目標として重要であるとされている。身体活動はADLやIADL、趣味・嗜好の活動等、日常におけるすべての骨格筋収縮による動きが含まれる。身体活動の維持・向上は運動療法だけが直結するものではなく、効率的な呼吸方法や動作様式、環境設定の介入が重要とされる。さらにこれらをうまく患者に適応させるための行動変容介入が重要である。包括的呼吸リハビリテーションの中で作業療法士は動作パターンの練習や呼吸方法の練習、道具の工夫を含めた環境調整などの生活機能に即したADL、IADLへの介入を行うことが推奨されている。さらにADL、IADLを通して患者自身が病態を理解し、病気や呼吸困難などの自己管理が行えるよう患者教育を行うことが重要であるとされる。そのため作業療法士の必要性・重要性が認められている。

本セミナーでは呼吸器疾患のなかでも特に多いCOPDに着目し、COPDに対する作業療法を実践するための基礎知識を解説したのち①換気様式に着目した作業療法介入事例②酸素化に着目した作業療法介入事例③家族指導に着目した作業療法介入事例を提示しフロアとディスカッションしたいと考える。

本セミナーが呼吸器疾患患者の作業療法を実践するうえでの問題解決の糸口となり明日からの臨床で活用できるセミナーとしたい。

司会 (コーディネーター)

熊野 宏治 Koji Kumano

パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療室

Department of Rehabilitation, Panasonic Health Insurance Organization Matsushita Memorial Hospital

## ◆講師

川邊 利子

Toshiko Kawabe

自宅

work from home

## ◆講師

武田 優

Yu Takeda

近畿大学病院 リハビリテーション部

Department of Rehabilitation, Kindai University Hospital

## ◆講師

岡島 聡

Satoshi Okajima

ぼると訪問看護ステーション

porte home-visit nursing station

## 企画セミナー13 作業療法神経科学研究会

11月11日(土) 16:10～17:10 第7会場

**作業療法士は神経心理学を応用して何ができるのか  
-クライアントとその家族を支援するための神経心理学的評価と介入-**

**What we need to know about bridging neuropsychology and occupational therapy  
- Neuropsychological evaluation and intervention to help clients and their families -**

神経心理学は、主に脳神経疾患によって引き起こされる高次脳機能障害（記憶、言語、行為など）を対象とする医学領域であり、脳の損傷をもつ人の行動を観察・分析することで症状を理解しようとしています。作業療法士は、クライアントが自身の生活上の問題と折り合いをつけながら自分らしく生活していくことを支援する専門家です。作業療法士にとって神経心理学の知識と技術は、クライアントの生活課題に対する最適解を探る大きな武器となります。しかし、臨床で活躍されている作業療法士から『高次脳機能評価は何を測定しどの場面を観察したら良いのか』、『ルーチンで高次脳機能測定している内容はクライアントのためになっているのか』などの声が本研究会の研修会などで多く聞かれます。このことは、神経心理学を作業療法学に落としこむ過程が腑におちていないことが要因の1つといえます。

そこで“クライアントのために作業療法士は神経心理学を応用してでいまい何ができるのか”の答えを参加される皆様と探求する場を設けました。

セミナーは、総論と各論を2名の講師に講演していただく予定です。総論は、高次脳機能作業療法学の概論的な内容で作業療法士として神経心理学的評価をする目的、脳画像や行動観察からの見立てにそった評価の選択方法、点数の解釈の仕方などをお話しします。各論では、実際の症例から疾患の病態や研究知見を踏まえた神経心理学検査の意義、適切な検査の選択、さらに介入における検査結果の活用方法について講義していただきます。

本セミナーを通して、クライアントの苦手なことと得意なことを知るための評価、クライアントが今後どうなっていくのかを考える臨床推論、そこから介入内容や教育・対応策の提案までの一連の流れをつかみ、日々の臨床のヒントにしたいだけだと幸いです。

ご本人やご家族の困りごとを改善する糸口を見つけ、『これならやっつけよう。』と思ってもらえる作業療法につなげるため、神経心理学の使い方を一緒に考えていきましょう。

セミナー当日に皆様にお目にかかれることを楽しみにしております

司会（コーディネーター）

石岡 俊之 Toshiyuki Ishioka

埼玉県立大学 Saitama Prefectural University

### ◆講師

石岡 俊之

Toshiyuki Ishioka

埼玉県立大学

Saitama Prefectural University

### ◆講師

細川 大瑛

Hiroaki Hosokawa

国立病院機構 仙台西多賀病院 リハビリテーション科

Department of Rehabilitation, Sendai-Nishitaga National Hospital



## 企画セミナー14 Review Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD)

11月12日(日) 10:50~11:50 第2会場

### 本人と家族のより良い生活を紡ぐ認知症作業療法

### Occupational therapy for dementia weaving better lives for individual and families

認知症を有する人はますます増えており、我々作業療法士は、認知症の人とその家族に対して根拠に基づいた臨床実践が一層求められている。我々 Review Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD) に所属する臨床家・研究者らは、認知症に対する作業療法について様々な臨床経験・研究結果に基づいたアプローチ方法を模索してきた。これまでは重症度別の評価・アプローチ方法、IoTを用いた新しい介入方法などを提案してきた。今回のセミナーでは、本学会のテーマに沿うように、認知症の作業療法の「仕組み」について考えたい。認知症の作業療法は、主に本人の視点と家族の視点の両側面の仕組みに注目する。本人には主に生活障害、家族には介護負担などの評価を行い、どのような関係性でその課題が発生しているのか、その仕組みについて考察し介入する必要がある。

第一演者の久米裕氏は、認知症の生活リズム障害に対するウェアラブル技術を用いた国内外の研究知見をもとに臨床への応用例を紹介する。生活リズムを再構築することは、認知症に対する作業療法の治療目標の1つに掲げられており、毎日の生活にリズムをもたせ、その生活リズムを踏まえて活動し休息することが、認知症対象者の日常生活障害や行動心理症状を軽減させるのみならず、心身の健康を良好に保つために重要である。第二演者の西田征治氏は、家族支援について、家族と本人との関係性の中でどのような支援が必要なのか、その具体的な評価方法から支援の実際までを国内外の知見と自身の実践例をもとに紹介する。その中で家族の状態や状況に応じた心理的サポートに留まらず、行動心理症状がどのような「仕組み」で生じているのかを理解し、「作業」を活用しながら彼らの望む生活を紡ぐための家族指導や援助のあり方について考えたい。

これまでのRCRDのセミナーでは、近年の国の施策と作業療法士協会の重点課題について企画してきた。今回は「ものごとの仕組みに注目する」という本学会のテーマを鑑みて、作業療法が認知症を有する人とその家族が抱える課題の解決の糸口になる内容を発表したい。その意味で、本セミナーは認知症だけにとどまらず様々な疾患を対象としている全ての作業療法士にとって重要なテーマである。

司会 (コーディネーター)

横山 和樹 Kazuki Yokoyama

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

#### ◆講師

久米 裕

Yu Kume

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座

Graduate School of Medicine, Doctoral Course in Health Sciences, Department of Occupational Therapy, AKITA University

#### ◆講師

西田 征治

Seiji Nishida

県立広島大学大学院総合学術研究科作業遂行障害領域

Graduate School of Comprehensive Scientific Research, Doctoral Course in Health and Welfare, Prefectural University of Hiroshima

## 企画セミナー15 日本集中治療作業療法研究会

11月12日(日) 10:50～11:50 第3会場

### 集中治療領域における作業療法士の役割を創成する

—オーディエンス参加型企画：ICUでは作業療法士が求められている！—

### Creating a Role for Occupational Therapists in the Intensive Care

近年、集中治療領域では医学の進歩に伴い救命率が向上し、救命だけでなく患者の機能予後の改善に向けたパラダイムシフトが起きている。集中治療室(ICU)で管理された重症患者は、退院後も身体機能や認知機能、精神機能などに障害が残り、生活の質(QOL)が低下するとの報告がある。また昨今の世界的な関心事であるCOVID-19においては、COVID-19後遺症(Long COVID)にて学校・社会復帰後の生活において困窮する患者も少なくない。その為、作業療法士もICUから、重症患者への早期対応を求められている。しかし、本邦の集中治療領域で行われている作業療法士の実践は充分に対応できているとはいえず、また、その内容や体制は施設により大きな違いがあるのが現状である。

世論の注目が集中治療領域に高まる中、2022年度の診療報酬改定においては、「高度急性期医療」の体制がより手厚いものとなっている。特定集中治療室が対象であった「早期離床・早期リハビリテーション加算」については、特定集中治療室以外の治療室においても算定要項が見直され、早期から多職種で離床に必要な取組みを行うことを更に推進する観点から、職種要件も見直されている。現在の算定要項において、職種要件に該当する作業療法士は、ICUで求められる医療の形が現在問われている。本学会テーマである、「ものごとの仕組みに注目する—作業療法における問題解決の糸口として—」というテーマからも、集中治療領域における制度や仕組みの変化に作業療法士も柔軟に対応し、領域の発展に寄与することが大切である。

そこで本セミナーでは、本邦におけるICUで働く作業療法士やこれから参入する施設の作業療法士が、ICUでエンパワメントを発揮するきっかけや仕組みづくりに貢献できることを期待している。本セミナーでは、①児島範明氏より、今後必要となる“集中治療領域で継続的に作業療法士が活躍できる指標としてのMinimum Standard作成”について報告し、②駒場一貴氏においては、“ICUでの作業療法士の役割”について作業の視点から報告する。そして、本企画では、オーディエンス参加型の企画として、参加者がリアルタイムアンケートに回答しながら講師の方々と話し合い、今後の集中治療領域の作業療法を参加者と共に創成していく時間にしたい。

司会(コーディネーター)

山下 遊平 Yuhei Yamashita

群馬県立心臓血管センター *Division of Rehabilitation Medicine, Gunma Prefectural Cardiovascular Center*

塚越 大智 Daichi Tsukakoshi

信州大学医学部附属病院 *Shinshu University Graduate School of Medicine Health Sciences*

#### ◆講師

駒場 一貴

Kazuki Komaba

昭和大学保健医療学部作業療法学科

*Department of Occupational therapy, School of Nursing and Rehabilitation Sciences, Showa University*

#### ◆講師

児島 範明

Noriaki Kojima

関西電力病院 リハビリテーション部

*Department of Rehabilitation Kansai Electric Power Hospital*

**企画セミナー16 高次脳機能障害作業療法研究会**

11月12日(日) 10:50~11:50 第4会場

**みんなでじっくり考えよう！ 高次脳機能障害事例の解釈とアプローチ検討****Let's think about it together!****Interpretation and approach for higher brain dysfunction case**

本研究会は、1990年(平成2年)に鎌倉矩子先生を初代代表として発足いたしました。当時さまざまな高次脳機能障害に関する学会や研究会がある中、本研究会は、私たちが出会った一例一例を大事にじっくり検討してきました。みんなの経験と知恵を寄せどのように最適な作業療法を展開したらよいかを考え、また実践するということを繰り返し30数年が経ちました。その間、高次脳機能障害に関しては、裏付けとなる学問体系の発展による医学的な対応に加え、厚生労働省による高次脳機能障害支援モデル事業を経て各自治体における高次脳機能障害支援普及事業としてシステマティックな支援の構造が確立してきました。しかし、地域によってその支援内容はさまざまであり、また、高次脳機能障害を有する人々は多彩で、かつ個別性の高い課題を抱えています。その個性にきめ細かく対応するためには、私たち作業療法士1人1人の取り組みが重要であると考えています。

本研究会では、高次脳機能障害を有する方々の生活に対応している作業療法士が事例を提示し、1人では可決できなかった課題や悩みを共有し、作業療法士の視点から解決方法を見つけていきます。作業療法の思考過程を少しでも多くの方々と共有し、対象者の方との共感を積み上げるために、多くの作業療法士が集まる場所で議論することも重要であると考え、公開症例検討会を企画いたします。

本企画では、実際の1事例を提示し、以下の項目にそって集まった方々と意見交換しながら思考し、最後に作業療法実践を紹介し検証します。

- 1) 対象者を理解するための情報(評価)
- 2) 対象者が望む生活再建とは何か(目標)
- 3) 生活再建を実現するために対象者の情報から何が読み取れるか(情報統合と解釈)

高次脳機能障害を有する方々は、機能障害や生活上の課題など目に見えるもののみならず、今後の生活への希望や目標を自己決定することが難しいなど、様々な側面での支援が必要となります。高次脳機能障害者は個別性が強いからこそそのマニュアル化することが難しい障害ですが、提示事例を大切に検討することを通して、作業療法士としての関わりを深く思考し作業療法の実践につなげたいと考えます。

ここ数年はコロナ禍の中で活動が停滞していましたが、この企画を機に高次脳機能障害を有する方への作業療法思考過程を少しでも多くの作業療法士と共有することが日々の作業療法の一助になればよいと考えます。

司会(コーディネーター)

原 麻理子 Mariko Hara

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科

Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences at Fukuoka, International University of Health and Welfare

## ◆講師

浅野友佳子

Yukako Asano

文屋内科消化器科医院訪問リハビリテーションらいらっく

Bunya Gastrointestinal medicine clinic

## 企画セミナー17 認知症臨床研究会 in 佐賀

11月12日(日) 10:50～11:50 第5会場

地域における世代間交流と作業療法士ができること -地域を元気にする“仕掛け”-

Intergenerational exchange in the community and what occupational therapists can do - "strategies" to energize the community-

「世代間交流」の定義は「異世代の人々が相互に協力し合って働き、助け合うこと、高齢者が習得した知恵や英知、もの考え方や解釈を若い世代に言い伝えること」である(Newman1997)。わが国では、少子高齢化や核家族化の進行に伴い、コミュニティの弱体化や地域住民の社会的孤立が問題視されるようになって久しい。そうした社会に対応する形で、各自治体では90年代より世代間交流の事業が行われるようになり、そのプロセスで事業の目的は「地域共生社会の実現」といった意味合いがより強くなっていった。

世代間交流の実践報告は高齢者と子ども、大学生を中心に数多く報告されている(David2019)。高齢者においては老年期での世代性の発達が効果として期待され、子どもや大学生では、エイジズムや認知症に対するスティグマ軽減、同世代同士の交流では得られない社会性が育まれるといった効果が期待される。そして、これらの効果から、世代間の相互理解が深まり、人と人とのつながりが強化されると考える。ただし、世代間交流は自然発生的なものだけでは不十分であり、熟慮された「仕掛け」が必要である(村山2018)。我々作業療法士は「作業」によって人と人とのつながりを支援することが強みの職業である。「作業」を用いて世代間交流を促進する仕掛けをつくることで、前述の効果からソーシャルキャピタルの醸成、ひいては地域全体がエンパワーしていく可能性があり、それは「地域共生社会の実現」への意義のある一歩と考える。

本セミナーでは、発達・老年期障害領域の熟練作業療法士が「世代間交流」を軸にした地域の実践報告をする。具体的には①地域の特色と小学校への関わり、②認知症予防事業の取り組み、③官民学連携による団地活性化の取り組みである。実践報告の中で、作業療法士が考える地域課題や課題克服に向けた仕掛けを述べる。また、本セミナー通して、「地域で活動がしたいけど何をしたいかわからない」「自分にできるか自信がない」・・・そんな作業療法士の疑問や不安にも答えたい。

司会(コーディネーター)

菅沼 一平 Ippei Suganuma

京都橘大学 健康科学部 作業療法学科

Kyoto Tachibana University Department of Occupational Therapy, Faculty of Health Sciences

### ◆講師

北山 淳

Atsushi Kitayama

医療創生大学 健康医療科学部 作業療法学科

Iryo Sosei University Faculty of Health Sciences

Department of Occupational Therapy

### ◆講師

原田 瞬

Shun Harada

京都橘大学 健康科学部 作業療法学科

Department of Occupational Therapy, Faculty of Health

Sciences, Kyoto Tachibana University

### ◆講師

上城 憲司

Kenji Kamijo

宝塚医療大学

Takarazuka University of Medical and Health Care



**企画セミナー18 日本コンチネンス協会 11月12日(日) 10:50~11:50 第6会場**

**作業療法士も関わる排泄リハビリテーションのための評価  
～現場で活かす排泄ケアのための評価法講座～**

**Evaluation for excretion rehabilitation involving occupational therapists  
—Lecture on evaluation methods for excretory care—**

平成28年に新設された「排尿自立指導料」において、排尿ケアチームのメンバーに医師、看護師のほか、PTまたはOTが入っていることが必須となった。令和2年の改定では「排尿自立支援加算」「外来排尿自立指導料」が新設され、急性期・回復期・維持期において、PTもOTも排泄リハビリテーションの一翼を担う時代に入った。排泄リハビリテーションは、診療報酬算定の可否に関わらず、対象者の在宅復帰やQOL向上、介護者の介護負担軽減に寄与するが、PTもOTも卒前にこの領域の教育を十分に受けていないという現状がある。そこで、本セミナーでは、排泄リハビリテーションの基本である排尿状態および排便状態の評価法についてお伝えする。OTが排泄の評価ツールを理解し、多職種で評価を実践し、データ解析できるようになることで、1) 対象者の排泄状態を多職種や家族とともに明確に把握して症状を特定し、2) 症状に適した治療および包括的なケアの立案やより具体的なサービスを提供することができる。今回は、排尿と排便の両方の評価法をご紹介します。

【下部尿路症状に対する評価法】(講師：今西里佳)では、排尿に関する症状質問票と排尿日誌を紹介し、排尿日誌の記載と分析の方法をお伝えする。排尿日誌は、排尿時刻や排尿量、尿失禁の有無や回数、尿意切迫感の有無、失禁が起きた時の動作や状況、摂取水分量と内容を記載することで、排尿(失禁)のパターンの把握や適正水分量を計算し、頻尿や夜間頻尿、尿失禁に対する具体的な解決策の立案に役立つ。

【排便症状に対する評価法】(講師：長嶺ふじ子)では、排便に関する症状質問票と排便日誌、ブリストルスケールを紹介し、排便日誌の記載と分析方法をお伝えする。ブリストルスケールは、便の性状を7段階に分類する国際的なツールである。本スケールを用いることで、便秘や便失禁など、排便に関する問題を解決するために必要な便の性状についての情報を客観的に評価することが可能となる。排便日誌は、排便回数、時刻、便意の有無、性状、便の量、下剤や浣腸、薬の使用の有無、食事内容と量、摂取時刻、失禁の有無、失禁の量、その他便失禁時のエピソードなどを記載することで、スムーズな排便に向けた支援計画立案に役に立つ。本セミナーでは現場ですぐに活用できる排泄の評価法について、わかりやすくお伝えしたい。

司会(コーディネーター)

下里 綱 Tsuyoshi Shimozato

大浜第一病院 Ohama Dai-ichi Hospital

◆講師

今西 里佳

Rika Imanishi

新潟医療福祉大学

Niigata University of Health and Welfare

◆講師

長嶺ふじ子

Fujiko Nagamine

回復堂Mahanalab

Kaifukudou Mahanalab



**企画セミナー19 湘南OT交流会**

**11月12日(日) 10:50～11:50 第7会場**

**リーズニングを用いて「作業療法の実践の仕組み」を可視化する**

**Clinical reasoning to visualize "mechanism of occupational therapy practice"**

なぜこの作業を用いるのか？なぜこの対象者にはこの方法を選んだのか？作業療法の複雑な実践過程は、常に多くの選択肢がつかまとう。エビデンスに基づく実践が求められる昨今において、その選択理由の説明を言語化する必要性がある。

しかし、作業療法の実践は臨床の暗黙知として行われているものも多く、その理由を明確に説明できる実践家ばかりではない。近年、これら実践の理由付けを明らかにする枠組みとしてリーズニングが作られ、臨床過程の推論が一定の枠組みから可能になってきている。その一方で、このリーズニングを臨床実践で適切に適応できる臨床家がまだ少ないのが現状と感じている。

そこで、本セミナーの主旨として、リーズニングの枠組みを参加者と共有し、実際の臨床の過程を紹介しながら、その思考過程を可視化していくことを企画した。そのため、セミナーではリーズニングの意義と内容の説明、実際の臨床適応について報告し討議したい。セミナーを通して、リーズニングを用いることで実践の場でどのような思考がされているのか「作業療法の実践の仕組み」を可視化し、暗黙知とも言われる臨床の思考過程を参加者と共有をする機会としたい。

司会（コーディネーター）

**真下いずみ** Izumi Mashimo

**藍野大学医療保健学部作業療法学科**

*Department of Occupational Therapy, Faculty of Health Science, Aino University*

◆講師

**小川 真寛**

**Masahiro Ogawa**

神戸学院大学

*Kobe Gakuin University*

◆講師

**藤本 一博**

**Kazuhiro Fujimoto**

茅ヶ崎新北陵病院

*Chigasaki Shin-Hokuryou Hospital*

## SS スペシャルセッション (口述発表)

### スペシャルセッション

座長：村田 和香 (群馬パース大学)

11月10日 (金) 11:10 ~ 12:10 第1会場

SS-1	地域在住高齢者における主観的健康と意味のある活動の満足度との関連および活動の特徴 Relationship between self-rated health and satisfaction with meaningful activities and characteristics in older adults	医療法人三州会 大勝病院 日高 雄磨
SS-2	高齢者における軽度認知障害の経時的変化に身体活動量と環境要因が及ぼす影響 ~潜在曲線モデルによる縦断データの分析~ Effects of physical activity level and environmental factors on changes over time in MCI ~ A latent curve modeling approach ~	東北福祉大学 健康科学部 藪脇 健司
SS-3	統合失調症患者の精神症状に対する作業療法の効果：メタアナリシス The Effectiveness of Occupational Therapy on the Psychiatric Symptoms in People with Schizophrenia: a meta-analysis	名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科 山鹿 隆義
SS-4	脳卒中患者の上肢運動障害の重症度に応じた練習項目の自動設定を可能とするアルゴリズムの開発~ ReoGo-J を用いた探索的検討~ Development of an algorithm to enable automatic setting of practice items for upper limb motor disorders after stroke	大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 竹林 崇

## OES 英語セッション (口述発表)

### 英語セッション 1

座長：池田 望 (札幌医科大学)

ボンジェペイター (東京都立大学)

11月10日 (金) 15:40 ~ 16:50 第6会場

OES-1-1	Gaze behavior during Trail Making Test contributing to the prediction of cognitive functional independence after stroke	Gunma University Graduate School of Health Sciences Ryoto Akiyama
OES-1-2	Predictive factor of activities of daily living at discharge on rehabilitation phase stroke patients	Gunma Rehabilitation Hospital Takahiro Otsuka
OES-1-3	Physical activity ratio using Occupation based Physical Activity Questionnaire (OPAQ)	Department of Occupational Therapy, Faculty of Rehabilitation, Kobegakuin University Daisuke Tashiro
OES-1-4	Postoperative changes in grip force control during precision grasp in cervical myelopathy	Gunma University Graduate School of Health Sciences, Doctoral Program Quoc Duy Vo
OES-1-5	Postoperative changes in reaching function and its relationship with upper extremity performance in cervical myelopathy	Gunma University Graduate School of Health Sciences Naoto Noguchi
OES-1-6	Effects of a 3D printing technology learning program in rehabilitation professionals: a randomized control trial	Department of Occupational Therapy Faculty of Rehabilitation, Gunma Paz University Ken Kondo

### 英語セッション 2

座長：高橋香代子 (北里大学)

鈴木 達也 (聖隷クリストファー大学)

11月11日 (土) 14:50 ~ 16:00 第6会場

OES-2-2	The conditions of "successful" Reablement services in Taiwan: A qualitative study	Department of Occupational Therapy, National Cheng-Kung University Ling-Hui Chang
OES-2-3	Assessing gaming disorder for Taiwanese youths: Psychometric evidence of the Chinese Gaming Disorder Test (GDT)	Institute of Allied Health Sciences, National Cheng Kung University Chung-Ying Lin
OES-2-4	The influence of the stability ball sitting during learning activities: A review of the literature	Master's Program in Department of Occupational Therapy, Graduate School Human Health Sciences, Tokyo Metropolitan University Zulfa Khoirunisah
OES-2-5	Effectiveness of a Prefeeding Oral Stimulation Program on Preterm Infants: A Case Study	Department of Occupational Therapy, National Cheng Kung University, Occupational Therapy Section, Department of Rehabilitation, China Medical University Hospital Yu-Rou Chiang

## OA 脳血管疾患等

### 脳血管疾患等 1

座長：友利幸之介 (東京工科大学)

11月10日 (金) 12:10 ~ 13:10 第3会場

OA-1-1	急性脳卒中患者に対して、ADOC-H による目標設定を併用した上肢機能訓練の効果 Effect of upper limb function training combined with goal setting using the ADOC-H in patients with acute stroke	伊那中央病院 リハビリテーション技術科 池上 正斗
OA-1-2	脳卒中片麻痺上肢の主観的使用の理解度と使用頻度との関連について ~中等度片麻痺患者に対する ADOC-H を用いた調査~ The relationship between understanding of subjective use and frequency of use ~ ADOC-H study of moderate hemiplegia ~	医療法人はあとふる はあとふる病院 瓜野 孝博



OA-1-3	意味のある作業の実践により役割期待に変化が生じた一症例 A case of change in role expectations through meaningful occupation practices	IMS グループ医療法人社団明芳会 横浜新都市脳神経外科病院 リハビリテーションセンター 中山雄太郎
OA-1-4	作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) を用いたクライアントとセラピストとの意味のある作業の共有と協働 Sharing and collaborating on meaningful work with clients using Work Selection Decision Support Software (ADOC)	医療法人社団 淡路平成会 平成病院 リハビリテーション科 吉岡 洋典
OA-1-5	重度失語症者と家族に対する作業療法実践 ～作業の可能化に向けて COPM と認知症高齢者の絵カード評価法 (APCD) を用いた目標設定と協働～ Occupational therapy practice for a case of severe aphasia and family	社会医療法人生長会 阪南市市民病院 松下 真拡

**脳血管疾患等 2** 座長：磯 直樹 (東京家政大学)  
11月10日(金) 13:20～14:20 第3会場

OA-2-1	長期臥床を強いられた急性期脳卒中片麻痺患者に対しての低周波刺激を用いた作業療法アプローチ An approach using low-frequency stimulation for acute stroke hemiplegic patients forced into long-term bed rest	近畿大学奈良病院 リハビリテーション部 水谷 信也
OA-2-2	ミラーセラピーのプレコンディショニングとしての神経筋電気刺激療法に関するケースシリーズ研究 Case Series Study on Neuromuscular Electrical Stimulation Therapy as Pre-Conditioning for Miller Therapy	医療法人社団栄宏会 栄宏会小野病院 リハビリテーション科 古谷 孝昭
OA-2-3	脳卒中後の上肢片麻痺患者に対する反復性経頭蓋磁気刺激と電気刺激を併用したリハビリテーションの試み Combined rTMS and NMES for a patient with hemiplegia of the upper limb after stroke.	本山リハビリテーション病院 リハビリテーション科 井本 浩史
OA-2-4	ピアニストの右第Ⅲ指におけるフォーカルジストニアの治療効果と結果の解釈 Treatment effects and interpretation of results for focal dystonia in the right third finger of pianists	聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 杉山 善彦
OA-2-5	右半側空間無視を呈した脳卒中患者に対する振動刺激療法の効果 Effect of Vibrational Stimulation Therapy on Stroke Patient with Right Unilateral Spatial Neglect	富岡地域医療企業団 公立七日市病院 リハビリテーション部 今井 卓也

**脳血管疾患等 3** 座長：五百川和明 (福島県立医科大学)  
11月10日(金) 13:20～14:20 第4会場

OA-3-1	脳血管障害者 Trail Making Test 遂行における知覚認知運動プロセスの定量的評価 Evaluation of Perceptual-Cognitive-Motor Processes during the Trail Making Test in Patients with Cerebrovascular Disease	公益財団法人老年病研究所附属病院 リハビリテーション部、 群馬大学大学院保健学研究科 井澤 孝泰
OA-3-2	回復期脳卒中患者における全身炎症について ～サルコペニアおよび上肢・手指の機能的予後不良との関連～ Systemic inflammation in the recovery stage of stroke ～ Sarcopenia and poor functional prognosis of upper limb and fingers ~	社会医療法人 三代会 宮崎病院 回復期リハビリテーション科 原 修平
OA-3-3	回復期リハの復職支援として職場上司と面談を実施したが、就労の定着に難渋した高次脳機能障害患者に関する報告 A case of higher brain dysfunction with difficulty in continuing to work despite support in recovery rehabilitation	鶴巻温泉病院 リハビリテーション部 森山 真子
OA-3-4	80歳以上の脳卒中患者におけるADL能力向上の規定因子 ～リハビリテーション量に着目した検討～ Determinants of ADL Improvement in Stroke Patients over 80 Years ～ A Study Focusing on the Amount of Rehabilitation ~	公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部 石森 卓矢
OA-3-5	脳卒中片麻痺患者の重症度別にみたADL回復に至るまでの日数 Days to ADL recovery in stroke hemiplegia patients by severity	公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部 門脇 一樹

**脳血管疾患等 4** 座長：内田 智子 (神戸大学)  
11月10日(金) 14:30～15:30 第2会場

OA-4-1	上肢リハビリ装置 CoCoroeAR <sup>®</sup> を用いた介入が麻痺側上肢機能と注意障害に変化をもたらした生活期脳卒中患者の一症例 A stroke patient whose CoCoroe intervention resulted in changes in paralyzed upper limb function and attention deficit	加治木温泉病院 総合リハビリテーションセンター、 鹿児島大学大学院 保健学研究科 小川 耕平
OA-4-2	回復期における脳卒中重度上肢麻痺の亜脱臼に対し、免荷式ロボットによる肩関節外転運動を実施した1症例 CocoroeAR2 for a subacute patient with subluxation and upper limb severe paralysis after stroke: A case report	医療法人玉昌会 加治木温泉病院 藤本 皓也
OA-4-3	脳梗塞後の上肢ジストニアに対して圧刺激の感覚トリックが有効であった症例 A case with post-stroke focal upper limb dystonia improved by pressure stimulation as a sensory trick	国立病院機構仙台北多賀病院 リハビリテーション科、 東北大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学分野 細川 大瑛
OA-4-4	上肢挙上運動をアシストする外骨格ロボットリハビリテーションによって機能改善を認められた1例 Effect of robot-assisted shoulder flexion to improve physical function in a patient with chronic stroke: a case report.	慶應義塾大学 医学部リハビリテーション医学教室 伊藤 大将

口述発表

OA-4-5	Mixed Reality デバイスを用いて左半側空間無視の病識と代償行動の獲得に至った症例 Acquiring awareness of unilateral spatial neglect and compensatory behavior using mixed reality devices : A case study	東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 鈴木 亮祐
<b>脳血管疾患等 5/MTDLP 1</b>		<b>座長：岩波 潤 (信州大学)</b> 11月10日(金) 14:30～15:30 第3会場
OA-5-1	脳梗塞患者に対する急性期 VR 介入における安全性の検証 Safety Verification in VR intervention for patients with cerebral infarction in the Acute Phase	神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部 早川 貴行
OA-5-2	脳卒中急性期患者の自宅退院か回復期病院転院かの転帰に影響するリハビリテーション開始時の評価項目の検討 Assessments at the start of rehabilitation that influence discharge or transfer outcomes in patients with acute stroke	三田市民病院 リハビリテーション科 井平 千津
OA-5-3	急性期脳卒中患者に対して目標設定が身体機能と ADL に与える影響 Impact of Goal Setting on Physical Function and ADLs for Acute Stroke Patients	国立病院機構 関門医療センター リハビリテーション科 弘前大学大学院 保健学研究科 佐藤 晟也
OA-5-4	急性期脳卒中患者のレジリエンスと抑うつ、QOL との関係：横断研究 Relationship between resilience, depression, and quality of life in acute stroke patients: a cross-sectional study	医療法人社団明芳会横浜旭中央総合病院 リハビリテーションセンター、 筑波大学大学院 人間総合科学学術院人間総合科学研究群 リハビリテーション科学学位プログラム 堀内 翔平
OA-5-5	亜急性期脳卒中者の日常生活活動に対する生活行為向上マネジメントの効果 ～シングルケースデザイン AB 法による検討～ Effects of MTDLP for Activities of Daily Living in Acute Stroke Survivors ～ A study using the single case design AB method ～	秋山脳神経外科病院 リハビリテーション科 岩崎 竜弥
<b>脳血管疾患等 6</b>		<b>座長：宗像 暁美 (琉球リハビリテーション学院)</b> 11月10日(金) 15:40～16:50 第2会場
OA-6-1	脳血管疾患患者におけるドライビングシミュレーター上での事故回数と神経心理学的検査の関連 Association between the number of crashes on a driving simulator and neuropsychological tests in people with stroke	医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院 リハビリテーション部 作業療法科 金沢大学 医薬保健学総合研究科 田中 聡士
OA-6-2	右左折のないコースの追加はシミュレーター酔い、操作性に影響するか？ ～傾向スコアマッチング法を用いたケースコントロール研究～ How do additional courses without turning affect simulator sickness? ～ a Case-control study with propensity score matching ～	公立陶生病院 中央リハビリテーション部作業療法室 久保田純平
OA-6-3	左視床出血を呈した独居事例への自動車運転、職場復帰を目指した長期介入の一例 Long-term intervention aimed at driving and returning to work in a case of living alone with left thalamic hemorrhage	社会医療法人財団重仙会 恵寿総合病院 五十嵐満哉
OA-6-4	脳卒中罹患者の運転技能評価と関係する神経心理学的因子の検討 To examine the relationship between driving skill assessment and neuropsychological factors in stroke.	特定医療法人 自由会 岡山光南病院 リハビリテーション部 有時 由晋
OA-6-5	「もう一度料理の仕事をしたい」若年脳卒中患者への介入～就労支援シートを用いて～ Intervention to help young stroke patients become chefs again ～ Using the employment support sheet ～	新久喜総合病院 リハビリテーション科 下山明日香
OA-6-6	目標設定ツールを使用した多職種連携～複数の高次脳機能障害を呈した症例～ The interprofessional working using tools of goal sharing ～ The case report of multiple higher brain dysfunction ～	公立藤岡総合病院 リハビリテーション室 町田 知駿
<b>脳血管疾患等 7</b>		<b>座長：高見 美貴 (秋田県立リハビリテーション・精神医療センター)</b> 11月11日(土) 10:10～11:10 第3会場
OA-7-1	拡散テンソル画像を用いた脳卒中患者の上肢回復過程における神経線維と上肢使用頻度および上肢機能の関係の検討：縦断研究 The relationship between neural pathways, real-world arm use, and function underlying recovery after stroke: DTI study	東北大学大学院 医学系研究科 機能医科学講座 肢体不自由学分野、 済生会 山形済生病院 リハビリテーション部 大瀧 亮二
OA-7-2	急性期脳卒中患者における作業療法が麻痺側上肢使用量に及ぼす影響 Effect of occupational therapy on upper limb use of the paralyzed side in acute stroke patients	順天堂大学医学部附属浦安病院 北野花穂子
OA-7-3	回復期リハビリテーション病棟での AI 予測分析ツールを用いた脳卒中上肢運動麻痺の予後予測 Prediction of Prognosis of Stroke Upper Limb Motor Paralysis Using AI Predictive Tools in a convalescent rehabilitation	社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科 荒 洋輔
OA-7-4	脳卒中患者における手の心的回転課題と機能障害の関連性 Association of hand mental rotation task and functional disability in stroke patients.	杏林大学 保健学部作業療法学科 原田 祐輔
OA-7-5	急性期脳卒中片麻痺患者における3軸加速度計を用いた上肢活動量の解析方法 Analysis method of upper extremity activity using triaxial accelerometer in patients with acute stroke	順天堂大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学、 順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科 植田修二郎
<b>脳血管疾患等 8</b>		<b>座長：玉那覇 迅 (嶺井第一病院)</b> 11月11日(土) 11:20～12:20 第3会場
OA-8-1	能動的な上肢位置覚検査の開発～予備的研究～ Development of Active Upper Extremity Position Sense Testing ~ A pilot study ~	藤井会リハビリテーション病院 角田 美咲





OA-8-2	脳梗塞後の麻痺手の使用行動の変化と白質構造変化の関連性 Relationship between changes in real-world arm use and structural remodeling of white matter after an ischemic stroke	名古屋市総合リハビリテーションセンター 作業療法科 庵本 直矢
OA-8-3	脳梗塞後の複視に対し、急性期にて介入を行い早期にADLが改善した一例 A case of diplopia after cerebral infarction with early improvement of ADL through intervention in the acute phase	日本赤十字社 大森赤十字病院 リハビリテーション課 伊藤 香織
OA-8-4	脳出血により空間認知障害を呈した皮質盲の事例 Case of cortical blindness with spatial cognitive impairment due to cerebral hemorrhage	富山県済生会富山病院 リハビリテーション科 護摩堂秀之助
OA-8-5	回復期リハビリテーション病棟にて脳梗塞患者に対してNOMA手・上肢機能診断を用いて評価・介入を行い書字速度向上が図れた事例 A case of a patient with stroke improved his writing speed using the NOMA in a convalescent rehabilitation ward	IMS(イムス)グループ イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 伊東 璃海

**脳血管疾患等 9/ 援助機器 1** 座長：上谷 英史 (弘前大学大学院)  
11月11日(土) 12:30～13:30 第3会場

OA-9-1	C3/4 頸髄不全四肢麻痺患者における肩関節・肘関節屈曲筋力とADLの関係 Relationship between shoulder and elbow flexion muscle strength and ADL in C3/4 cervical cord injury	北海道せき損センター 中央リハビリテーション部 佐藤 航平
OA-9-2	ICTを活用し仕事仲間とのつながりを目指した第一頸髄損傷の一例 A case of first cervical cord injury using ICT to connect with work colleagues	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 医療技術部 セラピスト部門 紀 皓大
OA-9-3	自宅退院となった重度脊髄損傷患者の特徴 Characteristics of patients with severe spinal cord injury who were discharged home	かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター、 西九州大学 生活支援科学研究科 石井 孝征
OA-9-4	脳卒中患者と大腿骨近位部骨折患者における入浴自立に必要なバランス機能水準の相違 Differences in the level of balance function required for bathing independence in patients with stroke and hip fracture	福島県立医科大学 藤田 貴昭
OA-9-5	尿意の数値化とフィードバックを繰り返したことで日中の失禁が無くなった事例 Case of Elimination of Daytime Incontinence through Repeated Quantification and Feedback Urge Sensation	苑田会 花はたリハビリテーション病院 リハビリテーション部 前澤 茜里

**脳血管疾患等 10** 座長：生田 純一 (農協共済中伊豆リハビリテーションセンター)  
リハビリテーション部作業療法科)  
11月11日(土) 13:40～14:40 第2会場

OA-10-1	回復期脳卒中患者におけるFIM利得および退院時運動FIM得点の予測式の外的妥当性の検証 External validation of prediction formulae for FIM gain and motor FIM score at discharge for stroke patients	練馬駅リハビリテーション病院 小林 竜
OA-10-2	兵庫県指定自動車教習所における自動車運転再開支援に関する実態調査 Questionnaire Survey on Support for Resuming Driving at Designated Driver's Schools in Hyogo Prefecture	兵庫医科大学ささやま医療センター リハビリテーション室 竹原 崇登
OA-10-3	脳腫瘍術後早期における自動車運転再開支援の試み～脳浮腫の影響に着目した一症例～ An attempt to support the return to driving in the early postoperative period after brain tumor surgery	自治医科大学附属さいたま医療センター リハビリテーション部 井上 美穂
OA-10-4	運転診断機能を有するドライブレコーダーを用いて安全な運転再開を支援した一例 Supporting safe resumption of driving using an event data recorder	名古屋市総合リハビリテーションセンター 作業療法科 田中 創
OA-10-5	自動車運転再開評価として用いる神経心理学的検査の使用手による成績の違い～健常者における利き手および非利き手の比較～ Comparison of neuropsychological test results for driving evaluation with dominant and non-dominant hands.	小波瀬病院 リハビリテーション科 岩本 英介

**脳血管疾患等 11** 座長：竹林 崇 (大阪公立大学)  
11月11日(土) 13:40～14:40 第3会場

OA-11-1	慢性期脳卒中患者に対するrTMSと作業療法の併用療法の複数回実施における脳活動の変化～上肢麻痺と日常生活での使用頻度との関係～ Brain activity changes in chronic stroke patients with rTMS and occupational therapy over multiple sessions.	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 作業療法科 前田 正憲
OA-11-2	失語症を伴う重度片麻痺に対し、促通反復療法とTransfer Packageを用いた介入により麻痺手使用の改善を得た一例 Improvements in paralyzed hand with aphasia by repetitive facilitative exercise and transfer package: A case report	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター 橋口 文子
OA-11-3	感覚性運動失調に対して課題指向型訓練を実施し、利き手機能の改善を認めた一例 A case of improvement of dominant hand function after task-oriented training for sensory ataxia	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 医療技術部リハビリテーション科 竹腰 太城
OA-11-4	急性期脳梗塞患者に対する初期臨床症候診断分類と麻痺側の上肢運動機能改善との関連 Relationship between The Oxfordshire Community Stroke Project classification and improvement of upper limb hemiplegia	北里大学病院 リハビリテーション部 千葉 周平
OA-11-5	抑うつ状態が懸念された脳卒中患者に対する修正CI療法の実践 Practice of modified CI therapy for stroke patient with suspected depression	蘇生会総合病院 リハビリテーション科 小森 江梨

口述発表



脳血管疾患等 12

座長：泉 良太（聖隷クリストファー大学）

11月12日（日）8:30～9:30 第2会場

OA-12-1	上肢麻痺に対する早期ボツリヌス療法とニューロリハビリテーションの併用 ～ケースシリーズ研究～ Early botulinum therapy combined with neurorehabilitation for post-stroke upper limb paralysis ~ A case series study ~	社会福祉法人恩賜財団 済生会 山形済生病院 リハビリテーション部 武田 宙樹
OA-12-2	痙縮を有する脳卒中患者に対し、修正 CI 療法と共に圧力波治療を実施し復職に至った一例 A case of a stroke patient with spasticity who returned to work after RSWT together with modified CI therapy	医療法人幸生会琵琶湖中央リハビリテーション病院 リハビリ療法部 山本 紘平
OA-12-3	維持期脳卒中重度片麻痺に対する間葉系幹細胞投与後の集中リハビリテーションの実践報告 ～シングルケーススタディ～ intensive rehabilitation after MSC to severe hemiplegia after stroke in the maintenance phase ~ single case study ~	東京都福祉保健局 都立府中療育センター 田邊 浩司
OA-12-4	脳卒中上肢痙縮に対する亜急性期でのボツリヌス療法の経験 Experience with botulinum therapy in the subacute phase for spasticity of the upper limb after stroke	一般財団法人 広南会 広南病院 リハビリテーション部 菅野 秀紀
OA-12-5	チーム治療により局所性ジストニアの改善がみられたピアニストの一事例 A case of a pianist who improved focal dystonia with team treatment	浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 安間真理子

脳血管疾患等 13

座長：天野 暁（北里大学）

11月12日（日）8:30～9:30 第3会場

OA-13-1	脳卒中後上肢麻痺への治療法選択に関する理学療法士・作業療法士の臨床的意思決定 ～治療法別のサブグループ分析～ Decision making by physical and occupational therapists on therapy for upper limb paresis ~ A subgroup analysis by therapy ~	岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究所 平山幸一郎
OA-13-2	Graded Repetitive Arm Supplementary Program (GRASP) による上肢の機能と使用頻度の改善が ADL や QOL の向上に繋がった脳卒中症例 Stroke case report: Recovered function and use of upper extremity by GRASP improve ADL and QOL	八戸市立市民病院 リハビリテーション科 上村 謙弥
OA-13-3	脳卒中後上肢麻痺に対する評価法「Fugl-Meyer Assessment」の上肢項目における潜在ランク数の推定 Estimating latent rank of Fugl-Meyer Assessment for the affected upper extremity after stroke	医療法人友誼会 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究所 原 健介
OA-13-4	上肢機能訓練を実施し実用手を獲得した急性横断性脊髄炎の1例 ～神経伝導検査の結果に基づいた支援を継続して～ A Case of Acute Transverse Myelitis Who Acquired Practical Hands Through Upper Limb Functional Training	熊本機能病院 総合リハビリテーション部 吉永 貴博
OA-13-5	認知再構成法を用いて痛みのセルフコントロールを試みた一症例 A case of self-control of pain using cognitive restructuring	公益財団法人 健和会 大手町リハビリテーション病院 回復期・通所リハビリテーション科 松本 多正

脳血管疾患等 14

座長：前田 正憲（鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院）

11月12日（日）9:40～10:40 第2会場

OA-14-1	脳卒中入院患者における自己能力の過信と転倒との関係 The relationship of self-overestimation to fall among inpatients with stroke	植草学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 大平 雅弘
OA-14-2	脳梗塞後に小字症を呈した高齢女性が書字活動を再開するに至った一例 A case of an elderly woman with micrographies who resumed writing activity after cerebral infarction	医療法人社団 西宮回生病院 リハビリテーション部 田山 大介
OA-14-3	脳梗塞急性期における意識障害改善の関連因子 Factors associated with improvement of impaired consciousness in the acute phase of cerebral infarction	旭川赤十字病院 リハビリテーション科、 弘前大学大学院保健学研究科 松本 幸樹
OA-14-4	価値のある作業の再獲得を通して、介助に依存的な生活から行動変容に繋がった事例 A case study of behavior change from a life dependent on assistance through the reacquisition of valuable occupations.	医療法人 湊仁会 札幌湊仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐藤 健太
OA-14-5	脳血管障害後の嚥下障害患者に対して、チューインガムを用いて舌圧・嚥下機能改善を目的とした訓練の検討 Examination of training using chewing gum for patients with dysphagia after cerebrovascular disease	リハビリテーション天草病院 内藤 大佑

脳血管疾患等 15

座長：佐野 恭子（宝塚リハビリテーション病院）

11月12日（日）9:40～10:40 第3会場

OA-15-1	脳卒中後上肢麻痺を呈した対象者に対して、家族参加型 Transfer package を付加した CI 療法を実施した3事例ケースシリーズ CI therapy with a family-participation transfer package for a subject with post-stroke upper limb paralysis	札幌湊仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 堀 翔平
OA-15-2	急性期および亜急性期の脳卒中における短時間および長時間の CI 療法の効果 ～メタアナリシスとシステマティックレビュー～ Effectiveness of constraint-induced movement therapy with stroke in acute phase : systematic review and meta-analysis	阪和記念病院 リハビリテーション部、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究所 日高 晟子



OA-15-3	回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者に対する促通反復療法と CI 療法を段階的に組み合わせた複合アプローチの効果 - 症例報告 - Effectiveness of combined approach with RFE and CIMT in stages for patient with convalescent ward stroke case report	医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 リハビリテーション部 田中 友彬
OA-15-4	脳卒中により上肢麻痺を呈した患者に対して病棟実施型 CI 療法アプローチの経験 Experience of ward-based CI therapy approach for patients with upper extremity paralysis due to stroke	社会医療法人 三役会 宮崎病院 草野嵩一朗
OA-15-5	課題指向型訓練と Transfer Package の併用が麻痺手の行動変容を促進した一症例 A case study of task-oriented training and Transfer Package Behavioral Change in a Paralyzed Hand	令和リハビリテーション病院 リハビリテーション科 田中あゆみ

**OB 心大血管疾患**

<b>心大血管疾患 1/ 神経難病 2</b>		<b>座長：武田 智徳 (新潟南病院)</b> 11月11日(土) 14:50～16:00 第5会場
OB-1-1	ICU acquired weakness 患者の ADL に対する精神機能および認知機能の影響 Impact of mental and cognitive function on ADLs in patient with Intensive acquired weakness	名古屋大学医学部附属病院 リハビリテーション部 名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻リハビリテーション療法学コース 青山 佑介
OB-1-2	心臓血管外科術前患者における重症度ランクの調査 Characteristics of cardiovascular surgery patients compared by severity rank of occupational dysfunction	イムス葛飾ハートセンター リハビリテーション科 小林 勇基
OB-1-3	大動脈弁置換術後に誤嚥性肺炎を合併したが TESS が著効した 1 症例 ～挿管中の嚥下訓練について～ A case of aspiration pneumonia after aortic valve replacement in which TESS was effective ～ Indirect swallowing practice ～	群馬県立心臓血管センター リハビリテーション課 山下 遊平
OB-1-4	筋萎縮性側索硬化症の同意した目標を達成するための外来作業療法の関わり ～ Balanced Forearm Orthosis の導入と効果について～ Involvement of outpatient occupational therapy to achieve consensual goals in amyotrophic lateral sclerosis	特定医療法人成仁会 くまもと成仁病院 リハビリテーションセンター作業療法科 森 英輝
OB-1-5	子育て世代の ALS 患者におけるコミュニケーション支援 ～症状進行の中でも変わらない母親としての想い～ Communication Support in ALS Patients of Child-Rearing Age ～ Unchanging thoughts even in the midst of symptom progression ～	滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 西岡 貴志
OB-1-6	家族との新たなコミュニケーション手段の獲得を目指した長期療養中の DMD 者の一例ー スイッチでの IT 機器操作の支援を通してー Case report on communication support using switch controlled assistive technology for chronic DMD patient	独立行政法人 国立病院機構 箱根病院 リハビリテーション科 堀内 奨

**OC 呼吸器疾患**

<b>呼吸器疾患 1</b>		<b>座長：清水 兼悦 (札幌山の上病院)</b> 11月10日(金) 13:20～14:20 第7会場
OC-1-1	肺移植後の作業療法にウェアラブルデバイスを用いてセルフマネジメントを図った一症例 A case of self-management using a wearable device for occupational therapy after lung transplantation	福岡大学病院 リハビリテーション部 百武 光一
OC-1-2	呼吸法指導には信頼関係が重要と考えられた一例 ～ ADL が向上した COPD 患者を経験して～ Trustful relationship is considered important for respiration training. ～ Experience through COPD patient improved ADL. ～	医療法人聡明会 児玉病院 リハビリテーション科 柿本 友彦
OC-1-3	回復期リハビリテーション病棟における呼吸器疾患患者に対して作業療法が参入する有効性の検討～後方視的調査～ Investigate the effectiveness of occupational therapy for respiratory patients in a convalescent rehabilitation ward	神戸リハビリテーション病院 崎本 史生
OC-1-4	COVID-19 中等症病棟入院患者に対する作業療法の有効性 ～傾向スコアマッチングを用いた後ろ向きコホート研究～ Effect of occupational therapy for patients hospitalized in a moderate COVID-19 ward	広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門 村瀬 瑞希
OC-1-5	長期入院となった新型コロナウイルス感染罹患妊婦に対する出産後の育児への不安感に介入した一症例 A case of intervention for postpartum childcare anxiety in a pregnant woman with COVID-19 and prolonged hospitalisation	自治医科大学附属さいたま医療センター リハビリテーション部 笹井 祥充

**OD 運動器疾患**

<b>運動器疾患 1</b>		<b>座長：斎藤 和夫 (東京家政大学)</b> 11月10日(金) 14:30～15:30 第6会場
OD-1-1	橈骨遠位端骨折術後患者の炎症症状と痛みの経時的変化 Chronological changes in inflammatory symptoms and pain in postoperative patients with distal radius fracture	聖マリアンナ医科大学病院 リハビリテーションセンター 大野 博子

口述発表

OD-1-2	橈骨遠位端骨折術後において外来作業療法は在宅運動プログラムの効果を高める ～非盲検無作為化比較試験～ Outpatient occupational therapy improves effectiveness of home exercise program after distal radius fractures	相澤病院 整形外科リハ科 櫻井 利康
OD-1-3	筋性拘縮と皮膚性拘縮予防を行った上肢デグロービング損傷の1例 Therapy for muscular contracture and dermatogenic contracture of degloving injury on upper extremity: A case report	聖隷浜松病院 リハビリテーション部 米田 香苗
OD-1-4	手根管症候群患者における知覚障害の範囲と神経伝導検査との関連に関する予備的研究 ～予備的研究～ Relationship sensory disturbance area and nerve conduction study in patient with CTS : preliminary research	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部、 弘前大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学 講座 西村 信哉
OD-1-5	年代別にみた橈骨遠位端骨折術後における機能的推移の違い Differences in functional transition for patient with distal radius fracture after volar locking plate by age group	浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科 藤村 裕介

**運動器疾患 2** 座長：小林 勇矢（相澤病院）  
11月11日（土）10:10～11:10 第7会場

OD-2-1	頸椎性脊髄症患者の手指機能がADLに及ぼす影響 Effects of hand function on ADL in patients with CSM	福島県立医科大学会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座 半谷 智辰
OD-2-2	意味づけした活動によって洗体の実行状況が改善した頸髄損傷患者の一例 ～作業遂行6因子分析ツール(OPAT6)による分析～ Patients with cervical spinal cord injury who improved their ability to wash their bodies through meaningful activities	特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 西田 紘規
OD-2-3	後方進入法による人工股関節全置換術後の靴下着脱動作の獲得に向けて ～当院で行っている修復組織への負荷を考慮した運動療法～ To acquire the movement of putting on and taking off socks after total hip arthroplasty by the posterior approach method	桑名市総合医療センター リハビリテーション室 田口 敦也
OD-2-4	大腿骨近位部骨折に対する人工骨頭置換術後の更衣動作獲得に必要な認知機能 ～入院前の評価尺度としてDASC-21を用いて～ Cognitive functions required for gaining change of clothes after Bipolar Hip Arthroplasty for proximal hip fracture.	相澤病院 リハセラピスト部門、 相澤病院 整形外科リハ科 柳澤 昌輝
OD-2-5	大腿骨内上顆からの血管柄付き骨軟骨移植術を施行した進行期キーンベック病患者への作業療法 Occupational therapy for a patient of advanced kienboeck disease who underwent vascularized medial femoral condyle graft	特定医療法人 あかね会 土谷総合病院 リハビリ室 落合 和也

**運動器疾患 3/ 援助機器 3** 座長：柴田八衣子（兵庫県立リハビリテーション中央病院）  
11月11日（土）13:40～14:40 第7会場

OD-3-1	先天性橈尺骨癒合症術後の男児に対して装具療法を用いた外来作業療法の報告 A report of outpatient Occupational Therapy using splint for a boy after congenital radio-ulnar synostosis surgery	長崎大学病院 リハビリテーション部 高橋 弘樹
OD-3-2	幼児手指屈筋腱損傷後から続く屈曲障害に対する二段階腱移植術後早期自動屈曲法へのMirror therapyとTransfer packageの併用 Mirror therapy and transfer package after tendon graft for dysfunction following early childhood flexor tendon injury	弘前記念病院 リハビリテーション科 鳴海 直希
OD-3-3	前腕切断後再接着術を受け、実用手として機能獲得に至った症例 A case after replantation of forearm amputation; functional improvement along with OT intervention.	杏林大学医学部附属病院 リハビリテーション室 石田 幸平
OD-3-4	筋電義手導入に至った発達障害を持つ小児への作業療法 Occupational therapy for a child with developmental disorders leading to the introduction of myoelectric prostheses	東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部・科 梅崎 成子
OD-3-5	手関節屈筋群1極極による筋電義手操作を獲得した先天性上肢形成不全児2例 Two cases of congenital upper limb deficiency could operate a myoelectric hand by a single signal on flexor muscles	東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部 小林 実桜

**運動器疾患 4** 座長：林 正春（J A 静岡厚生連 リハビリテーション中伊豆温泉病院 作業療法科）  
11月12日（日）9:40～10:40 第6会場

OD-4-1	手指切断後の幻肢痛に対するVirtual Reality Trainingの効果 ～シングルケースデザインを用いた検討～ Effects of Virtual Reality Training on phantom limb pain after hand amputation ～ Study using a single-case design ～	川崎医療福祉大学 作業療法学科 吉村 学
OD-4-2	地域在住RA患者の治療満足度に関する調査 ～調査で浮き彫りになったアンメットメディカルニーズの世代間格差～ Survey on Treatment Satisfaction of RA Patients Living in the Community ～ Generational Disparities in Unmet Medical Needs ～	道後温泉病院 リウマチセンター/リハビリテーション科 山中 貴弘
OD-4-3	空圧式デジタル握力計の開発 第一報 Development of Pneumatic Digital Grip Strength Meter 1st Report	岡山大学病院 総合リハビリテーション部 藤岡 晃
OD-4-4	手の横アーチによる中手指節関節の伸展動作への抑制機能 ～基節骨骨折の保存療法におけるスプリントデザインの検証～ Inhibitory function of the transverse arch of the hand on extension movements of the metacarpophalangeal joints	横浜南共済病院 リハビリテーション科 中西理佐子



OD-4-5	術後早期の痛みに対して認知行動療法を用いた作業療法実践により痛みや心理的要因に改善を認めた事例 Occupational therapy practice with cognitive behavioral therapy for early postoperative pain: A case report	福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部、 九州大学大学院 医学系学府医療経営・管理学専攻 原 竜生
<b>OE 神経難病</b>		
座長：阿瀬 寛幸（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター）		
11月10日(金) 15:40～16:50 第5会場		
OE-1-1	パーキンソン病患者に対する体性感覚キューの効果と対象者の歩行特徴との関連 Effects of somatosensory cues on Parkinson's disease patients in relation to walking characteristic of the subjects	医療法人社団 一視同仁会 札幌・すかた医院 佐藤飛友信
OE-1-2	パーキンソン病者の自宅での余暇活動時間に影響を与える非運動症状は何か？ What nonmotor symptoms affect leisure activities time at home in people with Parkinson's disease?	山形県立保健医療大学大学院保健学研究科、 株式会社リニエール 関本 充史
OE-1-3	入院中のパーキンソン病患者におけるサルコペニア有病率とリハ効果への影響 Influence of Sarcopenia on the effect of Exercise Therapy for patients with Parkinson's Disease	社会医療法人春回会 長崎北病院 総合リハビリテーション部 山田 麻和
OE-1-4	プリズム眼鏡を使用して食事動作が改善した進行性核上性麻痺の一例 A case of progressive supranuclear palsy with improved eating behavior using prism glasses	熊本機能病院 総合リハビリテーション部 吉田 沙恵
OE-1-5	パーキンソン病患者の在宅における活動量と活動内容に関する調査 ～FAIを用いた後方視的研究～ A survey on activity level and contents of patients with Parkinson's disease at home ～A retrospective study of FAI～	兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部作業療法科、 神戸大学大学院 保健学研究科 松ヶ下 壮
OE-1-6	短期入院中の神経難病患者に対する目標設定の可否に影響する因子 ～ケースコントロール研究～ Factors that affect goal setting for patients with intractable neurological diseases ～A case-control study～	済生会神奈川県病院 リハビリテーションセラピスト科 石川 哲也
<b>OF がん</b>		
座長：櫻井 卓郎（国立がん研究センター中央病院）		
11月10日(金) 12:10～13:10 第7会場		
OF-1-1	化学療法を実施した造血器腫瘍患者に対する作業療法は倦怠感を減少させる Occupational Therapy for Patients with Chemotherapy treated Hematologic Cancer Patients Reduces Fatigue	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 リハビリテーション部、 神戸大学大学院保健学研究科 リハビリテーション科学領域 宮内 貴之
OF-1-2	青年期後期血液腫瘍患者の友人関係～外来通院患者を対象として～ Friendship in late adolescent hematologic oncology patients ~ A study of outpatients ~	筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群 リハビリテーション学位プログラム博士前期課程、 国立成育医療研究センター リハビリテーション科 関原 雛子
OF-1-3	緩和ケア病棟入院患者に対して多職種で関わるアートセラピーグループについて ～作業療法士の視点から～ Art Therapy Groups for Inpatients in Palliative Care Units Involving Multiple Professions ～An OT's Perspective～	市立芦屋病院 錦古里 淑
OF-1-4	乳がん術後患者の四肢使用困難度に影響する因子の検討 ～Quick Disability of Arm, Shoulder and Hands (Q-DASH)を用いて～ Factors related to difficulty using upper limbs in breast cancer patients	JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院 医療技術部 リハビリテーション室 丹治 梓
OF-1-5	乳がん術後6か月でのリンパ浮腫有病率とリンパ浮腫の有無によるA DLとQOLの比較 Prevalence of lymphedema at 6 months after breast cancer surgery and the relationship with ADL and QOL	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部門 上原子愛菜
座長：井上 慎一（神戸市立西神戸医療センター）		
11月10日(金) 15:40～16:50 第3会場		
OF-2-1	補足運動野症候群の臨床症状の特徴と腫瘍摘出範囲との相関 Correlation of clinical features and extent of tumor resection in supplementary motor cortex syndrome	東京女子医科大学 リハビリテーション部 角田 明子
OF-2-2	膠芽腫患者の健康関連 QOL に影響を及ぼす因子 Factors influencing on health-related quality of life in glioblastomas	金沢大学 リハビリテーション科学領域 中嶋 理帆
OF-2-3	目標共有と麻痺手使用の促進で再発前の家事動作を獲得できた左頭頂葉神経膠腫の一事例 Regained housework by using goal sharing and promoting use of the affected limb: A case of left parietal lobe glioma	京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部 堀川陽一郎
OF-2-4	家族を含めた多職種協同での退院支援により、治療後早期に自宅退院が可能となった膠芽腫症例報告 A case with glioblastoma was able to be discharged home early by supporting a multidisciplinary team including family.	順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室 袴田 裕未
OF-2-5	伝統の凧つくりを通じた作業中心の実践～腎細胞がん多発骨転移事例～ Occupation-Centered Practice through Traditional Kite Making ～A Case Study of Bone Metastases from Renal cell Cancer～	山口県済生会豊浦病院 リハビリテーション科 齊藤 隆一

口述発表



OF-2-6 運動負荷量を管理しADL拡大に繋がった症例～全エネルギー消費量と摂取量の活用～  
 A case in which exercise load was managed and led to ADL expansion  
 ～Utilization of total energy expenditure and intake～  
 社会医療法人熊谷総合病院  
 医療技術部リハビリテーション科  
 清水亜里沙

がん 3

座長：佐野 哲也（聖隷クリストファー大学）  
 11月11日（土）11:20～12:20 第7会場

OF-3-1 周術期消化器がん患者における入院中の不安・抑うつに影響する因子  
 ～入院前の手段的日常生活動作に着目した検討～  
 Factors Associated with Anxiety and Depression in Perioperative Gastrointestinal Cancer Patients  
 公立藤岡総合病院  
 藤井 洋有

OF-3-2 がん終末期における外出・外泊の可否に関わる因子の検討  
 The factors related to the availability of going out and staying out at the end stage of cancer  
 厚生連長岡中央総合病院 リハビリテーション科  
 阿部 康隆

OF-3-3 頭頸部がん高齢者における術前の社会的フレイルが周術期の生活機能に及ぼす影響  
 Effects of Preoperative Social Frailty on Perioperative ADL in Elderly Persons with Head and Neck Cancer  
 弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部、  
 弘前大学 大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域  
 三浦 裕幸

OF-3-4 リンパ浮腫患者における非侵襲的な皮膚力学的特性の測定方法：スコピングレビュー  
 Noninvasive methods for measuring skin mechanical properties in patients with lymphedema: A scoping review  
 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科、  
 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科  
 藤本 侑大

OF-3-5 当院血液腫瘍患者における認知機能障害の頻度とその関連因子の調査報告  
 Cognitive dysfunction survey of frequency and related factors the patients with hematological malignancy  
 独立行政法人国立病院機構広島西医療センター  
 富樫 将平

OH 精神障害

精神障害 1

座長：嘉数 栄司（沖縄リハビリテーション福祉学院）  
 11月10日（金）12:10～13:10 第5会場

OH-1-1 精神科デイケアにおけるフレイル予防プログラムが身体・心理・生活満足度に与える効果  
 Effects of Frailty Prevention Programs on Physical, Psychological, and Life Satisfaction in Psychiatric Day Care.  
 江田記念病院 リハビリテーション科、  
 東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法科学域  
 阿部 来夢

OH-1-2 精神科デイケア利用後に一般雇用での就労を継続している当事者の経験の語り  
 Narrative of experiences by individuals who continue working in general employment after mental health rehabilitation  
 特定非営利活動法人 ヒューマンケアクラブストライド、  
 東京都立大学大学院人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程  
 田中 友紀

OH-1-3 精神科デイケア利用者の活動状況とリカバリーの関連  
 The association of activity and recovery of psychiatric day-care participants  
 名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻、  
 特定医療法人共和会共和病院  
 伊佐次光莉

OH-1-4 包括的支援マネジメントにおける支援計画の分析  
 Analysis of team plans in inclusive case management  
 石川県立こころの病院  
 村井 千賀

OH-1-5 地域在住統合失調症患者の食事状況に関する探索的研究  
 An exploratory study on the dietary status of people with schizophrenia living in the community  
 名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻  
 阿部 真依

精神障害 2

座長：羽田 舞子（筑波大学附属病院精神科デイケア）  
 11月10日（金）14:30～15:30 第5会場

OH-2-1 精神科急性期病棟のセルフマネジメント能力獲得に向けた個別作業療法実践  
 ～個別作業療法の実施群と未実施群の前後比較～  
 Individualized occupational therapy practice for acquiring self-management skills in an acute psychiatric ward  
 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター  
 精神リハビリテーション部  
 山元 直道

OH-2-2 認知症高齢者に対する運動療法と集団作業療法の併用による行動・心理的症状の治療効果：  
 病院ベースの無作為化比較試験  
 Treatment effects of exercise therapy combined with group occupational therapy on BPSD in dementia: a hospital based RCT  
 熊本大学病院 神経精神科  
 吉浦 和宏

OH-2-3 統合失調症患者に対する Social Cognition and Interaction Training(SCIT) による就労への効果検討  
 Effects of Social Cognition and Interaction Training (SCIT) on Employment for Patients with Schizophrenia  
 弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域、  
 岩手県立南光病院  
 津内口浩基

OH-2-4 行動活性化理論に基づいた短期介入の効果  
 ～気分障害患者に対して AB デザインを用いた検証～  
 Effects of short-term interventions based on behavioral activation  
 ～Verification using AB design for mood disorders～  
 合同会社さよなき 訪問看護ステーションれんげ草か  
 がわ リハビリテーション部  
 新岡 拓

OH-2-5 包括的支援マネジメントにおける再入院に関する実態調査  
 Survey of rehospitalization in intensive case management  
 石川県立こころの病院  
 渡會 佳奈

精神障害 3/MTDLP 3

座長：星野 藍子（名古屋大学大学院医学系研究科）  
 11月11日（土）10:10～11:10 第5会場

OH-3-1 「パラレルな場」がもたらす自律神経活動への影響の検討  
 Study of the effects of "parallel place" on autonomic activity.  
 大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部、  
 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科  
 大類 淳矢





OH-3-2	認知症における作業療法中の態度・行動と焦燥性興奮の関係性 Relationship between attitude and behavior to Occupational Therapy and agitation in persons with Dementia	東香里病院、 大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所 北田 有沙
OH-3-3	抑うつ症状を伴う患者の精神症状、身体症状に対するリラクゼーション効果の検討 Effects of relaxation therapy on psychiatric symptoms and physical symptoms in e patients with deoressive symptoms	くまもと青明病院 村田 美希
OH-3-4	統合失調症外来患者の引きこもりを改善した長期間・低頻度の作業療法 Long-term and low-frequency occupational therapy improved social withdrawal in an outpatient with Schizophrenia ~ Case study ~	神戸大学大学院保健学研究科、 神戸精神分析研究所 四本かやの
OH-3-5	うつ病増悪と ADL 低下を呈した高齢女性に対する MTDLP を用いた退院支援 Discharge support using MTDLP for elderly women with exacerbation of depression and decline in ADL	医療法人鴻池会 秋津鴻池病院 リハビリテーション部 田結荘秋嘉

**精神障害 4** 座長：早坂 友成 (杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻、医学部精神神経科学教室)  
11月12日(日) 9:40～10:40 第7会場

OH-4-1	統合失調症患者への Rey 複雑図形模写課題の臨床応用 ～遂行機能障害の簡易評価尺度に着目して～ Clinical application of the Copy Task of the Rey-Osterrieth Complex Figure for patients with schizophrenia	医療法人財団北林厚生会 五条山病院 作業療法室 河野 正志
OH-4-2	精神疾患患者の睡眠問題に対して作業療法士が介入する利点 Benefits of occupational therapist intervention for sleep problems in patients with mental illness	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神リハビリテーション部 立山 和久
OH-4-3	精神科作業療法における MHSQ-J および失体感症尺度の臨床応用可能性 ～精神科急性期病棟における予備的検討～ Clinical applicability of the MHSQ-J and the Shitsu-taikana-sho scale in psychiatric occupational therapy	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 病院 精神科リハビリテーション部 村田 雄一
OH-4-4	アルコール依存症を抱える患者における最大一歩幅の見積もり誤差と身体機能との関係 A study on physical function and perception of Inpatients with alcohol use disorder	国立病院機構久米浜医療センター 小砂哲太郎
OH-4-5	精神科作業療法での参加状況がせん妄改善に与える影響 Effect of participation status in psychiatric occupational therapy on delirium improvement.	広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門 野原 卓也

**OI 発達障害** 座長：北山 淳 (医療創生大学)  
11月10日(金) 13:20～14:20 第5会場

OI-1-1	高等学校の通級指導における Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) の実践 The Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) approach in high school resource rooms.	福島県立医科大学 保健科学部 作業療学科 倉澤 茂樹
OI-1-2	児童思春期病棟における遊びを取り入れたソーシャルスキルズトレーニングの試み ～子どもが求めるソーシャルスキル～ A Trial of Social Skills Training Incorporating Play in a Child and Adolescent Ward ～ Social Skills Children Need ~	聖ルチア病院 作業療法課 川勝 陽平
OI-1-3	地域専門機関で有効な発達障害者相談支援システムの開発 Effective Counseling and Support System for Developmental Disabilities at Local Specialized Organizations	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療学科、 国際医療福祉大学大学院 関森 英伸
OI-1-4	幼児期前期の母子間の相互的なふれあい遊びがアタッチメントに及ぼす影響の探索的研究 An exploratory study of the effects of interactional "Hureai play" between mother and child on attachment in childhood	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部作 業療学科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療学科 学域博士前期課程 畠山 久司
OI-1-5	算数障害リスク児における生得的数覚 Innate Number Sense in Children at Risk for Developmental dyscalculia	株式会社 UT ケアシステム リハビリ発達支援ルーム UT キッズ 福西 知史

**発達障害 2** 座長：石附智奈美 (広島大学大学院医系科学研究科)  
11月10日(金) 15:40～16:50 第4会場

OI-2-1	発達障害児に対する作業療法士による児童虐待予防の類型 Types of Child Abuse Prevention by Occupational Therapists for Children with Developmental Disorders	三浦市立病院 診療支援部 リハビリテーション科、 神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科 博士後期課程 後藤健太郎
OI-2-2	障害のある受刑者は受刑生活を送ることで注意機能がどう変化するのか ～視覚課題と聴覚課題の違い～ Do inmates with disabilities change their intellectual and attentional functions when incarcerated?	株式会社 セラム、 大阪リハビリテーション専門学校 石田 真由
OI-2-3	刑務所でワークサンプル法を実施した結果、就労に至った一事例 A case of successful employment support as a result of implementing the work sample method in a prison.	小学館集英社プロダクション 播磨社会復帰促進センター 宇都みずき
OI-2-4	発達障害児における複数の遊具を用いた運動時の自律神経活動変化 Autonomic nerve activity profiles during exercise using multiple play equipment in children with developmental disorder	静岡済生会総合病院 静岡済生会療育センター令和 療育技術科 杉山 志保

口述発表

OI-2-5	注意欠如多動症が疑われる幼児に対し、Cognitive-Functional(Cog-Fun)を基盤とした介入により子どもの作業遂行が向上した1事例 A case study of Cog-Fun based intervention for preschooler with suspected AD/HD to improve occupational performance.	長崎市障害福祉センター、 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 岩永 裕人
OI-2-6	NICUに入院する超低出生体重児に対する早期作業療法 ～General Movement Checklistを用い自発運動の縦断的变化を確認した一症例～ Longitudinal changes in spontaneous movements were using the general movement checklist in NICU: A single case study	済生会山形済生病院 リハビリテーション部 渋谷 勇人
<b>発達障害 3</b>		<b>座長：飯田 妙子（聖隷クリストファー大学）</b> 11月11日（土）10:10～11:10 第6会場
OI-3-1	自閉スペクトラム症の未就学児に対する、はみがきの提示方法で目的や手順の理解につながった事例 A case study : how tooth brushing is presented to preschool children to help them understand the purpose and procedure.	東浦平成病院 リハビリテーション科 數中 雅之
OI-3-2	学童期自閉スペクトラム症児の睡眠覚醒リズムと感覚特性の関連性～活動量計による調査～ Relationship between Sleep Wake Cycle and Sensory Characteristics in School-Age Children with Autism Spectrum Disorder	医療法人公生会 竹重病院 リハビリテーション部 近藤 優樹
OI-3-3	自閉スペクトラム症児の感覚プロファイルと立位でのズボン履き動作との関連 Relationship between Sensory Profile and Standing Trouser-wearing Motion in Children with Autism Spectrum Disorder	いろは訪問看護リハビリステーション、 山形県立保健医療大学大学院保健医療学研究科 伊藤 詩奈
OI-3-4	知的障害区分の特別支援学校に通う児童生徒の食行動に関する調査 ～診断および学部による比較～ Survey on Mealtime Behavior of Students in Special Support School	大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科 中岡 和代
OI-3-5	就学前 ASD 児の偏食と運動発達の関係 Relationships between food selectivity and motor development in preschool children with autism spectrum disorder	愛知県医療療育総合センター中央病院 リハビリテーション科 松田 祥子
<b>発達障害 4</b>		<b>座長：平野 大輔（国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科）</b> 11月11日（土）14:50～16:00 第4会場
OI-4-1	不器用における拇指-示指タッピングと日常生活上の協調運動との関連 Relationship between thumb-index finger tapping and motor coordination in daily life in clumsy children	北海道医療大学リハビリテーション科学部作業療法 学科、 札幌医科大学大学院保健医療学研究科 吉田 彩華
OI-4-2	軽度知的障害と発達障害がある若年成人の就労意思決定過程 Employment Decision-Making Process of Young Adults with Mild Intellectual Disabilities and Neurodevelopmental Disorders	県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学コース 助川 文子
OI-4-3	重症心身障害者に対するギャッチアップが姿勢の崩れと体圧分布に及ぼす影響 Effects of elevate the head of the bed on postural disorientation and body pressure distribution for patients with SMID	北海道済生会みどりの里 佐藤 匠
OI-4-4	知的障害区分の特別支援学校における学校コンサルテーション ～支援共有シートを用いた3回のコンサルテーションによる効果検証～ School Consultation in Special Needs Schools for Intellectual Disability ～Impact of Three Consultations on Children～	京都橘大学 健康科学部作業療法学科、 大阪府立大学 総合リハビリテーション学研究科 原田 瞬
OI-4-5	ライフコース理論から見た中高齢期知的障害者をもつ母親の家族と周囲の関係 Family and surroundings relationships of mothers with ID in middle or old age from the perspective of life course theory	京都橘大学 作業療法学科 平本 憲二
OI-4-6	発達障害児における箸の自助具選択のための早見表の作成 ～手指機能の発達段階に応じた分類～ Creating a Simplified Chart to Select Chopstick Self-help Tools for Children Based on Development of Hand Skills	さいたま市はるの園 大川 綾佳
<b>発達障害 5</b>		<b>座長：中島そのみ（札幌医科大学）</b> 11月12日（日）8:30～9:30 第7会場
OI-5-1	小集団療育を通し登校が限局的な児の対人トラブル・登校しぶりが改善した一症例 A case study of improvement of interpersonal problems and refusal to attend school through small group therapy	発達支援ルームらしど 白井 若奈
OI-5-2	協調運動の困難さがある神経発達症児の日常生活活動に対する集団作業療法の効果に関する予備的研究 The effect of group occupational therapy for ADL in clumsy children with neurodevelopmental disorders: A pilot study	東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 東恩納拓也
OI-5-3	学校作業療法を安定的に実践できるようになるまでのプロセス： ～障壁やその対処方法に関する質的研究～ The process until to be able to provide school-based occupational therapy: ～A qualitative study for barrier and approach～	五反田リハビリテーション病院 山口 桜子
OI-5-4	児童発達支援事業所における Tools of the Mind を基盤にした集団療育を通して日常場面での他児との関りが増加した一例 A case study of group therapy based on Tools of the Mind increased interaction with other children in daily contexts.	社会福祉法人ことのは海会ふわり諒士、 長崎大学医歯薬学総合研究科 前田 航大
OI-5-5	学齢期発達障がい児における Developmental Eye Movement test の特徴 Characteristics of Developmental Eye Movement test for school-aged children with developmental disabilities	大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科 立山 清美



OJ 高齢期		座長：田平 隆行 (鹿児島大学)
高齢期 1		11月10日(金) 13:20～14:20 第6会場
OJ-1-1	ナビアプリを用いた高齢者の移動支援 ～高齢者および若年者の視線行動の特徴と効率的歩行に関する研究～ Assistance for Mobility with Application in Older Adults ～ Gaze Behavior and Efficient Walking in Older and Young Adults ～	鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程 下木原 俊
OJ-1-2	病院転倒自己効力感尺度の内容妥当性の検証 Development and content validation of the new Falls Efficacy Scale in hospital.	東京湾岸リハビリテーション病院 渡邊あゆみ
OJ-1-3	主観的記憶障害を有する地域在住高齢者の高次生活機能の特徴 Characteristics of higher-level competence in community-dwelling older adults with subjective memory complaints.	垂水市立医療センター 垂水中央病院 赤崎 義彦
OJ-1-4	要介護高齢者の作業ギャップの特徴と生活満足度の分類 Classification of life satisfaction by occupational gap and its characteristics among older adults with care needs	神戸学院大学大学院 博士後期課程 見須 裕香
OJ-1-5	重度認知症高齢者が表出する非言語的サインの特徴 ～絵カードを用いた作業療法場面の観察より～ Nonverbal signs expressed by elderly people with severe dementia ～ Occupational therapy scene using picture cards ～	公益財団法人結核予防会新山手病院 リハビリテーション科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科学域博士前期課程 金井 千秋
高齢期 2		座長：竹内さをり (甲南女子大学)
11月11日(土) 11:20～12:30 第6会場		
OJ-2-1	くも膜下出血後の意思疎通困難な患者に役立つライフヒストリーカルテ ～食事の自己摂取に着目した ABAB デザインによる検討～ Life History Chart is useful for subarachnoid hemorrhage patient with communication difficulty ~ ABAB design ~	医療法人珪山会鶴岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部 林 悠大
OJ-2-2	孤立と孤独感の乖離が生じている高齢者の臨床的特徴 Clinical Characteristics of Older Adults with Divergence between Isolation and Loneliness	宝塚医療大学 和歌山保健医療学部、 北海道大学大学院 保健科学院 松崎 由莉
OJ-2-3	回復期リハビリテーション病棟における認知症患者の FIM effectiveness に関する要因の検討 Factors associated with FIM effectiveness in patients with dementia in recovery rehabilitation ward.	医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科 天真 正博
OJ-2-4	高齢労働者における作業バランス達成のための戦略に関する質的研究 A Qualitative Study of Strategies for Achieving Occupational Balance in Older Workers	札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 理学療法学・作業療法学専攻 吉田 唯乃
OJ-2-5	地域在住高齢者における心の理論と認知機能との関連 Relationship between the theory of mind and cognitive function in community-dwelling older adults	国際医療福祉大学 福岡保健医療学部作業療法学科、 鹿児島大学 医学部客員研究員 ハンゴアンヒ
OJ-2-6	「もの忘れを補う方法を学ぼう：予定管理編」講座と聴講者アンケート A course "learn how to compensate for memory decline: schedule management" and questionnaire	信州大学 学術研究院保健学系 上村 智子
高齢期 3		座長：藪脇 健司 (東北福祉大学)
11月11日(土) 14:50～16:00 第2会場		
OJ-3-1	ニューラルネットワーク解析を用いた BPSD 陽性症状と陰性症状の出現予測モデルの作成 Prediction Model for Positive and Negative Symptoms of BPSD Using Neural Network Analysis	関西医療大学 保健医療学部 作業療法学科 木村 大介
OJ-3-2	地域在住高齢者における状況図課題の理解度と認知機能特性 Investigation of the factors related the context picture of the VPTA in community-dwelling older adults	関西医科大学 リハビリテーション学部、 上ヶ原病院 リハビリテーション科 砂川 耕作
OJ-3-3	主観的記憶障害を有する高齢者の服薬管理の特徴 Characteristics of medication management in older adults with Subjective Memory Complaints	鹿児島大学大学院保健学研究科 博士前期課程、 医療法人三州会 大勝病院 中原 伶奈
OJ-3-4	回復期リハビリテーション病棟患者における入院時食事摂取方法が退院時 ADL に及ぼす影響 Influence of oral intake level at admission on ADL independence level at discharge in a rehabilitation ward	医療法人尚豊会 みたき総合病院 西川 葵
OJ-3-5	楽しさを考慮した作業の提供により余暇活動が習慣化した廃用症候群の事例 A case of disuse syndrome in which leisure activities became habitual through the provision of enjoyment-oriented tasks	イムス札幌内科リハビリテーション病院 坂元 悠太
OJ-3-6	地域高齢者における作業的挑戦の高低状態に関連する因子の検討 Factors associated with high and low occupational challenge status in the community elderly	田名老人保健施設 光生 comedical部 リハビリテーション科 迫田 裕司
高齢期 4		座長：小川 真寛 (神戸学院大学)
11月12日(日) 8:30～9:30 第6会場		
OJ-4-1	COVID-19(コロナ) 禍において復職支援を行った通所リハビリテーションの一事例 A case study of day rehabilitation supporting return to work in the COVID-19	介護老人保健施設清雅苑 清雅苑リハビリテーション部 西 聡太

口述発表

OJ-4-2	認知症に伴う BPSD 症状に対する没入型 VR 回想法の効果の検証 ～シングルケーススタディ AB デザインを用いて～ Examining the Effectiveness of immersive VR reminiscence for BPSD ～ single-case experimental design by AB design ～	医療法人喬成会花川病院 リハビリテーション部、 北海道文教大学大学院 リハビリテーション科学研究 科リハビリテーション科学専攻 今西 優美
OJ-4-3	地域在住認知症高齢者の認知機能低下に伴う家事能力（食後の片付け、生活用品・寝具管理、 掃除、ゴミ処理）の特徴 characteristics on housework skills associated with cognitive decline in community-dwelling older adults with dementia	鹿児島大学医学部保健学科 田平 隆行
OJ-4-4	在宅認知症高齢者に対する認知機能支援機器の提供に関わる専門職の役割と課題：インタ ビュー調査 The Role and Barriers of Home Healthcare Professionals in Providing Assistive Products for Older Adults with Dementia	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 川崎めぐみ
OJ-4-5	身だしなみから BPSD の改善を図る Improving BPSD through grooming.	社会医療法人親仁会みさき病院 リハビリテーション科 中村 明治
<b>OK 認知障害（高次脳機能障害を含む）</b>		
<b>認知障害（高次脳機能障害を含む）1</b>		<b>座長：滝澤 宏和（新座病院）</b> 11月10日（金）12:10～13:10 第6会場
OK-1-1	半側空間無視の回復と代償に関連する神経生理学的特徴～スコopingレビュー～ The neurophysiological features associated with unilateral spatial neglect recovery and compensation ~ A scoping review ~	大阪公立大学 リハビリテーション学研究所 上田 将也
OK-1-2	自己身体無視により更衣練習の導入及び介入に難渋した事例への工夫 ～身嗜みという非言語 Communication における意味づけを通じて～ A device for the case who had difficulty in the practice of changing clothes due to personal neglect	慶生会脳神経外科病院 リハビリテーション科 西 友希
OK-1-3	単純化された言語メモが有効であった左半球損傷による健忘を伴う道順障害の一例 A case of heading disorientation with amnesia due to left hemisphere injury in which verbal notes were effective	国保直営総合病院 君津中央病院 リハビリテーション科 野崎 貴裕
OK-1-4	Catherine Bergego Scale で評価される半側空間無視に影響を与える因子の検討 Examination of factors influencing unilateral spatial neglect as assessed by the Catherine Bergego Scale	京都市民連あすかい病院 リハビリテーション部、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究所 中井 俊輔
OK-1-5	幻視への対処行動により症状を軽減できた中枢神経原発悪性リンパ腫の1症例 A case of PCNSL-induced visual hallucinations reduced by coping behavior.	京都大学医学部附属病院リハビリテーション部 馬場 千夏
<b>認知障害（高次脳機能障害を含む）2</b>		<b>座長：澤田 辰徳（東京工科大学）</b> 11月11日（土）12:30～13:30 第7会場
OK-2-1	回復期リハビリテーション病棟入院中に職場の上司と面談し、復職が可能となった高次脳 機能障害患者4事例に関する報告 Four cases of patients with higher brain dysfunction who met with their workplace supervisor during hospitalization	医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院 リハビリテーション部 中島 恵美
OK-2-2	COVID-19 罹患後に出現した高次脳機能障害に対する作業療法 Occupational therapy for higher brain dysfunction after COVID-19	長崎大学病院 リハビリテーション部 光永 済
OK-2-3	障害の開示・非開示が一般就労に与える影響 Effects of Disclosure/Nondisclosure of Disability on General Employment	医療法人大植会 葛城病院 リハビリテーション部作業療法課 永田 作馬
OK-2-4	当院における脳卒中後の自動車運転再開支援システム Support system for resuming automobile driving after stroke in our hospital	社会医療法人財団白十字会白十字リハビリテーショ ン病院 リハビリテーション部 納富 亮典
OK-2-5	逆方向連鎖化を用いてスマートフォンにて家族と連絡をとれるようになった事例 A case study of being able to contact family members by mobile phone using backward chaining technique	医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 回復期支援部 宇田川笑花
<b>認知障害（高次脳機能障害を含む）3</b>		<b>座長：齊田 和哉（広島大学）</b> 11月11日（土）14:50～16:00 第3会場
OK-3-1	Mild Cognitive Impairment の新たなスクリーニング評価の開発 ～ Cognitive Composition Test の妥当性と有効性の検討～ Development of new screening assessment for MCI ～ Validity and Effectiveness of Cognitive Composition Test ~	森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 田丸 佳希
OK-3-2	鍵探し検査 (Key Search Test;KST) の認知機能障害スクリーニング検査としての有効性 第2報 Effectiveness of key search test as a screening test for cogitive imparment 2nd report	医療法人社団高邦会 柳川リハビリテーション病院 作業療法室 重藤 旭
OK-3-3	かぶり型衣服の着衣障害に対し衣服内側にランドマークを貼付することで奏功した症例 The case of dressing disability was an improvement by attaching a landmark on the inside of clothes.	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 山本 潤
OK-3-4	施設入所認知症高齢者の QOL に活動・参加が及ぼす影響の検討 Effects of activity and participation on quality of life of people with dementia in care facilities	日本福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科作業療法専攻 田中 将裕





OK-3-5 頭部外傷者における作業負荷時の易疲労・ストレスの特徴  
～疲労可視化と易疲労コントロールのための予備的研究～  
The characteristics of fatigue and stress from workload for people with TBI  
～ for fatigue visualization and management ～  
なやクリニック  
江尻 知穂

OK-3-6 高齢者に対して Mixed Reality を認知機能トレーニングとして用いた効果についての予備的研究  
Effect of using mixed reality as cognitive function training for the elderly: A preliminary study  
関西医科大学 リハビリテーション学部  
橋本 晋吾

**OL 援助機器**

援助機器 4/ 理論 1  
座長：寺村 健三 (和歌山県立医科大学附属病院)  
11月11日(土) 14:50～16:00 第7会場

OL-1-1 Brain-computer interface を上肢動作支援ロボットに実装するためのアプリケーション開発  
Application development for implementing a brain-computer interface to an upper-limb movement support robot  
埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究所、  
戸田中央リハビリテーション病院 リハビリテーション科  
山本 禎

OL-1-2 没入型 Virtual Reality 技術を使用した高次脳機能障害評価  
～注意障害と左半側空間無視を呈した一例～  
Higher brain dysfunction assessment with VR technology  
～ a case with attention disorder & left unilateral spatial neglect ～  
適寿リハビリテーション病院、  
神戸大学大学院保健学研究科  
山本安里子

OL-1-3 作業療法士が関わる介護ロボット開発支援の紹介～排泄動作支援機器の開発～  
Support for the development of care robot by occupational therapist  
兵庫県立福祉のまちづくり研究所  
福元 正伸

OL-1-4 バーチャルリアリティー視聴による体性痛への影響の検証  
VR  
済生会大牟田病院  
穴井 崇士

OL-1-5 対象を「作業的存在」として捉えた介入により急性期から QOL 向上に繋がる目標を見つけ  
た脳腫瘍患者の一事例  
The brain tumor patient found goal for improving QOL in the acute phase  
～ The client as an "Occupational being" ～  
産業医科大学病院 リハビリテーション部  
辻野 千尋

OL-1-6 急性期病院作業療法の介入戦略としての院内活動実践プログラムの提案  
Proposal of In-hospital Life Activities Practice Program as an Intervention Strategy for Acute Hospital  
国際医療福祉大学成田病院  
リハビリテーション技術部  
白砂 寛基

**ON 地域**

地域 1  
座長：小林 法一 (東京都立大学)  
11月10日(金) 12:10～13:10 第4会場

ON-1-1 Self Assessment Burden Scale-Motor と FIM-M の関連  
～ FIM-M を予測する重回帰式の作成～  
Relation between Self Assessment Burden Scale-Motor and FIM-M  
～ developing multiple regression equations to predict FIM-M ～  
森ノ宮医療大学、  
医療法人 篤友会 関西リハビリテーション病院  
兼田 敏克

ON-1-2 高齢者の近所付き合いと社会的孤立との関連  
～ JAGES2013-2016-2019 縦断パネル研究～  
The association between neighborhood and social isolation among the older people.  
～ JAGES2013-2016-2019 longitudinal study ～  
千葉大学  
山田 彩恵

ON-1-3 作業療法士が障害者福祉施設でコンサルテーションする意義  
～強度行動障害者への介入からみえたこと～  
Significance of occupational therapists consulting at welfare facilities  
～ For challenging behaviour ～  
特定医療法人 共和会 共和病院  
久留宮なざ紗

ON-1-4 子どもの身体的・心理的素養を育成するプログラムの開発  
～産学官民連携による総合型地域スポーツクラブの支援と作業療法士の役割～  
Development of mental and physical development programs for children  
～ Support and role in community sports clubs ～  
熊本保健科学大学 健康・スポーツ教育研究センター  
益満 美寿

ON-1-5 地域高齢者における作業参加状況による 14 年後の慢性疾患有病率のリスク比  
～前向きコホート研究～  
Prevalence ratio of chronic diseases after 14 years due to occupational participation in community elderly ～ cohort study ～  
北里大学 医療衛生学部  
今井 忠則

地域 2  
座長：久野 真矢 (県立広島大学)  
11月10日(金) 13:10～14:20 第2会場

ON-2-1 高齢者の健康増進のための質問紙 Health Enhancement Lifestyle Profile (HELP) 日本語版の構造的妥当性と信頼性についての検証  
Reliability and construct validity of the Japanese version of the Health Enhancement Lifestyle Profile (HELP)  
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部作業療法学科、  
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科  
科博士後期課程  
中村めぐみ

ON-2-2 ユニバーサルデザイン地図作成における作業療法士の視点と実践  
Perspectives and practices of occupational therapists in the universal design mapping  
佛光大学 保健医療技術学部作業療法学科  
赤松 智子

ON-2-3 5年ぶりに卓球がしたい  
～TVゲームを通して活動範囲の拡大が見られた症例～  
I want to play table tennis for the first time in 5 years  
～ A case in which activity was expanded through a video game ～  
社会医療法人 熊谷総合病院  
医療技術部リハビリテーション科  
関野 航嘉

ON-2-4 高齢者に対する作業の価値調査票の信頼性・妥当性の検討  
The reliability and validity of Questionnaire of Occupational Value for Elderly people  
東京天使病院 リハビリテーション科  
岩崎 純平

口述発表表



ON-2-5	働き世代にある日本の人々が親の介護者になる移行の特徴 ～親のケアに携わる作業的経験を通して～ Transitional characteristics of occupational experiences on becoming a caregiver for their parents	さわやか訪問看護ステーション、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法 科学域 鈴木 洋介
ON-2-6	Self Assessment Burden Scale- と FIM-C の関連 ～ FIM-C を予測する重回帰式の作成～ Relation between Self Assessment Burden Scale-Motor and FIM-C ～ developing multiple regression equations to predict FIM-C ～	医療法人 篤友会 関西リハビリテーション病院 染井 佑太
<b>地域 3/MTDLP 2</b>		<b>座長：務台 均 (信州大学)</b> 11月10日 (金) 14:30～15:30 第4会場
ON-3-1	小学校における ICF 概念にもとづく障害理解教育授業の効果 Effects of Disability Understanding Education Classes Based on the ICF Concept in Elementary School	医療創生大学 健康医療科学部作業療法学科 慶徳 民夫
ON-3-2	当院における退院後訪問の取り組み Post-discharge visits at our hospital	三重北医療センター菟野厚生病院 総合リハビリテーション科 杉野 恵理
ON-3-3	障がい者の性被害等に関する文献研究 Literature research on sexual victimization of people with disabilities	名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション 療法学専攻 稲葉 瑛美
ON-3-4	デマンド型交通を利用し買い物へ行けるようになった症例 A case of being able to go shopping using demand-type transportation	社会医療法人 熊谷総合病院 阿部 彩花
ON-3-5	生活行為向上マネジメントによる訪問リハビリテーションが地域在住高齢者の生活行為に 及ぼす影響 Effects of home-visit rehabilitation using Management Tool for Daily Life Performance on the community dwelling elderly	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 地域医療部 訪問リハビリテーション科 山田 剛史
<b>地域 4</b>		<b>座長：田村 浩介 (株式会社いきがいくリレーション)</b> 11月11日 (土) 10:10～11:10 第4会場
ON-4-1	地域在住高齢者による家庭内役割の認識～日常生活に関する語りの質的分析より～ Perceptions of Domestic Roles by Community-dwelling Elderly ～ Using Narratives Analysis for Their Daily Life ～	国際医療福祉大学成田病院 リハビリテーション技術部 加納 裕遵
ON-4-2	回復期病棟退院後の追跡調査から見た在宅患者の再入院率と影響する因子 Readmission rate and influencing factors of home-based patients seen from follow-up survey after from convalescent ward	医療法人せいわか 登美ヶ丘リハビリテーション病院 リハビリテーション部 西田 裕司
ON-4-3	作業療法士が就労支援事業所に転職し魅力を発見するプロセスの質的解明 ～キャリア発達のロールモデルの明示を目指して～ Elucidating the process by which OTs change jobs and discover the attractiveness of employment support services.	徳島医療福祉専門学校 作業療法学科、 吉備国際大学大学院 保健科学研究科 作業療法学専攻 森口智恵美
ON-4-4	通所リハビリテーションにおける自動車運転支援 Automobile Driving Assistance in Day-Care Rehabilitation	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテ ーション病院 リハビリテーション部 上杉 治
ON-4-5	CIQ-R 日本語版は社会作業療法のツールとなるか？ The CIQ-R Japanese Version is a useful Tool for Social Occupational Therapy?	特定非営利活動法人ゆとり 坂本 暁彦
<b>地域 5</b>		<b>座長：石川 隆志 ((有) ケアサプライなかみちケアセンター)</b> 11月11日 (土) 11:20～12:20 第4会場
ON-5-1	当院で作成した就労評価表を用いた地域連携の実践 ～重度高次脳機能障害を呈した50歳代男性の復職に向けた作業療法～ Regional cooperation using the original employment evaluation table ～ returning to work for higher brain dysfunction ～	東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 諏訪部亮太
ON-5-2	就労継続支援サービス利用者の社会参加 Social Participation of Persons with Disabilities using Continuous Supports Survives on Vocational Rehabilitation	特定非営利活動法人ゆとり 清水 由佳
ON-5-3	当院通所・訪問リハビリテーション利用者で「働きたい」ニーズのある方の支援 Supporting users who want to work in our daycare center and homevisit rehabilitation service	八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 武平 孝子
ON-5-4	意識調査からみる MTDLP を用いた愛知県刈谷市の訪問型サービス C の現状と課題 Current Status and Issues of Home Visiting Program C in Kariya City, Aichi Using MTDLP as Seen from an Attitude Survey	刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科 宗像沙千子
ON-5-5	訪問介護員による生活支援の取り組みと困りごとに関する質的研究 A Qualitative Study of Home Care Workers' Efforts and Problems to Support Daily Life	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法 科学域 博士前期課程、 医療法人社団哺育会 浅草病院 坂本 泰平
<b>地域 6</b>		<b>座長：河野 眞 (国際医療福祉大学)</b> 11月11日 (土) 12:20～13:30 第2会場
ON-6-1	中学校の通学認識に関連する要因の探索的解明～6429名の横断的調査～ Feelings of school attendance and relevant variables ～ A cross-sectional survey of 6429 junior high school students ～	公立大学法人埼玉県立大学 大学院保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学部 中村 裕美



ON-6-2	チリ共和国, JICA 海外協力隊 OT 隊員が行った作業療法啓発活動の継続性について ～活動終了5年後再訪, アンケート調査を通じて～ Continuity on activities of JICA volunteer in Chile. ～ Through survey by questionnaire I revisited five years later ~	独立行政法人 国立病院機構 埼玉病院 リハビリテーション科 池本 英哲
ON-6-3	仁淀川町のハツラツはフレイル状態であった高齢者の免許返納意識を変えた! Hatsurats in Niyodogawa Town, changed the mindset of elderly people who were in a frail state to return their licenses.	高知リハビリテーション専門職大学 有光 一樹
ON-6-4	高齢者にやさしい都市環境の構築における作業療法士の潜在的な役割 ～ Q-methodology 研究～ The potential roles of occupational therapists in creating Age-Friendly urban environment ～ A Q-methodology study ~	東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法科学域 安齋 哲也
ON-6-6	地域在住高齢女性における自動車運転の経験と認知機能の関連 Association between experience of car driving and cognitive function in community-dwelling older women	鹿児島大学 大学院保健学研究科, 鹿児島大学 医学部保健学科 赤井田将真
<b>地域 7 / 援助機器 2</b>		<b>座長：内藤 泰男 (大阪公立大学)</b> 11月11日(土) 13:40～14:40 第4会場
ON-7-1	地域在住高齢者の要介護認定に関連する基本チェックリストの領域と回答項目 Kihon Checklist domains and items related to the care needs of the elderly living in the community	長野保健医療大学 保健科学部, 信州大学 大学院 総合理工学研究科 古川 智巳
ON-7-2	地域在住高齢者におけるソーシャルネットワークの変化の予測要因 ～就労に着目した縦断的調査～ Predictors of social network change among community-dwelling older adults ～ a longitudinal study focusing on working ~	医療法人社団大蔵会 札幌佐藤病院 作業療法科, 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 山 功恭
ON-7-3	作業参加は 14 年後の入院や要介護認定のリスクを抑制するか? ～地域在住高齢者を対象とした縦断研究～ Does occupational participation reduce the risk of hospitalization and certification of long-term care 14 years later?	群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 小林 昭博
ON-7-4	作業ストーリーテリングを活用した計画実行型・認知症予防介入“カラー・ナラティブ”の効果～ランダム化比較試験～ Effects of “Color Narrative”, a preventive intervention using occupational storytelling: a randomized controlled trial	北海道大学大学院保健科学研究院 リハビリテーション科学分野 高島 理沙
ON-7-5	福祉用具支援サービスにおける作業療法士の役割と機能 ～福祉用具支援サービスに対する 29 年間の普及活動報告と今後の課題について～ Roles and Functions of OT in Assistive Technology Services ～ Report on 29year's activities for AT and future issues ~	大阪市援助技術研究室 米崎 二郎
<b>地域 8</b>		<b>座長：中西 康祐 (名古屋女子大学)</b> 11月12日(日) 8:30～9:30 第4会場
ON-8-1	作業に焦点を当てた教育プログラムに参加した地域在住高齢者における作業の知識やスキルの活用プロセス探索 Exploring the Utilization Process in Older Adults Participating in an occupational-Focused Educational Program	茨城県立医療大学保健医療学部作業療法学科 伊藤 文香
ON-8-2	異世代ホームシェアは高齢者世代と若者世代それぞれに何をもたらすのか What does intergenerational home sharing bring to each of the older and younger generations?	京都橘大学 健康科学部作業療法学科, 静岡大学創造科学技術大学院 情報科学専攻 川崎 一平
ON-8-3	山口県防府市の短期集中予防型通所サービスの成果 ～動機づけ面談と「本人の資源」に着目した取り組み～ Achievement of short-term intensive preventive service in Hofu City ～ Motivational interview and focus on individual assets ~	独立行政法人山口県立病院機構山口県立総合医療センター リハビリテーション科, 防府市役所 健康福祉部高齢福祉課地域包括支援係 原 直利
ON-8-4	我が国の作業療法士にとっての移民・難民の不可視性 Invisibility of Immigrants and Refugees to Occupational Therapists in Japan	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 河野 真
ON-8-5	通所 C と訪問 C を併用した事で、一人で買い物に行く事が出来た一例 An example of a person who was able to shop by himself using both Commute C and Visit C	リハガーデンてくてく 井浦優太郎
<b>地域 9</b>		<b>座長：宇田 薫 (おもと会統括本部)</b> 11月12日(日) 9:40～10:40 第4会場
ON-9-1	リハビリテーション会議終了後も活動範囲が拡大した一症例 A case where the range of activities expanded even after the end of the rehabilitation meeting.	名古屋市長総合リハビリテーションセンター 介護保険科 森田 勝
ON-9-2	認知症当事者の利用を想定した公共図書館の物理的環境改善に関する研究 Research on Improving the Physical Environment of Public Libraries for Use by People with Dementia	京都橘大学 健康科学部作業療法学科 永井 邦明
ON-9-3	要支援者の訪問リハビリテーション 12 ヶ月以上の利用に対する介護報酬減算の妥当性 Subtraction of nursing care benefits for Home-Visit Rehabilitation beyond 12 Months in Support Requiring Persons	公益財団法人脳血管研究所 訪問看護ステーション ラーチア リハビリテーション部門 飯野 雄太
ON-9-4	訪問作業療法にて脳出血の既往があり喉頭癌によって永久気孔を造設した方に対し浴槽浴に向けて CO-OP アプローチを導入した一事例 A case of the client with a tracheostoma due to laryngeal cancer using the CO-OP approach for standing up in the bathtub	IMS<イムス>グループ イムス板橋リハビリテーション病院 松澤 良平
ON-9-5	同一課における同僚のメンタルヘルス不調に対する傷病欠勤の影響 The effect of sickness absence on mental health problems of colleagues in the same division	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻 小井 美波

**OP 基礎研究**

**基礎研究 1**

座長：平川 裕一（弘前大学大学院）

11月10日（金）14:30～15:30 第7会場

OP-1-1	尺側指伸展の有無による示指分回し運動時の手指筋活動の変化 Change in hand muscle activity during index finger rolling movement with and without ulnar fingers extension	広島大学大学院医系科学研究科 倉内 和哉
OP-1-2	脳卒中片麻痺患者の手指開閉運動から筋緊張を予測するアプリケーション開発 ～予備的研究【第二報】～ Development of an application to predict muscle tone in hemiplegic stroke patients ～Preliminary research [second report]～	埼玉県立大学大学院、 東京歯科大学市川総合病院 リハビリテーション科 斎藤 剛史
OP-1-3	手関節部位が虫様筋の筋活動に与える影響 Influence of wrist position on lumbrical muscle activity	広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門、 広島大学 大学院医系科学研究科上肢機能解析制御科学 後藤 直哉
OP-1-4	箸開閉操作時の手指関節運動と関節間協調運動の特徴 Characteristics of finger joint movement and inter-joint coordination during chopstick opening and closing manipulation	広島大学大学院医系科学研究科 上肢機能解析制御科学 車谷 洋
OP-1-5	意味を介在した手の3すくみの関係性の理解と実行に関わる神経基盤 Neural basis of understanding and executing the meaning-mediated hand transverse patterning task	名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科、 東北大学大学院医学系研究科 肢体不自由学分野、 東北大学加齢医学研究所 堀 杉子

**基礎研究 2**

座長：東 登志夫（長崎大学）

11月11日（土）12:30～13:30 第4会場

OP-2-1	注意の能動的制御における経頭蓋直流電気刺激および経頭蓋ランダムノイズ刺激の効果 ～二重盲検無作為化比較試験～ Different effectiveness of tDCS and tRNS on active inhibition. ～A double-blind randomized controlled trial (RCT)～	北海道大学大学院保健科学研究院 リハビリテーション科学分野 澤村 大輔
OP-2-2	没入型仮想現実によるミラーセラピーの妥当性について The validity of immersive virtual reality-based mirror therapy.	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 岡村 諒平
OP-2-3	バーチャルリアリティ (VR) を用いた森林環境の体験によるストレス緩和効果 ～対話性における視覚・移動の影響～ The Effect of Forest Environment Using VR on Stress Reduction ～The Influence of Vision and Movement on Interactivity～	札幌医科大学大学院保健医療学研究科 感覚統合障害分野 熊谷 颯人
OP-2-4	生花とハーブを使ったフラワーアレンジメントの自律神経活動への影響 Effects of flower arrangements with fresh flowers and herbs on autonomic nervous system activity.	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部 田崎 史江
OP-2-5	塗り絵における手本の有無が脳活動に及ぼす影響 ～eLORETA法を用いた電流源推定と機能的連結による検討～ Effects of the presence or absence of a model on brain activity in coloring pictures	大阪河崎リハビリテーション大学、 大阪公立大学 白岩 圭悟

**基礎研究 3**

座長：高橋 慧（仙台青葉学院短期大学）

11月12日（日）9:40～10:40 第5会場

OP-3-1	手の遠位横アーチに関する利き手・非利き手、性、年齢による比較調査 Basic survey of the distal transverse arch of the hand: comparison of the dominant and non-dominant hand, gender and age	茨城県立医療大学 作業療法学科 白石 英樹
OP-3-2	MRガイド下集束超音波治療を施行した本態性振戦症例のAMPSを用いたADL分析 ADL analysis by AMPS in essential tremor cases treated with MR-guided focused ultrasound treatment	社会医療法人 柏葉会 柏葉脳神経外科病院 リハビリテーション部 森谷 綾子
OP-3-3	回復期リハビリテーション病棟で作業中心の実践をする作業療法士の関係性構築の戦略 Strategies of Occupational therapists in convalescent wards that establish relationships with client	中伊豆リハビリテーションセンター リハビリテー ション部、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法 科学域 博士前期課程 吉政 豪也
OP-3-4	健常成人における感覚処理特性と自律神経機能および自閉症傾向・気分状態との関連性 Associations between sensory processing abnormalities, autonomic function, autistic traits, and mood state in adults	京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻先端作業療法学講座 大塚日花里
OP-3-5	重要な作業による動機付けへの影響～NIRSを使用した前頭眼窩野の測定による検討～ Effect on motivation of meaningful occupation ～A study of using NIRS to measure the orbitofrontal cortex～	医療法人和光会山田病院 リハビリテーション部、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究所 石川真太郎

**OQ 管理運営**

**管理運営 1**

座長：秋山 尚也（浜松市リハビリテーション病院）

11月11日（土）13:40～14:40 第5会場

OQ-1-1	コロナ禍における当院作業療法課での情報共有システムの再考について【第2報】 Reconsidering the information sharing system at our Occupational Therapy Division in the COVID-19 crisis 2nd report	医療法人 智仁会 佐賀リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法課 松石健一郎
OQ-1-2	勤労者役割面接と勤労者環境影響尺度の尺度特性の検討 Psychometric properties of Worker Role Interview and Work Environment Impact Scale	介護老人保健施設エスポワール越谷 リハビリテーション課 島崎 翔子



0Q-1-3	作業療法士の職業的アイデンティティの現状についての検討 ～看護師、理学療法士、言語聴覚士との比較～ A study of the current state of occupational therapists' professional identity ～ Comparison with NS, PT, and ST～	川崎医療福祉大学 作業療法学科、 岡山県立大学 保健福祉学研究所 小池 康弘
0Q-1-4	医療従事者の作業機能障害と離職意向、ワークエンゲージメント、および関連要因に関する横断研究 A cross-sectional study of occupational dysfunction and turnover intentions, work engagement among healthcare workers	倉敷老健 長井健太郎
0Q-1-5	セラピストと学生のリスク認知と視線運動の特徴 Risk perception and eye movement characteristics of therapists and students	大阪医療福祉専門学校 林 亜遊
<b>OR 教育</b>		
<b>教育 1</b>		<b>座長：柴田 克之（金沢大学医薬保健研究域保健学系）</b> 11月10日(金) 15:40～16:50 第7会場
OR-1-1	リスクマネジメント教育ツール試作版 S-TPKYT の開発 Creation of risk management education tool trial version S-TPKYT	大阪医療福祉専門学校 林 辰博
OR-1-2	OT 専門学校と高等学校のキャリア教育連携プログラムの開発に関する実証 Development of Career Education Coordination Program	琉球リハビリテーション学院 作業療法学科 上江洲 聖
OR-1-3	作業療法学生が臨床実習で経験するヒヤリ・ハットの調査研究 Occupational therapy students' experiences of "Hiyari-Hatto" on Fieldwork: a survey study	川崎医療福祉大学 作業療法学科 徳地 亮
OR-1-4	初年次における学業成績（解剖学・生理学）と学業自己効力感の関連について ～多変量解析による検討～ Academic performance and self-efficacy in the first year About related. ～ Examination by multivariate analysis～	医療創生大学 健康医療科学部 作業療法学科 北山 淳
OR-1-5	対話・共同創造プログラムの作業療法学科学生と精神障害者に対するスティグマ低減効果 Effectiveness of a co-production with dialogue program in reducing stigma for OT students and people with mental illness	佛教大学 作業療法学科、 (前) 藍野大学 作業療法学科、 神戸大学大学院 博士後期課程研究生 中西 英一
OR-1-6	地域在住高齢者と作業療法学生の世代間交流に関する考察 A Study on Intergenerational Exchange between Community-dwelling Elderly and Occupational Therapy Students	長崎リハビリテーション学院 井戸 佳子
<b>教育 2</b>		<b>座長：齋藤 佑樹（仙台青葉学院短期大学）</b> 11月11日(土) 11:20～12:20 第5会場
OR-2-1	Virtual Reality を用いたリアルタイムのオンライン臨床実習の効果 ～作業療法学生における認知症に対する態度・イメージへの影響～ Effects of Real-Time Online Clinical Practice Using Virtual Reality ～ The Impact toward the Attitude and Image of Dementia～	大阪公立大学 医学部リハビリテーション学科 作業療法専攻 田中 寛之
OR-2-2	多職種連携教育 VR コンテンツ制作の報告 第2報 Report on Production of Virtual Reality Teaching Materials for Interprofessional Education 2nd Report	学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 四元 祐子
OR-2-3	クライアント中心の3Dプリンタ自助具に関する課題解決型授業の効果検証 The Effectiveness of Problem-Solving Lectures on Client-Centered 3D Printed Assistive technology.	茨城県立医療大学 木口 尚人
OR-2-4	臨床共観で作業療法リーズニングを学ぶ～共観後の作業療法士の気づきから～ Learning occupational therapy reasoning through clinical co-observation ～ Awareness of Occupational Therapists～	神戸健康共和会東神戸病院 リハビリテーション科 東川 邦和
OR-2-5	当事者参画医療社会モデルのシナリオ創出におけるピアサポート DX 化教育 ～ピアサポートを担う OT の役割と育成～ Peer Support DX Education Project for Scenario Creation of Medical Society Model with Disability Persons	目白大学 保健医療学部 作業療法学科 小林 幸治
<b>教育 3</b>		<b>座長：上江洲 聖（琉球リハビリテーション学院）</b> 11月12日(日) 8:30～9:30 第5会場
OR-3-1	COVID-19 影響下での新人教育の取り組みに対する満足度調査 Satisfaction survey on new employee education efforts under the influence of COVID-19	南淡路病院 リハビリテーション部 苅部 直寿
OR-3-2	リハビリテーション専門学校に通う成績不良学生の職業的アイデンティティに着目をした研究～ M-GTA による分析～ A Study Focusing on the Professional Identity of Underachieving Students Attending Rehabilitation Technical Schools	医療福祉専門学校緑生館 作業療法学科、 九州大学大学院人間環境学府 高木 雄作
OR-3-3	職能団体への入会促進および基礎研修履修に向けた取り組み Initiatives to promote membership in professional associations and completion of basic training	社会医療法人愛仁会 尼崎だいもつ病院 リハ技術部作業療法科 菊 修一郎
OR-3-4	「探究」の質を高めるための自分自身を知ることと他者と話し合うことの可能性 Practices of self-knowledge and dialogue have the potential to enhance the quality of inquiry.	県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科作業療法学コース 織田 靖史
OR-3-5	領域別臨床実習における経験事項からの一考察 Considerations from Experiences in Clinical Clerkships by Area	長崎リハビリテーション学院 作業療法学科 桑原 由喜

口述発表



PA 脳血管疾患等

脳血管疾患等 1

11月10日(金) 11:00 ~ 12:00 ポスター会場

PA-1-1	更衣動作改善に向けた患者と介助者のコラボレーションプログラムの実践報告 ～している ADL を取り巻く問題解決の糸口と仕組み作り～ Report of patient-caregiver collaboration for improving dressing behavior ～ Create the structure of problem solving ～	津山中央病院 リハビリテーション部 柿元 翔太
PA-1-2	回復期リハビリテーション病院における ADL 訓練と対象特性の探索的研究 ～潜在クラス分析での検討～ An exploratory study of ADL Training and Target Characteristics in a Rehabilitation ward ～ A Latent Class Analysis ～	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリ テーションセラピスト部、 神奈川県立保健福祉大学 大学院 井上 那築
PA-1-3	本人・家族と大切な作業を共有したことで、本人の主観的 QOL が向上した事例 ～ ADOC による目標共有アプローチ～ Client's QOL was improved by shared important occupation with the client and his family ～ Shared goal approach by ADOC ～	すすかけセントラル病院 診療技術部 リハビリテーション科 佐竹 祐輝
PA-1-4	急性期脳卒中患者の合意目標設定に Paper 版 ADOC を用いて満足度を調査した一例 Using the Paper Version of ADOC to Set Consensus Goals for Acute Stroke Patients Satisfaction surveyed	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 上野 功稀
PA-1-5	ADOC を用いた語りから実現された目標共有～活動から参加へ～ Goal sharing achieved through narratives using ADOC ~ From activity to participation ~	医療法人 三星会 茨城リハビリテーション病院 庄子 雅
PA-1-6	施設への退院が決まり意欲の低下した事例に対する経口摂取に向けた多職種連携支援 Multidisciplinary collaboration to improve swallowing function for clients with decreased motivation : A case study	医療法人社団 葵会 葵会仙台病院 リハビリテーション科 三浦 慶司
PA-1-7	箸操作による知覚探索が語りの変化につながった事例～ ADOC の満足度に着目して～ A case of perceptual exploration through chopstick manipulation leading to narrative change ～ Focusing on ADOC satisfaction ~	康心会夕見台病院 リハビリテーション科 細田 達也
PA-1-8	コイル塞栓術後に脳出血が生じ高次脳機能障害を呈した事例の臨床経過 ～ AMPS を併用した介入の試み～ Cerebral haemorrhage and higher brain dysfunction after coil embolisation - intervention with AMPS.	阪和記念病院 リハビリテーション部 藪下 諒
PA-1-9	重度感覚障害、感覚性失調を呈した事例の食事動作獲得に向けた修正 CI 療法実践の工夫 Modified CI Therapy Practice for Acquisition of Eating Motion in a Case with Severe Sensory Disorders and Sensory Ataxia	医療法人社団 慶仁会 川崎病院 リハビリテーション科 上田 祐二
PA-1-10	修正 CI 療法における利き手、非利き手の違いが効果量に与える影響の検討 Investigation of the influence of dominant and non-dominant hand differences on effect size in modified CI therapy	社会医療法人財団 仙会 恵寿総合病院 北谷 渉
PA-1-11	回復期病棟で早期に CI 療法を実施し、目標とした調理動作を再獲得した一症例 A case of early implementation of CI therapy in a convalescent ward and reacquisition of targeted cooking behavior	医療法人社団 淳英会 おゆみの中央病院 リハビリテーション部 石渡 凌太
PA-1-12	箸の使用獲得に向けた修正 CI 療法に自作した YouTube 動画の利用を試みた事例 A stroke case study of the use of a self-made YouTube for modified CI therapy.	医療法人財団 善常会 善常会リハビリテーション病院 松枝 琢磨
PA-1-13	運動麻痺の増悪がみられた利き手上肢に対して修正型 CI 療法を実施した症例 A case of modified CI therapy for the affected upper limb with worsening motor paralysis	川西市立総合医療センター / リハビリテーション科 久松 和樹
PA-1-14	Covid-19 による隔離期間に自主練習と短時間の OT 介入により上肢機能の向上を認めた脳 卒中患者 2 例 Two stroke patients improve upper limb function through self-training and occupational therapy during Covid-19 isolation	飯能靖和病院 リハビリテーション科 伊藤 俊幸
PA-1-15	課題志向型アプローチと合意目標の重要性の認識 The recognition of the importance of a Task-oriented Approach and Consensus Goals	ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 徳本 綾
PA-1-16	Pusher 現象と半側空間無視を呈したレビー小体型認知症事例に対する作業療法の実践 Occupational Therapy for a Case of Lewy Body Dementia with Pusher Phenomenon and Semi-Lateralized Spatial Neglect	札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 大坂 春奈
PA-1-17	Retrospective Study of Robotic approaches for rehabilitation of hand function after stroke	Rehabilitation department / Division of occupational therapy, Taipei Medical University Hospital Yun-Siou Lin
PA-1-18	簡易上肢機能検査 (STEF) の評価特性検討に関するスコピングレビュー Psychometric Properties of The Simple Test for Evaluating Hand Function (STEF): a scoping review	北里大学大学院 医療系研究科、 国立国際医療研究センター 臨床研究センター 疫学・ 予防研究部 吉原 翔太
PA-1-19	The feasibility of fine motor evaluation by rehabilitation ring for individuals with stroke	Department of Rehabilitation, Fu Jen Catholic University Hospital Sun Jing-Ru

脳血管疾患等 2

11月10日(金) 12:00 ~ 13:00 ポスター会場

PA-2-1	“Wishing to walk beautifully with swinging my arms” ～ Attempts to improve practicality in hybrid therapy ; a case report ~	Motoyama Rehabilitation Hospital Rumi Onishi
--------	---	---





PA-2-2	Effects of transcranial direct current stimulation with mirror therapy on motor and daily functions in chronic stroke	Department of Occupational Therapy, Chang Gung University, Healthy Aging Research Center, Chang Gung University Ching-yi Wu
PA-2-3	脳卒中後アパシーと上肢麻痺に対し Graded Repetitive Arm Supplementary Program (GRASP) によって行動変容を促進した一例 Encouraging behavior change using the GRASP for post-stroke apathy and upper limb paralysis: a case report	済生会 山形済生病院 リハビリテーション部 赤沼 昇也
PA-2-4	急性期脳卒中症例に対するクリニカルリーズニングを用いた作業療法の実践 Occupational Therapy Practice Using Clinical Reasoning for Acute Stroke Patients	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 茂野 湧斗
PA-2-5	脊髄炎を発症して2年半が経過した4歳女兒に対する splint 療法の経験 A case of Splint for a four years old girl with two and half years myelitis	松山市民病院 リハビリテーション室 矢野 俊恵
PA-2-6	脳卒中後に上肢の筋緊張の亢進がみられた症例に対するスプリント療法の効果 ～円錐型スプリントの作成～ Splint therapy for the stroke patient with hypertonia	東京ちどり病院, 東京都立大学大学院博士後期課程 川田 佳央
PA-2-7	事例報告登録制度における公開事例のトピック・モデルを用いた分析 Analysis of published case reports in the case report registration system using a topic model	日本作業療法士協会学術部, 関西医療大学附属診療所 鈴木 真
PA-2-8	脳卒中患者のトイレ動作(下衣の上げ動作)に影響を与える因子の解明と予後予測値の探索 Factors Influencing Toilet Activities for Stroke Patients and Development for Predictive Value	森ノ宮医療大学, 関西リハビリテーション病院 東 泰弘
PA-2-9	当院における Dot 末梢課題とドライブシュミレータとの相関関係についての検討 Analyze of correlation between Dot cancellation tasks and Driving Simulator at our Hospital	京都中部総合医療センター リハビリテーション科 高山 直也
PA-2-10	脳卒中片麻痺患者における上肢ロボット PABLO システムの有用性: 症例報告 Usefulness of upper limb robot PABLO System in hemiplegic stroke patients : a case study	市立野洲病院 リハビリテーション課 岡本 裕一
PA-2-11	傾向スコアマッチングを用いた回復期脳卒中患者への ReoGo-J の自主訓練の有効性について Effectiveness of ReoGo-J Self-Training for Recovering Stroke Patients Using Propensity Score Matching	宝塚リハビリテーション病院 療法部, 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究所 安田 弘希
PA-2-12	iPad を用いた「意味のある作業」の実践により、家族との交流が増加した生活期重度脳卒中者の一症例 A patient with Severe Chronic Stroke Increasing Interaction with Family Based on the Meaningful Occupation Using iPad	医療法人 信愛会 本多病院 白倉 研吾
PA-2-13	回復期脳卒中片麻痺患者におけるベッド・車椅子間の移乗動作自立の縦断的パターンの検討: コホート研究 Longitudinal patterns of acquiring transfer independence in patients with subacute stroke: a cohort study	藤田医科大学 保健衛生学部リハビリテーション学科, 東京湾岸リハビリテーション病院 北村 新
PA-2-14	自動車運転が困難になった訪問リハビリテーション利用者に自転車での移動支援を行なった経験 Experience of assisting a home-visit rehabilitation user who had difficulty driving a car to move by bicycle	伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部 笹沼 里味
PA-2-15	運動失調を呈した小脳梗塞患者に対するADL向上へのアプローチ Rehabilitation of cerebellar infarction presenting cerebellar ataxia:a case report	大阪回生病院 リハビリテーションセンター 田淵 成臣
PA-2-16	アテローム血栓性脳梗塞による失調症状に対する安定性向上のためのアプローチ Approach for improvement of stability in dysautonomic symptoms due to atherothrombotic cerebral infarction.	あいち福祉医療専門学校 作業療学科 安部 美和
PA-2-17	BAD による重度上肢麻痺を呈した症例に対し、複合的な介入により上肢機能の改善に至った一例 A case of severe upper limb paralysis due to BAD, in which upper limb function was improved by combined intervention	埼玉石心会病院 リハビリテーション部 村上 浩基
PA-2-18	体性感覚障害を呈した患者に対して修正 CI 療法を用い、麻痺手の使用頻度と質の向上がみられた一症例 A case of improvement on paretic hand using modified CI therapy for a patient with somatosensory disturbance	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 森 駿
PA-2-19	目標設定に難渋した BAD 事例に対し、ADOC-H と Goal Attainment Scaling を用いて目標設定を行った介入経過 The Intervention using ADOC-H and Goal Attainment Scaling for a patient with BAD, who had difficulty in goal setting	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院 リハビリテーション科 甲斐 慎介
<b>脳血管疾患等 3</b> 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場		
PA-3-1	くも膜下出血を呈した症例に対して NST による介入と作業療法を併行して行った小経験 A case of subarachnoid hemorrhage underwent NST intervention and occupational therapy at the same time	山口県済生会山口総合病院 リハビリテーション部 小田 隆史
PA-3-2	重度片麻痺を呈した症例に対する非利き手による眉メイクの獲得と習慣化への支援 ～SSPC の化粧品技術を用いて～ Helping a patient with severe paralysis to acquire eyebrow makeup with one hand ～ Using SSPC's cosmetic technology ～	IMS グループ医療法人社団明芳会イムス横浜東戸塚 総合リハビリテーション病院 リハビリテーション科 横山 真佑
PA-3-3	Web 会議システム上で ADOC を用いて家族介護者に目標設定への参加を促した経験 A clinical experience that encouraged caregiver to participate in goal-setting using ADOC on a web conferencing system	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーションセラピスト部 小池 真愛

PA-3-4	脳卒中患者の家族が目標設定に参加するための効果的な支援に関する予備的調査 Preliminary research on effective support for families of patients with stroke to participate in goal-setting	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーションセラピスト部、 北里大学 医療衛生学部 田原 正俊
PA-3-5	回復期リハビリテーション病棟での脳卒中重症患者の自宅退院に向けてオンラインを活用した退院支援の取り組み Attempt of discharge support using online to family with a severe stroke patient in convalescent rehabilitation ward	イムス板橋リハビリテーション病院 山田美生香
PA-3-6	回復期脳卒中患者に課題指向型訓練に加えて作業活動を取り入れた支援により、麻痺手の使用行動が改善した一例 A case of stroke patient's paralyzed hand use behavior improved by task-oriented training and occupational activities	慈誠会・練馬高野台病院 リハビリテーション部 畠中慎太郎
PA-3-7	左半側空間無視などを呈した脳卒中後左片麻痺事例に対する両手持持が必要な歩行器歩行獲得に向けた課題指向型練習の取り組み Enabling a stroke patient with left unilateral spatial neglect to use a walking frame, through a Task Oriented Practice	医療法人養和会 養和病院 回復期リハビリテーション病棟 田中 卓
PA-3-8	小脳梗塞患者に対し ADOC を用いた目標設定により復職へと繋がった事例 A Case of Goal Setting Using ADOC in Cerebellar Infarction Patients Leading to Role Reacquisition and Return to Work	JR 東京総合病院 リハビリテーション科、 東京都立大学 人間健康科学研究科 博士後期課程 川端 敦史
PA-3-9	若年脳卒中患者に対する直接的なタイピング訓練が復職を支援した事例 Young stroke patient practiced typing to help them return to work.	医療法人社団 時正会 佐々総合病院 藤島 貴幸
PA-3-10	回復期脳卒中上肢麻痺に対する ReoGo-J 併用効果と適応の検討 Effects and indications of ReoGo-J in combination with conventional OT for upper limb paralysis in subacute stroke	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 渡部 清寛
PA-3-11	回復期における中等度以上の上肢麻痺を呈する脳卒中患者に対する短時間神経電気刺激の効果 Effect of Short-Term Neuromuscular Electrical Stimulation on Stroke with Moderate or Upper Limb Paralysis in Recovery	医療法人社団苑田会竹の塚脳神経リハビリテーション病院 平野 瑞佳
PA-3-12	作業療法と触覚測定機器を併用した介入が脳卒中後重度感覚障害に与える影響～シングルケースデザインによる検討～ Effects of intervention with occupational therapy and tactile devices on post-stroke severe sensory impairment	医療法人財団聖十字会 西日本病院 リハビリテーション部 田上 駿弥
PA-3-13	神社参拝という具体的な目標設定までに工夫を要した重度脳卒中事例 A case of severe stroke that required ingenuity to set a specific goal of shrine visitation	医療法人財団善常会 善常会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 丸山 真輔
PA-3-14	脳卒中者に対するリハビリテーション実施時間数と実績指数との関連性の検討 Relationship between the Number of Hours of Rehabilitation for Stroke Clients and the Performance Index	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 作業療法学科 村仲準一郎
PA-3-15	回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者の主観的回復感の変容プロセス～TEAによる分析～ Transformation of the subjective feeling of recovery among patients with stroke in a convalescent ward ~ analysis of TEA ~	東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 道願 正歩
PA-3-16	回復期リハビリテーション病棟の脳卒中後 FIM 重度者における FIM 改善度に関連する因子の検討 Factors associated with the degree of FIM improvement in post-stroke FIM-severe subjects in a rehabilitation ward	医療法人新成会 総合リハビリテーションセンター・みどり病院 リハビリテーション科 本間 健太
PA-3-17	当院外来作業療法における脳卒中・頭部外傷患者の復職要因の分析 Analysis of factors the return to work of stroke and head injury patients in our outpatient occupational therapy.	一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院 藤原 謙吾
PA-3-18	テルミン奏者の再起に向けた作業療法～対話から問題点を抽出した実践～ Occupational therapy for recovery of theremin player ~ Practice based on dialogue ~	JA 静岡厚生連遠州病院 リハビリテーション科 黒飛 陽平
PA-3-19	「痛い手」から「餃子をつむむ手」への行動変容アプローチ～Transfer Packageを中心とした外来作業療法の取り組み～ Behavioral modification approach from "painful hands" to "hands making dumplings"	医療法人徳洲会 榛原総合病院 中嶋 祥一
<b>脳血管疾患等 4</b>		11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PA-4-1	クライアント・家族と課題難易度を再調整したことで活動意欲が拡大した症例 A case in which motivation for activities increased after readjusting the difficulty of the task.	医療法人社団 輝生会 成城リハケア病院 生活期支援部 稲葉有希奈
PA-4-2	複視出現距離は両眼性複視の評価方法として有用である Measurement of the distance without diplopia is useful for outcome assessment in patient of external ophthalmoplegia	あをによしリハビリ脳神経外科クリニック リハビリテーション科 藤原 宗史
PA-4-3	視床出血後の軽度運動障害、重度感覚障害を呈した症例に対し修正 CI 療法を実践した 1 例 A case of modified CI therapy for a patient with mild motor and severe sensory disturbance after thalamic hemorrhage	川西市立総合医療センター / リハビリテーション科 児嶋 洋昭
PA-4-4	脳卒中急性期における Stroke Impact Scale スコア変動に関する特徴 - 事例報告 - Characteristics of Stroke Impact Scale Score Variability in Acute Stroke	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 國府田 剛
PA-4-5	複数の高次脳機能障害を呈した急性期皮質下出血患者に対する ADL の改善に向けた取り組み Improvement of ADL in Acute Subcortical Hemorrhage Patients with Multiple Higher Brain Dysfunction	島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部 稲垣 杏太



PA-4-6	運動量増加機器（上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo®-J）の導入前後における上肢機能および ADL の比較検討 Comparative study of upper limb function and ADL before and after introduction of Exercise devices (ReoGo®-J)	阪和記念病院 リハビリテーション部 徳田 和宏
PA-4-7	自己免疫性 GFAP アストロサイトパチーと診断された症例への作業療法実践報告 Occupational therapy practice report for cases diagnosed with autoimmune GFAP astrocytopathy	松戸市立総合医療センター リハビリテーション科 川村 慶
PA-4-8	急性期脳卒中患者における課題の難易度調整の重要性 ～代償動作を抑制した食事動作の獲得に着目して～ The importance of adjusting task difficulty in acute stroke patient ～ Focused on eating behavior gain without compensating ～	りんくう総合医療センター 診療支援局リハビリテーション部門 結城 瑚波
PA-4-9	急性期脳卒中患者の ADL 自立度と CBA（認知関連行動アセスメント）の関係 A study of assessment of ADL independence using CBA for acute stroke patients	地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 佐藤 直美
PA-4-10	急性期脳卒中片麻痺患者に対する新型手指伸展スプリントの効果の検討 ～シングルケーススタディ～ Effectiveness of Treatment with a New Finger Extension Splint for Acute Stroke Hemiplegic Patients ~ Single case study ~	福井総合病院 リハビリテーション課 作業療法室 金森 雅幸
PA-4-11	馴染みのある作業を用いて高次脳機能障害の改善を図り更衣動作が自立した脳悪性リンパ腫事例 A case of intracranial malignant lymphoma became independent in dressing activity by using a familiar occupation	医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 リハビリテーション部 牧野 光里
PA-4-12	更衣自立と認知機能（Cognitive-related Behavioral Assessment）の関与 ～効率的な早期リハビリの介入に向けて～ involvement of dressing independence and cognitive function ～ Towards efficient early morning rehabilitation interventions ~	鶴岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部 寺嶋 陽平
PA-4-13	脳卒中患者の underwear 更衣に影響を与える因子の解明 Factors Influencing Changing Clothes in Underclothes for Stroke Patients	医療法人 篤友会 関西リハビリテーション病院 療法部 大野 颯志
PA-4-14	主婦役割の再開に至った高次脳機能障害の一事例～活動の治療的利用と家族支援の成果～ A case of higher brain dysfunction leading to resumption of housewife role ～ Activity Use and Family Support Outcomes ~	医療法人 三星会 茨城リハビリテーション病院、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法 科学域 客員研究員 中村 美歌
PA-4-15	高次脳機能障害を呈した脳卒中片麻痺患者が、習慣的に自主練習を実施するに至った要因 Factors that enabled hemiplegic stroke patients with higher brain dysfunction to continue voluntary practice	医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 リハビリテーション科 古波津奈緒美
PA-4-16	回復期リハビリテーション病棟および外来リハビリテーションにおける就労支援 ～高次脳機能障害が就労に及ぼす影響～ Employment support during convalescence and outpatient rehabilitation ～ Effects of Higher Brain Dysfunction on Employment ~	江東リハビリテーション病院 リハビリテーション科 野口 智裕
PA-4-17	医療機関で加療している脳血管障害者の作業に基づく実践～文献レビュー～ Occupation based practice on the work of cerebrovascular disorders treated at medical institutions ~ Literature review ~	社会福祉法人恩師財団 済生会横浜市東部病院、 神奈川県立保健福祉大学大学院博士後期課程 丸岡ちひろ
PA-4-18	抗 MOG 抗体関連疾患の症例に対し認知行動療法にて社会復帰を目指した事例 A Case Study of Anti-MOG Antibody-Related Disease with Cognitive-Behavioral Therapy for Reintegration into Society	埼玉石心会病院 吹田 怜奈
PA-4-19	損傷半球と運転補助装置の有無による脳卒中患者の運転行動特徴の差異 Differences in driving behavioral characteristics for patients with stroke by lesioned side and driving device	山形県立保健医療大学 保健医療学部 作業療法学科 外川 佑
PA-4-20	非利き手での箸操作練習下での母指の各関節角度と箸操作能力との関係 Relationship between each joint angle of the thumb and chopstick operation ability under training with non-dominant hand	弘前大学 大学院保健学研究科 上谷 英史
<b>脳血管疾患等 5</b>		11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PA-5-1	タクシー運転手への復職にドライビングシミュレータ訓練が功を奏した急性期脳卒中の一症例 A case with acute stroke in which driving simulator training was successful in returning to work as a taxi driver.	翠清会 梶川病院 リハビリテーション科、 山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 森松 千夏
PA-5-2	右上 1/4 同名半盲が神経心理学的検査とドライビングシミュレーター評価に与える影響（1 症例報告） Influence of upper right homonymous hemianopia on neuropsychological examination and driving simulator evaluation.	刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科 清水 雅裕
PA-5-3	ドライビングシミュレーターを介した脳損傷患者の運転技能評価手法の検討 Study on the Evaluation Method of Driving Skills for Brain Injury Patients Using a Driving Simulator	貴志川リハビリテーション病院、 近畿大学生物理工学部 橋本竜之介
PA-5-4	視覚情報処理過程に焦点をあてた運転シミュレータの開発 ～運転操作が加わることによる影響～ Development of a driving simulator focusing on the visual information processing ～ Examination of the effects of operation ~	国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室 大松 聡子



PA-5-5	後天性脳損傷後の運転中断の準備状況は抑うつ程度と関連していた。 Readiness for driving cessation after acquired brain injury was associated with depression.	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士後期課程 那須 識徳
PA-5-6	脳卒中患者の神経心理学的検査と実車運転技能の差異について Differences in Neuropsychological Test and Driving Skills in Stroke Patients	浜松市リハビリテーション病院 伊奈 杏都
PA-5-7	生活リズムの改善が自動車運転再開と就労へつながった一事例 A case in which an improvement in lifestyle rhythm led to resumption of driving and employment	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院 リハビリテーション部 作業療法科 池内 由直
PA-5-8	当院における脳卒中・脳外傷者の運転評価後の運転状況に関する追跡調査の報告 Report on a follow-up survey on the driving status of stroke and brain trauma patients after driving evaluation	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部 寺尾 貴子
PA-5-9	我が国に向けた実車評価 SOAD の弁別的妥当性の検証 Verification of discriminate validity of SOAD on-road test for Japan	医療法人社団 健育会 湘南慶育病院 リハビリテーション部 坂上 夏菜
PA-5-10	当院における脳卒中症例に対する自動車運転再開支援～2症例の事例報告～ Assistance in resuming driving for stroke patients in our hospital ～ Case reports of two cases ～	医療法人清明会静岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部 坪井 暢久
PA-5-11	脳卒中により感覚性失語を呈した症例に対する、寿司職人の業務に焦点を当てた復職支援の実践 Practical report of Return-to-work support for a patient with sensory aphasia, focused on the tasks of a Sushi Chef.	東京湾岸リハビリテーション病院 田中 夏葵
PA-5-12	失語症を呈した事例が主体的な対人交流を獲得するまで～作業活動を活かして～ Until a case with aphasia acquires subjective interpersonal interaction ～ Utilizing work activities ～	医療法人 三星会 茨城リハビリテーション病院 上島くるみ
PA-5-13	肢節運動失行を呈した事例の経験～認知神経リハビリテーションが奏功した事例～ Experience of the example that presented limbkinetic apraxia ～ The example that neurocognitive rehabilitation succeeded ～	小山記念病院 リハビリテーション科 小松崎真澄
PA-5-14	脳卒中後上肢麻痺の心理尺度 CAHM に関するスコーピングレビュー A scoping review of a measure of self-efficacy CAHM for upper limb paralysis after stroke	多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部 永吉 隆生
PA-5-15	院内就労に向けた記憶障害事例への介入報告 ～回復期リハビリテーション病棟入棟から退院後の継続した支援～ Intervention for cases of memory impairment for hospital employment ～ Support after hospitalization and discharge ～	社会医療法人若弘会わかさ亀岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部 永井 信洋
PA-5-16	左被殻～放線冠皮質下出血で重度右側上肢麻痺を呈した患者様への復職（蕎麦職人）支援 Occupational therapy for a patient with severe right upper limb paralysis to return to work as a buckwheat-noodle chef	医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 平石 武士
PA-5-17	重度失調症状を呈した 10 代男性患者の復学へ向けた作業療法 ～ PC 操作獲得への取り組み～ Occupational therapy for returning to school in a teenage male patient with severe ataxia ～ Efforts to acquire PC operation ～	金沢脳神経外科病院 山本 恭啓
PA-5-18	重度片麻痺患者の障害受容過程への寄り添いと目標共有のもたらす効果 ～障害受容とセルフマネジメントが可能となった一症例～ Effect of supporting the process of disability acceptance in severe hemiplegic patients and sharing goals	健和会大手町リハビリテーション病院 回復期・通所リハ科 宮崎 莉穂
PA-5-19	CI 療法後の上肢機能および使用感覚に対する 12 か月間の経時的変化について The temporal evolution of upper extremity function and sensory perception after CI therapy over a 12-month period	偕行会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 野口 貴弘
<b>脳血管疾患等 6</b>		11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場
PA-6-1	上肢運動麻痺と高次脳機能障害を呈した慢性期の事例に対するボツリヌス製剤投与後の包括的上肢機能アプローチの介入効果の検討 Effects of botulinum therapy and rehabilitation on chronic cases with upper limb paralysis and higher brain dysfunction.	掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター リハビリテーション室 井上 信悟
PA-6-2	分水嶺梗塞後の Corticofugal Tract の信号強度の経時的変化：T2 強調画像を用いた単一症例検討 The signal intensities change in the corticofugal tract after stroke: a single case study using T2-weighted imaging	医療法人社団健育会ねりま健育会病院 回復期リハビリテーションセンター 岡 徳之
PA-6-3	脳卒中後上肢麻痺の事例報告における本邦でのロボット療法に関するスコーピングレビュー Scoping Review on Robotic Therapy in Japan in a Case Report of Post-Stroke Upper Limb Paralysis	IMS グループ 医療法人社団明芳会 イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 佐藤 光
PA-6-4	注意障害を呈した症例に対する麻痺手使用頻度の向上に向けた介入：症例報告 Intervention to improve the frequency of paralyzed hand use in a patient with attention disorder: a case report.	徳島大学病院 リハビリテーション部、 徳島大学大学院医歯薬学研究所 脳神経外科学分野、 徳島大学大学院医歯薬学研究所 先端脳機能研究開発分野 大前 博司
PA-6-5	弛緩性の重度上肢麻痺に対して電気刺激療法とロボット療法を組み合わせた症例報告 A case combination of electrical and robotic therapy for upper limb paralysis with severe flaccid	偕行会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 鍋島 汐里



PA-6-6	<p>重度上肢麻痺を呈した脳卒中患者に対する対面リハビリテーションに追加した遠隔リハビリテーションによる介入 Face-to-face and telerehabilitation interventions for stroke patients with severe upper limb paralysis</p>	(株)豊通オールライフヘルスケア事業部 田中 光
PA-6-7	<p>手指中心の運動麻痺に対し、手指装着型電極と Transfer Package を組み合わせて生活での麻痺手使用と作業活動が可能となった症例 A case in combination of hand-worn electrodes and Transfer Package improved paralysis of the fingers and enabled work.</p>	大阪鉄道病院 リハビリテーション室 日野 裕斗
PA-6-8	<p>脳卒中後の患者における食事動作自立に関連する要因の検討 Investigation of factors related to independent eating behavior in patients after stroke</p>	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院 臨床教育研究センター 座覇 政成
PA-6-9	<p>上肢装具と自助具の導入で食事動作が拡大した不全脊髄損傷の1症例 A case of incomplete spinal cord injury with improved eating activities using upper limb orthosis and self-help devices</p>	藤田医科大学病院 リハビリテーション部 竹内 馨
PA-6-10	<p>身体所有感が低下した右視床出血者に対し、動作介入を一旦休止し、麻痺肢自体に着目して介入した一例 A case study of focused on the affected limb itself for decreased sense of ownership</p>	奈良県総合リハビリテーションセンター 岩本 健吾
PA-6-11	<p>再生医療とリハビリテーションの併用で食事動作の改善を認めた症例 ～短対立スプリントを作成して～ A case where regenerative medicine and rehabilitation improved eating behavior ～ Create a short opponens splint ~</p>	社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション リハビリテーション部 池田 大陸
PA-6-12	<p>急性期の頸髄損傷患者に対して電気刺激療法および ADOC-H による目標設定を行なった症例 A case of electrical stimulation therapy and goal setting with ADOC-H for an acute cervical spinal cord injury</p>	東京都立病院機構東京都立墨東病院 リハビリテーション科, 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科 学域 山田 優樹
PA-6-13	<p>右手の過活動と左上肢の運動麻痺により左手の不使いが目立った両側脳梗塞後遺症の一症例 A case of bilateral cerebral infarction with conspicuous disuse of the left hand</p>	社会医療法人頌徳会 日野病院 リハビリテーション部 池田 静架
PA-6-14	<p>両側前頭葉損傷後に自発性低下を認めた症例 ～自発的な行動生起を目的とした将棋による介入を通して～ A case of asponaneity after bilateral frontal lobe injury ～ Through shogi intervention to encourage spontaneous action ~</p>	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 平見 彩貴
PA-6-15	<p>修正 CI 療法、装具療法、電気刺激療法、Mirror Therapy を併用し、麻痺手を用いた生活行為獲得を目指した症例 Case studies using modified CI therapy, electrical stimulation, orthotics, and mirror therapy for paralyzed hands.</p>	医療法人社団 生和会 周南リハビリテーション病院 リハビリテーション部 御書 正宏
PA-6-16	<p>純粋運動性単麻痺に対して促通反復療法を中心とした複合的介入を行い上肢機能の改善を認めた脳皮質下出血の一例 Repetitive facilitative exercise to recover pure monoparesis: a case report</p>	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター 大迫 洋介
PA-6-17	<p>分枝粥腫病 (BAD) 型脳梗塞後の上肢運動機能回復に持続的電気刺激下の促通反復療法を実施した急性期の一例 Repetitive facilitative exercise continuous neuromuscular electrical stimulation for branch atheromatous disease</p>	名戸ヶ谷病院 リハビリテーション科 松原 貴哉
PA-6-18	<p>着衣障害に対する身体へのプライミング刺激により更衣動作が改善した症例 A case of effective occupational therapy for dressing disability by using priming stimulus of the body</p>	医療法人社団 朋和会 西広島リハビリテーション病院 リハビリ部 黒田 玲菜
PA-6-19	<p>食材サンプルを使用した非利き手で卵焼き調理訓練の効果検証 Effectiveness of training in cooking omelet with non-dominant hand using food samples</p>	大阪人間科学大学 保健医療学部 中川 友紀
<b>脳血管疾患等 7</b>		11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場
PA-7-1	<p>生活期脳卒中患者に対する自主訓練型上肢機能訓練の効果 Effects of Voluntary Upper-Extremity Functional Training in Patients with Chronic Stroke</p>	東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部作業療法科 沢田 宏美
PA-7-2	<p>超音波評価を用いた生活期重度脳卒中患者の亜脱臼に対する電気刺激の即時的効果 Immediate Effect of Electrical Stimulation on Subluxation in Severe Chronic Stroke Patients Using Ultrasound Assessment</p>	医療法人社団栄宏会 土井リハビリテーション病院 リハビリテーション科 濱脇 大祐
PA-7-3	<p>新型コロナウイルス感染症後の片麻痺を患う透析患者に対する ADL 向上を目指した介入 Intervention aimed at improving ADL for hemiplegic dialysis patient after COVID-19 infection</p>	札幌朗愛会病院 リハビリテーション科, 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科博士課程後期 大坂 隆介
PA-7-4	<p>リハビリテーションにおける画像解析の重要性 Importance of image analysis in rehabilitation</p>	専門学校 健祥会学園 作業療法学科専任教員 田村 恭佑
PA-7-5	<p>重度左片麻痺患者に対する ADL 獲得に向けた関わり～日本版 A-ONE を用いた評価と介入～ Evaluation and intervention in ADL acquisition in patients with severe left hemiplegia ～ using Japan version of A-ONE ~</p>	IMS(イムス)グループ 医療法人社団 イムス札幌内 科リハビリテーション病院 リハビリテーション科 有働 克也
PA-7-6	<p>脳卒中後に右片麻痺、高次脳機能障害を呈した症例に対する ADOC と CI 療法を用いた支援 Support using ADOC and CI therapy for a patient with right hemiplegia and higher brain dysfunction after stroke</p>	医療法人桂名会 瀬尾記念慶友病院 リハビリテーション課 高木 克実
PA-7-7	<p>上肢麻痺への自己認識が低下している症例に対して病棟実施型 CI 療法を行い改善がみられた一例 Implementation of ward-implemented CI therapy for cases with decreased self-awareness of upper extremity paralysis</p>	社会医療法人三役会 宮崎病院 回復期リハビリテーション 池田 結花



PA-7-8	小脳梗塞により運動失調を呈した症例に対する自転車運転支援の経験 Experience with bicycle driving assistance for a patient with ataxia due to cerebellar infarction	一般社団法人巨樹の会 蒲田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 北海道文教大学大学院リハビリテーション科学研究科 東 遥香
PA-7-9	脳卒中後に相貌失認と表情認知障害を呈した方のコミュニケーション支援 Communication support for a patient with prosopagnosia and facial expression cognitive impairment after stroke	順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室 大八木陽女
PA-7-10	Dynamic splint 作製により即時効果による上肢機能改善と歩容の変化を認めた痙性片麻痺患者の経験 The experience of a spastic hemiplegic patient who changes in gait due effect of dynamic splint fabrication	新久喜総合病院 リハビリテーション科 金井 信二
PA-7-11	Precentral knob 近傍の小梗塞により上肢麻痺を呈した症例の作業療法介入と経過 Occupational therapy for a case of finger palsy after precentral knob infarction	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 中西 亮太
PA-7-12	依存的で退院後の生活イメージが持てずにいた産褥期脳卒中後の重度左片麻痺事例の報告 A case of severe left hemiplegia after puerperal stroke with a dependent and poor image of life after discharge	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーションセラピスト部 古田 真咲
PA-7-13	脳卒中を発症した妊産婦の2 事例に対する作業療法介入経過とそこから見えた課題と展望 A case report of the occupational therapy process in two pregnant women with stroke suggesting challenges and prospects	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーションセラピスト部 新藤 志織
PA-7-14	MAL・JASMID を用いて麻痺側上肢を生活で使用する行動変容がみられた症例 Examples of behavioral changes in daily life using MAL/JASMID	横浜なみきリハビリテーション病院 リハビリテーション科 渡辺 謙斗
PA-7-15	脳卒中患者の回復過程における小脳フィードフォワード制御の回路評価 Circuit evaluation of cerebellar feedforward control during recovery in people with stroke	医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院 リハビリ テーション部 作業療法科、 金沢大学 医薬保健学総合研究科 坂井 由衣
PA-7-16	入院中脳卒中患者の身体活動時間に影響する因子～活動強度別の分析～ Factors affecting physical activity duration in stroke inpatients ～ Analysis each intensity of activity ～	弘前大学 大学院保健学研究科総合リハビリテーショ ン科学領域 佐藤ちひろ
PA-7-17	急性期脳卒中患者の感覚障害が麻痺側上肢の筋出力不均衡に及ぼす影響について ～短潜時感覚誘導電位を用いた解析～ The Effect of Muscle Output Imbalance by Sensory Impairment in Acute Stroke Patients ～ short latency SEP study ～	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 水村 翔
PA-7-18	重度体性感覚障害を呈した脳卒中片麻痺患者における麻痺手の使用場面・頻度・質の特性 ～2 症例の介入経過から～ Characteristics of hemiplegic hand on frequency of use in stroke patients with severe somatosensory disturbance	一般財団法人 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーショ ンセンター 赤平 一樹
<b>脳血管疾患等 8</b>		11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場
PA-8-1	Mixed Reality 技術を用いた自動車運転や移動支援での評価の活用 Utilization of evaluation in car driving and movement support using mixed reality technology	社会医療法人若弘会 わかくさ電岡リハビリテーショ ン病院 リハビリテーション部 牟田 博行
PA-8-2	自己認識障害に対し、行動学的手法を用いて自己身体への認識向上を図った一例 A case study of improving self-body recognition through behavioral methods for self-recognition disorder	奈良県総合リハビリテーションセンター 松山 奈実
PA-8-3	脳卒中後の重度運動麻痺に対する、自主トレーニングにおける電気刺激療法の影響 Impacts of electrical stimulation for severe upper limb paralysis after stroke during self training	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーションセラピスト部 武田 大勢
PA-8-4	路上評価で問題が顕在化した脳血管障害事例の検討 A review of stroke cerebrovascular disorder case in which problems became apparent during on-road assessment	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科 東川 裕輝
PA-8-5	重度脳卒中患者における上肢機能練習時間が運動麻痺の改善に与える影響 Effect of Upper Limb Functional Practice Time on Improvement of Motor Paralysis in Severe Stroke Patients	医療法人社団 愛友会 上尾中央総合病院 診療技術部 リハビリテーション技術科 岡田 康佑
PA-8-6	重度利き手麻痺事例に対する ADL・IADL へのアプローチ ～回復期病棟での自宅退院後の生活への汎化に関する取り組み～ Approach to ADL/IADL for case of hand paralysis ～ Efforts to generalize life after discharge from the convalescent ward ～	聖隷横浜病院 リハビリテーション課 大江 珠祐
PA-8-7	生活期脳卒中片麻痺者に対する modified-CI セラピーの適応効果の検証 Verification of adaptation effect of modified-CI therapy on patients with chronic stroke hemiplegia	横浜市総合リハビリテーションセンター 医療部、 湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 藪崎さや子
PA-8-9	HAL 医療用単関節タイプを活用し、脳卒中後の上肢運動麻痺が改善した事例 A case of upper limb motor paralysis after stroke improved by using Single Joint type of Hybrid Assistive Limb.	函館新都市病院 リハビリテーション科 西村 大地
PA-8-10	段階付けた課題設定が奏功し教育者として理容師への復職に至った若年脳卒中事例 A case study of a young stroke patient who returned to work as a barber instructor through a staged task.	淀川平成病院 リハビリテーション部 瀬尾 諒
PA-8-11	麻痺側身体認識が改善し動作能力の向上が得られた一症例 ～末梢磁気刺激療法を用いた麻痺側肩甲骨へのアプローチ～ A case of improved paralyzed body perception and improved activity capacity ～ Approach to paralyzed scapula by using PMS ～	中部国際医療センター リハビリテーション技術部 松永実乃里

PA-8-12	脳卒中後肩関節痛に対して有酸素運動が奏効した一症例 A case with post stroke shoulder pain improved by aerobic exercise	医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーション部 松田 采美
PA-8-13	脳血管障害者における把握力調整能力の関連要因 ～年齢と発症してからの期間を調整した検討～ Factors related to Adjustability of Grasping Force in patients with cerebrovascular disorder	東京都立大学 健康福祉学部作業療学科 金野 達也
PA-8-14	薬剤師復職を目指した左前頭頭頂葉深部血管腫の一症例 A case of deep left frontoparietal lobe hemangioma with the aim of returning to work as a pharmacist	神戸市立西神戸医療センター リハビリテーション技術部 井上 慎一
PA-8-15	脳血管疾患患者における姿勢および姿勢バランスと嚥下機能の関連 Relationship among oral function, posture and postural balance of cerebrovascular disease patients	黒石市国民健康保険 黒石病院 リハビリテーション科 木田 愛子
PA-8-16	長期脳梗塞後遺症者の上肢機能改善が QOL に及ぼす影響について Effects of improving upper extremity function on QOL in patients with long-term cerebral infarction sequelae	伊那中央病院 北林 雅大
PA-8-17	生活期脳卒中患者に対する外来でのバーチャルリアリティと HANDS protocol を用いた複合的アプローチ：症例報告 A combined approach using virtual reality and HANDS protocol for an outpatient with stroke: a case report	順天堂大学医学部附属順天堂医院、 順天堂大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学 阿瀬 寛幸
PA-8-18	回復期リハビリテーションにおける 40 代女性に対し、MTDLP にて自己効力感の改善を図り、主婦としての役割を獲得した症例について A case study of a woman in her 40s who used MTDLP to improve her self-efficacy and gain a role as a housewife.	ふれあい町田ホスピタル リハビリテーション科 長谷川真太
<b>脳血管疾患等 9</b>		11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場
PA-9-1	拡散テンソル画像を用いて作業療法内容を検討した一例 An example of examining the content of occupational therapy using diffusion tensor images	名古屋市総合リハビリテーションセンター 作業療法科 小林 直樹
PA-9-2	脳腫瘍術後患者における退院時の精神機能低下と退院後の勤労の関係 Relation between depression at Discharge from Hospital and post-discharge work in postoperative brain tumor patients	信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 古橋 啓介
PA-9-3	脳卒中者の日常生活活動改善の予測因子 ～医療提供体制と臨床過程の構造方程式モデリング～ Predictors of improvement in ADL in stroke survivors ～ Structural equation modeling of health care setting and processes ～	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法専攻 池田 公平
PA-9-4	急性期病院における脳卒中後の意欲低下とうつ症状の改善を目的とした作業療法実践 Occupational therapy for improvement in post-stroke apathy and depression symptoms in an acute hospital	沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門 田中 里緒
PA-9-5	軽度左片麻痺患者の非利き手への CI 療法と ADOC-H によって使用頻度が向上した症例 A case of mild left hemiplegia improved the frequency of use by CI therapy and ADOC-H for the non-dominant hand	苑田会花はたリハビリテーション病院 / リハビリテーション科 東 駿佑
PA-9-6	美容師への就労支援を実施した一例 An example of job placement assistance for beauticians	君津中央病院 リハビリテーション科 武次 幸治
PA-9-7	回復期リハビリテーション病棟に従事する作業療法士が脳卒中者のトイレ動作を自立と判断する要因 Factors that lead occupational therapists in rehabilitation wards to decide toileting as independent in stroke patients	神奈川県立保健福祉大学大学院博士課程前期、 横須賀市立うわまち病院 佐藤 慶一
PA-9-8	脳卒中後の患者におけるトイレ動作自立に関連する要因の検討 Factors related to independence in toileting in post stroke patients	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院 臨床教育研究センター 濱田 隆広
PA-9-9	退院後の生活をイメージできない脳卒中片麻痺事例に対するピアサポートを活用した退院支援 Occupational therapy using peer support for stroke survivors with impaired realistic planning. A case study	イムス板橋リハビリテーション病院 柳沼 智子
PA-9-10	急性期脳梗塞患者で、重度肥満と医療行為の拒否により作業療法に難渋した症例 A difficult case of occupational therapy in patient with acute stroke with severe obesity and refused medical treatment	福岡大学筑紫病院 リハビリテーション部 窪田伸一郎
PA-9-11	COPM を用いた目標設定と rPMS から自己管理型プログラム GRASP への段階的移行により上肢活動量が増加した脳卒中重度麻痺例 Increase in upper limb activity with rPMS and GRASP after goal setting using COPM in stroke patient: A case study	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院 リハビリテーション部 本間 莉那
PA-9-12	回復期脳卒中患者の筋量変化と運動麻痺・ADL の改善との関係性 ～体組成計を用いた予備的検討～ Relationship between changing muscle mass and improvement of motor function and ADL in subacute stroke patients	一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 今井 寛人
PA-9-13	CROT-R を用いた実践報告～臨床 1 年目の作業療法士が取り組むリーズニングの意味～ ～ The effect of reasoning by a first-year occupational therapist ～	福岡リハビリテーション病院 藤本 里紗
PA-9-14	慢性期脳卒中患者における手指感覚運動障害に対する触知覚代償フィードバック練習の効果 ～ゆびレコーダーを用いて～ The effects of tactile compensatory feedback training on finger sensorimotor impairment in chronic stroke patients	医療法人瑞心会渡辺病院 リハビリテーション科 溝本 恭久

PA-9-15	感覚性運動失調を呈した脳卒中者に対する振動刺激と装具療法を併用した課題指向型訓練の実践 Practice of Task-Oriented Training utilizing Vibration Stimulation and Orthosis for Stroke Survivors with Sensory Ataxia	医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 宝田 光
PA-9-16	脳卒中後重度感覚障害を呈した患者の麻痺手使用の向上における心理的要素の重要性：事例報告 The Importance of Psychological Factors in Increasing the Affected Arm Use in Patients with Sensory Deficit After Stroke	医療法人友誼会 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 弓勢 佳奈
PA-9-17	急性期における Pusher 現象と ADL の関係性～ SCP・FIM を用いて～ Relationship between Pusher phenomenon and ADL in the acute phase ～ Using SCP and FIM ～	国家公務員 共済組合連合会 平塚共済病院 リハビリテーション科 田城 朱音
PA-9-18	急性期脳卒中患者における早期トイレ排泄の可否に影響する因子 Factors associated the availability of early toilet elimination in acute stroke patients	小田原市立病院 リハビリテーション室 新山 祐貴
PA-9-19	脳卒中後に生活内での麻痺側上肢の使用頻度や満足度が低下した症例に対して rTMS を併用し修正 CI 療法を行った経過 A case of mCIMT and rTMS for decreased use and satisfaction of the paralyzed upper limb in ADL after stroke	宝塚リハビリテーション病院 療法部 坂西 泰輔
<b>脳血管疾患等 10</b>		11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場
PA-10-1	多職種によるラウンドの実施は脳卒中後肩関節疼痛発生を軽減できるか Effects of Multidisciplinary Ward Rounding on Prevention of Shoulder Pain After Stroke	福井総合病院 リハビリテーション課 作業療法室 櫻井 美穂
PA-10-2	脳卒中片麻痺患者の肩関節亜脱臼に関する知見創出～肩関節アンドロイドモデルを用いて～ Creation of knowledge on shoulder subluxation in hemiplegic stroke patients ～ Using the android model of the shoulder joint ～	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 リハビリテーション技術室 浅井 麻衣
PA-10-3	「使えない手」という認識が強い症例に対し、モニタリング方法を工夫したことで、「使える手」という認識を獲得した事例。 A case who has a strong recognition of unusable hand recognized as usable hand by devising a monitoring method.	医療法人深仁会 札幌深仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 鈴木 祥夫
PA-10-4	高齢化地域における急性期脳卒中患者の転帰に関する因子の検討 Investigation of factors related to outcomes of acute stroke patients in an aging community	JA 長野厚生連長野松代総合病院 リハビリテーション部 長野保健医療大学大学院保健学研究科 小宮山貴也
PA-10-5	退院後の軽度脳卒中患者への再発予防教育の効果について Effectiveness of recurrence prevention education for mild stroke patients after discharge from hospital	医療法人社団緑成会横浜総合病院 リハビリテーション部 井本 裕堂
PA-10-6	医療者側の予測に反して病前の役割を再獲得した症例～環境や役割が与える影響～ Cases that reacquired the premorbid role contrary to predictions by medical staff ～ Influence of environment and role ～	社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 リハビリテーション科 岩田真由子
PA-10-7	当院の自動車運転評価における実態把握について Understanding the Actual Conditions in the Evaluation of Driving at Hospital	公立七日市病院 リハビリテーション科 善養寺航耶
PA-10-8	脳卒中片麻痺患者における自動車運転評価結果が運転再開状況に与える影響 The Influence of Driving Performance Evaluation on Driving Resumption Status in Stroke Hemiplegic Patients	地方独立行政法人 秋田県立病院機構 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 伊藤 崇
PA-10-9	失語症と視覚性運動失調を呈した症例のタイピング障害に対する作業療法経験 Occupational therapy for typing disorder in a patient with aphasia and ataxic optique	社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 リハビリテーション部 札幌医科大学大学院保健医療学研究科 竹内 利貴
PA-10-10	当院脳卒中患者の院内車椅子駆動自立に影響を与える要因の検討 Investigation of factors that affect wheelchair driving independence in stroke patients in our hospital	東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション部 東京都立大学 人間健康科学研究科作業療法科学域博士後期課程 斎藤 梨菜
PA-10-11	回復期の脳卒中患者における主観的幸福感の変化とリハビリテーションがおよぼす効果との関係について Relationship between changes in subjective wellbeing and the effects of rehabilitation in recovering stroke patients	医療法人三州会 大勝病院 鹿児島大学大学院 保健学研究科 吉田康太郎
PA-10-12	麻痺手での洗髪動作に損傷半球を考慮した運動観察が及ぼす影響：症例報告 Effects of Action observation considering damaged hemisphere on washing hair with paralyzed hand	医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 舞田 大輔
PA-10-13	脳卒中患者に対する上肢への介入と心理的介入の併用に関するエビデンスの質～ランダム化比較試験のシステムティックレビュー～ Quality of evidence for upper extremity interventions and psychological interventions ～ A systematic review ～	広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 広島大学 大学院 人間社会科学研究科 岩本 優士
PA-10-14	外来作業療法におけるボツリヌス毒素療法、機能訓練、実動作訓練、自主練習の複合的介入によって普通箸操作を獲得した1例 Successfully using chopsticks by multiple intervention in a patient with chronic stroke: a case report.	東京湾岸リハビリテーション病院 渡邊 翔太
PA-10-15	脳卒中後重度上肢麻痺患者に対する経頭蓋直流電気刺激の神経学的影響：症例研究 Effects of transcranial direct current electrical stimulation on a patient with upper limb paralysis; a case study	医療法人尚和会宝塚リハビリテーション病院 療法部 芝 貴裕



PA-10-16	急性期脳卒中後の上肢麻痺に対して Transfer package を中心とした週 1 回の外来作業療法の取り組み Weekly Outpatient Occupational Therapy Centered on Transfer Package for Upper Limb Paralysis after Acute Stroke	医療法人平成博愛会 世田谷記念病院 リハビリテーション部 小松 真直
PA-10-17	回復期脳卒中患者の麻痺側上肢に対する主観的有用度における関連要因の検証 Verification of factors related to subjective usefulness for an affected upper extremity in subacute stroke patients	多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部 作業療法科 松岡 耕史
PA-10-18	回復期脳卒中患者の上肢活動の特性とそれに関わる要因 Classification and characteristic of upper limb activity and impairment in patients with subacute stroke	西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部・ 畿央大学大学院健康科学研究科 神経リハビリテ ーション研究室 南川 勇二
PA-10-19	一般病棟または地域包括ケア病棟から退院する脳卒中患者の違いについて Differences between stroke patients who are discharged from comprehensive community-based care ward and general ward.	医療法人同仁会 (社団) 京都九条病院 リハビリテーション部 上島 裕貴

脳血管疾患等 11

11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場

PA-11-1	急性期脳卒中患者における神経心理学的検査を用いた検討 ～注意機能と ADL の関連性について～ A study using neuropsychological tests in acute stroke patients ～ Relationship between attention function and ADL ～	東京医科大学病院 リハビリテーションセンター 苫地地義和
PA-11-2	身体失認および病態失認は脳卒中後肩関節痛の予防を困難にする：症例報告 Pathognosia and somatic agnosia make it difficult to prevent post-stroke shoulder pain: a case report	医療法人友誼会 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 藤井 真由
PA-11-3	当院急性期脳卒中患者における NIHSS と転帰先の関連性 Relationship between NIHSS and Outcomes in Acute Stroke Patients at Our Hospital	南東北グループ 医療法人財団 健真会 総合東京病院 リハビリテーション科 岡田 泰裕
PA-11-4	重度運動麻痺と下位運動ニューロン障害を呈する回復期脳卒中症例に対する神経筋電気刺激の効果：症例報告 Effects of NMES on a subacute stroke patient with severe motor paralysis and lower motor neuron impairment: case report	医療法人友誼会西大和リハビリテーション病院 黒上 侑華
PA-11-5	Berg balance scale 項目による回復期リハビリテーション病棟脳卒中患者の入浴自立の予測 Prediction of bathing independence of stroke patients in the Kaifukuki rehabilitation ward by Berg Balance Scale Items	北福島医療センター リハビリテーション科 木皿 悠太
PA-11-6	半側無視患者に対し感覚刺激デバイスを用いた介入 A case of intervention using a sensory stimulation device for patients with hemiparesis neglect	北播磨総合医療センター リハビリテーション室 山本 勝仁
PA-11-7	脳卒中後の痙縮に対して物理療法、装具療法を併用し、麻痺手の自己管理を目指した一事例 A case of post-stroke spasticity treated with physical therapy and orthotics for self-management of paralyzed hand	医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 品田有梨絵
PA-11-8	脳膿瘍により右上下肢不全麻痺と運動イメージの喪失に対し動作難易度を考慮した症例 A case in exercise degree of difficulty was considered for right hemiplegia and loss of motor image due to brain abscess	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・ 総合医療センター 上田 剛裕
PA-11-9	脳損傷後の自動車運転中止後の外出頻度に与える要因に関する質的研究 A qualitative study of factors affecting frequency of going out after driving cessation following brain injury	社会医療法人シマダ嶋田病院・ 国際医療福祉大学大学院 末次 亮平
PA-11-10	運転訓練の対象となり得る脳損傷者の特性について - ケースコントロール研究 - Characteristics of brain-injured clients who may be eligible for driving training: a case-control study	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター リハビ リテーション部 作業療法科, 筑波大学大学院 人間総合科学研究群 リハビリテ ーション科学学位プログラム (博士後期課程) 生田 純一
PA-11-11	姿勢コントロールの改善が箸操作の改善につながった一事例 A case of improved postural control leading to improved chopstick manipulation	上伊那生協病院 回復期リハビリテーション課 小林 悠大
PA-11-12	軽度半側空間無視患者への没入型 VR による効果判定について Evaluation of the effect by immersive VR on patients with mild hemilateral spatial neglect	特定医療法人茜会脳神経筋センターよしみず病院 リハビリテーション部 作業療法課 木村真太郎
PA-11-13	半側空間無視と体性感覚障害を呈した症例に対し、食事動作獲得を目的に身体所有感の階層性を考慮した作業に焦点を当てた介入報告 A case with USN and somatosensory deficit who acquired eating movements based on the mechanism of sense of ownership.	社会医療法人ささき会藍の都脳神経外科病院 リハビリテーション部 宗田 紗耶
PA-11-14	半側空間無視と同名半盲を呈した症例に対するバーチャルリアリティを用いた気づきへの介入 An Approach to Anosognosia Using Virtual Reality in a Case with Unilateral Spatial Neglect and Hemianopia	神戸掖済会病院 リハビリテーション科・ 神戸大学大学院保健学研究科 今田 泰裕
PA-11-15	左片麻痺に対する非所属感、擬人化、片麻痺憎悪を呈した症例に対する作業療法経験 Occupational therapy for a patient with left hemiplegia who presented nonbelonging, personification, and misoplegia	社会医療法人 岡本病院 (財団) 京都岡本記念病院 リハビリテーション部 高安 美月
PA-11-16	日本語版 Action Research Arm Test における評価者教育標準化に対する試み A Standardized Approach for the Rater Training Program in the Action Research Arm Test	湘南慶育病院 リハビリテーション部 山岡 洸
PA-11-17	亜急性期脳卒中患者における片麻痺に対する病態失認の脳損傷領域と典型症例の臨床症状 Neuroanatomy of anosognosia for hemiplegia in patients with subacute stroke and clinical symptoms of a typical case	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 リハビリテーションセンター 回復期リハ科 中田 佳佑

PA-11-18	ゲーム実装型運動支援システムを用いた運動中の手指筋群活動量 ～重度片麻痺患者一症例における予備的研究～ Finger muscle activity during exercise using a gamified system ～ A preliminary study of a case with severe hemiplegia ～	藤田医科大学病院 リハビリテーション部 伊藤 一輝
PA-11-19	脳卒中患者の食事動作における麻痺手の側性変化～加速度計による客観的指標の提案～ The change of laterality of paralyzed hand in eating of a stroke patient ～ Proposal of objective index by accelerometer ～	関西電力病院 リハビリテーション部 宮崎 隆之
<b>脳血管疾患等 12</b>		11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場
PA-12-1	下衣操作が困難な片麻痺患者に対するトイレ動作アプローチ Toilet movement approach for hemiplegic patients who have difficulty in manipulating lower garment	医療法人五月会須崎くろしお病院 リハビリテーション部 公文 康輔
PA-12-2	脳卒中後に目標共有である茶碗をもつことができた事例～作業療法とロボット療法の併用～ A case where I was able to have a tea bowl with a shared goal after a stroke ～ Combining occupational and robotic therapy ～	池友会 香椎丘リハビリテーション病院 蘭 文雄
PA-12-3	脳卒中患者における非麻痺側上肢機能に及ぼす認知機能の影響 The investigation of cognitive function influencing on non-paretic extremity function in stroke patients	医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 池田 光季
PA-12-4	動機づけ面接を利用した遠隔作業療法にて麻痺手の使用頻度が向上した一事例 ～ ABAB デザインによる検討～ A case study of increased use of paralyzed hand with motivational interviewing	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所博士後期課程, アール・クラ横浜 林 慎也
PA-12-5	画像トラッキングを活用した片麻痺者の動作分析と治療即時効果測定の検討 Motion analysis of pre-post treatment fusing image tracking and observational evaluation for a hemiplegia patient	リハビリテーション天草病院 リハビリテーション部 武田 幸治
PA-12-6	回復期にCI療法と複数回の面接を実施したことで家庭菜園を再開した事例 A case of resumption of kitchen garden after Constraint-induced movement therapy and multiple interviews during recovery	公益財団法人いわてリハビリテーションセンター 機能回復療法部 千葉 聖矢
PA-12-7	調理における目標設定と家族との共有が自宅生活のイメージ構築に繋がった回復期病棟入院患者 A case study of being able to construct an image of home life by setting goals and sharing with family in cooking	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院 梶山瑠希乃
PA-12-8	ADOC - Hを用いた麻痺側上肢使用の目標設定方法を症例の効力予測と結果予測を踏まえて工夫した一例 Using ADOC-H for predicting effect and result of goal-setting interventions for upper limb paralysis in stroke patient	偕行会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 小林 由衣
PA-12-9	目標設定における作業療法士の面接の進め方とテクニックに関する質的研究 A qualitative research on the process and techniques of interviews with occupational therapists in goal setting	福岡リハビリテーション病院 田代 徹
PA-12-10	外国籍の回復期脳卒中患者に対する5W1Hを用いた具体的な目標設定に基づく上肢機能アプローチの経験 Experience in approach to upper limb function based on specific goal setting using 5W1H for recovering stroke patients	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター, 昭和大学保健医療学部作業療法学科 内堀 謙吾
PA-12-11	回復段階に応じた具体的な目標設定を行うことで家庭内役割の再獲得へ至った事例 A case of acquisition of domestic roles by goalsetting according to recovery	天電すずかけ病院 リハビリテーション科 佐々木有里
PA-12-12	普通の箸の操作獲得を目指した自助具箸による練習方法の有効性 Effectiveness of the training method using self-help devices aiming at acquiring the operation of ordinary chopsticks	弘前大学 大学院保健学研究科 平川 裕一
PA-12-15	手指・前腕屈筋の痙縮に対し手関節の肢位に着目して外来作業療法を行った症例 Occupational therapy for flexor spasticity of fingers and forearms focusing on the wrist position: A case report	関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 林 佳世子
PA-12-16	多職種チームでのボツリヌス治療と集中的リハビリテーションの取り組み ～生活行為改善に向けた作業療法の現状と課題～ Botulism and intensive rehabilitation in a multidisciplinary team ～ Challenges in improving life activities ～	飯塚病院 兵道 哲彦
PA-12-17	拡散型体外衝撃波治療を痙性上肢麻痺患者に2種類の頻度で実施した一症例 A case of radial Extracorporeal Shock Wave therapy with two types in a patient with spastic upper extremity paralysis.	医療法人社団主体会 主体会病院 総合リハビリテーションセンター 須崎 浩平
PA-12-18	実際頸髄損傷の栄養状態はどうなっているの？：当センター入院患者における栄養状態の特徴とADLとの相関 Clinical research of the relationship between nutritional condition and activity status of inpatients.	北海道せき損センター, 札幌医科大学保健医療学研究科 小島虎太郎
PA-12-19	当院回復期リハビリテーション病棟入院中にADLが完全自立したが、復職に時間を要した中心性頸髄損傷患者の事例報告 A Case Report of a Central Cervical Cord Injury Patients Who Took Time to Return to Work	森山メモリアル病院 リハビリテーション部 青柳 毅





<b>PB 心大血管疾患</b>		
<b>心大血管疾患 1</b>		11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PB-1-1	心不全高齢者の健康関連 QOL の予後と関連する ICF 項目の検証～実現可能性調査～ Validation of ICF categories associated with prognosis of health-related QOL in elderly patients with heart failure.	広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門 塩田 繁人
PB-1-2	急性期病院に入院中の心疾患患者に対する作業療法実践に関する文献レビュー -Literature review on occupational therapy practice for patients with heart disease in an acute care hospital-	公益社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院、 神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所博士前期課程 安部林太郎
PB-1-4	ADOC を用いたたこつぼ心筋症に対する作業療法 Occupational therapy for Takotsubo cardiomyopathy using ADOC	イムス葛飾ハートセンター リハビリテーション科 増田 智也
PB-1-5	急性大動脈解離を発症後に生活空間が狭小化した患者に向けた作業療法 A Case Study: Occupational Therapy for a Patient with Acute Aortic Dissection who Narrowed Living Space.	医療法人社団常仁会 牛久愛和総合病院 リハビリテーションセンター 田口 功幸
<b>心大血管疾患 2</b>		11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場
PB-2-1	ICU 長期入院中に離床拒否を呈した患者に対する作業療法の経験～弁膜症術後の 1 症例～ The occupational therapy experience of a patient who refused to leave bed with a long-term ICU stay	昭和大学江東豊洲病院 リハビリテーション室 吉田 真帆
PB-2-2	脳梗塞の既往のある急性大動脈解離術後の患者に、早期 ADL 練習が有効であった一経験 A case of early ADL practice after acute aortic dissection surgery with a history of cerebral infarction	県立広島病院 リハビリテーション科 橋本 彩花
PB-2-3	フレイルを有する高齢慢性心不全患者における 1 年後までの死亡に関連する因子の検討 ～再入院回数と Barthel Index は死亡と関連する～ Examination of factors associated with death up to 1 year later in elderly chronic heart failure patients with frailty	群馬県立心臓血管センター 大石 浩貴
PB-2-4	前頭葉機能が低下した高齢心不全症例の 1 例 ～麻雀を経てグランドゴルフの再開に至るまで～ A Case of Heart Failure in an Elderly with Decreased Frontal Lobe Function ～ From playing mahjong to resuming grand golf ～	筑波メディカルセンター病院 診療技術部 リハビリテーション療法科 廣瀬 友紀
PB-2-5	支援者を含めた患者教育で生活拡大が可能であったうつ傾向の高齢心不全患者：事例報告 An elderly heart failure patient with depression who expanded her life through patient education including supporters.	JA 長野厚生連長野松代総合病院附属若穂病院 リハビリテーション科 町田 智紀
<b>心大血管疾患 3</b>		11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場
PB-3-1	心不全患者の在宅時間に影響を与える因子の検討 Investigation of Factors Affecting Time at Home in Heart Failure Patients	心臓病センター榊原病院 リハビリテーション部 内藤 喜隆
PB-3-2	セルフモニタリングの定着に焦点を当て目標とする作業の再開が可能となった急性心筋梗塞術後の事例 A case study of a cardiac disease patient who was able to focus on promoting self-monitoring of targeted activities.	福岡リハビリテーション病院 植木 茜
PB-3-3	MICS-AVR 患者に対する自主トレーニング指導と運動記録の習慣化によりリハビリ意欲が向上した一例。 A case of improved motivation for via the implementation of self training instruction and exercise logging after MIAVR.	医療法人社団苑田会苑田第一病院 リハビリテーション部 近藤和香葉
PB-3-4	認知症心不全患者に対して睡眠 - 覚醒リズムに着目し介入した事例 A case of intervening focusing on sleep-wake rhythm in patients with dementia and heart failure	光陽会関東病院 リハビリテーション科 小沼 裕紀
<b>PC 呼吸器疾患</b>		
<b>呼吸器疾患 1</b>		11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PC-1-1	長期間個室隔離された COVID-19 重症例に対する作業療法の介入 Occupational Therapy Intervention for COVID-19 Severe Cases with Prolonged Individual Isolation	独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター リハビリテーション科 秦 健一郎
PC-1-2	COVID-19 病棟の閉鎖的な環境が高齢者に与えるストレスとせん妄の関係 The relationship between stress of the closed environment of the COVID-19 ward on the elderly and delirium	一般社団法人巨樹の会 所沢明生病院 リハビリ科 石田 祥一
PC-1-3	重症 COVID-19 患者に対し、感染症病棟から自宅退院まで作業療法介入した事例 A Case of Occupational Therapy Intervention for Severe COVID-19 Patients from Infectious Disease Ward to Home Discharge	川崎市立川崎病院 医療技術部リハビリテーション科 門脇 優
PC-1-4	Occupational therapy in adult ICU in Taiwan ～ A case report of early intervention for a critically ill ventilated patient ～	Occupational Therapy Department, Taoyuan General Hospital, Ministry of Health and Welfare, Taiwan (R.O.C.) Yi-Cian Chen

ポスター発表

呼吸器疾患 2

11月10日(金) 17:00~18:00 ポスター会場

PC-2-1	HCUで人工呼吸器管理となった事例に対する作業療法の経験 ~ ADOCの活用による作業に根ざした実践~ Occupational therapy experience for a case of ventilator in HCU ~ Occupation-based practice through the use of ADOC ~	一般財団法人 倉敷成人病センター 診療支援部 リハビリテーション科 有田 幸平
PC-2-2	急性期病院の肺炎患者の転帰先に影響を与える因子 Factors affecting outcomes of pneumonia patients in acute hospital	藤田医科大学岡崎医療センター 大西 斉
PC-2-3	COPMを活用したセルフマネジメント教育によって行動変容が得られた一症例 Behavioral changes were obtained through self-management education using COPM: A Case Report	筑波メディカルセンター病院 大内 天輝
PC-2-4	間質性肺炎の生活指導に対して高次脳機能評価の必要性を検討した一症例 A case study of the necessity of higher brain function evaluation for life guidance in interstitial pneumonia	湘南藤沢徳洲会病院 リハビリテーション室 大西 織帆

呼吸器疾患 3

11月11日(土) 11:10~12:10 ポスター会場

PC-3-1	多疾患を併存した重症呼吸不全患者に対する作業療法経験 ~ 離床拒否の症例に対する作業活動を用いたアプローチ ~ OT for a Patient with severe respiratory failure with multiple comorbidities ~ An approach using activities ~	金沢大学附属病院 リハビリテーション部 仁木 裕也
PC-3-2	ECMO導入後、ICU-AWを合併した作業療法介入の一例 ~ PICSの視点と精神面への配慮を重視した関わり~ A case of occupational therapy intervention combined with ICU-AW after the introduction of ECMO	一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院 添田 輝大
PC-3-3	人工呼吸器管理中の重度四肢麻痺患者にコミュニケーション支援を通じて集中治療症候群(PICS)予防を行った一例 A case of preventing PICS through communication support for a severe quadriplegic patient under mechanical ventilation	石川県立中央病院 医療技術部 リハビリテーション室 千田 茂
PC-3-4	多職種連携を通して「結婚式に参加する」希望を見出した事例 A case of discovering the desire to "participate in a wedding ceremony" through multi-professional collaboration	平成博愛会 博愛記念病院 リハビリテーション部 瀬河 亮介

呼吸器疾患 4

11月11日(土) 12:10~13:10 ポスター会場

PC-4-1	当院高齢入院患者における口腔清掃自立度と退院後の肺炎発症率の関連性 Between the independence in oral cleaning and the incidence of pneumonia after discharge in elderly inpatients	社会医療法人川島会 川島病院 リハビリテーション室 三宅 輝美
PC-4-2	集中治療室からの作業療法~人工呼吸器離脱と活動拡大した一症例~ Occupational therapy from intensive care unit ~ A case of ventilator weaning and expansion of activities ~	呉医療センター リハビリテーション科 福原 淳史
PC-4-3	慢性閉塞性肺疾患(COPD)における運動耐容能と前頭葉機能の関連 Association between exercise tolerance and frontal lobe function in COPD	神戸大学大学院保健学研究科 パブリックヘルス領域 佐藤 央基
PC-4-4	漠然とした不安を抱えるCOPD患者に対するMTDLPを活用した臨床実践 Clinical practice using MTDLP for COPD patients with vague anxiety	深川市立病院 リハビリテーション課 岩岡 拓人

PD 運動器疾患

運動器疾患 1

11月10日(金) 11:00~12:00 ポスター会場

PD-1-1	CRPSを呈した施設入所者に対して、mirror therapyを併用したリハビリテーションの効果検証 Verification of the effect of rehabilitation combined with mirror therapy for facility residents with CRPS	伊勢赤十字 老人保健施設 虹の苑 リハビリテーション課 濱口 大輔
PD-1-2	橈骨遠位端骨折後患者の受傷上肢の日常使用を促進するツール(ADOC-DRF)を使用した事例報告 A decision aid to facilitate the daily use of the injured hand for post-distal radius fracture: A case report	大阪鉄道病院 リハビリテーション室 堀本 拓究
PD-1-3	長母指屈筋腱断裂術後患者に対しADOC-Hを使用した介入経験 Intervention experience using ADOC-H for patients after flexor pollicis longus tendon reconstruction	石橋総合病院 リハビリテーション科 海老原佑樹
PD-1-4	COPM目標に基づいた作業療法介入と痛みや不安の対処リストを併用することで破局的思考や不安の改善を認めた症例 A case of improvement in catastrophic thinking and anxiety with COPM-based occupational therapy and a coping list	医療法人社団曙会シムラ病院 診療技術部リハビリテーション科 姫井 幸雄
PD-1-5	covid-19ワクチン接種に関連した肩関節障害に対するリハビリテーション介入について The rehabilitation intervention for the Shoulder Injury Related to Vaccine Administration. A single case study	富良野協会病院 リハビリテーション科 鎌田 規宏
PD-1-6	大腿骨近位部骨折のFIM効率に与える因子の影響度について Influence of Factors on FIM Efficiency in Hip Fractures	医療法人社団牧会小牧病院 太田尾祐史
PD-1-7	A case report of effects in the artwork on relieving pain in the older patient after surgical treatment of hip fracture	Local incorporated administrative agency Suita Municipal Hospital Motoko Tsunemi



PD-1-8 手指拘縮症例に対するパラフィン療法と水治療法の効果比較  
Comparison of efficacy effects between paraffin therapy and hydrotherapy for finger contractures  
荻窪病院 リハビリテーション室  
長谷川夏美

**運動器疾患 2** 11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PD-2-1 橈尺骨骨幹部骨折後、手関節可動域制限を呈した事例への手関節背屈 dynamic splint を用いた介入～就労世代の home exercise の検討～  
Dynamic wrist splint for improving joint movement after radioulnar fracture  
～ Consider of working generation home ex ～  
聖隷横浜病院 リハビリテーション課  
前田 優

PD-2-2 多発手指伸筋腱断裂術後の杖歩行再開に向けたチームアプローチ  
Cooperation Between Medical Team for Gait Training After Multiple Extensor Tendon Rupture  
土谷総合病院 診療補助部 リハビリ室  
宮本 賢吾

PD-2-3 上肢外傷例に対し課題指向型訓練を併用する事で DASH, COPM の改善を認めた経験  
Experiences of improvement of DASH and COPM in patients with upper extremity trauma by combining task-oriented training  
公益財団法人 健和会 大手町病院  
急性期リハビリテーション科  
中島 薫平

PD-2-4 感染により肘関節自動伸展不足を呈した症例の治療経験  
Treatment experience of a case with extension lag of the elbow joint to infection  
愛野記念病院 手外科センター  
山田 玄太

PD-2-5 ハンドセラピー領域に対するフロッシングを用いた介入の有効性  
～手指腱縫合術後の後療法に癒着が改善した2症例～  
Efficacy of intervention Using Flossing for the Hand Therapy  
～ Two cases of improved adhesions in posterior therapy ～  
北里大学病院リハビリテーション部  
佐々木秀一

PD-2-6 クラリネット演奏が可能となった、示指切断症例に対する介入結果  
Intervention results for index finger amputation cases in which clarinet playing became possible  
東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科  
鈴木 健太

PD-2-7 複合組織損傷患者への IADL, 仕事, 趣味再開に向けた作業療法の一例  
An example of occupational therapy for resuming IADL, work, and hobby for patient with complex tissue injuries  
社会医療法人 医真会 八尾総合病院 作業療法科  
清水 和俊

PD-2-8 上肢熱傷後に治療に難渋した一症例  
A Case of Difficult Treatment after Upper Extremity Burn  
那覇市立病院 リハビリテーション室  
澤田 歩

**運動器疾患 3** 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場

PD-3-1 回復期リハビリテーション病棟運動器疾患患者における健康関連 QOL の変化と一致度の解明  
Elucidation of changes and agreements in HRQOL in musculoskeletal diseases in recovery phase rehabilitation wards  
聖隷クリストファー大学  
泉 良太

PD-3-2 高校野球選手における送球イップスの捉え方と対処法の実態  
A study on how high school baseball players perceive and deal with throwing yips  
長野保健医療大学  
保健科学部リハビリテーション学科  
栗林美智子

PD-3-3 最初は話せなかったニーズである友人との旅行を達成する為に作業療法とリハ栄養が重要であった一例  
Occupational Therapy and Rehabilitation Nutrition make the hope of the case come true.  
医療法人社団 三友会 あけぼの病院  
リハビリテーション科  
甲嶋 義史

PD-3-4 回復期リハビリテーション病棟で外傷性脊髄損傷を呈したクライアントに対する CO-OP アプローチを基盤とした作業療法  
Occupational therapy based on CO-OP for the client with spinal cord injury in a convalescent rehabilitation ward  
IMS<イムス>グループ イムス板橋リハビリテーション病院  
原 駿介

PD-3-5 COPM と作業活動が余暇活動の充実に寄与した症例  
A case in which COPM and occupational activities contributed to the enrichment of leisure activities  
埼玉医科大学国際医療センター  
リハビリテーションセンター  
小松 愛華

PD-3-6 作業を基盤とした介入により良好な足部機能の獲得とバレリーナへの復帰を果たした事例  
A case study of occupation-based intervention to achieve good foot function and return of a ballerina.  
医療法人社団 紺整会 船橋整形外科クリニック  
森 優太

PD-3-7 肩腱板断裂修復術後の外来リハビリテーションにて家庭内役割再獲得に至った一例  
A case of outpatient rehabilitation after shoulder rotator cuff tear repair leading to reacquisition of domestic roles  
川崎医療生活協同組合 川崎協同病院  
リハビリテーション科  
佐藤 恵美

PD-3-8 自主練習を中心とした外来作業療法で肘頭の観血的骨接合術後に合併した尺骨神経障害が改善した一事例  
Outpatient occupational therapy ameliorated the ulnar neuropathy after olecranon fracture with osteosynthesis  
京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部  
由利 拓真

**運動器疾患 4** 11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PD-4-1 リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法、歩数計を併用した介入  
Intervention using a combination of self-assessment method, interview method, and pedometer based on a SAMR  
柳川リハビリテーション病院  
リハビリテーション部 作業療法室  
松本健太郎

PD-4-2 手指関節炎後の屈曲制限に対しプリント療法で改善が得られた症例について  
A case where splint therapy improved flexion limitation after finger arthritis  
横浜南共済病院  
菅原 寿姫

PD-4-3 関節リウマチ患者におけるマスク着用行為自立支援用具の改良  
Improvement of the mask wearing act independence support tool in patients with articular rheumatoid arthritis  
JA 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院  
作業療法科  
林 正春

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表

PD-4-4	変形性手関節症による腱断裂に対し S-K 法及び伸筋腱縫合術を施行された患者に対し、超音波評価下の運動療法が有効であった症例 Therapy with ultrasound evaluation for patients undergoing S-K and extensor tendon suture	JA 神奈川県厚生連 医療技術部 リハビリテーション室 成田 大地
PD-4-5	肘関節 Terrible Triad Injury 後に日常的な上肢使用が可能になった症例 The patient regained the function of upper limb on a daily basis after Terrible Triad Injury of the Elbow	医療法人社団 メドビュー 東京ちどり病院 リハビリ課 大久保新里
PD-4-6	関節授動術と腱鞘再建術が施行された中指深指屈筋腱断裂の事例に対する作業療法 Occupational therapy for a case of flexor tendon rupture with joint mobilization and tendon sheath reconstruction	札幌医科大学大学院保健医療学研究所、 北海道大野記念病院 早崎 涼太
PD-4-7	破局的思考のある橈骨遠位端骨折患者に対し急性期で認知行動療法を導入した一例 A case of CBT introduced in the acute phase for a patient who distal radius fracture with catastrophizing.	社会医療法人 寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 吉田 光秀
PD-4-8	母指・小指運動時における母指球筋と小指球筋の筋活動に関する筋電図学的検討 Electromyographic study of the activity of thenar and hypothenar muscles during the movement of thumb and little finger.	北摂総合病院 リハビリテーション科 遠近 太郎
<b>運動器疾患 5</b> 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PD-5-1	肘関節周辺外傷後の筋力低下に対して随意運動助型電気刺激装置を使用した症例 A Case Using an Integrated Volitional control Electrical Stimulator for Muscle Weakness after Elbow Joint Trauma	香川大学医学部附属病院 リハビリテーション部 津川 亮介
PD-5-2	三角筋の機能不全を伴う変形性肩関節症に対するリバーズ型人工肩関節置換術後に三角筋機能と肩甲骨機能に着目し介入を行った一例 A case of focusing on deltoid and scapular function after reverse shoulder arthroplasty with deltoid muscle dysfunction	近畿大学病院 リハビリテーション部 高橋 尚暉
PD-5-3	肩腱板断裂患者に対する胸椎セルフストレッチングの導入 Introduction of Thoracic Self-Stretching for Patients with Shoulder Rotator Cuff Tears	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 作業療法学講座、 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士後期課程 菊地 翼
PD-5-4	鏡視下腱板修復術後患者の上肢活動量～三軸加速度計を用いた横断的研究～ Postoperative changes in upper limb activity in patients undergoing arthroscopic rotator cuff repair	労働者健康安全機構 中国労災病院 中央リハビリテーション部 福島 敏之
PD-5-5	一次修復困難な肩甲下筋断裂に対し小胸筋移行術を施行した一例 Pectoralis minor transfer for irreparable subscapularis tear	市立甲府病院 リハビリテーション室 石田 優真
PD-5-6	強い筋性拘縮および正中・橈骨神経麻痺を生じた前腕部重度複合組織損傷症例に対するセラピー Handtherapy after severe composite tissue injury with muscular contracture and median・radial nerve palsy on forearm	聖隷浜松病院 手の外科・マイクロサージャリーセンター 原田 康江
PD-5-7	腰椎椎間板ヘルニアにより慢性疼痛を呈した事例に対する認知行動療法を用いた復職支援 Return-to-work support using cognitive-behavioral therapy with Chronic pain due to lumbar disc herniation: a case study	広島中央保健生活協同組合 福島生協病院 リハビリテーション科 山原 英雄
PD-5-8	橈骨頭骨折後に生じた前腕回旋制限に対してスプリント療法が有効であった一例 Splint Therapy was Effective for Restricted Forearm Rotation after Radial Head Fractures:A Case Report	那覇市立病院 リハビリテーション室 坂田 美紀
<b>運動器疾患 6</b> 11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場		
PD-6-1	同側の上腕骨近位端・遠位端骨折に対し、一期的に人工肩関節及び肘関節置換術を行った症例の介入報告～洗顔・洗髪動作獲得について～ A case report of simultaneous shoulder and elbow arthroplasty for ipsilateral proximal and distal humerus fractures	JCHO 東京新宿メディカルセンター リハビリテーション室 矢倉 義久
PD-6-2	Zone7 伸筋腱断裂を伴った経舟状月状骨周囲脱臼に対する作業療法の経験 A case of occupational therapy for transscaphoid perilunate dislocation accompanied with Zone7 extensor tendon rupture.	株式会社麻生飯塚病院 リハビリテーション部 安藤 幸助
PD-6-3	橈骨遠位端骨折術後患者に対する ADOC-H を用いた作業療法と身体機能訓練を併用した実践の長期的有用性の検討 Long-term effects of occupational therapy using the ADOC-H for patients with distal radius fractures	医療法人 幸仁会 飯田病院 ハンドセラピー室、 鹿児島大学大学院保健学研究科 久木崎 航
PD-6-4	自己効力感の高い左上腕骨骨折患者の寿司職人への復職に向けた介入経験 Intervention experience of a left humerus fracture patient with high self-efficacy to return to work as a sushi chef	医療法人社団 心と会 成田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小松 諄
PD-6-5	橈骨遠位端骨折後の自己効力感と機能的能力の半年間の経過 Half-year course of self-efficacy and functional ability after distal radius fracture	医療法人財団 荻窪病院 リハビリテーション室 宮里 輝
PD-6-6	月状骨周囲脱臼に対する治療成績と仕事復帰に向けた関わり Treatment result for the lunate bone neighborhood dislocation and returning to work	医療法人 済衆館 済衆館病院 守本 隼大
PD-6-7	手根管症候群患者における知覚障害の範囲と CTSI-JSSH との関連に関する予備的研究 Relationship of sensory disturbance area and CTSI-JSSH in patients with carpal tunnel syndrome: preliminary research	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部 石田 愛幸
PD-6-8	手根管症候群術後患者への満足度評価結果から見えてきた Hand20 の術後3ヶ月までの傾向と課題 Trends and issues in patients 3 months postoperatively with carpal tunnel syndrome from "Hand20"	大田市立病院 リハビリテーション技術科 波多野圭太





運動器疾患 7		11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場
PD-7-1	多数指中手骨骨折術後の総指伸筋腱癒着に対するフロッシング介入効果を示した一例 Effect of flossing on common finger extensor tendon adhesions after multiple finger metacarpal fracture surgery.	昭和大学保健医療学部作業療法学科 青木啓一郎
PD-7-2	ファシアに着目した flossing (フロッシング) 介入の実践報告 ～軟部組織性拘縮を呈した経過の異なる2症例の即時効果～ A practical report to intervene the flossing technique for fascia ～ Immediate effect in two contracture cases ~	北里大学病院 リハビリテーション部 神保 武則
PD-7-3	屈筋腱断裂 Zone II, の症例に対して安静時スプリントと早期運動療法を使用した時の有効性について Effectiveness of flexor tendon repair Zone II with resting splint and immediate controlled active motion	社会医療法人 甲友会 西宮協立脳神経外科病院 リハビリテーション科 東久保 遥
PD-7-4	深指屈筋腱損傷に対する神経再生誘導術後、早期からハンドセラピーを行った一例 A case of early hand therapy after nerve regeneration induction surgery for deep flexor tendon injury	社会医療法人 敬和会 大分岡病院 リハビリテーション部 神志那詩音
PD-7-5	一体化背側アウトリガースプリントを作成し、3D プリンターにて作成した経験 Experience of integrated dorsal outrigger splint drawn and created on a 3D printer.	鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部 射場 靖弘
PD-7-6	当院における手指伸筋腱断裂に対する ICAM 法を使用した実践経験 Practical experience using the ICAM method for finger extensor tendon ruptures at our hospital	医療法人社団友志会石橋総合病院 リハビリテーション科 清永 健治
PD-7-7	後縦靭帯骨化症術後の両側性 C5 麻痺例に対し CoCoroeAR2 を併用し ADL が自立した一例 Combined therapy using CoCoroeAR2 lead to independence in ADL- A case of bilateral C5 paralysis after surgery for OPLL	鹿児島大学病院 リハビリテーション部 里村 衣織
運動器疾患 8		11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場
PD-8-1	四肢切断により将来への展望を失った高齢女性に対して、COPM を用いて「その人らしい生活」の再建を目指した作業療法経験 Occupational therapy using COPM for elderly women who lost future prospects due to amputation of all four limbs	兵庫県立リハビリテーション中央病院 松前めぐみ
PD-8-2	労災症状固定後に初めて義手リハビリテーションを実施し復職に至った右前腕切断事例 Right Forearm Amputee who Returned to Work First Prosthetic Rehabilitation after Fixation of Symptoms. : Case Study	国立障害者リハビリテーションセンター 病院リハビリテーション部作業療法 中川 雅樹
PD-8-4	高齢者の中心性頸髄損傷を呈した症例に上肢機能改善に合わせて代償手段を段階的に変更した食事動作獲得に向けた支援 Support for eating activities with graded compensatory measures for people with cervical cord injury	イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 リハビリテーション科 大坂屋真奈
PD-8-5	人工股関節全置換術後のクライアントに対する生活行為工程分析表 (PADA-D) を用いた作業療法実践 Occupational therapy practice using the PADA-D for clients after total hip arthroplasty.	東京立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法 科学域、 東京都リハビリテーション病院 作業療法科 高橋 啓
PD-8-6	我が国のサリドマイド胎芽症者の痛みが日常生活に及ぼす影響 Effects of pain on daily life in Japanese individual with thalidomide embryopathy	日本医療科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 小林 毅
PD-8-7	指骨骨折と伸筋腱断裂合併に対し、yoke スプリントを用い良好な関節可動域を獲得した症例 A case of open phalanx fracture and extensor tendon rupture with good range of motion using a yoke splint.	埼玉医科大学病院 リハビリテーション科 高柳 直弥
運動器疾患 9		11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場
PD-9-1	Safety pin スプリントのワイヤーの太さの選択と導入の適応 Selection and Indication of Safety Pin Splint Wire Diameter	常葉大学 保健医療学部 作業療法学科 奥村 修也
PD-9-2	人工筋型筋電装具における操作効率の熟達期間と主観的満足度との関係 ～ Box and Block Test と System Usability Scale を用いて～ Relationship between proficiency period of operation efficiency and subjective satisfaction in electromyographic splint	関西医科大学 リハビリテーション学部 中山 淳
PD-9-3	大腿骨近位部骨折術後患者において在宅復帰に及ぼす因子の検討 Investigation of factors affecting home return after surgery in patients with proximal femoral fracture	益田赤十字病院 整形外科部 リハビリテーション技術課 多田 光佑
PD-9-4	大腿骨頸部骨折術後患者の社会活動とソーシャルネットワークの関係 Relationship between social activity and social network in postoperative patients with femoral neck fracture	島根リハビリテーション学院 作業療法学科 青木竜太郎
PD-9-5	大腿骨近位部骨折術後患者における術後 18 日時点での排泄動作の自立度を入院時に予測する Predicting Independence of Excretory Movement at 18 Days Postoperatively in Postoperative Patients with Hip Fracture	相澤病院 リハセラピスト部門、 相澤病院 整形外科リハ科 富井 啓太
PD-9-6	大腿骨近位部骨折を受傷する前の認知機能と生活障害の分析 ～ DASC-21 による分析から予防的な関わりが必要な対象者を抽出する～ Analysis of cognitive function and disability before hip fracture ～ Extract subjects who need prevention from DASC-21 ~	慈泉会 相澤病院 リハセラピスト部門 小林 勇矢



PD-9-7 疼痛に対するペーシングを併用した介入によって大切な作業の獲得に至った THA の事例  
 A case of THA in which intervention with pacing for pain led to the acquisition of important tasks  
 社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院 リハビリテーション部  
 甲斐 将平

運動器疾患 10

11月11日(土) 14:10 ~ 15:10 ポスター会場

PD-10-1 慢性疼痛により不安・抑うつ傾向を呈した症例に対し、疼痛教育的介入を実施し改善が見られた一症例  
 A case of anxiety and depressive tendencies due to chronic pain that improved after pain education intervention  
 医療法人社団淳英会 おゆみの中央病院 リハビリテーション部  
 馬越 建彰

PD-10-2 頸椎疾患術後患者における術後早期の頸肩部の痛みの性質と退院時の変化  
 ~マクギル疼痛質問票を用いた検討~  
 Changes in Neck and Shoulder Pain Characteristics in Post-Surgical Patients with Cervical Spine Disorders  
 福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部  
 山岸 永典

PD-10-3 2症例間の比較による目標共有を取り入れた作業療法と触圧覚識別課題の併用効果  
 ~全人工膝関節置換術後症例に対する検討~  
 Effects of occupational therapy with shared goals and tactile pressure identification tasks a comparison of two cases  
 奈良県総合リハビリテーションセンター  
 福井 美晴

PD-10-4 糖尿病足病変患者に対する作業療法の標準化への試み  
 An attempt to standardize occupational therapy for people with diabetic foot disease  
 大分岡病院 リハビリテーション部  
 重藤ひかる

PD-10-5 停止腱の組成に基づく上腕三頭筋の解剖学的研究  
 An anatomical study of triceps brachii based on the composition of triceps insertion tendon  
 東京医科歯科大学 臨床解剖学分野  
 山本凜太郎

PD-10-6 手根管症候群における母指回内角度の増加が手の機能的状態に及ぼす影響  
 Effect of Increased of Thumb Pronation Angle on Hand Functional Status in Carpal Tunnel Syndrome  
 地方独立行政法人 徳島県鳴門病院 リハビリテーション技術科  
 山家 恭平

PD-10-7 重度の上肢複合損傷を呈した若年症例に対する作業療法経過と社会復帰へ向けた関わり  
 Progress of Occupational therapy and social reintegration of a young patient with severe upper limb complex injury.  
 済生会 山形済生病院 リハビリテーション部  
 畠腹 奈生

PD-10-8 上腕骨折術後、生活場面での上肢使用が可能となった一症例  
 ~できない から できる ~  
 A case of upper limb use in daily life after humerus fracture surgery  
 ~ From "I can't do it" to "I can do it" ~  
 医療法人 山笑会 はるやま医院 リハビリテーション科  
 大竹 英次

運動器疾患 11

11月11日(土) 15:10 ~ 16:10 ポスター会場

PD-11-1 早期からの短期目標達成により不安や抑うつ改善を認めた下腿骨折患者の一事例  
 A case study of a fractured lower leg who improved anxiety and depression by achieving early and short-term goals  
 医療法人徳洲会 千葉西総合病院  
 平山 裕太

PD-11-2 目標の明確化と就労準備性の向上を促すことで、退院後職場復帰に至った一例  
 An exampl of an employee returning to work by promoting improved work readiness  
 社会医療法人若弘会わかさ竜間リハビリテーション病院 リハビリテーション部  
 衣笠 純一

PD-11-3 橈骨遠位端骨折術後の男女別 DASH 項目の比較  
 Comparison of DASH by gender after distal radius fracture surgery  
 刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科  
 後藤進一郎

PD-11-4 橈骨遠位端骨折術後の握力成績が Hand20 下位項目に及ぼす影響について  
 The Effect of Grip Strength Outcome after Distal Radius Fracture Surgery on the Hand20 Subitem  
 上尾中央総合病院 診療技術部 リハビリテーション技術科  
 梶塚 裕貴

PD-11-5 橈骨遠位端骨折後の変形癒合に対する手術後の段階的な装具の使用により、手指の関節可動域が改善した症例  
 The case of malunion distal radius fracture with improved range of motion of the hand by using splints.  
 東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科  
 青木 梨紗

PD-11-6 橈骨遠位端骨折ロックングプレート固定術早期の運動恐怖が短期成績に与える影響  
 Influence of kinesiophobia early after volar locking plating for distal radius fractures on short-term outcomes  
 北海道文教大学 医療保健科学部リハビリテーション学  
 学科作業療法学専攻、北海道済生会小樽病院 手・肘センター  
 白戸 力弥

PD-11-7 橈骨遠位端骨折の対象者の選定方法と作業療法内容の傾向~文献レビュー~  
 Tendency of the intervention of occupational therapy and inclusion criteria with distal radius fracture ~ Literature review ~  
 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学研究科博士前期課程  
 井上 由貴

PD-11-8 橈骨遠位端骨折術後における自主練習指導において価値ある作業の成功体験が有効であった一例  
 postoperative distal radius fracture that enabled the patient to home-exercise by providing a successful experience.  
 獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部  
 山木 花音

運動器疾患 12

11月11日(土) 16:10 ~ 17:10 ポスター会場

PD-12-1 患側上肢の過活動を認めた橈骨遠位端骨折患者の1例  
 ~上肢活動量を併用した目標設定の有用性~  
 A case with distal radius fracture with overuse of the affected limb  
 ~ Usefulness of goal setting with Upper limb Activity ~  
 医療法人健全会 たつえクリニック リハビリテーション科  
 長倉 侑祐

PD-12-2 骨粗鬆症もしくは骨量減少と診断された橈骨遠位端骨折の転倒リスクとその特徴  
 Fall Risk and Characteristics in Patients with Distal Radius Fractures Diagnosed with Osteoporosis or Low Bone Density  
 東大和病院 リハビリテーション科  
 野島 美希



PD-12-3	運動恐怖により日常生活で手の使用頻度の低下がみられた右橈尺骨遠位端骨折術後患者に対する ADOC-H を用いた段階的作業療法介入 ADOC-H OT for post-operative right radius/ulna fracture patients to improve hand use and reduce anxiety	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 リハビリテーション室 吉瀬 陽
PD-12-4	頸椎性脊髄症者のペットボトルキャップ開封のための要因 Factor for opening plastic bottle caps in people with cervical spondylotic myelopathy	山形県立保健医療大学保健医療学部 作業療法学科 鈴木 由美
PD-12-5	食事動作の自立に向け主に体幹機能へアプローチした術後頸椎性脊髄症の一症例 A case of postoperative cervical spondylotic myelopathy focusing on trunk function for independent eating	医療法人 徳洲会 六地藏総合病院 リハビリテーション科 大内 啓
PD-12-6	C5 麻痺を呈した頸椎症患者に随意介助型電気刺激 (IVES) 療法を実施した試み Therapy of Integrated volitional control electrical stimulation for C5 palsy after cervical spondylosis: A case Study	済生会山形済生病院 リハビリテーション部 米野 詠貴
PD-12-8	頸髄損傷患者に対して自助具を工夫したことで食事自立に至った事例 A case study of a patient with cervical cord injury who achieved eating independence by devising a self-help device.	総合リハビリテーションセンターみどり病院 リハビリテーション科 鈴木 雄大

**PE 神経難病**

**神経難病 1** 11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場

PE-1-1	短期入院中に COPM の満足度の向上を認めた ALS の一例～ ICT 活用支援を通じて～ A case of ALS showed improvement in COPM satisfaction during short-term hospitalization ~ through ICT utilization support ~	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 岩倉 慶和
PE-1-2	COVID-19 に罹患した ALS 患者のコミュニケーション支援の経験 Experience of communication support for ALS patients with COVID-19	大阪府根山医療センター リハビリテーション科 藤原 里奈
PE-1-3	急速な症状進行を呈した ALS 患者への看取りまでの関わり ～コミュニケーションと環境整備に焦点を当てて～ interactions with a ALS presenting with rapid progression until the end of life ~ Focus on communication and environment ~	社会医療法人 愛仁会 尼崎だいもつ病院 リハ技術部作業療法科 岩下 舞雪
PE-1-4	iPhone® 操作獲得による筋萎縮性側索硬化症患者の社会参加支援 Efforts to support social participation of ALS patient by enabling him to operate iPhone®	JA 長野厚生連 富士見高原医療福祉センター 富士見高原病院 作業療法科 吉野さくら
PE-1-5	発症から確定診断告知の期間における上肢型 ALS 患者の就労に着目した介入 Intervention focusing on employment in patients with upper extremity ALS in the period until definitive diagnosis	福岡大学病院 リハビリテーション部 宇久田義樹

**神経難病 2** 11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PE-2-1	ALS 事例の障害受容に向けた介入～環境への段階的な支援～ Approaches to Acceptance of Amyotrophic Lateral Sclerosis case's Disabilities ~ Phased Support for The Environment ~	砂川市立病院 医療技術部リハビリテーション科 浅野 祐平
PE-2-2	進行を見据えた目標設定と問題点の共有により電動車椅子の導入に至った ALS の一例 A case of ALS in which setting prognostic goals and sharing problems led to the introduction of an electric wheelchair	東邦大学医療センター大森病院 リハビリテーション科 杉澤 樹
PE-2-3	心身機能の改善を求めるパーキンソン病患者に対し、COPM と MTDLP を活用することで、作業に焦点を当てた介入が可能となった事例 COPM and MTDLP to provide occupational focused intervention for a patient with Parkinson's disease.	順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室 吉澤 卓馬
PE-2-4	Impaired kinesthetic sensitivity and manual dexterity for people with early stage Parkinson's disease	Department of Occupational Therapy and Graduate Institute of Behavioral Sciences, Chang Gung University, Taoyuan, Taiwan, Healthy Aging Research Center, Chang Gung University, Taoyuan, Taiwan, Movement Disorders Section, Department of Neurology, Chang Gung Memorial Hospital at Linkou, Taoyuan, Taiwan Kuan-yi Li
PE-2-5	作業療法士が製作したコミュニケーション機器の導入 Introduction of communication tool produced by an occupational therapist.	新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 近藤 孝寛

**神経難病 3** 11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PE-3-1	UPDRS を用いた若年性パーキンソン病患者に対する QOL 改善への介入 Intervention to improve quality of life in patients with juvenile Parkinson's disease assessed by UPDRS	地方独立行政法人 秋田県立病院機構 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 小野かおり
PE-3-2	パーキンソン病患者の内的リズムと外的リズムの違いについて ～ボトルキャップ回転課題を用いた検討～ Differences between internal and external rhythms of Parkinson's disease patients. ~ With Open Bottle Cap-task (OBC-task) ~	文京学院大学, 埼玉県総合リハビリテーションセンター 作業療法科 國重 雅史
PE-3-3	パーキンソン病患者における身体活動ガイドライン遵守とヘルスリテラシーの関連 ～オンライン web 調査～ Association between Physical Activity Levels and Health Literacy in People with Parkinson's Disease ~ An online web survey ~	福岡大学 医学部 脳神経内科学 長城 晃一

ポスター発表

PE-3-4	パーキンソン病の運動症状と抑うつ症状に対する反復経頭蓋磁気刺激治療とリハビリテーションの併用効果 Combined effects of rTMS and rehabilitation on motor and depressive symptoms of Parkinson's disease.	医療法人相生会 福岡みらい病院 リハビリテーション科 田中 大地
PE-3-5	上肢の狭小化を示したパーキンソン病患者 1 例に対する触覚的 cue を用いた車いす操作支援 Wheelchair operation assistance using tactile cues for a Parkinson's disease patient with upper limb narrowing	新札幌パウロ病院 リハビリテーション科 横山 航太
<b>神経難病 4</b> 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PE-4-1	パーキンソン病患者の日常生活動作の困難と作業療法介入方略 Difficulties in activities of daily living in patients with Parkinson's disease and occupational therapy strategies	大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究所 内藤 泰男
PE-4-2	パーキンソン病者の箸操作能力に対する介入の経験 Experiences with interventions on chopstick manipulation ability in a person with Parkinson's disease	(株) 豊通オールライフ ヘルスケア事業部 堀 翔太
PE-4-3	ロボットリハビリテーションと作業療法を併用し、ADL、QOL に改善がみられた遠位型ミオパシーの一症例 Single case study: Distal myopathy patient improves ADL and QOL by robot rehabilitation and Occupational therapy.	兵庫県立尼崎総合医療センター リハビリテーション部 阿部 悠亮
PE-4-4	急性期視神経髄膜炎スペクトラム障害患者に対する作業療法評価 Occupational therapy evaluation for patients with acute neuromyelitis optica spectrum disorders	東京歯科大学市川総合病院 リハビリテーション科 吉村 翔
<b>神経難病 5</b> 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場		
PE-5-1	人工呼吸器管理後、更なる病態の進行を認めた筋ジストロフィー患者に本人の意向に沿って目標設定が行えた症例 A case goals were set in accordance with the patient's wishes in a muscular dystrophy patient with progressive disease	神戸市立医療センター 西市民病院 前田 正太
PE-5-2	神経・筋疾患患者の電動車椅子サッカーチームの支援と今後の展望 Power chair Football for patients with neuromuscular diseases, support for soccer teams, and futuer prospects.	独立行政法人 国立病院機構 長良医療センター リハビリテーション科 伊藤 智絵
PE-5-3	多発性硬化症患者の QOL 向上への取り組み～寝たきりから社会参加までの目標設定～ Efforts to improve the QOL of patients with multiple sclerosis ～ Goal setting from bedridden to social participation ～	一般社団法人 巨樹の会 新上三川病院 寺尾 博幸
PE-5-4	神経難病患者に対するクライアント中心の作業療法の実践について Practice of client-centered occupational therapy for patients with intractable neurological diseases	独立行政法人国立病院機構福島病院 リハビリテーション科 上林 泉
PE-5-5	オープンクエッションとテストバッテリーを用いたニーズの比較 ～侵襲的人工呼吸療法管理の神経筋疾患3症例の調査～ Comparison of rehabilitation needs using open-questionnaires and test-batteries	医療法人社団武蔵野会狭山神経内科病院 医療技術部 浅見 舞
<b>神経難病 6</b> 11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場		
PE-6-1	ブラッシュアップ入院患者に対して実施した主観的効果調査について Subjective effects of intensive inpatient rehabilitation treatment in Parkinson's disease and related disorders	埼玉県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部作業療法科 土佐 圭子
PE-6-2	重度嚥下障害を呈した封入体筋炎患者の摂食意欲に対する作業療法的介入 Occupational therapy for the willingness to eat in sporadic inclusion body myositis patients with severe dysphagia	鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科 青木 佑介
PE-6-3	クライアントの主体性を重視した目標設定と活動により生活が変化した症例 ～実生活での介入による訪問リハビリの可能性～ The patient's life was changed through goal and activities. ～ Potential for rehabilitation through real-life ～	ちどりばし在宅診療所 田中 大助
PE-6-4	SEIQoL-DW を用いた事で、作業の重要性を再認識し、抑うつ・不安の軽減に繋がった事例 A patient where the use of SEIQoL-DW reaffirmed the importance of work and reduced depression and anxiety	IMS グループ医療法人社団明芳会イムス横浜東戸塚 総合リハビリテーション病院 榎本 光彦
<b>神経難病 7</b> 11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場		
PE-7-1	薬剤関連進行性多巣性白質脳症への作業療法の取り組み～役割に注目した OT の関わり～ The occupational therapy for progressive multifocal leukoencephalopathy ～ The Role-focused occupational therapy ～	浜松医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 鈴木ひなの
PE-7-2	上肢すくみ現象に着目し目標設定を行い作業療法と行動観察練習を合わせ介入した進行性核上性麻痺疑いの一例 A case of suspected PSP by combining occupational therapy and behavior observation practice for freezing of upper limb.	日本郵政株式会社 東京通信病院 リハビリテーション科 後河内航平
PE-7-3	小脳型多系統萎縮症患者の作業療法における上肢運動失調と Trail Making Test との関係 Relationship between upper limb ataxia and TMT in occupational therapy for patients with multiple system atrophy type C	神戸大学 ウェルビーイング先端研究センター/保健学研究科 園田 悠馬
PE-7-4	人工呼吸器管理の ALS 患者が多職種連携により自宅退院できた一例 A patient with ALS under ventilator management who was discharged from hospital through multidisciplinary collaboration	東京医科大学八王子医療センター リハビリテーション部 岡部由美子



<b>神経難病 8</b>		11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場
PE-8-1	神経難病患者への総合的な福祉用具支援サービスの必要性 ～内発的動機づけと自己決定理論に基づいた利用者との協働プロセス～ Necessity of comprehensive Assistive Technology for patients with intractable neurological diseases	大阪市援助技術研究室 池田 真紀
PE-8-2	訪問リハビリ介入中に装具療法と観血的関節授動術を施行したフィッシャー症候群の経過 Course of Fisher syndrome treated with orthotic therapy and joint mobilization in a home visit rehabilitation.	湘南藤沢徳洲会病院 山口 莉歩
PE-8-3	POEMS 症候群 1 症例に対しての長期間の作業療法の実践と経過 Long-term changes of upper motor function in a patient with POEMS syndrome by combined NMES and transplantation	埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部 山本 美咲
PE-8-4	進行性疾患に対する痙縮治療と並行し、MTDLP を取り入れた一事例 ～痙性対麻痺を罹患しバクロフェン髄注療法を行う男性への関わり～ MTDLP practice in parallel with spasticity treatment ～ Patients with spastic paraplegia receiving ITB therapy ~	社会医療法人若竹会 土浦リハビリテーション病院 介護医療院 山下 優
<b>PF がん</b>		
<b>がん 1</b>		11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場
PF-1-1	急性期病院における膠芽腫術後患者に対する Occupation Based Practice の実践報告 Practical Report of Occupation Based Practice for Postoperative Glioblastoma patients	北里大学病院 リハビリテーション部 黒崎 空
PF-1-3	骨転移患者におけるリハビリテーション介入後の ADL ～脊椎不安定性の有無による比較検討～ ADL after rehabilitation intervention in patients with bone metastasis ～ comparative study with spinal instability ~	信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 関 みなみ
PF-1-4	頭頸部がん患者における頸部郭清術後の僧帽筋麻痺に影響を及ぼす因子について Factors of trapezius paralysis after neck dissection in patients with head and neck cancer	静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 鈴木 諒子
<b>がん 2</b>		11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PF-2-1	頸部郭清術後の僧帽筋上部線維における疲労出現は肩関節外転運動で早まる ～筋電図周波数解析を用いた一例～ Muscle fatigue of the upper trapezius after neck dissection occurs earlier during shoulder abduction ~ A case study ~	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科、 埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーション センター 小泉 浩平
PF-2-2	肩関節肢位別に僧帽筋活動の変化を検証した頸部郭清術後症例 A case after neck dissection in which trapezius muscle activity were examined according to the position of the shoulder	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 大木原徹也
PF-2-3	当院において作業療法が処方されたがん患者リハビリテーションの現状と課題 The current status and problem of the cancer patients being rehabilitated by occupational therapist in our hospital.	小城市民病院 リハビリテーション科 縄手 雪恵
PF-2-4	終末期がん患者に対する作業療法において、作業療法士が他職種と協業する際のクリニカルリーディング Clinical Reasoning of OTRs when collaborating with other professionals in OT for terminal cancer patients	香川県立白鳥病院 リハビリテーション科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科 学域 池知 良昭
<b>がん 3</b>		11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PF-3-1	患者に寄り添った作業療法とは～医療従事者が癌になったら～ What is patient - friendly Occupational Therapy? ~ When a medical worker gets a cancer ~	川崎医科大学総合医療センター リハビリテーションセンター 中山みゆき
PF-3-2	環境調整を主とした短期的介入によって自己効力感の向上につながった終末期肺癌患者 A terminal lung cancer patient with improved self-efficacy due to short-term intervention mainly environment adjustment	日本赤十字社長崎原爆病院 宍岐尾優太
PF-3-3	富田林訪問看護ステーションでの終末期がんリハビリテーション ～現状と課題から考える今後の支援～ End-of-life Cancer Rehabilitation at Tondabayashi Visiting Nursing Station	大阪府 済生会 富田林病院 橋本 博史
PF-3-4	がんセンターにおける転移性骨腫瘍手術症例に対する作業療法介入の現状と課題 Occupational therapy after surgery for cancer patients with bone metastases in single institute	大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科 藤井 美希
<b>がん 4</b>		11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PF-4-1	造血幹細胞移植後に HHV-6 による高次脳機能障害を併発後、自宅復帰が可能となった症例 Single case report to return home with brain disfunction due to HHV-6 after hematopoietic stem cell transplantation	信州大学医学部附属病院 高田 明子
PF-4-2	がん性疼痛に対する認知行動療法理論に基づいた作業療法～多発性骨髄腫の一例～ Occupational therapy based on cognitive behavioral therapy theory for cancer pain ～ A case of multiple myeloma ~	鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科、 畿央大学大学院健康科学研究科 杉野 達也
PF-4-3	化学療法実施中の悪性リンパ腫患者における認知機能と身体・精神機能との関連 Relationship between cognitive function and physical and mental function in patients with lymphoma during chemotherapy.	長崎大学病院 リハビリテーション部 山口 良太

ポスター発表



PF-4-4	ストレスコーピングスキルを併用した介入が不安の軽減と身体機能の維持に繋がった食道がんの事例 A case of esophageal cancer in which intervention with stress coping skills improved anxiety and physical function	社会医療法人孝仁会 北海道大野記念病院 リハビリテーション部 三浦 健太
<b>がん 5</b> 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PF-5-1	トルソー症候群による脳梗塞を来した2症例の臨床所見と作業療法経過 Clinical findings and course of Occupational Therapy in two cases of cerebral infarction due to Trousseau syndrome.	国立病院機構 熊本医療センター リハビリテーション科 戸沢 美希
PF-5-2	がん患者の化学療法に伴う末梢神経障害の病態と作業療法 Occupational therapy and clinical condition of peripheral neuropathy associated with chemotherapy in cancer patients	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター リハビリテーション科 中本 裕美
PF-5-3	がん経験者と協働して設定するライフゴールにはどのような要素を含めるべきか? ~スコーピングレビュー~ What elements should be included in collaborative life goal setting with cancer survivors?	県立広島大学 作業療法学コース 池内 克馬
PF-5-4	消化器がん術後患者における精神的苦痛に影響する要因の検討 Factors affecting psychological distress in postoperative patients with digestive cancer	SUBARU 健康保険組合太田記念病院 リハビリテーション部 堀越 晃子
<b>がん 6</b> 11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場		
PF-6-1	肺癌鎖骨上窩リンパ節転移により腕神経叢障害を呈した一例 A case of brachial plexopathy due to supraclavicular lymph node metastasis from lung cancer	公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院 リハビリテーション課 木原 智美
PF-6-2	リンパ浮腫を呈した高齢がん患者に対するリンパ浮腫治療とセルフケアの現状 The treatment and self-care of lymphedema for elderly cancer patients.	大阪府済生会富田林病院 リハビリテーション科 島崎 寛将
PF-6-3	リンパ節移植術前後に自己管理の確立に重点をおいた複合的治療を行い、良好な結果になった症例の報告 A case report which performed complex physical therapy in the peri operative period of vascularized lymph node transfer	独立行政法人 埼玉病院 坂巻 和
PF-6-4	病前から大切にしていた作業の遂行により主体的な言動がみられるようになった脳幹神経腫瘍の一例 A case of brainstem glioma who regained independence through her cherished occupation	秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 新井さやか
<b>がん 7</b> 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場		
PF-7-1	若年の悪性脳腫瘍患者に対する作業療法～回復期と終末期での関わり～ Occupational therapy for young malignant brain tumor patients ～Relationship between recovery and end of life～	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 医療技術部リハビリテーション科 鈴木 陽太
PF-7-2	緩和ケア外来にてOTがアドバンスケアプランニングに参加した一事例 The occupational therapist intervention advance care planning at palliative care outpatient: A case report	済生会小樽病院 リハビリテーション室作業療法課、 済生会小樽病院 緩和ケアチーム 林 知代
PF-7-3	緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実施状況に関する質問紙調査 A Questionnaire Survey on Implementation of Rehabilitation in Palliative Care Units	大阪公立大学 大総合リハビリテーション学研究所 西山菜々子
<b>がん 8</b> 11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場		
PF-8-1	終末期の外出支援により家族・愛猫と自宅で最期を過ごせた症例 A case report: About outing support to meet the end of life with family and love cat at home	社会医療法人 有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部 竹中 温子
PF-8-2	緩和ケア病棟入院患者の歩行能力を予測する因子についての検討 A study of factors predicting walking ability in patients admitted to palliative care units.	パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室 熊野 宏治
PF-8-3	終末期作業療法の構造と意義～作業に関する語りを通して～ Structure and Significance in Occupational Therapy with Terminally Patients ～Using the content of occupational narrative～	公立八女総合病院 リハビリテーション科 國武亜由美
PF-8-4	選択的頸部郭清術後の術側・非術側の肩関節外転角度差による上肢機能の比較 Comparison of shoulder joint abduction angle difference between operated and non-operated sides after neck dissection	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 伊藤慎太郎
<b>がん 9</b> 11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場		
PF-9-1	がん患者の自宅復帰に伴う心身の不調に対する実態調査 Cancer patients' physical and emotional problems with discharge from home:A survey report	公立みつぎ総合病院 リハビリ部 光成知香枝
PF-9-2	乳がん関連続発性上肢リンパ浮腫における肥満患者の特徴 Characteristics of obese patients with breast cancer-related lymphedema	静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 加藤るみ子
PF-9-3	上肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術前後におけるリハビリテーション治療の効果 The Effect of Rehabilitation Therapy on Lymphedema of the Upper Limb before and after LVA.	和歌山県立医科大学附属病院 リハビリテーション部 寺村 健三
PF-9-4	乳がん腋窩リンパ節郭清術後患者における Q-DASH を用いた肩関節可動域制限因子の検討 ～術後一年間のプロトコール介入の結果を用いて～ Affecting factors of postoperative shoulder ROM limitation in breast cancer using Q-DASH ～One-year postoperative results～	横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション部 斎藤 成美





<b>がん 10</b>		11月11日(土) 14:10～15:10	ポスター会場
PF-10-1	乳房切除術及び腋窩リンパ節郭清術後における肩関節屈曲可動域の早期回復群と遅延群の比較 Comparison of early and delayed recovery of shoulder range of motion after mastectomy and axillary lymph node dissection	福山市民病院 医療技術部リハビリテーション科 藤井 美晴	
PF-10-2	SBIを用いた乳房再建術後患者への作業療法の必要性の検討 Investigating the Need for Occupational Therapy for Post Breast Reconstruction Patients Using SBI	昭和大塚藤が丘病院 渡邊 大貴	
PF-10-3	乳がん術後患者の復職状況と復職に影響を与える因子の検討 Work status and the factors affecting return to work in patients after breast cancer surgery	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部 門田 彩花	
PF-10-4	乳がん術後作業療法対象者の上肢機能の関連要因 Factors associated with upper limb function in postoperative occupational therapy subjects with breast cancer	神戸市立西神戸医療センター リハビリテーション技術部 西尾 優也	
<b>がん 11</b>		11月11日(土) 15:10～16:10	ポスター会場
PF-11-1	乳癌、多発骨転移、病的骨折患者の役割の再獲得に向けた作業療法の関わり～また犬の世話をしたい～ Occupational Therapy for Regaining the Role of Breast Cancer Patients ~I want to take care of my dog again.~	医療法人 東札幌病院 リハビリテーション課 石川美哉子	
PF-11-2	日常生活活動の再獲得前の調理実践により自らの生活に積極性を取り戻した脳腫瘍による重度片麻痺を呈した症例 A case with brain tumor who regained active participation in own life by practicing cooking before reacquisition of ADL	医療法人社団健育会ねりま健育会病院 回復期リハビリテーションセンター 平山 美里	
PF-11-3	QOLを継続的に評価し、音楽活動を再開した脳腫瘍患者の事例 A case study of a brain tumor patient with ongoing quality of life assessment and resumption of music activities	IMS(グループ) 明理会中央総合病院 堀内 大樹	
PF-11-4	脳腫瘍患者とその家族のための生活支援ツールの開発～小冊子作成からの分析～ Developing Life Support Tools for Glioma Patients and Their Families	国立がん研究センター中央病院 櫻井 卓郎	
<b>がん 12</b>		11月11日(土) 16:10～17:10	ポスター会場
PF-12-1	脳腫瘍患者の健康関連 QOL および ADL に影響を与える因子の検討 Factors Affecting Health-Related Quality of Life and ADL in Brain Tumor Patients	新潟大学医歯学総合病院 総合リハビリテーションセンター 新潟医療福祉大学院 医療福祉学専攻 渡邊 貴博	
PF-12-2	脳腫瘍患児の復学支援会議において作業療法士の役割と今後の課題 Role of occupational therapists and future challenges in support meetings for brain tumor patients returning to school.	筑波大学附属病院 リハビリテーション部 高木日出美	
PF-12-3	複合的作業療法により早期復職に至った膠芽腫摘出後の上肢麻痺例 A case of hemiplegic upper limb after surgery for glioblastoma leading to reinstatement by combined occupational therapy	鹿児島大学病院リハビリテーション部 城之下唯子	
PF-12-4	肺がんによる転移性脳腫瘍術後の1症例の作業療法の経過 Occupational therapy for the Case after Metastatic Brain Tumor Surgery caused by lung cancer	名古屋市立大学病院 リハビリテーション科 坪井 理佳	
<b>PG 内科疾患</b>			
<b>内科疾患 1</b>		11月10日(金) 17:00～18:00	ポスター会場
PG-1-1	急性期酸素化障害を呈した患者の退院時 MMSE-J の成績に及ぼす因子の検討 Factors Affecting MMSE-J Outcomes at Discharge in Patients with Acute Oxygenation Problems	医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 診療技術部リハビリテーション技術科 町田 直之	
PG-1-2	好酸球性筋膜炎により上肢機能障害を呈した症例に対する作業療法 Occupational therapy for a patient with upper extremity dysfunction due to eosinophilic fasciitis	昭和大塚横浜市北部病院 リハビリテーション室 小池 菜月	
PG-1-3	重度筋力低下を伴う多発性筋炎に対して急性期から作業療法を行った一症例 A case of polymyositis with severe muscle weakness treated with occupational therapy from the acute stage	大和市立病院 リハビリテーション療法科 塚原 緑	
PG-1-4	大学病院の集中治療室長期入室患者に対する作業療法介入の実態に関する調査 A survey on occupational therapy in intensive care unit for critically ill patients	信州大学医学部保健学科、 信州大学大学院医学系研究科、 信州大学医学部附属病院 佐藤 正彬	
<b>内科疾患 2</b>		11月11日(土) 10:10～11:10	ポスター会場
PG-2-1	小児期発症全身性強皮症の臨床像とリハビリテーション経験 Clinical features and rehabilitation of Juvenile scleroderma	金沢大学附属病院 リハビリテーション部 麦井 直樹	
PG-2-2	在宅生活を継続するために社会的決定要因 (SDH) の視点で利用者を捉えた一事例 To continue living at home A case study of users from the perspective of social determinants	勤医協札幌ひがし訪問看護ステーション 村口 詞紀	

ポスター発表

PG-2-3	糖尿病教育入院を繰り返す対象者への生き方に対する行動変容を促す作業療法介入 ～精神心理評価と実際の生活圏内での支援を通して～ Occupational therapy for behavioral change during education inpatient ～ Through psychological evaluation and life support ～	医療法人 光陽会 関東病院 リハビリテーション科 成田 雄一
PG-2-4	血圧変動を認める透析患者に対して ADL 能力の向上を目指した作業療法の実践 Practice of occupational therapy to improve ADL ability for hemodialysis patients with blood pressure fluctuation	社会福祉法人 関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校 細川 雄平
<b>内科疾患 3</b>		11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場
PG-3-1	CROT-R を用いた実践報告 ～動機づけに注目したことで現実的に生活を検討出来る様になった事例～ Practical report of using CROT-R ～ A case in which the focus on motivation made it possible to examine life realistically ～	函館市医師会病院 リハビリテーション課 野坂 康博
PG-3-2	急性期病院における認知症高齢内部障害患者の入院時 ADL の特徴 ～作業療法介入方針の探索～ Characteristics of ADL patients with dementia/elderly internal disorders in acute care hospital ~ Search of OT plan ~	独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院 中央リハビリテーション部 早坂 早紀
PG-3-3	好酸球性筋膜炎症状に対して筋膜・皮下組織の滑走性にアプローチしたことで上肢機能が改善した一例 A case of eosinophilic fasciitis in which upper limb function was improved by approaching fascial gliding.	伏見岡本病院 リハビリテーション科 伊藤 聖真
PG-3-4	排尿自立支援加算に携わる作業療法士の実状 Facts about occupational therapists involved in the Continence self-management programme fee	新潟医療生活協同組合 木戸病院 リハビリテーション科 中村 真悠
<b>PH 精神障害</b>		
<b>精神障害 1</b>		11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場
PH-1-1	Effect of animal-assisted therapy on cognitive functions and emotion in patients with neurocognitive disorders	Department of Psychiatry, Kaohsiung Chang Gung Memorial Hospital, School of Occupational Therapy, National Taiwan University Tzu-Ting Chen
PH-1-2	Comparison of the effects of binaural beat music with different Hz on reducing the anxiety of college students	Department of Healthcare Administration, College of Medical and Health Science, Asia University Shang-Yu Yang
PH-1-3	作業機能障害に焦点を当てた面接と Illness Management and Recovery の実践が奏功した回避性パーソナリティ障害をもつ事例 Illness Management and Recovery combining Occupational Dysfunction-focused Interviewing in Avoidant Personality Disorder	医療法人新光会 生田病院 リハビリテーション科 作業療法室 中村 麻幸
PH-1-5	Experiences of people with mental illness participating in Grow to Recovery program in Taiwan	Department of Occupational Therapy, National Cheng Kung University, Department of Psychiatry, National Cheng Kung University Hospital Yen-Ching Chang
PH-1-6	A New Dual-Task Training P for Balance Function of Middle-Aged Adults with Schizophrenia: Development and Feasibility	Dept. of Occupational Therapy, Kaohsiung Medical University, Taiwan Ming-De Chen
PH-1-7	The potential predictors of employment status for people with mental disorders living in the community	KangHsin Psychiatric Halfway House, Taoyuan, Taiwan, YangFeng Psychiatric Community Rehabilitation Center, Taoyuan, Taiwan Hsiang-Yu Chen
PH-1-8	Applying the Novel Virtual Reality Program in Schizophrenia for Vocational Rehabilitation - A Case Study	Department of Psychiatry, National Taiwan University Hospital Yi-Fang Wu
<b>精神障害 2</b>		11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PH-2-1	The Effect of work on increasing the well-being of people with chronic mental illness: a pilot study	Department of Psychiatry, Keelung Hospital of the Ministry of Health and Welfare, Keelung City, Taiwan Chia-Chih Lu
PH-2-2	If the Youths Addicted Social Media have Higher Suicide-related Risk?	Department of Psychiatry, National Taiwan University Hospital, Taipei, Taiwan, Graduate Institute of Clinical Medicine, College of Medicine, National Taiwan University, Taipei, Taiwan. Wei ting Ko
PH-2-3	危険飲酒のリスクレベルに応じた日本の大学生の臨床的特徴 Clinical characteristics of Japanese university students according to risk level of hazardous drinking	北海道大学大学院保健科学研究院 リハビリテーション科学分野 宮島 真貴
PH-2-4	生きづらさを抱え飲酒が生きがいと語るアルコール依存症者への作業療法～事例報告～ Occupational therapy for alcoholics who find it difficult to live and say that drinking is their purpose ~ Case report ~	兵庫県立ひょうごこころの医療センター 名畑 太貴



PH-2-5	Center for Epidemiologic Studies Depression Scale のスマートフォン版と紙版のスコアの違い～同等性の証拠～ Differences in CES-D scores between smartphone version versus paper version administration ~ Evidence of equivalence ~	社会医療法人 全仁会 倉敷平成病院 リハビリテーション部 打田 博行
PH-2-6	将来の生活を見据えた作業療法により気分の安定につながったうつ病の事例 A case of depression that stabilized mood through occupational therapy with a view to future life	川崎医科大学附属病院 阿部沙耶香
PH-2-7	復職後のフォローアップとしての運動プログラム～東京リワークセンターでの取り組み～ Exercise program as a follow-up after returning to work. ～ Initiatives at the Tokyo Rework Center ~	医療法人社団柏水会 三軒茶屋診療所東京リワークセンター 佐藤 俊之
PH-2-8	オンラインによる多施設共同運営プログラム「合同リワーク学会」の意義に関する考察 A study on the significance of the online multi-institution joint management program "Joint Rework Society"	医療法人社団柏水会 柏メンタルクリニック 武井 勇樹

**精神障害 3** 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場

PH-3-1	自身のストレンスを再認識し、復職につながったうつ病休職者の事例 A case of a depressed employee who reaffirmed strength and returned to work	医療法人社団柏水会 三軒茶屋診療所東京リワークセンター 小林 陽香
PH-3-2	中等症うつ病エピソード患者に対し MTDLP を活用した急性期作業療法 Acute occupational therapy using MTDLP for moderate depressive episode	長崎大学病院 / リハビリテーション部 伊達 朱里
PH-3-3	リワークの認知行動療法利用から自己再発予防対策によって復職・就労継続を可能にしたうつ症例の検討 A case of a depressed patient who was able to continue working due to recurrence prevention measures after CBT at rework	医療法人社団慶神会 武田病院 リワーク 和田 佑介
PH-3-4	自殺企図のため搬送された 10 代患者へチーム介入を行った一例 A case report of team intervention for a teenage patient with a suicide attempt.	兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部 岸 雪枝
PH-3-5	診療参加型実習における精神科作業療法チェックリストの作成 Creation of a checklist for psychiatric occupational therapy in clinical practice	藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 渡辺 草由
PH-3-6	ひきこもり支援に携わる OT で構成されたネットワークの意義の検討 ～全国 OT ひきこもり支援勉強会の取り組みを通して～ Significance of the network comprised of Hikikomori support OT ～ From nationwide OT Hikikomori support association ~	桜花会クリニックデイケアセンター 児嶋 亮
PH-3-7	マインドフルネス瞑想を取り入れた作業療法介入によるうつ病患者の変化 Changes of a patient with depression by the occupational therapy incorporating mindfulness meditation	関西医科大学総合医療センター 精神神経科 山本 敦子
PH-3-8	関与度推定システムを適用したポジティブ作業に根ざした実践における効果検証 ～単群前後比較試験～ Effectiveness research in positive occupation-based practices applying the Engagement Estimation System	慈圭病院 野口 卓也

**精神障害 4** 11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PH-4-1	回復期病棟における精神的問題の疑いがある患者への対応について ～リハビリテーション専門職に対する質的調査～ Correspondence of patients with mental problems in rehabilitation ward ～ Qualitative survey of rehabilitation staffs ~	ふれあい横浜ホスピタル リハビリテーション科 阿原 千尋
PH-4-2	「退院したい」の言葉の裏にある「退院が不安」に寄り添った支援 Supporting anxiety about discharge behind "long for discharge".	特定医療法人 群馬会 群馬病院 リハビリテーション課 狐塚 辰朗
PH-4-3	癌治療中に精神科リエゾンチームとしての個別作業療法を導入し安定した精神状態で終末期医療へ移行できた気分変調症の 1 例 Individual occupational therapy as a psychiatric liaison team for dysthymia during cancer treatment.	秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 加賀美 開
PH-4-4	社会復帰プログラムに引き続き認知矯正療法 (NEAR) を実施した双極性障害の事例 A case of bipolar disorder treated with Cognitive Remediation Therapy following a recovery program	北海道大学病院 リハビリテーション部 武井 早紀
PH-4-5	急性期双極性障害者に対してナラティブ・スロープを用いて介入を行った一症例 A Case of Intervention Using Narrative Slope for Acute Bipolar Disorder	兵庫県立淡路医療センター 中津 裕太
PH-4-6	活動量と気分の関連性に焦点を当てた介入が再発予防につながった双極性障害患者の一例 A case of bipolar disorder: relapse prevention focusing on the relationship between activity and mood	信州大学大学院総合医理工学研究所医学系専攻保健 学分野, 信州大学医学部附属病院 公家龍之介
PH-4-7	OSA- II を用いた介入が、支援方針の明確化と交流技能が改善した統合失調症事例 A case of schizophrenia in which intervention using OSA-II clarified supportive policies and improved interaction skills	昭和大学附属山病院 リハビリテーション室 熊谷なつめ
PH-4-8	コロナ禍における閉鎖病棟 OT プログラムへの影響～患者と治療者の視点から～ Effects of OT programs in the closed ward during COVID-19 pandemic ～ From the perspective of both patient and therapist ~	医療法人鈴桜会 鈴鹿さくら病院 村田 大地

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表

精神障害 5

11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PH-5-1	作業療法士による触法障害者に対するオンライン支援の可能性 ～GO-GO-OT-NETの取り組みを通して～ Possibilities of online support for a disability including persons	姫路医療専門学校 上原 央
PH-5-2	重要度の高い作業を目標として共有できたことで地域移行に至った統合失調症者の1例 Supporting community transition for a person with schizophrenia via goal-setting focused on the importance of occupation	北里大学病院 リハビリテーション部、 北里大学 医療衛生学部 猿爪 優輝
PH-5-3	自己分析レポートの活用が有効であったうつ病休職者への就労支援についての一考察 A study of employment support with the use of self-analysis reports for a depression patient on absences from work	長野県立こころの医療センター駒ヶ根 池上 和代
PH-5-4	精神科ショートケア長期利用者に対する就労支援～事例報告～ Pre-employment support for long term user in psychiatric short care ~ A case study ~	神戸大学医学部附属病院 西村 優子
PH-5-5	事例を通して精神科デイケアにおける作業療法士の役割を再考する Rethinking The Role of Occupational Therapists in Psychiatric Day Care through Case Studies	公益財団法人 慈愛会 谷山病院 デイケア 川井田翔悟
PH-5-6	積極的な治療参加につながった双極性感情障害患者の心理教育 Psycho-education for patients with bipolar affective disorder leading to active treatment participation	メンタルホスピタル鹿児島 診療技術部 リハビリテーション科 前村 英葵
PH-5-7	統合失調症に脳梗塞を併発した患者の後遺症回復に寄与した一事例 Patients with cerebral infarction combined with schizophrenia A case that contributed to the recovery of aftereffects	医療法人大仲会大仲さつき病院 杉浦 まり
PH-5-8	精神科デイケアにおける誕生会および表彰式プログラムに関する一考察 ～CSQ-8Jを用いて～ A Study on Birthday Party & Award Ceremony Program in Psychiatric Day Care ～ using CSQ-8J ~	共和病院 地域ケア課 朝倉 起己

精神障害 6

11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場

PH-6-1	現代の森田療法と作業療法の親和性についての考察 Consideration on Affinity of Modern Morita Therapy and Occupational Therapy	医療法人社団ほっとステーション 大通公園メンタルクリニック・リワークオフィス 尾形 茜
PH-6-2	精神科デイケアと就労移行支援事業所との連携～事例におけるアセスメント過程の共有～ ～Sharing assessment processes in a case～	社会医療法人北斗会さむ病院 デイケアセンター 浦川 瑞生
PH-6-3	精神科デイケアにおけるリワークプログラムの実践 Practice of the return to work programs in psychiatric day care	医療法人友愛会 千曲荘病院 竹原亜弥子
PH-6-4	精神科デイケアにおける復職支援～対人関係に着目して～ Return-to-work Support in Psychiatric Day Care - Focusing on Interpersonal Relationships -	いぬお病院 リハビリテーション部 江頭 啓輔
PH-6-5	社会機能の改善に1年以上の精神科デイ・ケア利用が必要であった一例 A case who used psychiatric day care more than 1-year to improved social functioning	社会医療法人寿栄会 ありまこうげんホスピタル 上原 由嵩
PH-6-6	認知機能リハビリテーションとうつ病のためのメタ認知トレーニング(D-MCT)の併用プログラムの実践報告 Practice report of a combined program of cognitive remediation and metacognitive training for depression (D-MCT)	北大通こころのクリニック デイケア 小竹 玲子
PH-6-7	地域に自身のストレンクスを発揮できる場を見つけたうつ病の一事例 A case of depression that found a place in the community to exert its own strength	専門学校川崎リハビリテーション学院 作業療法学科 有安 芽衣
PH-6-8	作業療法士を対象とした自殺対策・自傷行為に関する研修会の効果の検証 The Effectiveness of Training Sessions for Occupational Therapists on Suicide Prevention and Self-Injury	関西医科大学 リハビリテーション学部 林 良太

精神障害 7

11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場

PH-7-1	CAODを用いた外来精神科作業療法が統合失調症患者に及ぼす影響 Effects of outpatient psychiatric occupational therapy with CAOD on patients with schizophrenia	足利赤十字病院 リハビリテーション技術課 鶴貝 彰悟
PH-7-2	児童思春期精神科医療における作業療法士の役割とは ～フォーカス・グループ・インタビューによる質的研究～ What is the role of occupational therapists in child and adolescent psychiatric care?	大阪府立病院機構 大阪精神医療センター リハビリテーション室 南 庄一郎
PH-7-3	精神科急性期病棟入院患者のセルフマネジメントと失体感症における要因構造の推定：交差遅延効果モデルに基づく予備的研究 Factor structure based on a cross-lagged effect model of self-management and alexisomia in psychiatric hospitalization	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 川口 敬之
PH-7-4	心理教育によるセルフスティグマに対する効果 Effects of psychoeducation to self-stigma	医療法人仁祐会 小島居謙早病院 田中 由衣
PH-7-5	難治性うつ病に依存性パーソナリティ障害が併存した事例への自律を目指した精神科作業療法 Occupational Therapy for Treatment Refractory Depression Comorbid with Dependent Personality Disorder	杏林大学医学部付属病院 精神神経科、 杏林大学医学部付属病院 精神神経科学教室 二田 未来
PH-7-6	園芸を通して長期入院患者の地域移行につながった一例 Case study of transition from long-term hospitalisation to the community using horticultural therapy	公益財団法人浅香山病院 デイケア室、 千葉大学大学院 園芸学研究科 川村 明代





PH-7-7	入院精神科作業療法に参加した統合失調症患者の社会活動状況を改善させる要因 Factors that improve the social activity status of patients with schizophrenia participating in occupational therapy.	杏林大学保健学部作業療法学科、 杏林大学医学部付属病院精神神経科 長島 泉
--------	---	---

**精神障害 8** 11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場

PH-8-1	統合失調症患者に足湯を実施し精神的変化に着目した症例 ～精神科病院での個別介入を経て～ A case of footbaths in a schizophrenic patient with a focus on mental changes. ～ Individual Intervention in psychiatry. ～	西八王子病院 リハビリテーション科 佐藤 優衣
PH-8-2	精神科作業療法士が統合失調症患者を対象に行う食事に関連した作業療法 Diet-related occupational therapy for schizophrenic patients by psychiatric occupational therapists	文京学院大学 保健医療技術学部作業療法学科、 合同会社こころ紡ぎ 障害者グループホーム 紡ぎ舎 滝吉 翔
PH-8-3	秋田大学医学部附属病院における開設から2年の精神科作業療法の効果検証 Verification of the Effects of Occupational Psychiatric Therapy at Akita University Hospital	秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 林 正喜
PH-8-4	精神科医療機関と作業療法の一般就労支援における課題と役割についての考察 ～就労支援機関へのインタビュー調査を通して～ A consideration of the issues and roles of psychiatric hospital and occupational therapy in general employment support	社会医療法人 養生園 TAOKA こころの医療センター 藤井 恭平
PH-8-5	妄想状態で投身して頸髄損傷を受傷した患者への、自宅退院を目指した介入 ～精神科病院における身体障害領域の作業療法士の役割～ Intervention for patients with cervical cord injury aimed at home discharge ～ The role of an occupational therapist ～	平川病院 リハビリテーション科 亀田 南美
PH-8-6	精神科長期入院患者を対象とした Illness Management and Recovery の実践報告 ～5年間のプログラム実施を通して～ Practice report on Illness Management and Recovery for long-term psychiatric inpatients	名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科 池谷 政直
PH-8-7	精神科病院での積極的な疾患別リハビリテーション介入により、経管栄養から経口摂取へ移行した事例 A case of oral intake enabled by individual occupational therapy intervention in a psychiatric department.	西八王子病院 リハビリテーション科 伊藤 友希

**精神障害 9** 11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場

PH-9-1	ADOC とみんチャレ (デジタルピア・サポート) の併用により健康行動の促進が図られた統合失調症の事例 Utilization of combined ADOC and Minchalle (Digital peer support tool) for promoting health behaviors: A case study	山形県立こころの医療センター リハビリテーション科 金子 隆生
PH-9-2	長崎市精神障害者ピアサポーター養成講座修了生の就労希望について Applicant for a job in graduates of Peer-supporter training course for people with mental disorders in Nagasaki City	NPO 法人長崎のぞみ会のぞみ共同作業所 河野 知房
PH-9-3	地域生活を営む精神障がい者の運動機会に関する調査～神奈川県の取組～ Survey on Exercise Opportunities for Mentally Disabled People Living in the Community ～ Efforts of Kanagawa Prefecture ～	昭和大学保健医療学部 作業療法学科 古賀 誠
PH-9-4	神経性やせ症児をもつ家族に対する多職種連携集団家族心理教育 ～家族の不安に対応する重要性～ Multidisciplinary group psychoeducation for family members of adolescent patients with anorexia nervosa.	信州大学大学院 総合医理工学研究所医学系専攻医学 分野、 信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 中野 未来
PH-9-5	精神障害者向け共同生活援助における生活行為向上マネジメントを用いた介入効果 ～非ランダム化他施設共同比較試験～ Effect of an intervention using a MTDLP in group homes for people with mental illness	さんすてっぷ 鈴木 一広
PH-9-6	コロナ禍における児童思春期の摂食障害に対する精神科作業療法の実態 Actual conditions of occupational therapy for child and adolescent with eating disorders in tin COVID-19 epidemic	京都大学医学部附属病院 デイ・ケア診療部 服部 律子
PH-9-7	統合失調症患者への身体リハ～意欲向上のプロセスを探る～ Physical rehabilitation for schizophrenic patients ~ Exploring the Motivational Process ~	医療法人社団緑会佐藤病院 リハビリテーション課 八木澤祥代
PH-9-8	精神科訪問看護における作業療法士による就労支援の可能性 ～30代注意欠如・多動症の事例を通して～ A possibility of employment support by occupational therapists in home-visit psychiatric nursing	株式会社東京リハビリテーションサービス 雄鹿 賢哉

**精神障害 10** 11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場

PH-10-1	精神科作業療法プログラムにて実施したボッチャの特徴 ～フォーカスグループインタビューを用いたボッチャの実施所感の分析～ Characteristics of bocchia in a psychiatric occupational therapy. ～ Analysis of thoughts using focus group interviews. ～	東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション 学科作業療法学専攻 野本 義則
PH-10-2	精神障害者のリカバリーに及ぼす施設環境に関する事例研究 ～写真誘出方法論と SCAT を用いた分析～ A Case Study of Environment on Recovery of Mental Disabilities ～ Analysis Using Photo-Elicitation Methodology and SCAT ~	障がい者支援センター「てらだ」 大谷 将之
PH-10-3	精神障害領域における作業機能障害の状態に基づいた個別作業療法の介入効果の予備的検証 The effects of interventions focusing on the classification of occupational dysfunction in the mental health field	医療法人財団青山会 福井記念病院 リカバリー支援部 松岡 太一

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表



PH-10-4	大学生と高校生における精神障害者に対する親近感とスティグマの違い Differences in Affinity and Stigma for People with Mental Disabilities between College Students and High School Students	久喜すずのき病院 北爪 茜
PH-10-5	作業療法士の産業精神保健一次予防実践者の属性に関する検討 A Study of the Attributes of Occupational Therapists as Primary Prevention Practitioners in Occupational Mental Health	専門学校 社会医学技術学院 作業療法学科 照井 林陽
PH-10-6	メタ認知トレーニングに参加した長期入院統合失調症患者者の生活の変化 Changes in the life of long-term hospitalized schizophrenic patients participating in metacognitive training	医療法人博和会上松病院 齋藤 大貴
PH-10-7	共同作業時に重度統合失調症者の主観的健康状態の把握に努めることの意義について Significance of assessing the subjective health condition of a person with severe schizophrenia in shared activities	兵庫県立ひょうごこころの医療センター 大島 久典
PH-10-8	長期入院の統合失調症患者における「たたき染め」の治療効果の検証 ～唾液アミラーゼ・血圧・脈拍・VAS スケールの測定値を用いて～ Verification of therapeutic effects of tatakishi dyeing in schizophrenic patients hospitalized for a long time	令和健康科学大学 リハビリテーション学部作業療法学科 江口喜久雄

精神障害 11

11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場

PH-11-1	15年間作業療法士として寄り添った1人の統合失調症患者との歩み A history of a patient with schizophrenia I assisted as an occupational therapist for 15 years.	秋津鴻池病院 リハビリテーション部 木納 潤一
PH-11-2	回想コラージュブック制作による長期入院統合失調症者の日常生活機能についての自己認識と他者評価の乖離縮小効果 Effect of collage book making based on life review in long-term hospitalized patients with schizophrenia.	広島大学 医系科学研究科 精神機能制御科学研究室 金子 史子
PH-11-3	統合失調症患者の社会認知機能と疾患特異的な主観的 QOL との関連 Association between social cognition and disease-specific subjective quality of life in patients with schizophrenia	津軽保健生活協同組合 藤代健生病院、 弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 川西 陽之
PH-11-4	統合失調症患者における声による情動表出について～コンピュータ解析による解明～ Vocal Expression of Emotion in Patients with Schizophrenia ～Elucidation by Computer Analysis～	奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学 科 作業療法学専攻 福原 啓太
PH-11-5	統合失調症患者の職業適性能力～認知機能との関連性～ Occupational Aptitude Competencies of Patients with Schizophrenia ～Relationship to cognitive function～	医療法人友愛会千曲荘病院、 信州大学大学院総合医理工学研究科 河埜康二郎
PH-11-6	RehaCom を用いた認知矯正療法は統合失調症の認知機能障害を改善する：ランダム化比較試験 Cognitive remediation with RehaCom improves cognitive impairment with schizophrenia: A randomized controlled trial	信州大学大学院医学系研究科、 医療法人清泰会メンタルサポートそよかぜ病院 山主あゆ美
PH-11-7	統合失調症の行動特性に配慮したスモールステップの設定により援助希求行動と認知機能改善が見られた症例 Improvement in help-seeking and cognitive function by setting small steps that consider behavioral of Schizophrenia	東香里病院 浜田 実瑠
PH-11-8	精神科長期入院統合失調症患者に対するメタ認知トレーニングの有効性 ～ランダム化比較試験～ Efficacy of Metacognitive Training for Long-Term Psychiatric Inpatients with Schizophrenia: ～A Randomized Controlled Trial～	信州大学 大学院総合医理工学研究科、 長野保健医療大学 保健科学部、 上松病院 春原 るみ

精神障害 12

11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場

PH-12-1	認知課題による手掌部発汗反応と前頭前野脳血流動態—統合失調症群と健常群の比較 Feature of palmar sweating response and prefrontal cerebral hemodynamics with cognitive task in schizophrenia	医療法人清泰会メンタルサポートそよかぜ病院、 信州大学大学院医学系研究科 古泉 愛美
PH-12-2	統合失調症の認知機能に対する個別作業療法：ランダム化比較試験 Effect of individualized occupational therapy on cognition in patients with schizophrenia: A randomized controlled trial	メンタルサポートそよかぜ病院 島田 岳
PH-12-3	精神科入院患者に対するメタ認知トレーニング日本語版の実施が認知的洞察および自己効力感に与える影響について Efficacy of Metacognitive Training on cognitive insight and self-efficacy in psychiatric inpatients	医療法人資生会 八事病院 精神科診療部 精神科リハビリテーション室 宮田 光将
PH-12-4	作業療法計画立案における検査結果の活用とその有効性の検討 ～重度認知機能障害を持つ統合失調症患者の事例～ Examination of the effectiveness of the use of test results in occupational therapy planning ～A case study～	神戸大学大学院保健学研究科 胡 友恵
PH-12-5	入院中の急性期認知症患者が活動に集中するための作業療法士の工夫 ～音楽活動と創作活動における取り組み方の違いから考える～ Ingenuity for inpatients with acute dementia to engage in activities ～Differences in approaches to music and craft～	社会医療法人北斗会ほくとクリニック病院 OT センター 梅田 錬
PH-12-6	脳卒中後うつ病者のリハビリテーションの捉え方について ～脳卒中罹患者を対象とした質的調査～ Perception of Rehabilitation for Post stroke depression ～A qualitative sutudy for Post stroke depression～	湘南医療大学 保健医療学部 三川 年正



PH-12-7	前後比較の指標として箱づくり法検査が有用であった事例 A case that make-a-box-test battery was useful as indicator of before-and-after comparison	多機能型支援センター Yerette 神原 沙希
---------	--	-----------------------------

PH-12-8	Co-prodctionに基づく「訪問型作業療法における臨床的ラダー」の項目開発 ～作業療法士とサービスユーザーによる共同創造研究～ Development of items for the "Clinical Ladder in Visit Occupational Therapy of the psychiatry"	東京工科大学 医療保健学部リハビリテーション学科 清家 庸佑
---------	---	-----------------------------------

**PI 発達障害**

**発達障害 1** 11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場

PI-1-2	Psychometric Properties of the Cerebral Palsy Quality of Life Questionnaire-for Adolescents (CP QOL-Teen) -Taiwan	School of occupational therapy, National Taiwan University, Department of physical medicine and rehabilitation, Division of occupational therapy, National Taiwan university Hospital Mei-Hui Tseng
--------	---	---

PI-1-3	明確な目標を持つ知的能力障害のある子どもと行った Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) の実践 The CO-OP with a child with an intellectual disability who has a clear goal : A case report	一般社団法人 CIS space Kid's.con 石井 ハル
--------	---	-------------------------------------

PI-1-4	放課後等デイサービスにおける脳性麻痺児に対する Cognitive Oriented to daily Occupational Performance(CO-OP) の実践 A case report of the Cognitive Orientation to daily Occupational Performance for cerebral palsy in after-school daycare	放課後等デイサービスサッカーあいだっく川崎 三栖 寛之
--------	--	--------------------------------

PI-1-5	The impact of children under the COVID-19 on their health participation-based on the ICF-CY framework in Taiwan.	Department of Occupational Therapy, Kaohsiung Medical University, Department of Special Education, National Kaohsiung Normal University Hsien-Yu Tsai
--------	--	---

PI-1-6	Applying eye-tracking technology to examine looking behaviors during active locomotion in toddlers with motor delays	Department of Occupational Therapy and Graduate Institute of Behavioral Sciences, Chang Gung University, Taoyuan, Taiwan Xuan Yang
--------	--	---

PI-1-7	Caregivers' perception of modified ride-on cars and behavioral performances of toddlers with motor delays	Department of Occupational Therapy and Graduate Institute of Behavioral Sciences, Chang Gung University Hsiang-Ti Shih
--------	---	---

**発達障害 2** 11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PI-2-1	A pilot randomized controlled trial of ride-on cars and social function in toddlers with mild and moderate motor delays	Department of Occupational Therapy and Graduate Institute of Behavioral Sciences, Chang Gung University, Taoyuan, Taiwan, Joint Appointment with Department of Physical Medicine and Rehabilitation, Chang Gung Memorial Hospital, Linkou, Taiwan Hsiang-Han Huang
--------	---	---

PI-2-2	Ride-on car training with different dosages for toddlers with motor delays: a pilot randomized controlled trial	Department of Occupational Therapy and Graduate Institute of Behavioral Sciences, Chang Gung University Yu-Hsin Hsiao
--------	---	--

PI-2-3	Comparing the consideration of service delivery by school-based occupational therapist:A literature review	pediatric occupational therapy, Tungs' Taichung Metroharbor Hospital Wen Ching Wu
--------	--	--

PI-2-4	The perspective of using sensorimotor intervention and handwriting template for children with handwriting difficulties	Department of Occupational Therapy, Tokyo Metropolitan University Dini Fajarani
--------	--	--

PI-2-5	Case Report of Stuffed Toys Therapy	St. Raphael Opportunity Center / Topias Social Welfare Foundation WEICHIH HUNG
--------	-------------------------------------	---

PI-2-6	Relationship between visual perception and fine motor, Chinese handwriting performance and adaptive behavior in children	Department of Occupational therapy, National Cheng Kung University Shi-Wei Zheng
--------	--	---

PI-2-7	Design and Usability Testing of a Tablet-Based Mobile Application for Assessing Children' s Visual Perception	Department of Physical Medicine & Rehabilitation, Kaohsiung Veterans General Hospital, Taiwan Yu-Hsuan LIN
--------	---	---

**発達障害 3** 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場

PI-3-1	入浴ケアの困難さに対しグリップクッションの導入により介助量の軽減に繋がった重度アトピー型脳性麻痺の一例 ADCP with a reduced amount of bathing assistance using a grip cushion	社会福祉法人二之沢愛育会 群馬整肢療護園 小澤 恵
--------	--	------------------------------

PI-3-2	ウガンダ・アチョリ地区に暮らすうなづき症候群患者の作業遂行状況 ～現地での観察及びインタビュー調査から～ Work performance of Nodding Syndrome patients in Acholi District, Uganda	大阪河崎リハビリテーション大学 井上 貴雄
--------	---	--------------------------

ポスター発表

PI-3-3	障害児通所支援事業における、利用児の保護者によるニーズから考えられる作業療法士の役割に関する一考察 Investigation for roles of Occupational Therapists on needs from parents in the Daycare facility for disabled children.	専門学校 富士リハビリテーション大学校 中村 毎途
PI-3-4	個別活動と他者とのコミュニケーション～毎日の塗り絵から見える心もよう～ Individual activity and communication with others ～ A heart pattern that can be seen from the daily coloring book ～	一般社団法人茨城県リハビリテーション専門職協会 つくば市福祉支援センターさくら 地域活動支援事業 細田 忠博
PI-3-5	Williams 症候群児と児童発達支援センター利用児のレジリエンスの特徴について Trait of resilience among children with Williams syndrome and children using childcare center	北里大学 医療衛生学部 高橋香代子
PI-3-6	ダウン症児をもつ母の心理的变化について TEM を用いた質的分析 ～我が子を「可愛い」と言えるまで～ The qualitative analysis using TEM about psychological changes of a mother with Down's syndrome ～ Until she thinks cute ～	リニエ訪問看護ステーション岸和田 泉浦 文哉
<b>発達障害 4</b>		11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PI-4-1	作業療法による学級経営コンサルテーション～市町村委託事業による学校作業療法～ Class management consulting by occupational therapy ～ School-Based OT by local government consignment business ～	こどもセンターゆいまわる 仲間 知穂
PI-4-2	不登校児童に対する学校作業療法～家庭と学校の安心したチーム作り～ School-Based occupational therapy for non-attendance children ～ Building safe teams at home and school ～	こどもセンターゆいまわる 上前 奨伍
PI-4-3	就学前に困難さを予測し対応した読み書き困難児の経過報告 A progress report of a child with reading and writing difficulties who predicted and responded to preschool difficulties	横浜市総合リハビリテーションセンター 山本 健太
PI-4-4	学童保育における作業療法コンサルテーションにて環境調整を行なった事例 A case of environmental adjustment through occupational therapy consultation at after-school care	株式会社リニエ R 八重樫貴之
PI-4-5	学齢期発達障がい児の読みにおける眼球運動の問題と姿勢・平衡機能および両側運動協調 Eye movement problems for reading, sensory integration function in school-aged developmentally disabled children	ハートランドしぎさん 子どもと大人の発達センター、 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 山田 翔馬
PI-4-6	視覚特別支援学校における作業療法士の介入について～アンケート調査より～ Occupational Therapist's Intervention in Visually Special Needs School ～ From the questionnaire survey ～	東遠学園組合 こども発達センターめばえ 久保田絢女
<b>発達障害 5</b>		11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PI-5-1	保育所等訪問支援介入前後における教職員らの期待度と満足度 ～アンケート調査の分析を通して～ Expectations and Satisfaction Levels of Teachers and Staff Before and After Visiting Support Interventions at Schools	(株) 東京リハビリテーションサービス 子ども発達支援ルームおれんじ学園かみのやま 加勢 泰庸
PI-5-2	特性を考慮した SST によりコミュニケーションが増加した成人 ASD 例 A example of SST considering characteristic increasing communication of adults with autism spectrum disorder	赤穂仁泉病院 就労支援センター SORA 大田 理恵
PI-5-3	粗大運動を通じた介入と家庭でのプログラムの併用により日常生活動作の実用性が改善した一事例 A Case Study of Intervention through Gross Motor Activity and Home Program	合同会社 BASE とまかな FLOW 香芝 梶谷竜之介
PI-5-4	こどもの参加質問紙：自閉スペクトラム症児の疾患特異的参加測定ツールの開発 Development of a Disease-Specific Participation Measurement for Children with Autism Spectrum Disorders	神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学科 中村 拓人
PI-5-5	自閉スペクトラム症児の食行動の問題と関連要因 Eating Behavior Problems and Associated Factors in Children with Autism Spectrum Disorder	秋田県立医療療育センター、 弘前大学大学院保健学研究所 秋山郁菜絵
PI-5-6	自閉スペクトラム症の子どもと保護者に対するロールプレイテスト評価表の再検討 Reconsideration the Role-Play Test Evaluation Chart for Children with Autism Spectrum Disorders and Their Parents	埼玉県立大学 柴田貴美子
<b>発達障害 6</b>		11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場
PI-6-2	デイケアを利用する発達障害者への就労支援 ～認知コミュニケーション障害の視点を取り入れた評価の試み～ Employment Support for Developmentally Disabled People Using Day Care ～ A Cognitive Communication Assessment ～	国立精神・神経医療研究センター病院 須賀 裕輔
PI-6-3	重症心身障害児に対する視線入力装置を用いた意思表出支援 Support for expression of intentions using gaze input devices for children with severe physical and mental disabilities	川崎市中央療育センター 加藤実帆子
PI-6-4	重篤な呼吸障害を有する重症心身障害児の施設生活支援 Facility life support to a child with severe motor and intellectual disabilities who shows serious respiratory disorders	重症児・者福祉医療施設 ソレイユ川崎 藤田瑠璃花



PI-6-5	重症心身障害児の自立活動に対する作業療法士の専門性を学校教諭と共有するための方略 ～混合研究法の説明的順次デザインによる検討～ Strategies for sharing perceptions with teachers about the advice on independent activities for children with SMID	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 濱田 匠
--------	--	-------------------------

PI-6-6	身体拘束のために必要だった肘装具の装着時間を減らす取り組み Efforts to reduce the time spent wearing elbow braces that were required for physical restraints	宝塚医療大学 和歌山保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻, 堺市立重症心身障害者(児)支援センター 奥田 祥司
--------	---	---

**発達障害 7** 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場

PI-7-1	幼若期ラットにおける前肢運動野の成熟とリーチ動作の変化 Maturation of forelimb motor representation of motor cortex and behavioral alteration in reaching task in postnatal rats	杏林大学 作業療法学専攻 岩崎也生子
--------	---	-----------------------

PI-7-2	片麻痺を呈する小児脳損傷におけるCI療法の効果についての後方視的検討 A retrospective study of the effectiveness of CI therapy in pediatric brain injury with hemiplegia	独立行政法人国立病院機構南九州病院, 鹿児島大学大学院保健学研究科 竹下 晃
--------	--	--

PI-7-3	課題分析をともに行うことで合意目標の獲得に至った症例 ～発達性協調運動症児の自転車運転獲得を目指して～ Cases where we analyzed issues together and achieved goal ～ Toward the Acquisition of Bicycle Driving by Children with DCD ～	サンテ・ペアーレクリニック リハビリテーション科 岩井 萌
--------	---	----------------------------------

PI-7-4	レット症候群児(者)の手の常同運動と目的的な手の使用の関連 Relationship between hand stereotypies and purposeful hand use in individuals with Rett syndrome	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻, 国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 平野 大輔
--------	---	--

PI-7-5	ICT機器の操作獲得を目指した脊髄性筋萎縮症I型児の事例 A case study of a child with spinal muscular atrophy type I aiming at acquiring operation of ICT equipment	神戸医療福祉センターにこここハウス, 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科修士課程 勝原 勇希
--------	--	--

PI-7-6	先天性四肢形成不全児の把持機能獲得の一例 An Example of Acquisition of Grasping Function in a Child with Congenital Limb Dysplasia	川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 谷口 恵美
--------	--	-----------------------------------

**発達障害 8** 11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場

PI-8-1	障害児通所支援における多職種連携とOTの役割 Multi-professional collaboration and the role of OT in outpatient support for children with disabilities	こども発達支援ルーム PLANET 前田 亮輔
--------	--	----------------------------

PI-8-2	地域での発達支援への作業療法士の参画と協働 ～次世代へと引き継がれ継続していくために必要な事～ Participation and Cooperation of Occupational Therapist in Community Development ～ The Skills Necessary for Next Generation ～	合同会社 anomira- あの名曲の作者が嫉妬する未来を- 中嶋 鮎
--------	--	--

PI-8-3	四肢欠損児の日常生活動作自立へむけた介入 Intervention for the independence of activities of daily living for children with limb defects	自治医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 玉野 彩
--------	--	----------------------------------

PI-8-4	脳性麻痺を持つ未就学および就学児に対する複合的CI療法の有用性 ～ケースシリーズ～ Efficacy of Combined CI Therapy for Preschool and School-Age Children with Cerebral Palsy ～ A Case Series ～	千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部 吉田 尚樹
--------	--	---

PI-8-5	青年期の痙性両麻痺児にトップダウン評価を行い、介入計画の立案・介入を実施したこと で作業遂行の質に変化が認められた事例 A case of change in the quality of occupational performance of a spastic diplegic child through a top-down approach.	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター 友田 直哉
--------	--	------------------------------------

PI-8-6	外来リハビリテーションにて,HABIT-ILEを実施した脳性麻痺児の一例 A case of a child with cerebral palsy treated with HABIT-ILE in outpatient rehabilitation	千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部 工藤 大弥
--------	---	---

**発達障害 9** 11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場

PI-9-1	眼球運動より発達障害児をスクリーニングする評価方法の開発に向けた予備的実験 The pilot study for development of evaluation which screens children with developmental disabilities from eye movement.	帝京平成大学 坂本 美香
--------	--	-----------------

PI-9-2	握り母指症への介入から発達障害への介入に移行した作業療法の1例 A Case of Occupational Therapy Intervention Transitioning from Clasped Thumb to Developmental Disorder	JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 リハビリテーション科 笹村 司
--------	---	------------------------------------

PI-9-3	作業療法における応用行動分析(ABA)と行動の変容を及ぼした一例 An example of applied behavior analysis(ABA) and behavior change in occupational therapy .	江東区こども発達センター 塩浜 CoCo 金城 光
--------	--	------------------------------

PI-9-4	親子通園で親と一緒に作る子育てプランの取り組み ～目標で保護者のエンパワメントを引き出す～ Attempts through child rearing plans made with parents ~ Empowering Parents with Goals ~	こどもセンターゆいまわる 中原あすか
--------	--	-----------------------

PI-9-5	「おおきなかぶ」を用いて集団活動への参加を促した一例 An example of encouraging participation in group activities using the gigantic turnip	社会福祉法人からしだね うめだ・あけぼの学園 手塚 泰史
--------	---	---------------------------------

PI-9-6	発達障害者の自動車運転に関する文献レビュー Literature Review on Driving Skills of People with Developmental Disabilities	秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 作業療法学講座 高橋 恵一
--------	--	---

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表



発達障害 10

11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場

PI-10-1	児童発達支援・放課後等デイサービスを利用する児童の感覚特性と困難さの関連～SPとSDQの相関分析～ Relationship between sensory and difficulties of children using child development support and after-school day services	合同会社 BASE ともかな FLOW 香芝、 大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科 東條 拓海
PI-10-2	筆記具の把持形態がもたらすパフォーマンスの特徴 Performance characteristics of the grasping form of writing instruments	神奈川県立保健福祉大学大学院博士前期課程、 介護老人保健施設都筑シニアセンター 高見澤広太
PI-10-4	重心動揺を指標とした、マリンプログラム介入によるバランス機能の即時効果の検討 Investigating the Immediate Effects of the Marine Program Intervention on Balance Function	発達支援センター ぎんぼるの海 鈴木 啓
PI-10-5	発達性協調運動障害児の人物画発達に視覚的反応が与える影響 Effects of visual responses on the human figure drawing development in children with developmental coordination disorder	弘前大学大学院保健学研究科 小枝 周平

発達障害 11

11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場

PI-11-1	不器用さを有する児における結び動作の特徴：健常成人との比較 The analyses of the way of knotting string in clumsy children : A comparison with healthy adults	札幌医科大学 保健医療学部 中島そのみ
PI-11-2	作業中心の実践によりカナダ作業遂行測定の遂行度、満足度が改善した引きこもりを呈する自閉スペクトラム症児の一事例 A case study of a withdrawn child with ASD who improved his performance and satisfaction on the COPM through OCP.	医療法人徳洲会千葉西総合病院 / リハビリテーション室 池部 淳
PI-11-3	不登校児への訪問作業療法の有効性～ゲームへの依存から日常生活活動が低下していた事例～ Effectiveness of visiting occupational therapy for school refusal children	いろは訪問看護リハビリステーション、 山形県立保健医療大学大学院 大戸 善賢
PI-11-4	医療的ケア児の保護者による自助サークル活動報告 Peer support practice by parents raising children with medical care	東京都立大学健康福祉学部作業療法学科 山西 葉子
PI-11-5	自閉スペクトラム症の障害特性に関する知識と職員の支援に関する自己認識の構造的関連性の検討 Structural relationships between knowledge of autism spectrum characteristics and staff self-perceptions of support	福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科、 福島県立医科大学 リハビリテーション医学講座 田中 善信
PI-11-6	放課後等デイサービスに通所する児童の保護者が療育者との情報共有に求めること What parents of children attending after-school day care services seek in information sharing with staff	NPO 法人カケルとミチル 宮田 里依

発達障害 12

11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場

PI-12-1	放課後等デイサービスにおける、病院との連携による継続的な介入が機能維持に有効であった一症例 A case in which interventions through hospital collaboration were effective in the preservation of function	株式会社ひふみ こどもプラス長野若槻教室 内田 皓也
PI-12-2	ASD 児への保育所等訪問支援において環境調整を主体とした間接支援を行った事例の報告～作業療法士と母親の役割～ A case of environmental adjustment by indirect support in visiting a day-care center for ASD	森ノ宮医療大学、 株式会社かなえるリンク こどもげんきけいかく かなえる広場さくら 金森 幸
PI-12-3	関わりの工夫や環境への配慮が、遊び場面での試行錯誤に繋がった事例 The case in which the ingenuity of involvement and attention to the environment led to trial and error in play.	静岡済生会総合病院 静岡済生会療育センター令和 療育技術科 岡本亜佐美
PI-12-4	幼児期の特別なニーズがある子どもの活動参加状況と感覚処理特性との関連についての予備的検討 participation and sensory modulation of preschool-aged children with special needs	名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻 五十嵐 剛
PI-12-5	児童発達支援事業を利用する年長幼児の感覚処理・行為機能と就学時の学びの場との関係 Relationship of neuropsychological characteristics and place for learning of preschool children using support services	植草学園大学、 NPO 法人 市川ことばの会 多機能型事業所 ぶれも 千田 直人
PI-12-6	保育所における乳幼児の食具使用状況の調査報告 A survey of tableware usage by preschool children	目白大学 / 保健医療学部作業療法学科 安井 宏

PJ 高齢期

高齢期 1

11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場

PJ-1-1	入院高齢者に対する看護師・作業療法士間協働実践の検討 Collaborative practice between nurses and occupational therapists for hospitalized older patients	医療法人社団ほたか会群馬バース病院 診療技術部リハビリテーション科 本多 俊弥
PJ-1-2	退院前の習慣の獲得のために「活動日記」を用いた事例 A case of using an "activity diary" to acquire habits before discharge	ソフィアメディ株式会社 ソフィアメディ訪問看護ステーション岐阜南 横山 恵里
PJ-1-3	Exploring the effect of binaural beat music on the sleep quality of seniors in institutions: A pilot study	Department of Healthcare Administration, College of Medical and Health Science, Asia University Yi-Lin Li



PJ-1-4	新型コロナウイルス (COVID-19) 流行下における地域高齢者の主観的健康感の変化とその要因 Changes in subjective health perceptions of community elderly during the COVID-19 epidemic and their factors.	大和大学 保健医療学部 総合リハビリテーション学 科 作業療法学専攻 瀬川 大
PJ-1-5	Deconditioning of Frail Elderly after the COVID-19 Pandemic:The Person-Environment-Occupational Model as a Framework	Department of Physical Medicine and Rehabilitation, Taichung Tzu Chi Hospital Chia-Yu Chang
PJ-1-6	転倒予防のための ICT を用いた高齢者の自宅の安全評価に関する予備的検討 A preliminary study on home safety assessment for fall prevention in elderly people using ICT	名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科 長谷川 文
PJ-1-7	Effect of Senior Fitness Club in a Psychiatric Hospital ～ Taking a Psychiatric Hospital in Central Taiwan as an example ～	occupational therapy, Tsaotun Psychiatric Center, HOHW, Taiwan Wan-Chi Hsu
<b>高齢期 2</b> 11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場		
PJ-2-2	認知機能低下患者の健康関連 QOL と食事関連要素との関係 Relationship between health-related quality of life and diet-related factors in patients with cognitive decline	医療法人社団武蔵野会 新座病院 リハビリテーション科 滝澤 英乃
PJ-2-3	介護老人保健施設に入所する認知症高齢者の QOL 評価法に関するスコopingレビュー Quality of Life Assessment Tool for Elders with Dementia Living in the Long-term Care Facilities:a Scoping Review	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻 リハビリテーション療法学コース作業療法分野 佐野 龍彦
PJ-2-4	重度アルツハイマー型認知症高齢者に対する組み合わせ非薬物的介入の効果 Effectiveness of Combined Intervention for Older Adults with Severe Alzheimer's Disease	星城大学 リハビリテーション学部 萬屋 京典
PJ-2-5	日本の高齢患者におけるエンパワメントと生活機能との関連 Relationship between empowerment and functioning and disability in older Japanese patients	奈良学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科 坪内 善仁
PJ-2-6	CROT-R を用いた実践報告～自宅での役割・余暇活動を再構築した事例～ Practice report using CROT-R ～ A case study of reconstructing roles and leisure activities at home ～	小樽老人保健施設はまなす 池田 実佳
PJ-2-7	VR を用いたベクション刺激が静止立位に与える影響～高齢者と若年者の比較～ Effect of vection stimulus using VR on static standing in young and elder people	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 富永 渉
<b>高齢期 3</b> 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場		
PJ-3-1	系列病院間連携によるフレイル対策活動の報告 Report on countermeasure activities though cooperation between affiliated hospitals	一般社団法人 巨樹の会 所沢明生病院 リハビリテーション科 山田 大介
PJ-3-2	高齢者の閉じこもりに対しての、意味のある作業への支援によって能動的に生活を送るようになった一例。 An elderly client who had been housebound became active life after supporting her with meaningful occupations.	ふれあい東戸塚ホスピタル リハビリテーション科 小林 佳弘
PJ-3-3	意欲向上に着目した関わりにより自宅退院に繋がった事例 The case leading patients to be discharged home by intervene focused on increasing of motivation	医療法人 光陽会 関東病院 リハビリテーション科 栗原康太郎
PJ-3-4	意欲低下が顕著であった長期療養患者に対し ADOC による目標設定を実施したことで主体性が向上した事例 A case goal setting using ADOC improved the independence of a long-term care patient with markedly depressed motivation	逸生会大橋病院 リハビリテーション科、 東京都立大学 人間健康科学域作業療法科学域 川端 美月
PJ-3-5	回復期リハビリテーション病棟における入院時の栄養障害と認知機能利得の関連性 Relationship between nutrition and dementia in a convalescent rehabilitation ward	泉佐野優人会病院 リハビリテーション部 吉谷 貴大
PJ-3-6	園芸活動を用いた作業療法の効果検証について Verification of the Effectiveness of Occupational Therapy Using Horticultural Activities	ケアホーム南淡路、 南淡路病院 田浦 康代
PJ-3-7	地域在住高齢者に対する園芸活動を用いた取り組みの現状～文献研究～ Current status of the program of horticultural activities for community-dwelling elderly ～ Literature research ～	杏林大学 保健学部作業療法学科 津曲 優子
<b>高齢期 4</b> 11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場		
PJ-4-1	介護保険要支援者における買い物の実施に関連する因子の検討 Examination of factors related to shopping for people requiring support of long-term care insurance	福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科 五百川和明
PJ-4-2	スヌーズレンを体験した介護職員へのインタビュー結果の考察 ～認知症ケアモデルの確立に向けて～ Examination of interviews with care staff who experienced Snoezelen: Toward the establishment of a dementia care model	社会福祉法人ノテ福祉会特別養護老人ホームノテふるさと スヌーズレン開発推進室、 日本医療大学 認知症研究所 新岡 美樹
PJ-4-3	活動意欲の低下した寝たきり高齢女性に対する主体性に焦点を当てた介入 Intervention focusing on independence for bedridden elderly woman with reduced motivation	社会福祉法人牛久博愛会 フロントピア牛久 リハ地域連携室 木下 梓織
PJ-4-4	回復期リハビリテーション病棟における認知症を有する方へのグループ回想法の継続による気分改善の影響 The effects of continuous reminiscences on mood Improvement for people with dementia in Kaifukuki rehabilitation ward	医療法人大誠会 内田病院 高井 沙織



PJ-4-5	当院回復期リハビリテーション病棟におけるサルコペニアの実態調査と関連因子の検討 Factual investigation of sarcopenia and examination of related factors in the rehabilitation unit of our hospital	医療法人社団 豊生会 東苗穂病院 リハビリテーション部 村杉 冴香
PJ-4-6	回復期リハビリテーション病棟から自宅退院した認知機能低下高齢者の自宅生活継続要因および主介護者の介護継続要因の検討 Continuing to live at home of elderly people with cognitive decline and factors for primary caregiver's continuing care	社会医療法人 仁生会 西堀病院 リハビリテーション課 木村 優斗
<b>高齢期 5</b> 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PJ-5-1	入院生活での楽しみを見出し他者交流の再開に繋がった事例～色カルタを用いた集団活動～ A case report of finding enjoyment in and resuming interaction. ～ Group activity using the color card game "Iro karuta" ～	湘南慶育病院 リハビリテーション部 神谷 美樹
PJ-5-2	ライフヒストリーカルテ活用しその人らしいケアに活かした一事例 A case study of utilizing life history charts for individualized care	特定医療法人社団春日会 黒木記念病院 リハビリテーション部 帯刀 麻衣
PJ-5-3	施設外訓練における患者と患者家族の主観的評価に関する研究 A study on subjective evaluation of an out-of-hospital training for patients and their families	医療法人慈圭会 八反丸リハビリテーション病院 中間 賢二
PJ-5-4	作業選択意思決定支援ソフト(ADOC)を用いた軽度認知障害者の生活機能改善に関する一考察 A study on improvement of life functions of people with mild cognitive impairment using the ADOC	宝塚医療大学 上城 憲司
PJ-5-5	骨折患者の機能的転帰に関連する入院時の要因 Factors on admission related to functional outcome in fracture patients	ちゅうざん病院 荒木 俊二
PJ-5-6	都市部在住高齢者の社会的孤立と SNS の利用方法～ KH Coder を用いた分析～ Social Isolation and SNS Usage among Elderly Urban Residents ~ Analysis using KH Coder ~	文京学院大学 保険医療技術学部作業療学科 関川 陽平
<b>高齢期 6</b> 11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場		
PJ-6-1	リハビリテーション病院入院中の中高齢者のスマートフォン利用に関するニーズ調査 A hearing survey on smartphone use among middle-aged and elderly people in recovery phase rehabilitation wards	医療法人社団協友会横浜鶴見リハビリテーション病院・ 東京都立大学院人間健康科作業療法科学域博士前期 課程 芝地 杏花
PJ-6-2	施設高齢者の携帯電話所持状況とOTの役割 Survey of cell phone possession condition among elderly residents in elderly care facility and the role of OT	神戸大学 保健学研究科 野田 和恵
PJ-6-3	地域在住超高齢者におけるフレイル予防のための作業的戦略 Occupational Strategies for the prevention of frailty among the community-dwelling very elderly	札幌医科大学保健医療学部 作業療学科 坂上 真理
PJ-6-4	地域在住中・高齢者におけるセルフレジ・キャッシュレス決済の利用実態 Self-checkout system and cashless payment usage among community-dwelling middle-aged and older adults	鹿児島大学 医学部保健学科 池田由里子
PJ-6-5	介護老人保健施設入所者の転倒と生活機能との関連 Relationship between falls and daily living function in elderly care facility residents	福島県立医科大学 保健科学部 作業療学科 澄川 幸志
PJ-6-6	認知レベルと対応したアクティビティケア・マトリクスの開発 Development of Activity Care Matrix Corresponding to Cognitive Level	県立広島大学 久野 真矢
<b>高齢期 7</b> 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場		
PJ-7-1	入院高齢患者の well-being と老年的超越の関連 Relationship between well-being and gerotranscendence in elderly hospitalized patients	社会医療法人社団健全会 健全会ふれあい相互病院 リハビリテーション科 萱野 幸治
PJ-7-2	訪問・通所リハビリテーションを利用する高齢者の作業療法目標と支援～ナラティブレビュー～ Occupational therapy goals and support for elderly users of home-visit and day-care rehabilitation	神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科博士前期課程・ 医療法人社団苑田会 竹の塚脳神経リハビリテーション病院 平松 恭介
PJ-7-3	関節リウマチの進行により余暇活動の喪失を経験した症例への代償手段による支援の一例 An example of compensatory support for those who have difficulty in leisure activities due to rheumatoid arthritis	IMS グループ医療法人社団明芳会イムス横浜東戸塚 総合リハビリテーション病院 平井 翔也
PJ-7-4	高齢期の作業機能障害に着目した文献レビュー Literature Review Focusing on Occupational Dysfunction in Older Adults	函館市医師会看護・リハビリテーション学院 作業療学科・ 吉備国際大学大学院(通信制)保健科学研究科作業 療法学専攻 山田 竜大
PJ-7-5	作業療法を拒否するクライアントの作業の可能化～マズローの欲求段階の視点から～ Enabling occupation with the client who refuse occupational therapy ～ from the perspective of Maslow's stages of need ~	公益社団法人函館市医師会 函館市医師会病院 リハビリテーション課 坂本 勇太
<b>高齢期 8</b> 11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場		
PJ-8-1	自動車模擬運転時における視認応答潜時とブレーキ応答潜時との関係 Relationship between visual response latency and brake response latency during simulated driving of a car	信州大学医学部保健学科 佐賀里 昭



PJ-8-2	死亡退院者に対する精神科病棟の看護師・リハスタッフの介入視点 ～テキストマイニングによるデスカンファレンスの後方視的検討～ Intervention perspectives of Ns & rehab staff in psychiatric wards on deceased discharges	医療法人社団永生会 永生病院 リハビリテーション部 野口 僚子
PJ-8-3	遠隔で行う作業療法～急性期病院におけるリモートデイケアの活動報告～ The telehealth program of occupational therapy ～The report about remote daycare in acute hospital～	聖路加国際病院 リハビリテーション科 並木 千裕
PJ-8-4	回復期リハビリテーション病棟で人との「笑い合う」空間を創出した実践 ～色カルタを活用して～ To create a space with laugh together in convalescent rehabilitation ward. ～Using the color card game "Iro karuta"～	湘南慶育病院 リハビリテーション部 木村侑里南
PJ-8-5	集団療法の習慣化により客観的 QOL の向上が成された一例 An example of the habit of group therapy improved objective by QOL	医療法人社団淡路平成会 ケアホーム東浦 リハビリテーション科 梶 貴博
PJ-8-6	ADL 全介助から排泄・歩行が自立するまで改善 ～食事への介入が自立の意欲を引き出すきっかけとなった事例～ Improvement from total ADL assistance to independent excretion and walking ～A case of intervening in eating behavior～	上尾中央医科グループ 介護老人保険施設 ケアセン ター八潮 小林 賢
<b>高齢期 9</b>		11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場
PJ-9-1	回復期リハビリテーションの高齢者の退院先における習慣の構築に向けた作業療法 Occupational therapy for building habits at the discharge destination of the elderly people in recovery rehabilitation	医療法人 南労会 紀和病院 尾崎 友紀
PJ-9-2	高齢者施設において介護職員との協業がもたらす作業療法の効果 ～環境調整により意志と習慣化が改善した事例を通じて～ Effects of Occupational Therapy in Elderly Facilities through Collaboration with Nursing Staff	介護老人保健施設 さくらの丘 日高 菜実
PJ-9-3	入院高齢患者に対し馴染みのある活動を提供したことで意志に変化がみられた事例 ～人間作業モデルの評価に基づいて～ A case where a change in intention was observed by providing activities tailored to an inpatient elderly patient	医療法人社団永生会 永生病院 リハビリテーション部 川端 真維
PJ-9-4	作業療法の早期・多様な視点による介入の必要性 ～転院後の介入により独居に至った症例を通して～ The Need for Early and Diverse Interventions in OT ～Through a case in which he intervened after transfer and lived alone～	図南病院 山崎 克枝
PJ-9-6	Sense of Coherence の視点を取り入れたアクション・リサーチの実践による介入効果 Effects of action research practice incorporating the perspective of Sense of Coherence	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 山本 泰雄
<b>高齢期 10</b>		11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場
PJ-10-1	COVID-19 が地域在住高齢者の身体・認知機能、活動範囲、QOL に与えた影響 The impact of COVID-19 on physical and cognitive function, activity, QOL of community-dwelling elderly.	神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学科 白濱 勲二
PJ-10-2	Point Of Care リハビリを活用した事で ADL 向上に繋がった事例 ～地域包括ケア病棟における Ns との協働～ A case where Activities of Daily Living was improved by using Point Of Care Rehabilitation ～Collaboration with nurses～	社会医療法人熊谷総合病院 医療技術部リハビリテーション科 岩田 睦
PJ-10-3	慢性心不全患者の生活行為に着目した急性期病院と地域との連携 Collaboration between acute care hospitals and the community with a focus on daily life performance	公益社団法人地域医療振興協会 伊東市民病院 リハビリテーション室 鈴木 嘉子
PJ-10-4	通所リハ利用者における移動能力と手段的日常生活の関連性について The relationship between walking ability and instrumental activities of daily living among ambulatory rehabilitation.	社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院 辛嶋 睦子
PJ-10-5	高齢者の自宅の安全評価に活用した ICT の使用感 ～ウェアラブルカメラとスマートフォンカメラの比較～ The feeling with ICT in home safety assessment for elderly people ～Comparison between wearable and smartphone cameras～	社会医療法人愛生会総合上飯田第一病院 リハビリテーション科 林 咲子
PJ-10-6	活動の質評価法 (Assessment of Quality of Activities) の基準関連妥当性の検証 Examining of a criterion-validity of Assessment of Quality of Activities: A-QOA	県立広島大学大学院 西田 征治
<b>高齢期 11</b>		11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場
PJ-11-1	プール活動レベルを活用した一例～行動心理症状と介護負担軽減に向けて～ An example of using pool activity levels ～Toward behavioral and psychological symptoms and nursing care burden reduction～	医療法人五月会 須崎くろしお病院 岡野 真也
PJ-11-2	重度認知症の女性の家事活動に対する作業療法士と介護職の連携支援の試み Trial of cooperative support between occupational therapist and caregivers for housework of a woman with severe dementia	名古屋女子大学 医療科学部作業療法学科 中西 康祐
PJ-11-3	急性期病院の認知症患者に対する作業療法実践 ～過去10年間の文献レビュー～ Occupational therapy for dementia patients in acute hospital	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所博 士前期課程、 独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院 中 央リハビリテーション部 野村 真弓



PJ-11-4	中等度認知症患者に対し活動日記とナラティブを併用した関わりにより参加拡大に繋がった事例 A case of a patient with dementia whose involvement with an activity diary and narrative led to increased participation.	IMS (イムス) グループ医療法人社団明生会イムス 札幌内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科 朝倉 真未
PJ-11-5	上手く関わった経験の成り立ち～認知症クライアントに関わる作業療法士の世界～ The origin of the experience of being involved well ～ The World of Occupational Therapists Working with Dementia Clients ～	群馬バース大学 岡田 直純
PJ-11-6	アパシーを呈する認知症患者の自発性・活動性を促進するための集団作業療法の試み：症例報告 Group-based program to promote self-motivation and activity for dementia with apathy: a case report.	医療法人友協会 西大和リハビリテーション病院 本田 朝花

高齢期 12

11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場

PJ-12-1	認知症治療病棟における自宅への退院支援の現状と課題～アンケートを用いた実態調査～ Current status and issues of discharge support to home in dementia treatment wards ～ A survey study using questionnaires ～	県立広島大学 作業療法学コース 坂本 千晶
PJ-12-2	精神科病院における認知症高齢者の嗅覚機能の重症度別比較 Comparison of olfactory function in elderly patients with dementia in a psychiatric hospital by severity of illness.	医療法人 社団 緑誠会 光の丘病院 大中さおり
PJ-12-3	認知症を有する高齢者を対象としたグループ回想法の即時的な気分改善への影響 ～コントロール課題を設定した上での検討～ Immediate effect of group reminiscence therapy on mood in elderly people with dementia ～ Study by setting a control task ～	大誠会内田病院 リハビリテーション部 剣持 衣吹
PJ-12-4	事例を通し排尿ケアチームでの作業療法士の役割について考察する Discuss the role of occupational therapists in the urinary care team	一般財団法人とちぎメディカルセンター とちぎメ ディカルセンターとちのき 曾根田 香
PJ-12-5	慢性期病院における排尿自立支援の取り組みと効果 Efforts and Effectiveness in Supporting Urinary Independence in Chronic Care Hospitals	聖ヶ丘病院 リハビリテーションセンター 佐々 昂典
PJ-12-6	療養病棟に新規入棟した患者における ADL、精神機能、離床時間の経時的変化 Changes over Time in Newly Admitted Patients to Long-Term Beds	医療法人社団協友会 越谷誠和病院 リハビリテーション科 立川 智也

PK 認知障害 (高次脳機能障害を含む)

認知障害 (高次脳機能障害を含む) 1

11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場

PK-1-1	日常生活道具の適切な選択により爪切り動作と衣服のハンガー掛け動作が改善した大脳皮質基底核症候群の一例 A patient with CBS presenting improvement of nail cutting and hanging clothes on hanger by the use of appropriate tool	大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 永田 優馬
PK-1-2	回復期病棟における環境調整からBPSD緩和に努めた一症例 A case of BPSD alleviation from environmental adjustment in a convalescent ward	医療法人社団大谷会 島の病院おおたに リハビリテーション部 回復期病棟 大脊戸はる
PK-1-3	The Association between Cognitive Reserve and IADL Performance in Persons with Subjective Cognitive Decline in Taiwan	School of Occupational Therapy, College of Medicine, National Taiwan University HEI TONG PANG
PK-1-4	認知機能障害者の主観的 QOL と客観的 QOL に与える因子の検討 Factors Affecting Subjective and Objective Quality of Life in Patients with Cognitive Impairment	JA 静岡厚生連遠州病院 青柳 翔太
PK-1-6	化粧を取り入れた介入によりアパシーの改善が認められた症例 A case of apathy improved by an intervention incorporating make-up.	飯能靖和病院 リハビリテーション科 小澤 舞子
PK-1-7	アルツハイマー型認知症を呈した入院患者に対するリハビリテーション実施の有無に応じた身体活動量と光暴露量の関連について The Relationship between activities and light exposure in patients who have Alzheimer dementia with rehabilitation	中通総合病院 内山 然

認知障害 (高次脳機能障害を含む) 2

11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PK-2-1	最重度期の認知症に対してプール活動レベルを使用した支援が落ち着いた生活に繋がった事例 Patient who used pooled activity levels to help with dementia in the most severe stage, which led to a calm life.	IMS グループ 医療法人社団 明芳会 イムス横浜東戸 塚総合リハビリテーション病院 成尾 勇輝
PK-2-2	作業体験がもたらすストレス軽減効果についての研究 Research on stress reduction effect brought about by work experience	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科 藤田さより
PK-2-3	注意障害に対し仮想現実 (VR) 技術を用いたリハビリテーションが奏功した 1 例 A case of successful use of VR rehabilitation for attention disorder	株式会社麻生飯塚病院 リハビリテーション部 吉村 匡史
PK-2-4	語りから意味のある作業を引き出し BPSD が改善した事例～押し花づくりを通して～ A case where BPSD improved by extracting meaningful Occupation from narrative ～ Through making flower pressed flowers ～	医療法人社団 玉栄会 東京天使病院 リハビリテーション科 角田 恵美



PK-2-5	脳出血後に自発性が低下した母親に対する育児役割獲得に向けた作業療法 Occupational Therapy for Mothers with Reduced Spontaneity After Cerebral Hemorrhage to Acquire Childcare Roles	イムスグループ イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 浅葉由美恵
PK-2-6	アルツハイマー型認知症のBPSDに対して生活歴に関わる音楽を活用した事例 A case of using music related to life history for BPSD in Alzheimer's disease	医療法人光陽会 関東病院 リハビリテーション科 鍋田 一騎
<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 3</b>		11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PK-3-1	コロナ禍における高次脳機能障害の家族会支援についての検討 ～過去10年の振り返りと今後の展望～ A Study of Support for Family Associations of Cognitive Dysfunction in the COVID-19 pandemic.	浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 秋山 尚也
PK-3-2	FIMの認知項目と運動項目がADLの介護負担感に与える関係性に関する予備的研究 ～アンケート調査を通して～ Preliminary study on the relationship between FIM and caregiver's burden of ADL ～ through questionnaire survey ~	栃木県医師会塩原温泉病院 リハビリテーションセンター 中村 大輔
PK-3-3	「自分らしい生活」を送るための回復期リハビリテーション病棟における支援 A case report of the patient, we tried her rehabilitation from the standpoint of 'self-reliant life'.	袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 町野 浩樹
PK-3-4	当院回復期リハ病棟における認知症患者に対する集団的個別訓練の効果検証 ～混合研究法を用いたフィジビリティスタディ～ Verification of the effectiveness of group individual training for patients with dementia in the convalescence Rehabilitation Ward	社会医療法人 北九州病院 北九州古賀病院 リハビリテーション科 小柳 康裕
PK-3-5	役割再開に向けて OT と家族間で「CBA (認知関連行動アセスメント)」を用いた高次脳機能障害者の一事例 A case report of higher brain dysfunction using Cognitive-related Behavior Assessment with family	医療法人昌峰会加藤病院、 吉備国際大学大学院 (通信制) 保健科学研究科作業 療法専攻修士課程 恩田 真也
PK-3-6	注意機能が模擬運転テストにおけるブレーキ・アクセル操作と手掌発汗反応に与える影響 について The effect of attention function on operation responses and palm sweat responses in the simulation driving test	信州大学 医学部保健学科 岩波 潤
<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 4</b>		11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PK-4-1	上肢への機能的電気刺激と Virtual reality 課題が空間性注意機能にあたる影響 ～ Posner 課題による検討～ Effect of functional electrical stimulation and Virtual reality on attention ～ Examination by the Modified Posner task ~	関西医療大学 保健医療学部 作業療法学科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 吉弘 奈央
PK-4-2	前交通動脈瘤の術後に重度の記憶障害を呈した症例に対する臨床的評価および介入 Cognitive rehabilitation for memory impairment after surgery of anterior communicating artery aneurysm.	川崎医科大学総合医療センター リハビリテーションセンター 光永 大助
PK-4-3	脳卒中による高次脳機能障害が転帰先へ及ぼす影響～神経心理学検査での検討～ ～ a neuropsychological examination. ~ Effects of higher brain dysfunction due to stroke on outcome destination	徳島県立中央病院 医療技術局 リハビリテーション技術科 永野 達郎
PK-4-4	作業活動を効果的に導入するためにはどうしたらよいか ～急性期病棟における導入方法の一考察～ Effective introduction of activity ~ Examine of method for introduction in acute phase ~	聖路加国際病院 リハビリテーション科 本田ななみ
PK-4-5	急性期病院において認知症患者の睡眠障害遷延は ADL 自立度改善に影響するか？ Does prolonged sleep disturbance in patients with dementia affect the improvement of ADL independence in acute hospital?	石川県立中央病院 医療技術部リハビリテーション室 杉本 優輝
PK-4-6	運動学習の定量化による MCI の判別モデルの検討 Distinguishing the model of MCI through quantification of motor learning	偕行会リハビリテーション病院 リハビリテーション部、 名古屋工業大学大学院 戸嶋 和也
<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 5</b>		11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PK-5-1	コグニバイクが軽度認知障害及び認知症患者に与える効果～後ろ向きコホート研究～ Effects of Cognibike on Mild Cognitive Impairment and Dementia Patients ～ Retrospective cohort study ~	JA 静岡厚生連遠州病院 リハビリテーション科 大谷 史穂
PK-5-2	遂行機能障害により衝動的な行為の選択を行う症例に対する介入経験 ～神経心理学的評価からの解釈を中心に～ Experience intervening in cases with impulsive action choices due to executive dysfunction	医療法人孟仁会 摂南総合病院 リハビリテーション科 石橋ゆりえ
PK-5-3	がん関連の認知機能障害に用いる評価ツールと社会背景因子との関連性 ～健常中高齢者での予備的研究～ Associations between social-demographical variables and cancer-related cognitive assessment tools ~ A preliminary study ~	広島大学 医系科学研究科 精神機能制御科学 齋田 和哉
PK-5-4	幕張版メモリーノートの自立的使用に関連が高い神経心理学的検査の探索 Survey of neuropsychological tests that are highly relevant to the independent use of MMN	広島県立障害者リハビリテーションセンター 藤井 美香
PK-5-5	複数の高次脳機能障害の気づきの階層に応じた介入手段の検討 ～各障害への日本語版 SRSI (Self-Regulation Skills Interview) の活用～ The use of the Japanese edition SRSI for self-awareness of patient with multiple higher brain dysfunction	川崎市立川崎病院 リハビリテーション科 佐々木 智

PK-5-6	「色が覚えやすい」と自覚したことで代償の獲得が可能となった一例 ～本人のインタビューをふまえた考察～ A case where we were able to supplement the functionality by realizing that "colors are easy to remember".	飯能靖和病院 リハビリテーション科 福井 雄樹
--------	---	----------------------------

認知障害（高次脳機能障害を含む）6

11月10日（金）17:00～18:00 ポスター会場

PK-6-1	脳損傷者の道順障害に対する誤りなし学習の効果 ～シングルシステムスタディ ABAB デザインを用いて～ Effects of Errorless Learning on Directions Impairment in Brain-injured persons ～ Using a Single-System Study ABAB Design ～	済生会吉備病院 リハビリテーション科 中野 広隆
--------	--	-----------------------------

PK-6-2	スマートフォンを手掛かりにして予定に応じた日常生活動作が可能となった、単純ヘルペス脳炎後に重度の記憶障害を呈した一例 Using a smartphone in the daily life of herpes simplex encephalitis with severe memory impairment.	国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 リハビリテーション科 廣瀬 陽夏
--------	--	---

PK-6-3	スケジュール表を用いて自己管理の再獲得を行い自宅退院につないだ症例 A case report of the patient, we tried regaining her self-managing ability and succeeded in returning to her home.	袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 佐藤はるな
--------	---	-------------------------------

PK-6-4	高次脳機能障害者と雇用者における就労継続に関する認識・価値観についての質的研究 A qualitative study of the perceptions and values of cognitively impaired and their employers toward job retention	埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部 飯塚 航平
--------	---	---------------------------------------

PK-6-5	高次脳機能障害者に対する効果的な就労支援 Examination of effective employment support for higher brain dysfunction	広島県立障害者リハビリテーションセンター 機能回復訓練部 濱田 直斗
--------	--	--

PK-6-6	代償的訓練と環境調整により復職に至った左後頭葉皮質下出血の一症例 A case of left subcortical hemorrhage with return to work after compensatory training and environmental adjustment	医療法人社団輝生会 船橋市リハビリセンター 佐々木智也
--------	--	--------------------------------

認知障害（高次脳機能障害を含む）7

11月11日（土）10:10～11:10 ポスター会場

PK-7-1	初期に右被殻出血により重度半側空間無視を中心とした高次脳機能障害を呈した症例の復職に至るまでの経過 The return-to-work process in a patient with severe spatial neglect after right hemisphere damage	医療法人社団健育会竹川病院 リハビリテーション部 姫田 大樹
--------	--	-----------------------------------

PK-7-2	本人のニーズに沿った達成可能な目標から解決し、家族のニーズであった APDL の獲得もできた脳梗塞症例 A stroke case in which the patient's the achievable goals were resolved, and the family's needs for APDL were also met.	市立宇和島病院 リハビリテーション科 浦瀬 康太
--------	--	-----------------------------

PK-7-3	アルツハイマー病型認知症者の音声の特性についての研究～パイロットスタディ～ A Study of the Speech Characteristics of Patients with Alzheimer's Disease ～ A pilot study ～	新潟医療福祉大学 能登 真一
--------	--	-------------------

PK-7-4	認知症の行動・心理症状に対する園芸活動の実践～自己効力感の獲得を目指して～ Horticultural activity practice for behavioral and psychological symptoms ～ Aiming to acquire a sense of self-efficacy ～	社会医療法人 生長会 ベルビアン病院 リハビリテーション室 小間坂友祐
--------	--	---

PK-7-5	高次脳機能障害者の家族介護者における自己効力感評価尺度の開発 Development of a Self-Efficacy Scale for Family Caregivers of Persons with Higher Brain Dysfunction	医療法人博仁会 志村大宮病院 小野瀬剛広
--------	---	-------------------------

PK-7-6	就労移行支援において、自己認識の変化に焦点を当てることで有効な補償手段の獲得につながった脳損傷の1症例 A case of brain injury that was acquired compensatory strategies by focusing on self-awareness in employment support	名古屋市長総合リハビリテーションセンター 就労支援課 柏木 晴子
--------	---	--

認知障害（高次脳機能障害を含む）8

11月11日（土）11:10～12:10 ポスター会場

PK-8-1	若年性軽度認知障害を呈した方の自動車運転再開支援 Driving support for early-onset mild cognitive impairment	前橋赤十字病院 リハビリテーション科部 原 大地
--------	---	-----------------------------

PK-8-2	若年者を対象とした活動の質評価法（A-QOA）と既存評価との関連性の分析 ～トランプ活動を用いた多面的検討～ Analysis of Relationship between Assessment of Quality of Activities (A-QOA) and other assessments in young adults	神戸学院大学 小川 真寛
--------	---	-----------------

PK-8-3	失行の影響により ADL に難渋した症例の評価と介入について cases assessment and intervention in which ADL is difficult due to apraxia	医療法人相生会福岡みらい病院 リハビリテーション科 木村 愛
--------	--	--------------------------------------

PK-8-4	失行症に対しエラーレス訓練で食事動作が可能になった症例 A patient with apraxia who was able to eat by errorless training	社会福祉法人 京都済生会病院 リハビリテーション科 福沢 滉太
--------	---	------------------------------------

PK-8-5	社会的行動障害に対してセルフマネジメントへ繋がった事例 A case that led to self-management for social behavior disorder	イムス札幌内科リハビリテーション病院 倉岡 咲季
--------	--	-----------------------------

PK-8-6	社会的行動障害者の復職支援における OSA- II と OPH- II に基づく相互的環境調整 Mutual environmental adjustment based on OSA-II and OPH-II in support for reinstatement of social behavior disorder	原宿リハビリテーション病院 リハビリテーション科 山本 征邦
--------	--	-----------------------------------



<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 9</b>		11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場
PK-9-1	48時間以上の人工呼吸器管理患者の認知機能に対する作業療法士・理学療法士・言語聴覚士の介入の影響 Association of cognitive function with rehabilitation in patients on mechanical ventilator for more than 48 hours.	昭和大学 保健医療学部 作業療法学科 駒場 一貴
PK-9-2	転倒者における身体拘束・非拘束の相違検証～倫理的価値の対立を減らすために～ Verification of Differences in Fallers ~ Decrease in conflicts of ethical values ~	江東リハビリテーション病院 リハビリテーション科、 福岡和白病院 リハビリテーション科 谷岡 亮平
PK-9-3	当院の認知症ケアチームにおける作業療法士の役割について The role of occupational therapists in our dementia care team	社会医療法人加納岩 山梨リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法課 浅川 愛
PK-9-4	転倒を繰り返す要因と遂行機能における衝動性との関係 Relationship between factors that cause repeated falls and impulsiveness in executive function	医療法人孟仁会 摂南総合病院 リハビリテーション科 青山 雄樹
PK-9-5	習慣や趣味で症状が改善した脳血管性認知症の1例 A case of cerebrovascular dementia whose symptoms improved with habits and hobbies	江東リハビリテーション病院 リハビリテーション科 新井 祥憲
PK-9-6	Go/Nogo 課題時の反応時間変動係数と MoCA-J の関係 Relationship between intra-individual variability in reaction time and MoCA-J during go/nogo task	国際医療福祉大学市川病院 リハビリテーション室、 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科作業療法 学分野作業活動分析学領域 木村 修豪
<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 10</b>		11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場
PK-10-1	当院における地域包括ケア病床患者の認知機能の特徴 The Characteristics of cognitive function in the community comprehensive care	医療法人豊田会 高浜豊田病院 リハビリテーション科 太田 有人
PK-10-2	デイケアでの排泄動作アプローチにより認知症 86歳男性のBPSDが軽減した症例～BPSD25Qを用いて～ A case of reducing bpsd in an 86year oldman with dementia through a toileting approach at day care	介護老人保健施設みやびの里 リハビリテーション課 赤塚 直子
PK-10-3	急性期地誌的障害と半側空間無視を呈した一症例が病棟生活自立に至った治療経過 A case of unilateral spatial neglect and topographic disorder become independent in ward life.	医療法人清仁会シミズ病院 リハビリテーション科 吉村 正仙
PK-10-4	活動の質評価法 (A-QOA) の臨床での活用方法と課題～実践者の語りの分析～ How to use the Assessment of quality of activities(A-QOA) in clinical and challenges ～ Analyze practitioner's narrative ~	県立広島大学院 綾 里穂
PK-10-5	昭和30、40年代に記録された8mm Film映像を用いた回想療法の試行 A trial of reminiscence therapy using 8mm film footage recorded in the 1950s and 1960s	秋田大学医学部保健学科 浅野 朝秋
PK-10-6	認知症患者へのタブレット型認知機能検査 NCGG-FAT の適用可能性の予備的検討 Applicability of the Tablet-Based Cognitive Assessment Tool (NCGG-FAT) for People with Dementia: A Pilot Study	学校法人たちばな学園 理学・作業名古屋専門学校 石田 敦子
<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 11</b>		11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場
PK-11-1	要介護高齢者の自覚的な機能障害と認知症罹患に対する不安との関係 Relationship between subjective disability and anxiety about dementia among elderly requiring care	杏林大学 保健学部リハビリテーション学科作業療法専攻 鈴木優喜子
PK-11-2	色カルタを用いた集団活動中に見られる参加者同士の交流の特徴 ～複数グループを対象とした検討～ Characteristics of conversation among participants during a group activity using IroKaruta ～ Examination of multiple groups ~	福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科 学域博士後期課程 木村 夏実
PK-11-3	食事時間の著しい延長を認めたbvFTD患者に対する食事環境と食具調整介入の一例 Environmental adjustment for eating abnormality of takes a long time to eat in a patient with Frontotemporal dementia	大阪大学医学部附属病院 医療技術部、 大阪大学大学院 精神医学教室 石丸 大貴
PK-11-4	重度認知症脳卒中患者に対する食事動作改善に向けた介入～病前の活動に着目して～ Interventions to improve eating behavior in stroke patients with severe dementia ～ Focusing on activities before illness ~	富山県済生会富山病院 リハビリテーション科 高橋 香織
PK-11-5	施設で暮らす前頭側頭型認知症者のBPSDの改善に向けた訪問作業療法実践 Home-visit occupational therapy to improve BPSD of a patient with frontotemporal dementia living in a nursing home	一般社団法人 療養生活支援協議会 訪問看護ステーションあかり 杉山 瞬
PK-11-6	生活上での体験から高次脳機能障害に対する気づきが得られ、復職・運転再開に至った一症例 A case in which an awareness of higher brain dysfunction was gained from his daily-life experiences	袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 松浦 聖
<b>認知障害 (高次脳機能障害を含む) 12</b>		11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場
PK-12-1	VRによるゲームアプリを用いた左半側視空間無視患者への作業療法介入 Occupational therapy intervention for patients with left unilateral spatial neglect using a VR-based game application	地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 進藤 潤也
PK-12-2	脳損傷者への就労支援～作業療法士による職業生活への支援～ Vocational rehabilitation for brain-injured ～ How do OTs support vocational life for brain-injured? ~	帝京平成大学 健康メディカル学部作業療法学科、 神戸大学大学院 保健学研究科博士後期課程 栗原 良子

ポスター発表



PK-12-3	ゲームを用いた注意機能訓練が半側空間無視を呈する患者の立位保持に有効であった症例 Video game rehabilitation for hemilateral neglect ~ with standing position training ~	時正会 佐々総合病院 リハビリテーション科 前田 千春
PK-12-4	左半側空間無視を呈する患者に対し、上肢リハビリ装置 CocoroeAR2 を使用した一症例 A case of upper limb rehabilitation device CocoroeAR2 for a patient with unilateral spatial neglect	医療法人横浜平会 平成横浜病院 リハビリテーション科 深谷夏々子
PK-12-5	身体意識の変容を認めた急性期脳梗塞患者に対して、早期から麻痺肢の作業参加を促進した一例 A case of early participation of a paralyzed limbs in work for altered body consciousness after acute stroke	県立広島病院 リハビリテーション科 涌嶋 宏輔
PK-12-6	軽度認知障害とアルツハイマー型認知症における嗅覚同定能と抑うつの関係 Association between depressive symptoms and olfactory identification	金城大学 医療健康学部 吉武 将司

PL 援助機器

援助機器 1

11月10日(金) 15:00 ~ 16:00 ポスター会場

PL-1-1	3Dプリンタで制作した自助具の総合満足度と自助具に関する評価の関係 ~振動障害を対象としたアンケート調査~ Examination of satisfaction with self-help devices produced with a 3D printer ~ Questionnaire survey on vibration disorders ~	木古内町国民健康保険病院 リハビリテーション科 松崎 将哉
PL-1-2	3Dプリンタで制作した書字の自助具使用が成功体験につながった小児脳腫瘍術後患者の一事例 A case study of a postoperative pediatric brain tumor patient using a self-help writing device made with a 3D printer	総合南東北病院 リハビリテーション科 高田 善栄
PL-1-3	ADOC2の開発: ~直感的なユーザーインターフェース操作の検証~ Development of ADOC2: ~ Verification of intuitive operation of user interface ~	東京工科大学 作業療法専攻 友利幸之介
PL-1-4	Developing a support website for postsecondary students with learning difficulties in academic life in Indonesia	Mater's Program in Department of Occupational Therapy, Graduate School Human Health Sciences, Tokyo Metropolitan University Putri Dirgantara
PL-1-5	ALS者のための患者立脚型コミュニケーションアプリの開発 ~4例の操作体験から見えてきた課題~ The development of communication application incorporating patients' opinions	国際医療福祉大学市川病院 神経難病センター 大寺亜由美

援助機器 2

11月10日(金) 16:00 ~ 17:00 ポスター会場

PL-2-1	手指機能改善に対応したカトラリー把持支援スプリントの開発とその要諦 ~リハビリテーションに対応した道具について~ Development and essentials of a cutlery grip support splint for improving hand function. ~ About tools for rehabilitation. ~	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 リハビリテーション技術室 小森 健司
PL-2-2	兵庫県の介護事業所における介護ロボット導入の実態 Actual situation of introducing care robot in Hyogo	兵庫県立福祉のまちづくり研究所 安藤 悠
PL-2-3	体幹前傾をサポートする椅子の駆動に必要な運動パターンの解析 Analysis of movement patterns required to drive a chair that supports anterior tilt of the trunk	札幌医科大学保健医療学部 中村 裕二
PL-2-4	上肢に対する重錘負荷が可動椅子における運動パターンに与える影響 Effects of weight loading on upper limbs on forward reaching movement in a seat-forward tiltable and anterior movement.	札幌医科大学保健医療学研究科作業療法専攻感覚統合障害学・子ども支援ルーム 中谷 優太
PL-2-5	360度リアルタイム空間共有ソリューションを用いた遠隔家屋訪問の有用性の予備的検討 A Preliminary Study of the Usefulness of Remote House Evaluation Using a Real-Time Virtual Reality	大阪公立大学 リハビリテーション学研究科 上野 慶太

援助機器 3

11月10日(金) 17:00 ~ 18:00 ポスター会場

PL-3-1	デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する余暇活動の拡大を目的とした環境支援介入 Supporting the environment for the purpose of expanding leisure activities for Duchenne muscular Dystrophy	独立行政法人 国立病院機構長良医療センター 加登山未帆
PL-3-2	地域在住高齢者のICT活用における世代間交流の可能性について ~大学生へのアンケート調査から~ The Potential for Intergenerational Exchange in the Use of ICT by Community-Dwelling Older Adults	群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部作業療法専攻 宮寺 亮輔
PL-3-3	重度四肢麻痺者に対するパソコン入力支援装置の検討~ポインティングデバイスの選定~ A case study of personal computer operating environment for quadriplegia caused by Guillain-Barré syndrome	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 山本真莉子
PL-3-4	ハンドル形電動車いす支援に関するアンケート調査結果 ~石川県内のリハビリテーション専門職を対象として~ Survey Results on Support for the Electric Scooter with Handles ~ Targeting rehabilitation professionals in Ishikawa ~	社会福祉法人金沢市社会福祉協議会 金沢福祉用具情報プラザ 本田 優介



援助機器 4		11月11日(土) 14:10～15:10	ポスター会場
PL-4-1	在宅支援におけるスマートデバイスを利用した支援の実態～専門職へのインタビューから～ Actual Conditions of Support Using Smart Devices in Home Assistance ～ From Interviews with Professionals ～	帝京科学大学 医療科学部作業療法学科	澤田 有希
PL-4-2	「また美容師に戻りたい」 自助具を用いて再びヘアカットが行えるようになった症例 "I want to go back to being a beautician" A case of being able to cut hair again using self-help tools	介護老人保健施設緑樹苑 通所リハビリテーション	塚田 勇気
PL-4-3	当院におけるアームサポート「MOMO プライム」を使用した複数事例の臨床経過 Clinical progress of patients using the arm support "MOMO Prime": case series report	国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 リハビリテーション科	小澤 弘幸
PL-4-4	指腹つまみを容易にする箸箸自助具の開発により天ぷら作業が可能になった事例 The development of self-help tool to facilitate palmar pinch of chopsticks in a patient involved with cooking tempura	公立岩瀬病院 リハビリテーション科	大内 尊久

援助機器 5		11月11日(土) 15:10～16:10	ポスター会場
PL-5-1	自作ポータブルスプリングバランサーにより食事動作が獲得できた一例 An example of eating motion acquired by self-made portable spring balancer	水戸済生会総合病院 リハビリテーション技術科	海野 淳輝
PL-5-2	障害者の支援機器開発において OT がモニター評価に参加する際の業務に対する影響 Influence given on work when OT participates in monitoring he evaluation of the development of assistive devices	神戸大学大学院 保健学研究科	内田 智子
PL-5-3	片手で折り畳み傘を巻き留める自助具の改良～使用場所と操作手順の問題解決に向けて～ Self-help device that wraps the folding of umbrellas only one hand ～ About the usage places and action procedures ～	東北メディカル学院	藤嶋 聖子
PL-5-4	片手用髪留め具の開発～汎用性の高い自助具を目指して～ Development of the One-handed Hair Clips ～ Aiming for a highly useful self-help tool ～	大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻	中松 貴子

援助機器 6		11月11日(土) 16:10～17:10	ポスター会場
PL-6-1	前開きジャケットのファスナーを片手で閉める自助具の開発 Development of a self-help device to close zippers of front-folding jacket with one hand	山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科、 学校法人 臨研学舎 東北メディカル学院 作業療法学科	堀切川尚人
PL-6-2	片麻痺患者が片手でジッパーを閉める自助具の有効性 Effectiveness of a self-help device for hemiplegic patients to close zippers with a single hand	東北メディカル学院 教務部作業療法学科	加福 隆樹
PL-6-3	リコーダー演奏に向けた片麻痺児への関わり Involvement with a hemiplegic child for playing the recorder	神奈川県リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院 作業療法科、神奈川リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院 研究部 リハビリテーション工学研究室	一木 愛子
PL-6-4	アームサポート「MOMO」を用いた介入により、短期間での上肢機能改善を認めた頸椎性脊髄症術後患者の一例 A case of short-term improvement of upper limb function after intervention using the arm support "MOMO"	垂水市立医療センター 垂水中央病院 リハビリテーション部	桑鶴 翔

PM MTDLP			
MTDLP 1		11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場	
PM-1-1	周術期消化器がん患者に対する MTDLP による介入効果の検証 Validation of intervention effect of MTDLP for perioperative gastrointestinal cancer patients	社会医療法人 財団 中村病院 / リハビリテーション部	山田 祐輝
PM-1-2	入院中から趣味活動を取り入れ再獲得した事例～趣味活動の再獲得～ A case of reacquiring hobby activities while hospitalized ～ Hobbies regained ～	江東リハビリテーション病院 リハビリテーション科	和田 集平
PM-1-3	生きがいを取り戻すための挑戦～生活行為向上マネジメント (以下 MTDLP) を活用して～ Challenge to get back ikigai with MTDLP	JA 長野厚生連富士見高原医療福祉センター 富士見高原病院	尾崎 英美
MTDLP 2		11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場	
PM-2-1	「入院中に生活行為向上マネジメント (以下 MTDLP) を導入. 担当コメディカルで患者 HOPE にアプローチした脳卒中患者の一例」 An example of a stroke patient who used MTDLP to approach patient HOPE in a co-medical manner during hospitalization	明陽会 第二成田記念病院	浅井 美穂
PM-2-2	患者さんの「やりたい」を続けるために To sustain the patient's "want to"	ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部	新垣 真希
PM-2-3	自転車の使用再開により外出頻度が向上した一症例 ～訪問型サービスCにおける MTDLP の活用～ Cases of increased frequency of outings due to resumption of bicycle use ～ Use of MTDLP in Visit-Based Service C ～	医療法人 橋本病院 リハビリテーション部	山田 隆貴
PM-2-4	MTDLP を用いて個人の強みを活かして在宅復帰を果たした事例 A case of returning home by making use of individual strengths using MTDLP	東京天使病院 リハビリテーション科	岡村 愛

ポスター発表

MTDLP 3

11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場

PM-3-1	『独歩で自立した生活を送りたい』を目指して Aiming for "free hand walking and independent living"	ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 伊佐 綾乃
PM-3-2	前腕切断に対し生活行為向上マネジメントを用いて職場復帰を果たした筋電義手導入の1例 A case of a myoelectric prosthesis introduction for a forearm amputation who returned to work using MTDLP.	防衛医科大学校病院 リハビリテーション部 椎名 義明
PM-3-3	生活行為向上マネジメントの活用により小学校の卒業式に参加が可能となった症例 A case about able to participated in the elementary school graduation ceremony using MTDLP	千葉県救急医療センター 浅田 隆明
PM-3-4	実動作練習によって復職への自信を深めた一事例 ～感染症対策による活動制限下での試み～ A case in which practical operation practice led to confidence in returning to work ～ Attempts under infection control ～	社会医療法人畿内会岡波総合病院 リハビリテーション科 作業療法室 吉岡友紀子
PM-3-5	MTDLPを活用し園芸活動獲得を目指した視床出血の一例 A case of the thalamic hemorrhage in which the return to the gardening activity was enabled by utilizing MTDLP.	医療法人社団 和風会 千里リハビリテーション病院 夏原 耀一

MTDLP 4

11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場

PM-4-1	退院後の独居生活を目指して MTDLP を行った症例の経験 Experience with a case of MTDLP for living alone after discharge from hospital	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 臨床教育研究センター 仲里 明恵
PM-4-2	臨床実習における生活行為向上マネジメントを用いた教育効果 ～ Khcoder による計量テキスト分析を用いて～ Educational effectiveness of using MTDLP in clinical practice ～ Using quantitative text analysis with KH coder ～	土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 稲富 惇一
PM-4-3	地域包括ケア病棟に入院中の認知症高齢者に対する MTDLP の実践 Practice of MTDLP for older people with dementia hospitalized in the hospitals for community-based care	本庄総合病院 リハビリテーション科 丸橋 篤人
PM-4-4	MTDLPを用いた関わりが生活範囲拡大につながった皮膚筋炎に伴う間質性肺炎の一例 Case of DM-IP did it expansion living range at MTDLP	独立行政法人 地域医療機能推進機構 JCHO 北海道 病院 リハビリテーション部 若月 雅人

PN 地域

地域 1

11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場

PN-1-2	COVID-19 流行下における地域在住高齢者の感染恐怖とその影響 On Fear of Infection and its Impact of Elderly People in the Community under the COVID-19 Pandemic	彩北病院 作業療法課 安野 匠貴
PN-1-4	The effect of the health maintenance for employees with the continuous work ～ based on middle-aged and elderly employees ～	Occupational therapy, Fu'an Management Consulting Co., Ltd., Occupational therapy, Kaohsiung Medical University Chi Jen Lee
PN-1-5	コロナ禍における作業を通じた健康支援を目的とする啓発資料の活用状況に関するアンケート調査 A survey on the use of educational materials aimed at promoting health during the COVID-19 crisis.	福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科 川又 寛徳
PN-1-6	地域在住の高次脳機能障害者の健康関連 QOL 評価：脳血管障害者と頭部外傷者の比較 Health-related QOL of community-dwelling persons with cognitive dysfunction: a comparison of CVA and TBI	藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 鈴木めぐみ
PN-1-7	吹田市訪問型短期集中サポートサービスにおける OT の役割 The Role of Occupational Therapists in Suita City Visiting Short-term Intensive Support Service	医療法人弘清会 四ツ橋診療所 在宅診療部 吹田市福祉部高齢福祉室 下川 貴大
PN-1-8	作業療法士のコンサルテーションで放課後児童支援員が抱く主観的経験 ～ SCAT 質的データ分析～ Subjective experiences held by after-school child support staff as a result of occupational therapist consultation	岡山医療専門職大学 健康科学部 作業療法学科 野口 泰子
PN-1-9	就労支援施設における支援者へのコーチングの検討 ～ 気づきの支援プログラムの仕組みに着目して行ったコーチング・ダイアログ～ Examination of coaching for supporters at employment support facilities ～ Coaching dialogue focused on support programs ～	関西福祉科学大学 本多 伸行
PN-1-10	中小企業労働者におけるワーク・エンゲイジメントと慢性疾患、ストレス、心理的安全性の関連性についての検討 Association of Work Engagement with Chronic Disease, Stress and Psychological Safety among Small Business Workers	九州大学病院 リハビリテーション部 爲國友梨香
PN-1-11	科学的介護情報システム (LIFE) を活用した高齢者の生活期リハビリテーションの効果分析 ～ 先行的知見に基づくアウトカム指標の同定～ Identifying outcome measures for analyses of the effectiveness of long-term rehabilitation using the LIFE database	国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 山口佳小里



PN-1-12	トイレ動作の安定を機に自宅での役割と自尊心の維持が図れた事例 A case where the role and self-esteem at home was maintained with the stability of tray movement.	らそうむ内科・リハビリテーションクリニック 訪問リハビリテーション 松崎 友希
<b>地域 2</b>		11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PN-2-1	バーチャルリアリティを利用した統合失調症を持つ人の居場所作り支援の実践報告 Support Development a Place for People with Schizophrenia Using Virtual Reality: A Practical Report	北海道大学病院 リハビリテーション部、 北海道大学病院附属司法精神医療センター、 もりのへや運営委員会 國田 幸治
PN-2-2	孤独・孤立の生きづらさに対する多職種連携の実践 ～福祉とメディア事業による共生社会づくり～ Interprofessional approach to the problem of loneliness and isolation ～Creating social inclusion with welfare and media～	NPO法人コネクトスポット 自立訓練・保育所等訪問支援 多機能事業所 山下 祐司
PN-2-3	住民主体！持続したフレイル予防の実現に向けて！～高知県仁淀川町ハツラツの魅力～ Resident-centered! Toward realization of sustained frailty prevention! ～Charm of Hatzlutz, Niyodogawa Town, Kochi Prefecture～	高知リハビリテーション学院 金久 雅史
PN-2-4	ご当地フレイル予防体操の身体機能向上への効果に関する検証：パイロットスタディ Effectiveness of Frailty Prevention Exercise in Improving Physical Function: A Pilot Study	星城大学 リハビリテーション学部 富山 直輝
PN-2-6	Smedley 型握力計および Jamar 型握力計の測定値の相違がサルコペニアの診断に与える影響 Influence of differences in Smedley and Jamar hand dynamometer measurements on the diagnosis of sarcopenia	医療法人社団豊生会東苗穂病院 リハビリテーション部 秋山 慶文
PN-2-7	家事練習の効果と退院後の実施状況に関する調査 A survey on the effectiveness of OT approach to domestic works at a rehabilitation ward	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立リハビリテーション病院 三郎丸朋美
PN-2-8	脳卒中者の家族介護者の経験に基づく作業療法の検討 Examining support of occupational therapy based on the experience of family caregivers of stroke survivors.	文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科 松井香那葉
PN-2-9	通所リハビリテーション利用者の主介護者における介護負担感と作業機能障害に関する研究 ～ショート利用の有無に着目した検討～ Burden of Caregiving and Occupational Dysfunction among Primary Caregivers of Day Care Rehabilitation Users	医療法人社団豊会 介護老人保健施設 野洲すみれ苑 加賀山俊平
PN-2-10	短期集中型サービス通所 C 事業における WHO QOL26 の有効性について Effectiveness of WHO QOL26 in Short-term Intensive prevention Service C	医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部作業療法科 青木 佳子
PN-2-11	ケア・トランポリン教室で活用されているプログラムの代謝当量の検討 Examination of the metabolic equivalent of the program used in the care trampoline classroom	日本医療科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 西田 典史
PN-2-12	岩手県シルバーリハビリ体操指導者養成事業における活動の拡がり課題 The enlargement and problem of activities in rehabilitation exercise for senior citizens in Iwate	公益財団法人いわてリハビリテーションセンター 小志戸前奈那
<b>地域 3</b>		11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PN-3-1	住民主体の通いの場が高齢者の心身・生活機能に与える影響 Impact of Resident-led Commuting Places on the Mental, Physical and Living Functions of the Elderly	医療法人 紀典会 北川病院 リハビリテーション室 大森 大輔
PN-3-2	介護予防ケアマネジメントを支援する同行訪問事業における役割の検討 ～夫入所後の独居生活で訪問介護を希望した事例～ The Role of Accompanying Assessment by Occupational Therapists in Preventive Care Management ~ Older Women Living Alone ~	篤友会リハビリテーションクリニック、 大阪府作業療法士会 園山 真弓
PN-3-3	回復期リハビリテーションにおける余暇活動支援に関するスコーピングレビュー A consideration on supporting leisure activities in convalescent rehabilitation ward: a scoping review	地方独立行政法人市立吹田市民病院 溝部 晃佑
PN-3-4	地域おこし協力隊制度を活用した学童保育における作業療法コンサルテーションの取り組み Occupational Therapy Consultation in After-school Childcare Utilizing the Community Revitalization Cooperation System.	備前市地域おこし協力隊 山田 佐和
PN-3-5	作業療法士と学童保育支援員を中心に多職種で行なったオンライン勉強会 ～OTにITの取り組み第3報～ Report of occupational therapist, after-school care instructor and multidisciplinary web conference 3rd report	訪問看護ステーションそらまめ、 OTにIT 運営チーム 門脇 結衣
PN-3-6	山形県内の放課後児童クラブへの作業療法士訪問における持続的な活動について ～社会福祉法人が担う地域への包括的な役割への挑戦～ Occupational therapists visit care of schoolchildren in Yamagata Prefecture ～Inclusive role in the community～	社会福祉法人敬寿会 梅津 憲栄
PN-3-7	学童保育コンサルテーション事業における、作業療法士のキャリアアップ時の不安とその対策に関する質的研究 Concerns early career OTs have in the practice at after school centers	津山中央病院 リハビリテーション部 藤原 裕登
PN-3-8	高齢者の認知症予防を目指した楽しさプログラムはいきいき百歳体操よりも認知機能改善に有効か？ Is the Enjoyment Program for the Elderly more Effective than Iki-iki Hyakusai Taiso for Improving Cognitive Function?	北海道医療大学 大学院リハビリテーション科学研究科 本家 寿洋



PN-3-9	当院の短時間型通所リハビリテーションの効果検証 Verification of the effect of short-time outpatient rehabilitation at our hospital	医療法人社団メドビュー東京ちどり病院 加賀谷祐樹
PN-3-10	介護予防に資するオンラインを用いた協調活動中の脳活動～ fNIRS による研究～ The brain activity during online cooperative activity	長野保健医療大学 保健科学部 土屋 謙仕
PN-3-11	一般工場の高齢受刑者への健康運動指導の経過と COVID-19 流行の影響 The Course of OT for Elderly Prisoners and the Impact of the COVID-19 Epidemic	熊本県作業療法士会 刑務所支援チーム、 済生会熊本病院 後藤啓士郎
PN-3-12	高次脳機能障害者と自分自身の新たな暮らし方を模索し始めたきょうだいの語り Narrative of a sibling who begins to seek new lifestyles for a cognitive disabled person and herself	宝塚リハビリテーション病院 療法部 佐野 恭子

地域 4

11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PN-4-1	中等度記憶障害がある方の復職に向けた様々な支援と工夫 Various support and tips for a person with moderate memory impairment to return to work	NPO 法人クロスジョブ 巴 美菜子
PN-4-2	公共図書館と連携したレコード音楽を用いた回想法実践の試み An attempt to implement a reminiscence using record music in collaboration with a public library	広島大学 大学院医系科学研究科 花岡 秀明
PN-4-3	「運転時認知障害チェックリスト」はドライブと関連するのか Association between driving and cognitive function.	医療法人栄寿会 真珠園療養所 福田健一郎
PN-4-4	中高生による高齢者の生活向上プロジェクト～オンライン体験交流会の活動報告～ Project for improving the lives of the elderly by student volunteers ～ The activities of the Online Experience Exchange ～	独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院附属介護老人保健施設、 公益社団法人石川県作業療法士会 米田美登里
PN-4-5	作業に焦点を当てた自分史作成が高齢者に与える効果 ～学生が参加する地域住民への活動を通して～ Effects of occupation-focused life history book on elderly people.	聖隷クリストファー大学 鈴木 達也
PN-4-6	三鷹市における横断歩道の実態調査～信号機の仕組みを知ろう～ Field study of pedestrian crossing in Mitaka City, Tokyo ～ Let's start by getting to know the traffic light ～	杏林大学 保健学部作業療学科 大城 直美
PN-4-7	熱海市土石流災害におけるホテル避難所支援の実際 Evacuation support for the 2021 Atami landslide.	常葉大学 保健医療学部 作業療学科 村岡 健史
PN-4-8	在宅認知症者の介護者が経験する作業機能障害と介護負担感の関連性に関する横断的研究 The relationship between occupational dysfunction and caregiver burden by caregivers of dementia patients at home	医療法人南労会みどりクリニックデイリハビリ 後呂 智成
PN-4-9	作業の特性と主観的記憶障害との関連：わかやまスタディ Association between characteristics of meaningful occupation and subjective memory impairment: the Wakayama Study	大阪公立大学 リハビリテーション学研究所 横井賀津志
PN-4-10	回復期リハビリテーション病院と在宅を繋ぐシームレスな作業療法介入に向けた情報提供 シートの臨床的使用感 Clinical usability of SOHO	訪問看護ステーション彩 浅田 健吾
PN-4-11	ショッピングリハ@ソフィアテラスの立ち上げ～作業療法士の働きがいのしくみづくり～ Launch of shopping reha @ Sophia Terrace ～ Creating a rewarding work environment for occupational therapists ～	医療法人社団愛康会 小松ソフィア病院 リハビリテーション科 大村 衡史
PN-4-12	生活期で働く作業療法士が感じる作業療法実践の不全感 The sense of inadequacy in occupational therapy practice felt by occupational therapists working in the chronic phase	愛知医療学院短期大学 清水 一輝

地域 5

11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PN-5-1	通所リハビリテーションの適正利用を目指した利用継続者と終了者の作業機能障害、作業参加、精神健康状態の関連性の検討 To examine the relationship between occupational dysfunction, occupational participation, and mental health day care	三重県立志摩病院 リハビリテーション室 浜岸 佳助
PN-5-2	Pathways and Resources for Engagement and Participation (PREP) をミドルエイジクライシスに直面した男性に用いた一例 Pathways and Resources For Engagement and Participation ～ a case study used with a man faced with middle age crisis ～	社会福祉法人 未来こどもランド 児童発達支援 すまいる・キッズ 小山さくみ
PN-5-3	多職種連携のための「姿勢評価表」～摂食時姿勢補正が退所につながった一例～ Posture Assessment Chart for an inter-professional team ～ A dysphagic case for correcting eating posture led to a discharge ～	シルバーケア敬愛 リハビリテーション部 清水 学
PN-5-4	脳卒中患者に対するバスの運転再開における経過と作業療法評価 Courses and occupational therapy evaluation for resuming bus driving for stroke patients	苑田会花はたりリハビリテーション病院 磯山 拓治
PN-5-5	医療機関から自動車学校への転職経験 Experience of changing jobs from a medical institution to a driving school.	七尾自動車学校 高間 達也
PN-5-6	『あなたの安全運転を守りたい』高齢者に対する安全運転教育 ～和歌山県での多職種連携企画について～ Safe Driving Education for the Elderly ~ Multidisciplinary Cooperative Planning ~	一般社団法人 和歌山県作業療法士会 自動車運転と 移動支援推進委員会、 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 鍵野 将平
PN-5-7	地域支え合い型ドライバー養成研修は地域住民にどのような変化をもたらすか ～アンケート調査と追跡調査を通して～ What kind of changes will local support-type driver training bring to local residents?	株式会社 Reha Labo Japan リハラボ訪問看護リ ハビリステーション町田 永島 匡



PN-5-8	沖縄県の作業療法士による自動車運転支援の実態調査 Factual investigation of Automobile Driving Assistance by Occupational Therapists in Okinawa Prefecture	医療法人大平会嶺井第一病院、 吉備国際大学大学院(通信制)保健科学研究科作業 療法専攻修士課程 玉那覇 迅
PN-5-9	山口県作業療法士会における自動車運転再開支援体制構築に向けた取り組み Yamaguchi Association of Occupational Therapists Efforts to Build a Support System for Resuming Driving	山口県作業療法士会 自動車運転対策委員会、 山口リハビリテーション病院 田中 伸二
PN-5-10	通所介護の利用を拒否した軽度認知症の人に対する強みに着目した社会参加支援 ～ Maslow の欲求段階説から考察した事例報告～ Social participation support focusing on the strength of person with mild dementia who refuse to use day care	一般社団法人よりぬいっぶく、 神戸大学大学院保健学研究科博士課程前期課程 加茂永梨佳
PN-5-11	壮年期から作業療法士が関わることの必要性～喫茶店のマスターとして～ The Necessity of Occupational Therapist's Involvement from the Prime Age ～ As a Coffee Shop Master ～	Coffee House Sheep 中嶋 有亮
PN-5-12	地域在住高齢者を対象とした「買い物能力工程分析表」の内容妥当性の検討 The Content Validity of The "Process Analysis of Shopping Ability" for Older Living in The Community	森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部作業療法学科 由利 緑巳

**地域 6** 11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場

PN-6-1	通所リハビリテーション利用高齢者の趣味活動に認知機能低下やうつ傾向が及ぼす影響 Effects of cognitive impairment and depressive symptoms on leisure activities of older adult day-care users	東北福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 王 尹容
PN-6-2	徳島県における作業療法士の就労支援実態と課題 Actual Conditions and Issues of Employment Support for Occupational Therapists in Tokushima Prefecture	サービス付き高齢者向け住宅 久千田 村上 義和
PN-6-3	高次脳機能障害のある方の就労支援について～支援機関との連携を通して～ Employment support for people with higher brain dysfunction ～ Through cooperation with support groups ～	NPO 法人クロスジョブ クロスジョブ福岡 萩原 敦
PN-6-4	障害者へのテレワーク支援に対する就労支援を行う作業療法士の認識に関する研究 ～地方地域におけるテレワーク支援の推進に向けて～ A study of recognition of telework support for occupational therapists providing work support to promote in rural areas	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科、 NPO 法人那須フロンティア 野崎 智仁
PN-6-5	就労継続支援 B 型施設における作業療法士の関わりにより早期に退所ができた事例 ～人間作業モデルを活用した実践～ Occupational Therapist's Involvement at Continuous Employment Support Type B Facility ～ Practice using the MOHO ～	湘南医療大学、 株式会社 hitonowa 新泉 一美
PN-6-6	テキストマイニングを用いた就労継続に影響する精神障害者の主観の文献検討 A Literature Review of Subjectivity of Mentally Disabled Individuals Regarding Continued Employment Using Text Mining	群馬バース大学 馬場 順子
PN-6-7	知的障害者に就労支援実践者が用いているアセスメントに関する文献研究 Assessments used by employment support providers for people with intellectual disabilities: literature review	公益社団法人発達協会 長田 真歩
PN-6-8	新しい生活様式における集団作業療法『ハワイやん』の試み～デイサービスの取組みから～ An attempt of collective occupational therapy "Hawaii-yan" in new lifestyle ～ Our actions in day service center ～	社会福祉法人和悦会 デイサービスセンター加美北 今 かおり
PN-6-9	要介護状態に対応した生涯暮らせる住宅環境の検討 Investigation of housing environment for lifelong living corresponding to the condition requiring nursing care	平成医療短期大学、 訪問看護よもぎ 井上 忠俊
PN-6-10	ADOC-S と COPM を併用した事により買い物支援に繋がった学童期 ASD 児の一例 An example of a school-aged ASD child who was helped shopping by using ADOC-S and COPM combined use	LE 在宅・施設訪問看護・リハビリステーション 廣澤 健太
PN-6-11	障害者のおしゃれの支援に関する文献研究～好きな衣服を着ることに着目して～ Literature review on fashion support for people with disabilities ～ Focus on wearing clothing they like ～	神奈川県立保健福祉大学大学院博士後期課程、 イムス横浜狩場脳神経外科病院 金原衣理子
PN-6-12	地域リハビリテーション支援センターの訪問相談事業からみた障害福祉領域における作業療法士の役割 The Role of Occupational Therapists in the Field of Welfare for Persons with Disabilities	丹後圏域地域リハビリテーション支援センター、 公益財団法人丹後中央病院 リハビリテーション科 坂根 勇輝

**地域 7** 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場

PN-7-1	自立生活センターの現状と課題に関する考察～当事者インタビューの質的分析より～ The Current Situation and future of Centers for Independent Living	国際医療福祉大学 成田保健医療学部 石井 清志
PN-7-2	脳卒中後の睡眠障害改善に向けた「作業に根ざした実践 2.0」の臨床有用性 The clinical utility of occupational based practice 2.0 to improving sleep disorders after stroke	特定非営利活動法人キセキ みななるはうす下松 森脇 善幸
PN-7-3	熟練作業療法士の経験からわかる精神科訪問看護の課題 Experiences of Skilled Occupational Therapists Reveal Challenges in Psychiatric Home Nursing	関西福祉科学大学 保健医療学部 辻 陽子
PN-7-4	就労支援期にある精神障がい者の身体機能に関する予備的研究 Preliminary study on physical function of mentally challenged persons during employment support period	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 森川 孝子

ポスター発表

PN-7-5	精神障害者向けグループホーム職員の感情知性を育む研修プログラム試案 ～項目ごとの必要性および内容の検討～ Draft Training Program to Foster Emotional Intelligence of Group Home Staff for people with mental illness	帝京平成大学. グループホームなんがいの 水野 高昌
PN-7-6	楽しい作業活動を通して生活範囲が拡大した脊髄損傷を呈した一例 A case report of a man with spinal cord injury who expanded his lifestyle though enjoyable activities	ウエルスタイル前橋訪問看護ステーション 笹谷 朋弘
PN-7-7	作業療法士がつくる新しい退院支援 ～コロナ前後の課題を塗り替える多職種連携の仕組みづくり～ New hospital discharge support	株式会社 新新社 久保田好正
PN-7-8	地域活性化に役立つeスポーツは作業になりえる期待 ～計量テキスト分析による探索的検討～ E-sports useful for regional revitalization can be occupation therapy ~ an expectation ~	群馬パース大学 リハビリテーション学部 南 征吾
PN-7-9	総合事業移行支援における地域住民主体のサービスへのスムーズな要支援者受け入れに向けた検討～学生を対象とした予備的研究～ Examination of educational activities necessary to accept the elderly requiring support ~ Preliminary study for students ~	茨城県立医療大学保健医療科学研究科 砂川侑理子
PN-7-10	地域在住高齢者における活動強度別の身体活動量とPhase Angleの関連 Relationship between Physical Activity Intensity and Phase Angle in Community-dwelling Older Adults	奈良学園大学 保健医療学部 中島 大貴
PN-7-11	支援体制が移行しづらい状態にあった特別支援児とその家族への共生的支援 ～地域とつながり続ける多職種協働支援～ Inclusive Support for A Special Needs Child and His Family Who Have Difficulty in Transition to A New Support System	一般社団法人 Lycka till 片岡 紗弓
PN-7-12	病院所属の作業療法士が身近な地域へ貢献するための第一歩と約二年間の活動報告 The first step for hospital-based occupational therapists to contribute to their immediate community	JA 長野厚生連長野松代総合病院 リハビリテーション部, 信州大学大学院 総合医理工学研究科医学系専攻博士課程, 長野県小布施町役場 一般介護予防事業評価事業研究員 小淵 浩平
<b>地域 8</b>		11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場
PN-8-1	作業療法士として関わった地域におけるパラスポーツイベントの報告 ～ヒアリングを通じて、参加者のはじめの一歩をサポートする～ Report of local para-sports events I engaged in as an occupational therapist ~ Supporting the first step through interviews ~	介護老人保健施設めぐみの里 吉田 祐太
PN-8-2	地域課題解決型授業における作業療法学生の学習効果 Learning Effect for Occupational Therapy Students in Local Problem-solving Classes	学校法人 日本教育財団 首都医校 黒田 健太
PN-8-3	元教師の男性高齢者が退職後に新たな活動を獲得するプロセス：質的研究 The process of acquiring new activities after retirement for elderly males who were teachers: a qualitative study	慈誠会・練馬高野台病院 リハビリテーション部 小原 萌夏
PN-8-4	住民主体の通いの場からみえた地域高齢者の生活 The living of elderly people as seen from the salon by residents.	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部作業療学科 大瀧 誠
PN-8-5	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による行動規制前後の身体機能の変化 Changes in physical function before and after behavioral regulation by COVID-19	平成リハビリテーション専門学校 作業療学科 石川 進一
PN-8-6	防災訓練における作業療法士の活動報告 Report on occupational therapist activities during disaster drill.	一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団 東灘しあわせ訪問看護ステーション 峰岡 真菜
PN-8-7	地域在住高齢者におけるコロナ恐怖感、習慣化、余暇活動、抑うつ・不安の関連 ～構造方程式モデリングを用いた検討～ Associations of corona fear, habituation, leisure activity, and depressive anxiety among community-dwelling older adults	北里大学 医療衛生学部 前場 洋佑
PN-8-8	地域在住高齢者における友人や知人への自己開示とフレイルの関連 Association between self-disclosure to friends and frailty in community-dwelling older adults	札幌医科大学 保健医療学部作業療学科 横山 和樹
PN-8-9	地域在住高齢者における生産的活動への参加状況とフレイルの関連 Association between productive activity and frailty among community-dwelling older adults	江別市立病院 精神リハビリテーション室, 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 宮嶋 涼
PN-8-10	介護サービス提供開始後1年での要介護度の維持・改善に寄与するリハビリテーションを含む介護サービスの研究 Research on long-term care services, including rehabilitation, affecting change in long-term care level after one year	福島県立医科大学 保健科学部作業療学科, 福島県立医科大学 大学院医学研究科医学専攻 三橋 佑平
PN-8-11	アクティブラーニング型健康教育が地域在住虚弱高齢者にもたらす心理的变化について Psychological Changes in Frail Elderly People Living in the Community as a Result of Active Learning Health Education	アール医療専門職大学 久保田智洋
PN-8-12	作業の記録と対話を中心とした地域在住後期高齢者の健康増進プログラムの開発 The occupational record and dialogue-based health promotion program for community-dwelling people aged 75 and over	県立広島大学 保健福祉学部 高木 雅之



地域 9		11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場
PN-9-1	目的別の外出頻度と要支援・要介護リスクの関連 Relationship between frequency of outings by purpose and risk assessment scale predicting incident functional disability	千葉県立保健医療大学 健康科学部 成田 悠哉
PN-9-2	地域在住高齢者における基本チェックリストの認知機能該当項目数と活動実施率との関連 Association between the Kihon Checklist-cognitive function and the activity/participation in community-dwelling elderly	中部大学 生命健康科学部作業療法学科 谷利 美希
PN-9-3	高齢入居者を対象とした調査から検討する A 市 B 地区の災害公営住宅の包括的環境 Comprehensive Environment of Disaster Public Housing	東北福祉大学 健康科学部 伊藤 明海
PN-9-4	地域在住高齢者における呼吸機能と握力の関係 Relationship between respiratory function and grip strength in community-dwelling elderly	藍野大学 医療保健学部作業療法学科 宮本 陳敏
PN-9-5	活動・参加とロコモティブシンドロームの関係に関する文献レビュー A literature review of the relationship between "activities and participation" and "locomotive syndrome"	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科 栗田 洋平
PN-9-6	不活発な生活を送るクライアントに対する活動性向上に向けた在宅支援 ～内発的動機づけに繋げるためのアプローチ～ Home-based support to enhance activity in clients with inactive lifestyles ～ An approach linked to intrinsic motivation ～	公立岩瀬病院 清水 拓哉
PN-9-7	COVID-19 流行下における地域在住高齢者の歩行能力、抑うつ気分、作業参加の関連 Depressive Mood of Community-Dwelling Elderly in COVID-19 Epidemic Improved in 5 Months	長野保健医療大学 保健科学部 作業療法学専攻 北澤 一樹
PN-9-8	精神科に勤務する作業療法士が地域のグループに関与する意義 ～地域住民らによるコグニサイズの自主グループ化を支援する取り組み～ Significance of Occupational Therapist Involvement in Community groups ～ Initiatives to Support Voluntary Grouping ～	神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター デイケア科 村田 大輔
PN-9-9	地域と出会うには～知名度は低いからこそ地域にチャンスがある～ how to meet the community ～ Because the name recognition is low, there are opportunities in the region ～	砥部病院ケアサービス株式会社介護付有料老人ホーム To-be 中塚 翔三
PN-9-10	子どもの居場所作り支援事業における作業療法士の役割について About the role of occupational therapists in children's place-making support projects	学校法人智帆学園 琉球リハビリテーション学院 作業療法学科 梶原 利彦
PN-9-11	地域若者サポートステーション運営事業所での作業療法士の実践報告 Practical report of an occupational therapist at a local youth support station management office	びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部作業療法学科、 特定非営利活動法人 就労ネットワーク滋賀 嶋川 昌典
PN-9-12	発達の気になる子どもの送迎サービスで使用される事前情報シートや対応マニュアルの有用性についてのアンケート調査 The usefulness of advance information sheets and response manuals for transportation services	専門学校川崎リハビリテーション学院 作業療法学科 森川 芳彦
地域 10		11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場
PN-10-1	地域支援を行う作業療法士の地域資源評価の視点 Perspectives on community resource assessment for Occupational Therapists providing Community Support	千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科作業療法学専攻 松尾 真輔
PN-10-2	作業療法の視点をういた地域における支援の構築に向けた考察 ～当事者スタッフが支援を行う A 事業所でのニーズ調査より～ Considerations for support in the community using the perspective of OT ～ needs survey at A office supported by peer staff ～	社会福祉法人翔の会 児童発達支援センターうーたん、 特定非営利活動法人ステラボラリス 藤崎 咲子
PN-10-3	地域包括ケア病棟へ内科疾患で入院した患者の転帰先に関する因子の検討 Factors related to the destination of patients with internal medicine diseases in a community comprehensive care unit	小林記念病院 入院診療部 寸村 純哉
PN-10-4	サッカーチーム「クリアソン新宿」との連携から見えた作業療法の可能性 Possibilities of Occupational Therapy Revealed through Collaboration with the "Criacao Shinjuku"	学校法人 日本教育財団 首都医校 高度作業療法学科 加藤 駿一
PN-10-5	窃盗を繰り返す統合失調症入居者に対するチームアプローチの実践報告 ～障害福祉・医療・司法の連携マネジメント～ Practical report of team approach for schizophrenia who repeatedly steals	アイリブとちぎ 日高 愛
PN-10-6	生活機能向上連携加算の取得支援を通して、介護事業所職員、当院の回復期リハビリテーション職員が得られる影響 effect of visiting support at care facilities on care facility staff and convalescent rehabilitation staff	東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法科 坂 直樹
PN-10-7	北海道今金町療育相談事業における作業療法士の役割と今後の課題について The Role of Occupational Therapists in Imakane Town, Hokkaido Rehabilitation Consultation Project and Future Issues	函館中央病院 リハビリテーション科 大石 朋裕
PN-10-8	在宅生活における調理の困りごとの解決に向けた片手での調理の方法の工夫、道具の活用の検討 A study of better way cooking with one hand for resolving the difficulties of cooking at home	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立リハビリテーション病院 リハビリテーション技術科 山中 基司



PN-10-9	通所リハビリテーションにおいて ADOC を活用して目標共有した3症例の報告 Utilizing ADOC for the promotion of shared goals in outpatient rehabilitation	偕行会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 森 佐知子
PN-10-10	東京都における生活行為向上リハビリテーション実施加算を取得している通所リハビリテーションの説明 Explanation of day-care rehabilitation at additional Management Tool for Daily Life Performance in Tokyo	医療法人社団苑田会竹の塚脳神経リハビリテーション病院 リハビリテーション部 矢作 優
PN-10-11	他利用者との主体的な共有体験が自発性の向上に繋がっている一事例 ～うつ傾向とアパシーを併発した対象への取り組み～ Examination for improving activity with sharing active experiences between users ～ To the user with depression and apathy ～	社会医療法人ささき会 彩りの都デイサービスセンター 城東永田, 社会医療法人ささき会 藍の都脳神経外科病院 リハビリテーション部 今西 仁美
PN-10-12	生活支援員と看護師における重症心身障害者に対する集団活動支援の意識と支援の変化 Changes in Awareness and Support for Group Activities for Severely Handicapped Person by Life Support Workers and Nurses	神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究所博士後期課程 杉山いずみ
<b>地域 11</b>		11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場
PN-11-1	介護保険を卒業し社会資源へと移行できた症例 Cases that were able to graduate from long-term care insurance and transition to social resources	株式会社オン・ザ・プラネット 住江 知昭
PN-11-2	通常小中学校の特別支援教育地域巡回相談事業からみる教員の困り感 Teachers' Sense of Difficulties from the Consultation Project for Needs Education in Elementary and Junior High Schools	国際医療福祉大学保健医療学部作業療法学科 渡邊 清美
PN-11-3	当院の入浴事情～アンケート調査による公共温泉利用の現状把握～ Bathing circumstances at our hospital ～ Grasping the current situation of public hot spring use by questionnaire survey ～	国家公務員共済組合連合会 新別府病院 リハビリテーション科 渡邊真悠子
PN-11-4	一緒にしよう！認知症施策への関わり ～ tacOTai (有志の集まり) の取り組み紹介 第2報 (2018～2022年度の取り組み) ～ Let's do it together! Involvement in dementia measures ～ Introduction of tacOTai Initiatives 2nd Report ～	明石仁十病院 末吉 謙斗
PN-11-5	認知症高齢者とその家族が自宅で実施できる回想法プログラムの作成 Creation of a reminiscence program that can be implemented at home by elderly people with dementia and their families.	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 今井あい子
PN-11-6	地域在住高齢者の排泄問題に対する行動療法の実践～刺激性下剤離脱への介入～ The therapy for excretion problems of elderly people living in the community ～ Intervention in irritant laxative withdrawal ～	回復堂 Mahanalab マハナラボ, 日本コンチネンス協会 長嶺ふじ子
PN-11-7	家族への介入後に好転した一事例～箱づくり法を用いて～ A Successful Intervention with a Family: A Case Study ～ with Make-a-Box Test Battery ～	多機能型支援センター Yerette 荒井留美子
PN-11-8	長崎県作業療法士会での発達障害領域における取組みについて ～学童保育や発達障害児支援における地域の支援体制整備の必要性について～ promotion for children with developmental disorder in nagasaki OT ～ necessity of support for after-school and developmental ～	長崎県作業療法士会, 長崎こども・女性・障害者支援センター 原田 洋平
PN-11-9	デイサービスにおける自立支援・重度化防止の取り組みとその効果に関する文献レビュー Literature review on 'initiatives to support independence and prevention of grading and their effect' in day services.	東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター 山中 信
PN-11-10	産前産後ケアにおけるリハビリテーション専門職の必要性について On the need for rehabilitation professionals in Prenatal and Postnatal care	なんぶ幸朋苑 リハビリテーション科 村上 英里
PN-11-11	脳卒中者に対する活動と参加に焦点を当てた ADOC と MTDLP を用いた訪問リハビリテーションの経過一ケースシリーズ研究 Home-visit rehabilitation focusing on activities and participation for stroke survivors	信州大学 医学部保健学科作業療法学専攻, 安曇野赤十字病院 リハビリテーション科 務台 均
PN-11-12	山間地域における訪問リハビリ会議への ICT 導入 Introduction of ICT to visiting rehabilitation conferences in mountainous areas	JA 長野厚生連 北アルプス医療センター 白馬診療所 西川 理
<b>地域 12</b>		11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場
PN-12-1	訪問リハビリテーション利用者の栄養状態が介入3か月後の ADL 改善に与える影響 Influence of nutritional status of home-based rehabilitation on ADL improvement after 3 months of intervention	相澤病院 訪問リハビリテーションセンター 安藤 道彦
PN-12-2	要介護者・主介護者双方に対する社会参加への関わりが社会的ケア関連 QOL 向上に繋がった訪問リハビリテーション事例 Cases that led to improvements in social care-related quality of life of persons requiring care and primary caregivers	医療法人孟仁会 摂南総合病院 リハビリテーション科 三田 晃希
PN-12-3	退院前後の訪問リハビリテーションにおける目標内容の変化の推移 Changes in the content of goals in home-visit rehabilitation before and after discharge from the hospital	川崎協同病院 リハビリテーション科 高瀬 駿
PN-12-4	訪問リハに従事する OT が活動・参加レベルの目標達成を支援する経路の類型化 ～複線径路等至性モデリング (TEM) による分析～ A Typology of Occupational-Based Practice process in home-visit rehabilitation ～ Trajectory Equifinality Modeling (TEM) ～	山台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 齋藤 佑樹



PN-12-5	回復期病棟退院後、生活期の訪問リハビリテーションにて自動車運転評価に関わった一症例 One case who took a driving evaluation by visit rehabilitation of the life period	社会福祉法人 こうほうえん 錦海リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 川上 紘司
PN-12-6	訪問リハビリテーションで、就労を目指しバス利用を中心に外出練習を行った事例 A case of outing practicing mainly by using bus with the aim of getting a job through home-visit rehabilitation	社会医療法人財団華仙会 恵寿総合病院 リハビリテーションセンター 高松 早紀
PN-12-7	小児の訪問リハビリテーションに作業療法士として関わった一例 An example of being involved as an occupational therapist in home-visit rehabilitation of child	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 訪問リハビリテーションセンター 辻 裕也
PN-12-8	訪問リハビリテーション事業所における地域展開の一例～保育所や小学校への支援～ An Example of Regional Development in A Home Visit Rehabilitation ～ Support for Nursery and Elementary Schools ～	文屋内科消化器科医院 訪問リハビリテーションらいらく 浅野友佳子
PN-12-9	訪問リハビリで ACLS-5 を使用し家族と協働できた一事例 A case of collaboration with family using ACLS-5 in home-visit rehabilitation	IMS<イムス>グループ イムス板橋リハビリテーション病院 刑部 美里
PN-12-10	"歌と共に生きる." ～短期集中リハビリテーションにてシャンソン歌手復帰を成し遂げた一症例～ "Living with Songs." ～ A Case of a Chanson Singer Who Achieved a Return in Short-Term Intensive Rehabilitation ～	小平中央リハビリテーション病院、 牧野ケアセンター 田原 真悟
PN-12-11	心不全を伴った高齢者に楽しさプログラムを提供した事例 A case study of an enjoyment program for elderly people with heart failure.	イムス札幌内科リハビリテーション病院 通所リハビリテーション 奥野 優輝
PN-12-12	頸髄損傷者（C6 完全麻痺）の一般就労に向けた職業訓練と関連機関との連携 Vocational training and collaboration with cervical cord injury patient	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 合歡垣洗一
<b>PO 理論</b>		
<b>理論 1</b> 11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場		
PO-1-1	クライアント中心の可能化のカナダモデルを用いた支援を行い、本人の希望する作業に寄り添うことができた事例 A case where a Canadian Model of Client-Centered enablement was used to support the occupation you want	医療法人社団 苑田会 竹の塚脳神経リハビリテーション病院 南 梢
PO-1-2	カナダ作業遂行測定に起こるバイアスの出現頻度の検討～事例コードマトリクスを用いて～ Research about the frequency of bias in COPM in occupational therapy practice ～ Using the case code-matrix ～	IMS グループ イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 若林 実里
PO-1-3	作業療法士と対象者との間にはどのような差異・ギャップが存在するのか What differences and gaps exist between occupational therapists and clients.	神奈川県立保健福祉大学大学院博士後期課程、 医療法人社団健齡会ふれあい平塚ホスピタル 重田 優子
PO-1-4	クライアントの主体的な意思決定に必要な要因の検討： ～作業療法士によるフォーカスグループインタビューを通して～ Examination of factors necessary for the client's autonomous decision-making: ～ a focus group interview study ～	新潟リハビリテーション大学 医療学部リハビリテーション学科 丁子 雄希
PO-1-5	改訂版リーズニングシートを利用して大切な作業を共有した事例 A case of sharing the meaningful occupation by using the modifying clinical reasoning sheet	医療法人社団 明芳会 イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 加藤 萌
<b>理論 2</b> 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PO-2-1	急性期身体障害作業療法領域における作業に焦点を当てた実践に関する文献レビュー Literature review of occupational-based practices in the area of acute disability occupational therapy	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所 士前期課程、 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 リハビリテーション部 阿部 直人
PO-2-2	Life style re-design program をもとに生活習慣の改善が図れた事例 Improving life habituation by referencing on the Life style re-design program : case study	イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院 リハビリテーション科 向 裕史
PO-2-3	作業バランス綱渡りイメージの開発 Development of a occupational balance tightrope image	県立広島大学総合学術研究科保健福祉学専攻修士課程 山根奈那子
PO-2-4	作業分類に関する文献レビュー Literature review on categories of occupation	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻、 特定医療法人楠会 楠メンタルホスピタル 杏名 一朗
<b>理論 3</b> 11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場		
PO-3-1	日本における作業科学と作業療法士の職業的アイデンティティの関係に関するスコopingレビュー A Scoping review of Relationship between Occupational Science and Professional Identity for Occupational Therapists	医療法人嘉誠会 ヴァンサンク ポルテ 安田 友紀
PO-3-2	日本における作業療法士の職業的アイデンティティについて ～職業的アイデンティティの形成過程の要因に関する文献レビュー～ Professional Identity of OT in Japan ～ Literature Review on Factors in the Formation Process of Professional Identity ～	国際医療福祉大学病院 方喰 醇

PO-3-3	人間作業モデルの実践の経験が作業療法士の専門性の認識に与える影響 ～ SCAT を用いた質的研究～ The effect of practicing experiences of MOHO on OTRs' Perceptions of Professionalism ～ Qualitative research using SCAT ～	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、 神奈川県立保健福祉大学大学院前期博士課程 神保 匡良
PO-3-4	身体障害領域の高齢者における作業との結び付きに関する評価尺度の開発 Development of an assessment of occupational engagement in elderly people with physical disabilities	済生会小樽病院 リハビリテーション室 作業療法課 齋藤 駿太
<b>理論 4</b> 11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場		
PO-4-1	自発性が低下したクライアントに対し VQ を用いた作業適応に向けた事例 A case study of supporting the occupational adaptation by using VQ for the low-motivative client	イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院 リハビリテーション科 猪狩 遥
PO-4-2	両上肢切断者の心理的変容～心的外傷後成長の視点から～ Psychological change of bilateral upper limb amputee ～ Focus on Posttraumatic Growth ～	兵庫県立リハビリテーション中央病院 水本 雄介
PO-4-3	重度四肢麻痺と認知機能の低下を呈した頸髄損傷事例に対する CO-OP を用いた日常生活動作獲得に向けた作業療法 Occupational therapy based on the CO-OP approach after spinal cord injury: A case study.	イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院 宇野沢 舞
PO-4-4	世界の社会文化的文脈における調理の意味：スコopingレビュー The meaning of cooking in a global sociocultural context: a scoping review	目白大学 保健医療学部 作業療法学科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 博士後期課程 清田 直樹
<b>PP 基礎研究</b>		
<b>基礎研究 1</b> 11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場		
PP-1-1	カナダ作業遂行測定法の臨床的に意義のある最小変化量と最小可検変化量 ～機械学習を用いた迅速システムティックレビューの試み～ Minimal Clinically Important Difference and Minimal Detectable Change in Canadian Occupational Performance Measure	茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科 唯根 弘
PP-1-2	回復期リハビリテーション病棟入院患者の不安が QOL に与える影響～前向きコホート研究～ The impact of anxiety on quality of life of patients admitted in rehabilitation ward ～ a prospective cohort study ～	JA 静岡厚生連 遠州病院 リハビリテーション科 佐貝 拓郎
PP-1-3	コロナ禍における家族とリハビリスタッフの対面頻度減少への受け止め ～リハビリスタッフへのアンケート調査からみえた世代別の特徴～ Recognition of reduced face-to-face opportunities with family due to COVID-19 ～ Trends seen from staff surveys ～	医療法人社団豊生会 介護老人保健施設ひまわり 村口 英恵
PP-1-4	尺側指の伸展がつまみ動作時の力制御と手指筋活動へ与える影響 Effect of ulnar fingers extension on fine force control and hand muscle activity during precision pinch	広島大学 大学院医系科学研究科 上肢機能解析制御科学 伊達 翔太
PP-1-5	回復期リハビリテーション病棟入院患者におけるトイレ動作時の視覚探索の分析 ～トイレ動作自立度との関連性～ Gaze analysis during toilet activity in convalescent patients ～ Relationship with independence level of toileting ～	一般財団法人榛名荘 榛名荘病院 佐藤 里沙
<b>基礎研究 2</b> 11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場		
PP-2-1	健常成人における実行機能検査時の脳賦活～個人差による fNIRS 研究～ Brain activation during executive function testing in healthy adults ～ an fNIRS study based on individual differences ～	奈良学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科、 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科 岩崎 智子
PP-2-2	若年健常者における反復最大握力の持久力の標準値を探る Exploring standard values of endurance for repetitive maximum grip strength in young healthy subjects	新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリ テーション学科 作業療法学専攻、 新潟リハビリテーション大学大学院 リハビリテ ーション研究科 運動機能科学コース 知名 規人
PP-2-3	日常生活において楽しみを感じる作業の特性 ～3名の40歳代から50歳代の健常女性への面接調査～ Characteristics of occupatins that bring enjoyment in daily life.	練馬駅リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小西 可奈
PP-2-4	老化促進モデルマウスに対する運動介入が骨格筋量と筋萎縮関連因子へ及ぼす影響 Effects of exercise on skeletal muscle and muscle atrophy-related factors in Senescence- Accelerated Mouse	文京学院大学大学院 保健医療科学研究科、 埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部 大川 航洋
<b>基礎研究 3</b> 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場		
PP-3-1	パフォーマンスの新規学習における心理ストレスと前頭前野の随伴関係 Concomitant relationship between psychological stress and prefrontal cortex in novel performance learning.	関西医療大学 保健医療学部作業療法学科 備前 宏紀
PP-3-2	座位姿勢の違いは健常成人の運筆のパフォーマンスと頭部移動距離に影響するか Do differences in sitting posture affect handwriting performance and head movement distance in healthy adults?	国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科 牛腸 昌利



PP-3-3	1/f ゆらぎとリズム音楽聴取における前頭葉機能評価 ～音楽療法レシピに向けた予備的研究～ Eval. of frontal lobe function in 1/f fluctuation & rhythm music listening ～ Preliminary research for music therapy recipes ～	岐阜保健大学 リハビリテーション学部 原 和子
--------	--	----------------------------

PP-3-4	価値ある作業に基づく作業 - 幸福質問紙の開発～質問紙構造の計量学的な検討～ Development of well-being and happiness questionnaire based on valuable occupation. ～ Examination of the measurement study ～	北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科 鎌田 樹寛
--------	---	---

**基礎研究 4** 11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PP-4-1	特別養護老人ホームにおけるインシデント発生の時間・場所・要因 Time, Place and Factors of Incidents at Special Elderly Nursing Home	奈良学園大学 大浦 智子
--------	--	-----------------

PP-4-2	当院回復期リハビリテーション病棟患者の在宅復帰に関わる要因の検討 Examination of Factors Related to Return to Home in Rehabilitation Hospitals	一般社団法人巨樹の会 新宇都宮リハビリテーション 病院 宇梶 慶明
--------	--	---

PP-4-3	回復期病棟における患者家族とのラポール形成 Lapole Formation with Patient Families in Recovery ward	医療法人社団八千代会 清水富士山病院 リハビリテーション室 山岸 晴香
--------	--	---

PP-4-4	回復期リハビリテーション病棟での目標共有における ADOC 使用に関する比較検討 ～ OT へのアンケート調査による実態調査～ A comparative study on the use of ADOC in goal sharing in recovery unit ～ Fact-finding survey through questionnaire to OTs ～	医療法人財団 慈強会 松山リハビリテーション病院 西岡 貴人
--------	---	-----------------------------------

**基礎研究 5** 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PP-5-1	スマートフォン依存症傾向の学生における黙読課題中の心的負荷および前頭皮質の脳活動 Mental workload and brain activities during silent reading in university students with smartphone addiction tendency	福島県立医科大学 作業療法学科 浅尾 章彦
--------	---	--------------------------

PP-5-2	中年期の男性が日常生活において楽しみを感じる作業：質的研究 Occupation that middle-aged men enjoy in their daily lives : Qualitative study	河北医療財団 河北リハビリテーション病院 セラピー部 福島 早織
--------	---	--

PP-5-3	健常女性における温冷覚閾値と POMS の連関 Correlation between thermal sensation threshold and POMS in healthy women	東京家政大学 リハビリテーション学科 清水 順市
--------	--	-----------------------------

PP-5-4	眼球・頭部協調運動における課題特性による違い～眼球運動・頭部運動分担比に着目して～ Differences in Eye-Head Coordination by Task Characteristics ～ Focusing on the Ratio of Eye Movement and Head Movement ～	札幌医科大学大学院 保健医療学研究科、 札幌すかた医院 リハビリテーション部 秋田谷結奈
--------	--	--

**基礎研究 6** 11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場

PP-6-1	連合性ペア刺激が聴覚誘発電位に及ぼす影響 Effects of paired associative stimulation on auditory evoked potential	東京家政大学 健康科学部 趙 吉春
--------	--	----------------------

PP-6-2	軽度認知障害を有する高齢者における認知機能と関連する脳領域の探索－拡散尖度画像を用いて－ Exploring brain regions associated with cognitive function in older adults with mild cognitive impairment using DKI	国立長寿医療研究センター 松本奈々恵
--------	--	-----------------------

PP-6-3	利き手と非利き手における機能的特徴に関する検討 ～巧緻性の一要素である Grading に対する長さ知覚による手指固有感覚の影響～ The Functional Characteristics of the Dominant and the Non-Dominant Hand	札幌医科大学大学院保健医療学研究科 理学療法学科・ 作業療法学専攻 活動能力障害学分野、 社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 リハビリ テーション科 山本 大稀
--------	--	--

PP-6-4	動的つまみ調整能力と長さ知覚との関連 Relationship Between the Ability of Dynamic Pinch-power Coordination and Haptic Length Perception	札幌医科大学保健医療学部 中村 充雄
--------	--	-----------------------

**基礎研究 7** 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場

PP-7-1	脳卒中患者における日本語版 Function in Sitting Test の作成 Development of the japanese version of Function in Sitting Test in stroke	花はたリハビリテーション病院 南 裕二
--------	---	------------------------

PP-7-2	筋痛性脊髄炎 / 慢性疲労症候群当事者による作業の選択・継続に影響を与える要因 ～複線経路・等至性モデル (TEM) による質的研究～ Occupation Choice and Continuation by Persons with ME/CFS ～ A Qualitative Research Using Trajectory Equifinality Modeling (TEM) ～	湘南医療大学 保健医療学部 田島 明子
--------	--	------------------------

PP-7-3	リハビリテーション専門職養成校学生における作業参加と精神的健康の関連 Association Between Occupational Participation and Mental Health Among Students in the Department of Rehabilitation	玉野総合医療専門学校 作業療法学科、 川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 健康科学専攻 博士後期課程 井村 亘
--------	--	--

PP-7-4	平成医療福祉グループの作業療法士が自助具を選ぶ際に安全性を重視する事の考察 occupational therapists at Heisei Medical & Welfare Group consider self-help equipment selection and safety	ケアホーム葛飾 秋原 健利
--------	---	------------------

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表



基礎研究 8

11月11日(土) 11:10~12:10 ポスター会場

PP-8-1	結婚や出産を経験した女性作業療法士がワークスタイルを確立するまでのプロセス ~複線径路等至性モデリング(TEM)を用いた分析~ Exploring ideal work style for female occupational therapists ~ A Trajectory Equifinality Modeling (TEM) ~	山形青葉学院短期大学 リハビリテーション学科 作業療法専攻 高橋 慧
PP-8-2	高所で誘発される姿勢脅威における立位姿勢制御とP300の関係 Relationship between standing postural control and P300 with height-induced postural threat.	広島国際大学大学院 医療・福祉科学研究科, 済生会呉病院 リハビリテーション室 古株 竜也
PP-8-3	小脳に対する交流電気刺激が両手の運動リズムに及ぼす影響 Effects of alternating current stimulation over cerebellum on bilateral rhythmic movements	東京家政大学大学院人間生活学総合研究科 在原菜々花
PP-8-4	液体トロミ剤を利用したパンの手元調理とその物性変化 Analysis of change in bread texture due to addition of liquid thickener to bread	文京学院大学 保健医療科学研究科 神作 一実

基礎研究 9

11月11日(土) 12:10~13:10 ポスター会場

PP-9-1	折り紙 および Purdue pegbord test 実施時の前頭前野の脳血流変化の特徴 ~近赤外分光分析法(NIRS)を用いた検討~ Changes in cerebral blood flow in the prefrontal cortex during purdue pegbord test and origami folding : NIRS Study	四條畷学園大学リハビリテーション学部 亀井 大作
PP-9-2	注意バイアス修正プログラムのオンラインアプリケーションの開発と信頼性・妥当性の検証 Reliability and validity of the application of the developed attentional bias modification program.	埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科, 医療法人社団武蔵野会 新座病院 リハビリテーション科 滝澤 宏和
PP-9-3	注意バイアスと楽観性および悲観性との関連 Associations between attentional bias and optimism and pessimism.	長崎大学生命医科学域(保健学系) 丸田 道雄
PP-9-4	骨格筋痛による皮質脊髄路の興奮性低下に対するミラーセラピーの効果 Effects of mirror therapy on pain-induced reduction of corticospinal tract excitability.	長崎大学生命医科学域(保健学系) 森内 剛史

基礎研究 10

11月11日(土) 14:10~15:10 ポスター会場

PP-10-1	褒める対象の違いが、自己効力感、意欲に与える影響 The effect of differences in praise targets on self-efficacy and motivation	弘前大学大学院保健学研究科 小山内隆生
PP-10-2	作業療法実践において動機づけに紐づけられている言葉の内容はなにが Content of terms tied to motivation in occupational therapy practice	社会医学技術学院 木下 輝
PP-10-3	立ち上がり動作における無料の二次元動作解析ソフトウェアによる骨盤前傾角と骨盤角に対する相対的な股関節屈曲角度の測定 Measurement of hip flexion angle relative to pelvic tilt using free 2D motion analysis software in standing up motion	日本医療大学 リハビリテーション学科 作業療法専攻 村上 正和
PP-10-4	二重課題を構成する認知課題の刺激提示モダリティの違いが皮質脊髄路の興奮性に与える影響について Modulations of corticospinal excitability during dual task with different stimulation modalities for cognitive load	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 認知運動機能制御科学研究室 池田 舞衣

基礎研究 11

11月11日(土) 15:10~16:10 ポスター会場

PP-11-1	ロボット支援前立腺全摘除術後の尿禁制と骨盤底筋体操の関係についての検討 Relationship between urinary incontinence and pelvic floor muscle exercises after robot-assisted radical prostatectomy	福井赤十字病院 リハビリテーション科 山田 英二
PP-11-2	注意課題時に発生する脳波周波数の検討 EEG frequencies induced during attentional tasks	西九州大学 リハビリテーション学部 松尾 萌美
PP-11-3	高齢者におけるボールローリング法の基準値の設定 Normative values for ball rolling in Japanese older adults	医療法人社団喜峰会 東海記念病院 リハビリテーション部 竹下 悠樹
PP-11-4	体表エコー検査による母指CM関節固定肢位の検討~掌側外転45°位での橈側外転の比較~ Ultrasound assessment of effect of different thumb abduction angles on thumb CMC joint centripetal position.	篠路整形外科, 北海道文教大学大学院 リハビリテーション科学研究科 林 弘樹

基礎研究 12

11月11日(土) 16:10~17:10 ポスター会場

PP-12-1	嗅覚刺激に伴う主観的快・不快感情とストロープ課題における認知機能との関連 Changes in cognitive performance for the Stroop color word test following emotionally-charged odor stimulus presentation	広島大学 遠藤 加菜
PP-12-2	健常者における棒挙上運動が嚥下機能に及ぼす影響 Effect of stick-lifting exercise on swallowing function in healthy subjects	多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部 作業療法科 秋本 哲平
PP-12-4	一側の振動刺激が対側の脊髄前角細胞の興奮性を抑制する経時的効果の検討 Longitudinal effects of vibratory stimulation on the excitability of contralateral spinal cord anterior horn cells.	医療法人和光会山田病院 リハビリテーション部 久納 健太



PQ 管理運営	
<b>管理運営 1</b> 11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場	
PQ-1-1	日常生活動作に対する経験年数別にみた予測の精度検証～対数モデルとの比較～ Accuracy verification of predictions for activities of daily living by years of experience ～ comparison with logarithm model ~ 東京家政大学 健康科学部 磯 直樹
PQ-1-2	COVID-19に対する病棟支援と業務でのリハビリテーションスタッフのストレス変化とその要因 Changes in stress of rehabilitation staff in hospital ward support and work for COVID-19 and its factors 社会医療法人北九州病院 北九州古賀病院 山本 祐輔
PQ-1-3	COVID-19による活動制限から回復期リハビリテーションの在り方の検討 Examination of the ideal state of convalescent rehabilitation from activity restrictions due to COVID-19 一般財団法人 竹田健康財団 竹田綜合病院 リハビリテーション部 橋島 恵美
PQ-1-4	コロナ禍による30日間の精神科入院作業療法中止は、統合失調症の陰性症状に影響はあるか？ Does discontinuation of occupational therapy for 30 days due to COVID-19 affect negative symptoms of schizophrenia? 医療法人ほからか会 もとだて病院 リハビリテーション科 大内 泰
PQ-1-5	Discussion on the Influencing Factors of Self-Pay Occupational Therapy in Nursing Homes ~ Kaohsiung as an Example ~ Physical Medicine & Rehabilitation, Kaohsiung Veterans General Hospital, Department of Healthcare Administration, I-Shou University Chia-Lin Yang
PQ-1-6	当院回復期リハビリテーション病棟における患者の「個人史や作業に抱く価値」に関する情報活用の現状と課題 Information Utilization about client's life story and the value of occupation in team staff 医療法人アルベン会 アルベンリハビリテーション病院 リハビリテーション部 山田 唯
<b>管理運営 2</b> 11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場	
PQ-2-1	作業療法士が作るクリニカルパスの効果と病床運営の関連について The effects of clinical pathways created by occupational therapist and the relationship between hospital bed management 医療法人 博慈会 内田病院 リハビリテーション部 藤末 隆
PQ-2-2	病室内のトイレについて考えよう Let's think about the toilet in the hospital room リハビリテーション大神子病院 細川 友和
PQ-2-3	作業療法士の視点から行ったバリアフリー化について～作業療法士の可能性～ Adopting barrier free from the perspective of occupational therapist ～ Possibilities of occupational therapists ~ 三浦市立病院 診療支援部 竹内 晃雄
PQ-2-4	転倒リスク予測能力の潜在的因子の抽出 ～ Time Pressure-Kiken Yochi Training (TP-KYT) による検討～ Extraction of potential factors for fall risk prediction ability ～ Consideration by Time Pressure-Kiken Yochi Training ~ 大阪人間科学大学 木下 亮平
PQ-2-5	当院作業療法部門におけるインシデントの特徴と課題 Feature and Tasks of incidents by department of our occupational therapy 医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院 リハビリテーション部 高多真裕美
<b>管理運営 3</b> 11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場	
PQ-3-1	危険予知能力評価の再評価版開発に向けた内容的妥当性の検討 ～ MAXQDA を用いた質的分析～ Content validity study for the development of a re-evaluated version of risk prediction ～ Qualitative analysis using MAXQDA ~ 関西福祉科学大学 有久 勝彦
PQ-3-2	療養病棟におけるデータベース構築と実態調査からみるリハビリテーション(作業療法)の意義とその検討 A survey of actual conditions in long-term care wards and significance of rehabilitation :Utilizing a database 阪和記念病院 リハビリテーション部 奥田 真矢
PQ-3-3	当院回復期リハビリテーション病棟退院後の健康関連 QOL を予測する機械学習モデルの作成 Machine Learning Model to Predict Health-Related Quality of Life after Discharge from a Rehabilitation Ward. 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部 作業療法学科, 医療法人弘遠会 すずかけヘルスケアホスピタル リ ハビリテーション技術部 佐野 哲也
PQ-3-4	診療科チーム別にみる作業療法士が抱える重要課題の把握～ COPM を利用して～ Understand the challenges faced by occupational therapists working in various clinical departments 医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 坂下 竜也
PQ-3-5	地域連携で療法士の訓練環境を整え、患者さんを笑顔にする取り組み ～病院とホテルで叶えるSDGs～ Efforts to prepare tools and make patients smile ~ SDGs achieved by hospitals and hotels ~ 医療法人社団洛和会 洛和会首羽病院 リハビリテーション部 篠田 昭
<b>管理運営 4</b> 11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場	
PQ-4-1	研修における新入職員の思考の変化 Changes in Thinking of New Employees in Training (一社) 奈良県作業療法士会, 大阪人間科学大学 西井 正樹

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表



PQ-4-2	リハビリテーションスタッフのエンカレッジを目的とした臨床ラダーの運用 Operation of a clinical ladder for the encouragement of therapists in rehabilitation department	北里大学病院 リハビリテーション部 松井亜沙美
PQ-4-3	リハビリテーション職種の業務実態調査および業務時間内適正単位数予測式の作成 The general survey in rehabilitation workers and creating the multiple regression equation of a suitable credits	東京工科大学 医療保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 澤田 辰徳
PQ-4-4	作業療法士の労働価値観について About the work values of occupational therapists	島根リハビリテーション学院 作業療法学科 山本真理子

**管理運営 5** 11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場

PQ-5-1	当院作業療法士がSF-8を用いてQOL評価をできるようになるために ～使用者の言葉から有用性を探る～ Towards enabling our OT to conduct QOL valuation using the SF-8. ～ Exploring the usefulness from the words of evaluators ~	柏厚生総合病院 リハビリテーション科 川嶋 暹
PQ-5-2	災害に対する作業療法士の備え～群馬県作業療法士会の取り組み～ DPRR for Occupational Therapists ~ DPRR of Gunma Occupational Therapy Association ~	群馬パース大学、 群馬県作業療法士会災害対応委員会 宮寺 寛子
PQ-5-3	作業療法士のバーンアウトを減らすための対策を考える～グループKJ法による質的分析～ Considering measures to reduce burnout among occupational therapists ～ A qualitative analysis using the group KJ method ~	東京都立大学大学院人間健康科学研究科、 東京湾岸リハビリテーション病院 佐藤 亮太
PQ-5-4	医療機関に就業する作業療法士が知覚する働きやすさ～経年数に着目して～ Occupational therapists' perceptions of "ease of work" in medical facilities	目白大学 保健医療学部作業療法学科 館岡 周平
PQ-5-5	当院の自動車運転評価の取り組みについて～免許所有者全員に運転支援の説明をして～ About our driving evaluation.	イムス横浜狩場脳神経外科病院 リハビリテーション科 富名腰義斗

**管理運営 6** 11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場

PQ-6-1	就労支援機関管理者におけるストレスの現状～高ストレス者の傾向～ Current Stress in Managers of Employment Support Organizations ～ Trends in Highly Stressed Persons ~	北海道文教大学 人間科学部作業療法学科、 NPO 法人コミュニティ楽創 大川 浩子
PQ-6-2	リハセラピスト部門における育休復帰支援の試み Our rehabilitation department's initiative to support parents' returns to work from maternity/paternity leave.	社会医療法人財団慈泉会相澤病院 脳卒中脳神経リハ科 塚原 千恵
PQ-6-3	回復期リハビリテーション病棟勤務のリハビリテーション科職員における日本版バーンアウト尺度の測定 Measurement of the Japanese Burnout Scale in Rehabilitation Department Staff Working in a Recovery Unit	新座病院 リハビリテーション科 香取 秀一
PQ-6-4	Web研修「リーダー事例検討会」実施方法の検討 Discussion on how to implement the web-based training "Leader Case Study Session"	医療法人社団大和会 大内病院 リハビリテーション部、 平成医療福祉グループ リハビリテーション部 教育 研修委員会、東京都立大学大学院 人間健康科学研究 科作業療法科学域 客員研究員 古御門幸奈
PQ-6-5	回復期リハビリテーション病院で退院支援を行う作業療法士が体験する信念対立の利点と欠点の質的解明 A Qualitative Exploration of the Benefits and Drawbacks of Belief Conflict in Discharge Assistance	IMS グループ イムス横浜東戸塚総合リハビリテ ーション病院 宇都宮裕人

**PR 教育**

**教育 1** 11月10日(金) 11:00～12:00 ポスター会場

PR-1-1	3Dプリンタを用いた自助具作製教育プログラムの効果検証 Effect verification of self-help devices development education program using 3D printer	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科 小池 祐士
PR-1-2	From anti-stigma to inclusion: Innovative course design for occupational therapy students in Taiwan	National Cheng Kung University Hui-Ing Ma
PR-1-3	作業療法士の基本属性および臨床・教育・研究の経験とEBPSAとの関連 Associations of Occupational Therapists' Characteristics and Experience with Evidence-Based Practice Self-Assessment	湘南医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科 増田 雄亮
PR-1-4	急性期リハビリテーション専門職を対象としたエビデンスに基づく実践の促進要因に関する検討 Factors Associated with Promoting Evidence-Based Practice among Rehabilitation Professionals Working in Acute Care Wards	船橋市立医療センター リハビリテーション科 佐藤 雅哉
PR-1-5	デジタルフォーメーションにおけるリハビリ人材の育成に関する検討 Consideration on rehabilitation human resource development in Digital Transformation	琉球リハビリテーション学院 作業療法学科 西村 昭宣
PR-1-6	Effectiveness of the online exchange program for occupational therapy students to cultivate an international perspective	Graduate School of Human Health Sciences, Tokyo Metropolitan University Natsuka Suyama
PR-1-7	Achievement and improvements of the Human Development Program for international Master's Students	Tokyo Metropolitan University Kaoru Inoue

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表



PR-1-8	コロナ禍における多職種連携の取り組み～学生と卒業生のアンケート結果から～ Interprofessional Collaboration efforts at COVID-19 ～ From the Results of a Students Survey ～	福井医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻 堀 敦志
<b>教育 2</b>		11月10日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PR-2-1	社内教育場面でのCROT-Rの活用と実践 Utilization and practice of CROT-R in in-house training	らそうむ内科リハビリテーションクリニック 黒田 隆之
PR-2-2	作業療法レジユメの新様式 CROT-Rの開発 Clinical Reasoning Ot Tool - Resume	茅ヶ崎新北陵病院 藤本 一博
PR-2-3	クリニカルリーズニングに着目した作業療法実習が学生に与える影響 ～ SA-CROT を活用した分析～ The Impact of Occupational Therapy Practice Focused on Clinical Reasoning on Students ～ An Analysis Using the SA-CROT ～	医療法人社団 苑田会 竹の塚脳神経リハビリテーション病院 古田憲一郎
PR-2-4	オンラインを活用した臨学連携教育の新たな試み ～作業療法クリニカルリーズニング自己評価尺度による予備的検討～ A new trial of collaboration between clinical and academics using online system ～ A preliminary study using SA-CROT ～	洛和会音羽病院 リハビリテーション部 林 佳宏
PR-2-5	臨床実習を通じたクリニカルリーズニングの変化とその要因～混合研究法による分析～ Changes and Factors in Clinical Reasoning through Clinical Practice ～ Analysis of Mixed Methods Research ～	函館市医師会看護・リハビリテーション学院, 東京立大学大学院人間健康科学研究科作業療法科 学域博士後期課程 菊池 祐介
PR-2-6	Clinical Reasoning OT Tool-Resume(CROT-R) にて意味のある作業実現に向けての目標を多職種と共有した事例 CROT-R:A case study of sharing goals for realizing occupational progression with multidisciplinary professionals.	新座志木中央総合病院 リハビリテーション科 作業療法部門 四戸 宏之
PR-2-7	作業療法学専攻学生の対面授業とオンライン授業受講によるストレスと個人特性との関係 Stress and personal characteristics of occupational therapy students taking non-online and online classes.	弘前大学大学院 保健学研究科 田中 真
PR-2-8	ハンドセラピー指導システム (e-Hand Therapy; e-HAT) の開発と有用性評価 Usefulness of Hand Therapy Teaching System (e-Hand Therapy; e-HAT)	東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 齋藤 和夫
<b>教育 3</b>		11月10日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PR-3-1	学生における手作りのあかりのボランティア経験と他のボランティア経験の比較 Comparison of AKARI volunteer experience and other volunteer experiences	学校法人日本教育財団 大阪医専 西谷美智子
PR-3-2	医療系大学生を対象としたレジリエンスと活動における充実感の関連 Relationship between Resilience and Fulfillment in Activities among Medical College Students	東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 生方 剛
PR-3-3	栄養サポートチームにおける作業療法支援の実態調査 ～アンケート調査からみるOTの関わり～ Fact-finding Survey of Occupational Therapy Support in the Nutrition Support Team ～ From the questionnaire survey ～	医療法人 光陽会 関東病院 リハビリテーション科 井戸川由花
PR-3-4	国家試験対策が作業療法学生に与えるストレスについて～唾液アミラーゼモニター、学習動機づけの評価を用いて～ Stress Caused by Study for the National Examination in Occupational Therapy Students	兵庫医科大学 リハビリテーション学部 奥谷 研
PR-3-5	臨床事例の検討課題が学生の学習度・満足度に与える影響 The influence for students learning effect and satisfaction through clinical case studies	日本医療科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 嘉成 望
PR-3-6	作業療法学生の課題先延ばし傾向が動機づけと自己調整方略に与える影響 Effects of procrastination behavior on the motivation and learning strategy in students of occupational therapy	日本医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学 科 作業療法学専攻 合田 央志
PR-3-7	Problem-based Learning を活用した実技指導動画教材作成による学習効果 ～ COVID-19 パンデミックを契機とした実習教育の発案～ Effect of creating instructional materials using problem-based learning ～ Educational methods triggered by the COVID-19 ～	東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科, 小平中央リハビリテーション病院 リハビリテーション科 岡部 拓大
<b>教育 4</b>		11月10日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PR-4-1	作業療法学生のノンテクニカルスキル獲得の現状と学年間の差 Non-technical Skills Acquisition of Occupational Therapy Students and Differences Between Grades	国際医療福祉大学小田原保健医療学部 作業療法学科 若上さやか
PR-4-2	診療参加型臨床実習で学生に対する生活行為向上マネジメントの活用について ～検査・測定実習における当院での関わりについて第二報～ Utilization of MTDLP for Students at CCS ～ Second report on the involvement of our hospital in evaluation practice ～	ベルビアノ病院 リハビリテーション室 藤井 和正
PR-4-3	作業療法学生の就職に向けた不安と就職先選定での重要因子に関する調査報告 ～コロナ禍の前後による比較～ Report of the uneasiness and the importance on work by OTS ～ compared with COVID-19 crisis ～	多摩リハビリテーション学院専門学校 鎌田小百合



PR-4-4	新入生における身体的・精神的自覚症の傾向～2016年度から2022年度を通して～ Trends in physical and mental subjective symptoms among new students ～From FY2016 through FY2022～	東北メディカル学院 木村 陽子
PR-4-5	学生の臨床実習における職業的モデルとの出会いとその影響に関する検討 ～モデルの背景との関係～ A study on encounters and effects of vocational models in clinical practice of students ～Relationship with model background～	奈良学園大学保健医療学部 リハビリテーション学科作業療法専攻 山形 力生
PR-4-6	学生に教科書を参照させるためには？～学生は教科書を参照できないか？（第2報）～ How to get students to refer to textbooks?～Can students refer to textbooks? (2nd report)～	東京福祉専門学校 作業療法士科 小泉 雄一
PR-4-7	新宿区の作業療法士養成校における「内藤とうがらし」栽培が教育に活かされた一経験 Experiences using "Naito Togarashi" for education at an occupational therapist training school in Shinjuku	日本教育財団 首都医校 作業療法学科 熊谷 友敬

**教育 5** 11月10日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PR-5-1	学生ケアラーに関する近年の研究動向 Recent trends in research on student carer	北海道医療大学 児玉 壮志
PR-5-2	養成校入学時の学習能力テストの結果と学業成績、実習成績との関連 The relationship between the results of the learning ability test and the academic and practical performance	東京福祉専門学校 渡辺 陵介
PR-5-3	作業療法士が有する職業倫理観に関する調査研究 Investigative research on viewpoints held by occupational therapists regarding professional ethics	九州中央リハビリテーション学院、 熊本保健科学大学大学院保健科学研究科 本田 直
PR-5-4	早期臨床体験の効果～作業療法学生に対するアンケート調査から～ Effect of Early Clinical Exposure～A questionnaire survey of occupational therapy students～	神戸総合医療専門学校 嘉納 綾
PR-5-6	実践報告 日本技術士会の倫理綱領との比較 Practice report Comparison with the Code of Ethics of the Japan Institute of Professional Engineers	医療法人 弘仁会 熊本総合医療リハビリテーション 学院 非常勤講師、 熊本大学大学院 社会文化科学教育部 教授システム 学専攻 博士前期課程 科目等履修生 西村 慈子
PR-5-7	見学実習における社会人基礎力の変化 Changes in the fundamental skills of a working adult after field trips.	学校法人同志舎リハビリテーションカレッジ島根 古田 翔太

**教育 6** 11月10日(金) 17:00～18:00 ポスター会場

PR-6-1	ミャンマー連邦共和国における作業療法士養成に関わる歴史と現状 History and current situation of occupational therapy education in Republic of the Union of Myanmar	NPO 法人 Rehab-Care for ASIA 大塚 進
PR-6-2	進化していく事例検討会 Evolving case review meeting	医療法人双葉会 西江井島病院 リハビリテーション科 黒川 真宏
PR-6-3	作業に焦点を当てた療法実践自己効力感に影響する情報源に関する研究 ～臨床実習を通じた予備的研究～ Information sources influence self-efficacy of occupation focused practice ～Pilot study on the clinical training～	九州養老福祉大学 リハビリテーション学部作業療法学科 青山 克実
PR-6-4	学業不振の個別プログラムからみた学習意欲向上の特徴 Characteristics of improvement in motivation to learn seen from individual programs for academic slump	東京福祉専門学校 作業療法士科 大橋 航祐
PR-6-5	作業療法学科入学時の身体的・精神的自覚症の傾向 Trends in physical and mental subjective symptoms at the time of admission to the department of occupational therapy	東北メディカル学院 石井 幸美
PR-6-6	実習において CROT-R を用いた学び～学内演習における模擬事例のまとめかた～ Learning using CROT-R in practice～How to summarize mock cases in on-campus seminars～	あいち福祉医療専門学校 富高 史裕
PR-6-7	オンラインによる国際交流研修が作業療法学生に与える影響 Effect of international Exchange online training for students of occupational therapy course	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテー ション学科 作業療法コース 鎗田 英樹

**教育 7** 11月11日(土) 10:10～11:10 ポスター会場

PR-7-1	作業療法学生の情動知能が学習成績に及ぼす影響に関する予備的研究 The Effect of emotional intelligence on learning performance of occupational therapy students: a pilot study	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 中前 智通
PR-7-2	認知症患者に対する認知および BPSD の困難感が作業療法学生の態度に与える影響 Influence of 'cognition of dementia patients, and 'difficulty of BPSD, on attitudes of occupational therapy students	帝京科学大学 医療科学部作業療法学科 黒川 喬介
PR-7-3	大学生における自己調整学習に関する文献レビュー Literature review on self-regulated learning in university students.	常葉大学 保健医療学部 鹿田 将隆
PR-7-4	CMI を手掛かりとした学生支援～評価実習後の報告～ Student support using the Cornell Medical Index～Report after evaluation practice～	学校法人臨研学舎 東北メディカル学院 泉 真季子
PR-7-5	Team-Based Learning (TBL: チーム基盤型学習) の手法を応用した初年度作業療法学生への授業の試み An Application of Team-Based Learning to First-Year Occupational Therapy Students	長野保健医療大学 外里富佐江



PR-7-6	既卒生に対する学習支援方法による得点推移の特徴 Characteristics of score transition by learning support method for graduates	株式会社 AIUTOmedico 国試リハビリセンター 吉川 恵
PR-7-7	当事者参加型講義を実施することで得られた関心の変化 ～作業療法的視点の習得を目指して～ Changes in Students' Interests Obtained from Client Participation Lectures ～ Aiming to acquire an OT perspective ~	学校法人 智帆学園 琉球リハビリテーション学院 作業療法学科 宗像 暁美
<b>教育 8</b> 11月11日(土) 11:10～12:10 ポスター会場		
PR-8-1	指定規則改定後の作業療法臨床実習における認知領域(知識)に関する指導の実際 ～ SCAT を用いた分析～ Actual teaching on cognitive domains in clinical practice after the revision of the designation rules. ~ using SCAT ~	学校法人滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校 作業療法科 星槎大学大学院教育学教育科 教育学専攻 谷村 浩子
PR-8-2	作業療法士自身の態度としてのスピリチュアリティに関する文献的レビュー A Literature Review on Spirituality as an Occupational Therapist's Own Attitude	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション部 作業療法学科 坂本 俊夫
PR-8-3	台湾における作業療法士の養成教育～日本との比較～ Occupational therapist education in Taiwan ~ compare with Japan ~	東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科 作業療法専攻 王 治文
PR-8-4	我が国の医療系教育機関における国際教育プログラムの実態に関する文献研究 ～作業療法士養成校の取り組みに着目して～ Literature research on the actual situation of international education programs in medical educational institutions	文京学院大学保健医療技術学部 作業療法学科 駒崎かんな
PR-8-5	読唇ができないと訴える難聴学生に対する新型コロナウイルス禍における学習支援 Learning support for hearing-impaired student who complain "I can't lip reading" due to the COVID-19 pandemic	学校法人 智帆学園 琉球リハビリテーション学院 作業療法学科 井上 美和
PR-8-6	当院における自動車運転支援に関する意識調査と教育的効果の検証 Awareness survey and verification of educational effects on driving support at our hospital	医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部 作業療法科 河原 龍平
PR-8-7	作業療法学生のオタク趣味特性と養成課程進学の関係 Relationship between otaku characteristics of occupational therapy students and their entry into training programs.	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 出口 弦舞
<b>教育 9</b> 11月11日(土) 12:10～13:10 ポスター会場		
PR-9-1	精神科作業療法士の学習ニーズと経験年数との関連 A survey for association between psychiatric occupational therapists' s learning needs and experience	昭和大学附属鳥山病院 リハビリテーションセンター 水野 健
PR-9-2	当校における生活行為向上マネジメント教育の実態と課題 Current status and issues of MTDLP education at our school	東京福祉専門学校 作業療法士科 小池真由美
PR-9-3	指導者が作成した MTDLP シートを基に臨床思考の模倣指導を進めた評価実習の指導効果 ～実習生の不安を問う調査からの一考察 第一報～ Guidance effect of evaluation practice that promoted imitation guidance of clinical thinking based on instructor's MTDLP	社会医療法人財団新和会八千代病院 総合リハビリセンター 小笠原和将
PR-9-4	当院における MTDLP を活用した臨床実習指導の実践 Practice of clinical training guidance using MTDLP at our hospital	和仁会病院 北川 智恵
PR-9-5	精神障害領域で働く作業療法士の学術研究参加の阻害要因の検討 An examination of factors that hinder OTR the field of mental disorders from participating in academic research.	昭和大学保健医療学部 作業療法学科 佐藤 範明
PR-9-6	COVID-19 流行下における若手作業療法士の経験から考える卒後教育の課題 ～テキストマイニングを用いた分析～ Challenges for clinical occupational therapy education in the COVID-19 era. ～ A text mining analysis ~	善常会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 赤坂 竜一
PR-9-7	回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の卒後教育の課題 Tasks in post-graduate education of occupational therapists in Rehabilitation ward	公立学校共済組合 関東中央病院 神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科博士前期課程 田中 雅士
PR-9-8	作業療法士養成課程における SOGI 教育が学生の知識・態度に与える影響 ～混合研究法による教育効果の検討～ Effects of SOGI Education on Occupational Therapy Students' Knowledge and Attitudes -A Mixed Methods Study-	平成医療福祉グループ 医療法人社団大和会 大内病院 包括型地域生活支援 (ACT) . にじいろリハネット 松本 武士
<b>教育 10</b> 11月11日(土) 14:10～15:10 ポスター会場		
PR-10-1	小児領域の新人作業療法士が抱える課題の経時的変化 Changes in problems over time faced by beginning occupational therapists in the pediatric field.	株式会社奏音 教育管理部, 発達支援ルームらしど 伊藤 香織
PR-10-2	三次元動作解析システム (3D-MAS) を用いた講義・演習の実践紹介と課題 Lectures Using 3D Motion Analysis Systems and Issues	弘前医療福祉大学 保健学部医療技術学科 作業療法専攻 岩間 孝暢
PR-10-3	多職種連携教育の方法の模索～多職種連携教育に対する意識調査～ Exploring Interprofessional Education methods ～ Attitude survey of Interprofessional Education ~	福井医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法専攻 下川 幸蔵

PR-10-4	医療・介護の連携施策としての退院支援研修プログラム評価 ～より良い繋ぎ目のない生活移行支援を目指して～ Discharge support training program as a collaborative measure ～ Aiming for better and seamless life transition support ～	医療法人社団博慈会 青葉さわい病院 リハビリテーション科 石川恵美子
PR-10-5	当院での調理動作訓練における介入視点の調査 Investigation of Intervention Perspectives in Cooking Movement Training at Our Hospital	医療法人幸生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院 リハビリ療法部 竹内 草子
PR-10-6	遠隔講義での統合失調症患者の地域生活評価を通じた多職種連携教育の効果 ～作業療法学生と精神保健福祉士学生を対象とした検討～ Effectiveness of Interprofessional Education through Community Living Assessment of Schizophrenia in Distance Learning	日本福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 中村 泰久
PR-10-7	作業療法士と作業療法学生の食事動作観察場面における視線分析 Gaze Analysis of Occupational Therapists and Occupational Therapy Students in Eating Movement Observation Situations.	姫路獨協大学 医療保健学部作業療法学科 石浦 佑一

教育 11

11月11日(土) 15:10～16:10 ポスター会場

PR-11-1	作業療法士経験を活かした特別支援教育実践例 ～ダウン症候群児への体幹トレーニング後の変容～ Example of the Practice Use Experience as an OT in Special Support Education	群馬県立特別支援学校 秋元裕太郎
PR-11-2	評価実習における実習生の自信度の縦断的検証 Longitudinal Verification of Students' Self-confidence in Evaluation Practice.	国際医療福祉大学 成田保健医療学部作業療法学科 寛 智裕
PR-11-3	臨床リハビリテーション場面におけるクライアントとより良い関係を形成するためのコミュニケーションと介入技能評価の開発 Development of a CISA to build better partnerships with clients in clinical rehabilitation settings	常葉大学 保健医療学部 篠原 和也
PR-11-4	放課後等デイサービスにおける卒業教育用のための試作版ルーブリックの開発 ～コンピテンシーの検討～ Development of a prototype rubric for post-graduate education in after-school day care	放課後等デイサービスアトリエあいだく川崎 昭和大学大学院保健医療学研究科 博士後期課程 鈴木 哲理
PR-11-5	より具体的な目標設定のためのスタッフ教育の有効性 The efficacy of staff education to build more specific goal setting	医療法人明倫会 本山リハビリテーション病院 リハビリテーション科 濱野 拓麻
PR-11-6	作業療法学生の臨床実習に向けたコミュニケーション演習の効果について ～社会的スキルとレジリエンスから検討～ Effects of communication exercises for clinical practice of occupational therapy students	川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部作業療法学科 大野 宏明
PR-11-7	効率的に成果をあげる作業療法士および作業療法専攻学生を育成するために ～共感の尺度に関するレビュー～ To develop occupational therapists and students who effectively achieve results ～ Review of measures of empathy ～	兵庫医科大学 リハビリテーション学部作業療法学科 神戸大学 大学院保健学研究科 橋本 絢大

教育 12

11月11日(土) 16:10～17:10 ポスター会場

PR-12-1	臨床実習指導者が各実習形態に感じているメリット、デメリットにおける形態間の違いについて Differences between type of clinical trainings in advantage and disadvantage that clinical educators think	弘前医療福祉大学 保健学部 医療技術学科 作業療法学専攻 柏崎 勉
PR-12-2	総合実習における作業療法学生の臨床経験 Clinical Experience of Occupational Therapy Students in Comprehensive Practice	国際医療福祉大学 成田保健医療学部作業療法学科 五味 幸寛
PR-12-3	臨床的思考を育む臨床教育のシステムの検討 Investigation of clinical education system to cultivate clinical thinking	東北福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 小野 治子
PR-12-4	学内での実習対策の有効性についての検討 ～実習効果を高めるための学内取り組みについて～ Effectiveness of on-campus training measures ～ Efforts to increase the effectiveness of practical training ～	社会福祉法人 関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校 佐平安紀子
PR-12-5	臨床実習を経験することによる作業療法学生の心理的変化 ～利得接近・損失回避志向、セルフコントロール、インターネット依存、不安～ Psychological changes of occupational therapy students through clinical training	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 平澤 勉
PR-12-6	早期の臨床実習において地域支援の見学を導入する意義 The meaning of observing the activities of occupational therapists involved in community supports through Early Exposure	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 和田 美咲
PR-12-7	COVID-19による臨地実習での経験不足が新人作業療法士に与えた影響に関する調査 A survey on the impact of lack of experience in clinical practice due to COVID-19 on new occupational therapists	仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科 熊谷 竜太

# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.





## 広告団体・企業 / 機器展示出展企業 / 書籍展示企業 / 大学院説明ブース一覧

### < 広告団体・企業一覧 (お申し込み順) >

#### ■プログラム集広告

株式会社アネビー  
医歯薬出版株式会社  
株式会社協同医書出版社  
株式会社青海社  
株式会社三輪書店

アームズラボ  
群馬パース大学  
サン情報サービス株式会社  
日本作業療法連盟  
第8回アジア太平洋作業療法学会

#### ■ホームページバナー広告

国際医療福祉大学大学院

合同会社 anomira- あの名曲の作者が嫉妬する未来を

### < 機器展示出展企業一覧 (お申し込み順) >

名古屋工業大学  
株式会社アネビー  
有限会社ハニーインターナショナル  
株式会社ピーエーエス  
株式会社テクリコ  
アクセスエール株式会社  
伊藤超短波株式会社  
インターリハ株式会社  
酒井医療株式会社  
マクセル株式会社  
株式会社 LIFESCAPES  
テクノツール株式会社  
総合せき損センター

株式会社サンクト・ジャパン  
シスネット株式会社  
サン情報サービス株式会社  
スレプトウェル  
住友ファーマ株式会社  
株式会社メルティン MMI  
株式会社ニッシリ  
オージー技研株式会社  
株式会社クREAクト  
日本光電工業株式会社  
未来航路株式会社  
株式会社トータルブレインケア

### < 書籍展示企業一覧 (お申し込み順) >

株式会社クリエイツかもがわ  
株式会社協同医書出版社  
株式会社三輪書店

株式会社医学書院  
医歯薬出版株式会社

### < 大学院説明ブース一覧 (お申し込み順) >

国際医療福祉大学大学院

吉備国際大学大学院

## 第 57 回日本作業療法学会組織

### 【学会企画委員会】

泉 良太（委員長）  
岩波 潤（副委員長）  
天野 暁  
柴田 克之  
仙石 泰仁  
能登 真一  
長尾 徹  
羽田 舞子  
村田 和香

### 【学 会 長】

長尾 徹

### 【副学会長】

仙石 泰仁

### 【プログラム部会】

長尾 徹  
仙石 泰仁  
泉 良太

### 【演題採択部会】

泉 良太  
岩波 潤  
天野 暁

## 編集後記

第57回日本作業療法学会のプログラム集をお届けいたします。前回学会と同様に、ハイブリッド開催であり、現地での雰囲気も味わえ、オンデマンド配信の利便性も兼ね備えた学会スタイルになります。ハイブリッド開催については、特にコロナ禍の対策として、実施して参りましたが、今では当たり前の開催方式となり、皆が参加できるスタイルになっています。Web参加で最新の知見等を勉強することも良いのですが、現地でしか味わえない学会発表時の議論や学会参加の高揚感もありますし、仲間・先輩・後輩との再会、新しい仲間作りができる良い機会にもなると思いますので、現地参加が可能な方は是非、現地参加されることをおすすめいたします。

学会企画委員会としては、2回目のハイブリッド開催ということで、前回学会での経験を活かしつつ、準備を進めてきましたが、1点、嬉しい誤算がありました。それは、一般演題数が前回学会の1.5倍になったことです。そのため、発表時間や場所に工夫が必要になりまして、ポスター発表については、午前・午後での貼り替えというスタイルとなりました。発表者や聴講者の方には、慌ただしくて申し訳ございませんが、より多くの演題や演者に触れることができるメリットもあるため、何卒、ご理解・ご準備のほどよろしく願いいたします。

今回のテーマは、「ものごとの仕組みに注目する」です。本テーマは、作業療法を行っていくうえで必要な、「根本」を問うものであると考えます。つまり、問題解決をしていく際に、「仕組み」が分からない状態で解決をしても、次に問題が起こった際に適切な対処ができないことが考えられます。全ての仕組みを明らかにすることは難しくとも、一部の仕組みを知ることにより、他の現象にも汎化させていくことができると思います。是非、このような学会という機会を利用して、様々な「ものごとの仕組み」に触れてみてはいかがでしょうか。

最後に、第57回学会は、初の沖縄開催となります。学会ですので、学術活動がメインとは思いますが、是非とも、空いたお時間で沖縄の文化や食を満喫していただければと思います。会場内にも、沖縄県士会ブースやキッチンカーもありますので、様々な情報もいただければと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学会企画委員長 泉 良太



## 事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント 第2版

一般社団法人日本作業療法士協会 編著  
B5判 234頁  
定価 4,400円 (本体 4,000円+税 10%)  
ISBN978-4-263-26634-2

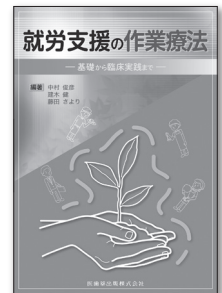
作業療法士にとって必須な「生活行為向上マネジメント (MTDLP)」についてまとめた書籍の第2版。今改訂では具体的な利用方法や連携方法についての解説を強化し、より実践的な内容へとソフトチェンジ!



## 就労支援の作業療法 基礎から臨床実践まで

中村俊彦・建木健・藤田さより 編著  
B5判 218頁  
定価 3,300円 (本体 3,000円+税 10%)  
ISBN978-4-263-26663-2

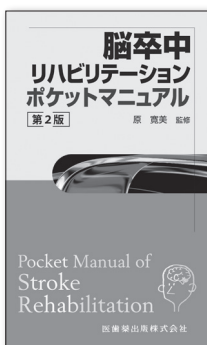
就労支援の基礎から臨床実践まで網羅! 障害別事例紹介で支援の実際を学べる。近年対象が増加している、がん、難病、引きこもりや司法領域における支援も収載。国家試験過去問題も丁寧な解説とともに収載!



## 脳卒中リハビリテーション ポケットマニュアル 第2版

原寛美 監修・著  
新書判 288頁  
定価 3,080円 (本体 2,800円+税 10%)  
ISBN978-4-263-26669-4

リハビリテーション医療者の必修事項をポケット版にぎゅっと詰めたマニュアルが16年ぶりの大改訂! 豊富な脳画像や図をもとに、実践にいかすノウハウを紹介。リハビリテーション医療者の共通書として最適な一冊。



## はじめてのリハビリテーション 臨床倫理ポケットマニュアル

藤島一郎 編集責任者  
新書判 240頁  
定価 3,520円 (本体 3,200円+税 10%)  
ISBN978-4-263-26668-7

リハビリテーション医療における倫理的ジレンマは多数存在するが、気づかれていないか、どうしてよいかわからないまま放置されている。本書では、浜松市リハビリテーション病院における取り組みを紹介する。



## 作業療法管理学入門 第2版

大庭潤平 編著  
B5判 200頁  
定価 3,630円 (本体 3,300円+税 10%)  
ISBN978-4-263-26642-7

2020年4月施行の改正指定規則で「作業療法管理学」が必修化され、さらに重要度が高まった管理学の知識を解説。今改訂では最新情報へ刷新したほか、感染対策、ハラスメント、学会・研修会の項を新規追加。



## 認知症の作業療法 第2版 ソーシャルインクルージョンをめざして

小川敬之・竹田徳則 編著  
B5判 320頁  
定価 5,170円 (本体 4,700円+税 10%)  
ISBN978-4-263-21949-2

認知症作業療法の教科書的理解から臨床への橋渡しとなる一冊! 今改訂では事例編を刷新したほか、認知症の人を取り巻く制度やサービスも解説。薬物療法や作業療法介入の手法と研究報告など最新知見も収載。



## ポジティブ心理学とリハビリテーション栄養 強みを活かす! ポジティブリハ栄養

若林秀隆 編著  
B5判 168頁  
定価 4,180円 (本体 3,800円+税 10%)  
ISBN978-4-263-26670-0

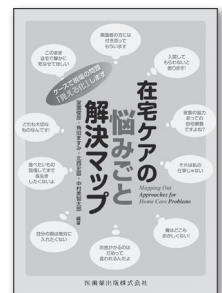
“強みをみつけて強みを伸ばす” ポジティブ心理学を取り入れ、患者の行動変容と成果につなげる「ポジティブリハ栄養」を提唱。患者の生活機能やQOLを高めるとともに、医療者自身の精神衛生にも貢献できる!



## 在宅ケアの悩みごと解決マップ ケースで現場の問題「見える化」します

堂園俊彦・角田ますみ・北西史直・中村美智太郎 編著  
B5判 160頁  
定価 3,520円 (本体 3,200円+税 10%)  
ISBN978-4-263-73212-0

在宅現場で遭遇する尊厳や倫理をめぐる問題を、医師・看護師と倫理学者がコラボしてコンサルテーション! 多職種にわたる医療者が情報を共有し話し合い、共に考える方法論を教育学者らがコンパクトに解説。



# 新刊 ICUの作業療法

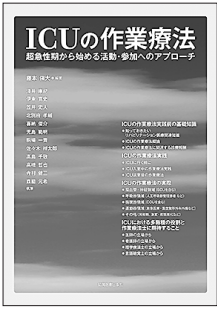
超急性期から始める活動・参加へのアプローチ

藤本侑大 ● 編著

浅井康紀 / 伊東寛史 / 笠井史人 / 北別府孝輔 / 喜納俊介 / 児島範明 / 駒場一貴 / 佐々木祥太郎 / 高島千敬 / 高橋哲也 / 寺村健三 / 森脇元希 ● 執筆

● B5判・212ページ・2色刷 定価4,180円(本体3,800円+税10%) ISBN978-4-7639-2150-5

集中治療室(ICU)での早期リハビリテーションにおいて作業療法士は何を考へ、どのように実践していくのか



ICUでの早期リハビリテーションは、チームでのアプローチが必須であり、作業療法士には、身体および精神機能障害の評価に加え、ICU入室患者の生活を見据えた取り組みが求められています。ICUで実践する作業療法について、ICUのリハビリテーションの基礎知識から、ICU入室前・入室中・退室後の作業療法アプローチについて禁忌や中止基準を含め詳細に解説し、脳血管・神経、呼吸器、循環器、運動器、その他(周術期、急変・病態悪化)の領域について、事例とともにICUにおける作業療法の実践内容をまとめました。

● 主要目次 ●

第1章●ICUの作業療法実践前の基礎知識  
知っておきたいリハビリテーション医療関連知識 / ICUの作業療法概論 / ICUの作業療法に関連する診療報酬 / TOPICS ICUの作業療法実践のためのスキルアップ資格  
第2章●ICUの作業療法実践 ICUに行く前に / ICU入室中の作業療法実践 / ICU退室後の作業療法 / TOPICS ICUの作業療法一休制づくりのポイント  
第3章●ICUの作業療法の実際 脳血管・神経領域(SCUを含む) / 呼吸器領域(人工呼吸器管理患者など) / 循環器領域(CCUを含む) /

運動器領域(救急医療・重症整形外科外傷など) / その他(周術期、急変・病態悪化など) / TOPICS 臨床経験を学会・論文で発表しよう  
第4章●ICUにおける多職種役割と作業療法士に期待すること 医師の立場から / ICUで協働する作業療法士へ / 看護師の立場から / ICUで協働する作業療法士へ / 理学療法士の立場から / ICUで協働する作業療法士へ / 言語聴覚士の立場から / ICUで協働する作業療法士へ / TOPICS 集中治療領域の作業療法教育

# 新刊 高齢者の認知レベルに合わせた作業と環境へのアプローチ

QOL向上のための実践ヒント

久野真矢 ● 著

● B5判・136ページ・4色刷(一部2色刷) 定価3,740円(本体3,400円+税10%) ISBN978-4-7639-2151-2

高齢者や認知症のクライアントのQOLをもっと高められるQOL向上のための臨床実践ヒントを詳細に解説

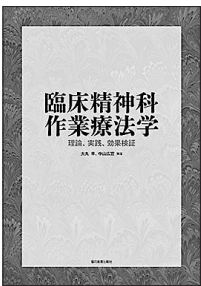


高齢者や認知症のクライアントのQOL向上に欠かせない「ADL/IADLの目標設定」「最適なアクティビティの選定」「快適な住環境設定」について、理論的な枠組みと知識をベースに、「認知レベル」「生活機能年齢」をキーワードとして解説しました。高齢者のQOLと幸福感を中心的視座とし、作業療法学的観点から高齢者や認知症のクライアントへの認知レベルに対応した介入効果、作業遂行と心理・認知的要因、環境の相互関連について整理し、著者開発のスケールとともに具体的な臨床応用の方法をまとめた一冊です。

● 主要目次 ●

第1章●高齢者や認知症のクライアントのQOLを向上させるために 高齢者や認知症のクライアントのQOLをどのように捉えるか / 高齢者や認知症のクライアントのQOLを向上させるための理論的知識 / 高齢者や認知症のクライアントに適切な人的環境(心理的環境)とは  
第2章●認知レベルに合わせてADL/IADLへアプローチする 認知機能評価スケール / 認知レベルに対応したADL/IADLスケール(ADL/IADL-COG) / 高齢者や認知症のクライアントの認知レベルとADL/IADL能力の関係 / 認知

レベルに合わせたADL/IADLへのアプローチ  
第3章●認知レベルに合わせてアクティビティへアプローチする 認知レベル別で捉えるアクティビティ適用の基本方針 / 認知レベルに合わせたアクティビティへのアプローチ / 認知レベルと対応したアクティビティケア・マトリクス  
第4章●認知レベルに合わせて住環境へアプローチする 高齢者や認知症のクライアントに好ましい住環境設定の基本方針 / 住環境へのアプローチ / 多職種連携による住環境へのアプローチに向けた住環境評価の視点  
第5章●事例紹介、今後の展望と可能性



# 臨床精神科作業療法学

理論、実践、効果検証

大丸 幸、中山広宣 ● 編著

● B5判・184ページ・2色刷 定価4,180円(本体3,800円+税10%) ISBN978-4-7639-2148-2

創造療法士としての作業療法士——精神科作業療法の理論と実践、効果検証まで

精神科作業療法を学ぶ人たちが治療理論と実践方法をよりいっそう専門的に学ぶために書かれた、治療理論を洗練させると同時に効果の検証にも取り組んだ、本格的な学術書。収録された効果検証のプロセスには事例の詳細な記録と評価・検査データが網羅され、精神科作業療法学としての研究レベルでの議論にも有益な成果を提供しています。



# 高齢期作業療法のものごと

臨床に役立つ10の実践

村田和香 ● 著

● A5判・128ページ・2色刷 定価2,640円(本体2,400円+税10%) ISBN978-4-7639-2149-9

自分自身の作業療法を「こぼれ」で伝えたい! 作業療法の理論を身につけて、クライアントを理解しよう

毎日の臨床での作業療法実践を説明したいと思ったとき、うまく説明できないと感じることはありませんか? 本書では、対象者を理解して臨床を展開する際に用いることができる作業療法の理論である「人間作業モデル」を紹介しています。理論を適用して実践の現場で戦略を立て、作業を成功に導くためのヒントを得ることができる一冊です。



# 精神科作業療法士の仕事

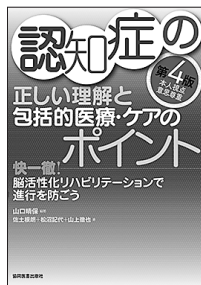
「社会に生きる手助け」という役割

関 京子 ● 著

● A5判・200ページ・一部4色刷 定価2,750円(本体2,500円+税10%) ISBN978-4-7639-2147-5

精神科の作業療法について 何から何まで、とても細かく、そして具体的に

我が国に「作業療法士」が生まれて以来臨床を続けてきた著者による、若い作業療法士に向けた臨床ガイド。精神科リハビリテーションでは主流であった1つの作品を作り上げていく「作業」という技法について、どう計画・指導し、どのように治療的效果を生み出していくのか、豊富な事例とともにわかりやすく解説しています。



# 認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント

第4版 快一徹! 脳活性化リハビリテーションで進行を防ごう

山口晴保 ● 編著 佐土根明+松沼記代+山上徹也 ● 著

● B5判・408ページ・一部4色刷 定価4,400円(本体4,000円+税10%) ISBN978-4-7639-6040-5

地域包括ケアの時代における認知症の包括的医療・リハ・ケアのための必携テキスト

多職種協働で認知症に関わる時代となっているなか、医療職もリハ職もケア職も、認知症の病態から症状、生活障害、本人のニーズ/サイン、評価、診断、治療薬、食生活、地域資源まで幅広く理解し、職域を超えて連携することが求められています。認知症に関わるすべての医療・リハ・ケアスタッフの方々に読んでいただきたい一冊です。



協同医書出版社

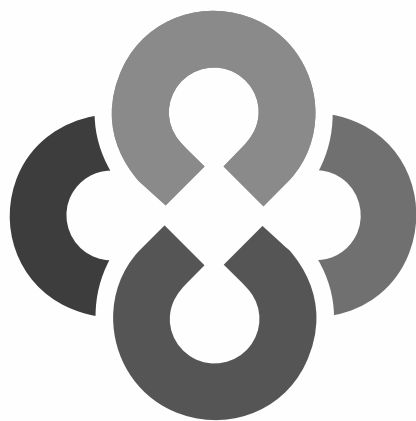
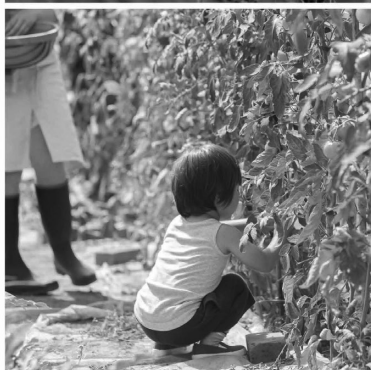
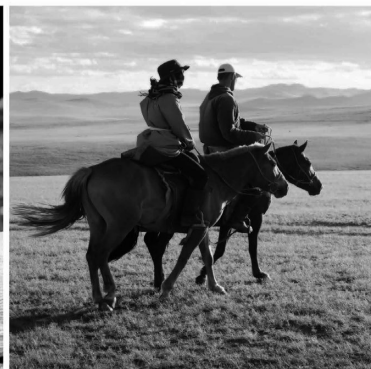
〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10 Tel. 03-3818-2361 / Fax. 03-3818-2368

kyodo-isho.co.jp

最新情報は  
こちらから







**8APOTC.2024**  
**8th Sapporo. Japan**

# 第8回 アジア太平洋作業療法学会

The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024

互いに支えあう地域づくり —持続可能で根拠に基づいた作業療法—

会期

**2024年11月6日(水)–9日(土)**

会場

**札幌コンベンションセンター**

学会長

**Ling-Hui Chang**

アジア太平洋作業療法地域グループ 会長

**山本 伸一**

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長



# 群馬パース大学大学院

Gunma Paz University Graduate School

保健科学研究科  
保健科学専攻

### 博士前期課程

- 看護学領域
- 病因・病態検査学領域
- 臨床工学領域
- リハビリテーション学領域
- 放射線学領域
- 公衆衛生学領域

### 博士後期課程

- 医療科学領域

## リハビリテーション学領域

高度な研究計画の立案および研究遂行能力を持ち、リハビリテーションの実践に活かせるリーダーや高等教育に携わる専門職の育成を目指す

臨床における素朴な疑問から研究命題へとつなげられるように高齢期障害、発達障害、身体障害、精神障害等における各領域のトピックスを提示し議論する中で、複雑な要因の関連が作業機能障害とその治療的变化を引き起こす可能性に言及できる知識を学びます。

### 作業療法学特別研究 特別研究指導教員



**村田和香** 教授  
作業を治療に用いる作業療法実践の可視化、すなわち、論理的に説明し、実証的に明らかにする研究を目指します。



**石井良和** 教授  
人間作業モデルに関連する諸概念、システム論、現象学などの理解をもとに研究課題に取り組みます。



**竹原敦** 教授  
保健、医療、介護の研究課題の中から、人生における社会的役割や習慣の変化と健康など臨床実践に関連する研究に取り組みます。



**南征吾** 教授  
作業療法実践の理論的理解をもとに、作業療法のプロセスを明らかにし、効果検証に取り組む研究を目指します。

お問合せ先

入試広報課 〒370-0006 群馬県高崎市間屋町1-7-1 ☎ 027-365-3370

HP

[www.paz.ac.jp](http://www.paz.ac.jp)



## ヘルスケアシステムで培ったノウハウとバーチャルリアリティの技術でリハビリの分野に貢献します。



【東京支社】  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目4-10  
アクロポリス21ビル

TEL 03-6630-4671 FAX 03-6630-4675

【九州支社】  
〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目9-3  
博多駅前シティビル

TEL 092-418-7100 FAX 092-475-1330

URL <https://www.sisco.co.jp/>

E-Mail [sales@sisco.co.jp](mailto:sales@sisco.co.jp)



# SISCO

サン情報サービス株式会社  
Sun Information & Service Corporation



# ハビル遊具®の環境を創る

遊具は発達支援の道具だから  
「効果」と「楽しさ」の空間に





**aneby** 株式会社 **アネビー**

[www.aneby.co.jp](http://www.aneby.co.jp) お問い合わせはこちら

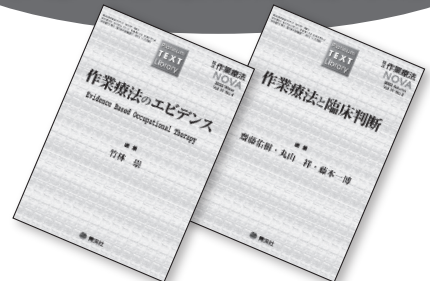


Platinum  
**TEXT**  
Library

# 臨床 作業療法 NOVA


創刊以来の12タイトル分が  
**電子版に!!**

**電子版で読むNOVA**  
(1冊・本体 2,500円+税 10%)



医書ジーピー (医学専門雑誌・書籍の電子配信サービス,  
<https://webview.isho.jp/journal>) から購入できます

〒113-003 東京都文京区根津 1-4-4  
根津フェニックスビル  
Tel. 03-5832-6171 Fax. 03-5832-6172  
hp <https://www.seikaisha.blue/>



**青海社**

豊富な知識と経験で多数実績アリ!

# SST研修 お任せを

研修実績  
**10年以上!**

「佐藤俊之」

一般社団法人SST普及協会  
認定講師 (NO.97)

認定作業療法士  
精神保健福祉士  
公認心理師

WRAPファシリテーター、家族心理教育インストラクター

本学会でポスター発表させていただきます。

**Arms-Lab**  
アームズラボ




お問い合わせはコチラ→

# OTの未来のために

OT協会

OT連盟



# 日本作業療法士連盟

連盟事務局:  
東京都台東区寿 1-5-9  
盛光伸光ビル 302号室  
e-mail: [info@ot-renmei.jp](mailto:info@ot-renmei.jp)  
TEL 03-6802-7964 FAX 03-6802-7963



■ 脳卒中後に生じる上肢機能の症状へのアプローチをライブ感覚でお届け  
**PT・OTのための**  
**〈脳卒中症状別〉臨床上肢機能アプローチ**  
 弛緩から痙性・失調・肩の痛み等に対する Movement Therapy (仮)



編著 山本 伸一  
 弛緩、強い痙性、失調症や肩の痛み…。多くの脳卒中患者が上肢機能の症状に苦しんでいる。本書はそのような患者の治療に役立てるべく、全国の臨床家が培った知識と実践を結集して完成した。臨場感ある治療場面の写真も豊富に掲載し、この一冊で症状別にアプローチのポイントが理解できる。明日からの臨床に活かしていただきたい一冊。

● 予価 4,730 円 (本体 4,300 円+税)  
 B5 352頁 2023年 ISBN 978-4-89590-796-5



■ 「あるべき姿」から、それぞれの「ありたい姿」を見つめたキャリアデザインを!  
**セラピストのキャリアデザイン (仮)**

著 元廣 惇



いま、キャリアデザインの考え方は大きなパラダイムシフトを迎えています。「キャリアはより高く積み上げるもの」、「学位、職位が高ければ高いほど良いキャリア」というこれまでの考え方にこだわってはいけません、これからの社会では通用しないかも? あなたのありたい姿に近づくためのキャリアデザインを、著者と一緒に考えてみませんか。

● 予価 2,750 円 (本体 2,500 円+税)  
 B5 140頁 2023年 ISBN 978-4-89590-795-8



■ ますま注目される「前庭リハビリテーション」の学習に最適の書!  
**前庭リハビリテーション 第2版**  
 めまい・平衡障害に対するアプローチ



編著 浅井 友詞・岩崎 真一  
 前庭障害に対するリハビリテーションのニーズは高まっている。第2版は米国のガイドラインや本邦での指針を踏まえて加筆し、著者らの新たなデータを加えて大幅に改訂した。前庭リハの手法について写真を多用するとともに動画を追加。PT・OT・STの卒前教育のテキストとして、臨床現場でのパイプとして活用できる一冊。

● 定価 3,960 円 (本体 3,600 円+税)  
 A5 224頁 2023年 ISBN 978-4-89590-790-3



■ フレイル高齢者の関節可動域は日々の生活を時間差で示す重要なシグナル!  
**フレイル高齢者の関節可動域**

編著 福田 卓民・沖田 実



“日々の生活を時間差で示す重要なシグナル”である高齢者の関節可動域を4,000人以上のデータで解析し、ケアやリハビリテーションの効果を検証。軽度～重度の虚弱状態にある高齢者をフレイルの欠損累積型モデルとそのスクリーニング尺度であるClinical Frailty Scaleを参考にフレイル高齢者と定義し、その「関節可動域」と「拘縮」を多面的に取り上げています。

● 定価 3,960 円 (本体 3,600 円+税)  
 A5 304頁 2023年 ISBN 978-4-89590-792-7



■ ウイズコロナ/ポストコロナの 新・感染対策テキスト  
**リハビリテーション**  
**感染対策ハンドブック**



編集 藤谷 順子・高橋 忠志  
 すべてのリハビリテーション職種が、あらゆる場面で適切な対策を行い、求められる医療を提供できるよう、COVID-19、消化器感染症、呼吸器感染症、血液感染症などさまざまな感染症に対応。現場の医療スタッフとしての感染対策や、職員および患者指導に役立つ手引書としてだけでなく、リハビリテーションの未来像までも提示します。

● 定価 3,740 円 (本体 3,400 円+税)  
 B5 200頁 2023年 ISBN 978-4-89590-789-7



■ 人気シリーズ「覗いてみたい!? 先輩 OTの頭の中」最新刊  
**覗いてみたい!? 先輩OTの頭の中**  
**臨床のリアルに触れる (仮)**



著 澤田 辰徳  
 リハビリテーションの難しさを感じたとき、いつの間にか後輩を指導する立場になっていたとき、養成校から実習を受けてほしいと依頼されたとき、逆に教え子を実習先に送り出すとき……。そんな場面で著者は何を考え、どう行動したのか。いつも気の置けない友人や職場の仲間と一緒に著者の“リアル”をお届けいたします。

● 予価 2,750 円 (本体 2,500 円+税)  
 B5 152頁 2023年 ISBN 978-4-89590-794-1



■ 子ども一人ひとりの好き嫌いの理由に応じた対応をするために  
**発達が気になる子どもの偏食の見方と対応**  
**口腔・認知・感覚・環境面からのアプローチ**

編著 立山 清美 / 著 宮嶋 愛弓・丹葉 寛之・中岡 和代・原田 瞬



発達が気になる子どもでは偏食(好き嫌い)に困っている家庭もあり、栄養・発達面から介入が望まれるケースもある。本書では一人ひとり異なる好き嫌いの理由を口腔面・認知面・感覚面・環境面、また手の不器用さの面から解説するとともに、理由に応じた具体的な対応50項目を詳述。子どもの好き嫌いを知るために役立つチェックリスト付き。

● 予価 4,180 円 (本体 3,800 円+税)  
 B5 160頁 2023年 ISBN 978-4-89590-778-1



■ 発達が気になる子どもたちのための地域生活をサポートする  
**究極のリハビリテーションガイドブック!**  
**神経発達症リハビリテーション**  
**発達の気になる子どもへのアプローチ**



編著 真野 英寿・楠本 泰士・大貫 二三恵  
 発達が気になる子どもの地域生活をサポートするリハビリテーションガイドブック。神経発達症児へのリハの現状や家族を中心とした関わりにも焦点を当て、スクリーニングや共有意思決定の重要性を説明。さらに視覚機能については眼の仕組みやチェックポイントを網羅し、障がい児に関わっている視能訓練士が詳しく解説しています。

● 定価 4,180 円 (本体 3,800 円+税)  
 B5 158頁 2023年 ISBN 978-4-89590-783-5



■ 急性期作業療法で、生活を豊かに!  
**作業療法ジャーナル 2023年増刊号 Vol.57 No.8**  
**急性期における疾患別作業療法**

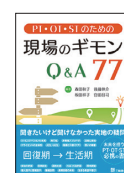


作業療法のアイデンティティを保ちにくい急性期のリハビリテーション。本増刊では、急性期の脳卒中、運動器疾患等への作業療法とともに、精神科・児童精神科、NICU等での対応についても解説し、臨床活動の一助とすることを目的の一つとした。関連する多職種連携や栄養サポート、精神科リエゾンチームとOTのかかわり等の貴重な内容も紹介。

● 定価 4,400 円 (本体 4,000 円+税)  
 B5 246頁 2023年



■ 誰しも一度は思ったことがある「現場ならではの疑問」  
 回復期/生活期リハの勘所をQ&A形式で解説します!  
**PT・OT・STのための現場のギモンQ&A 77**



編集 森田 秋子・後藤 伸介・坂田 祥子・宮田 昌司  
 誰しも一度は思ったことがある「現場ならではの疑問」。回復期から生活期のリハビリテーションにおいて、特に若い療法士が迷いや不安を感じることから、Q&A形式でなるべくわかりやすい答えをまとめました。本書でこれらの勘所を押さえ、ぜひ患者さん利用者さんへ還元してほしい、そんな熱い思いが詰まった一冊です。

● 定価 3,630 円 (本体 3,300 円+税)  
 B5 176頁 2023年 ISBN 978-4-89590-780-4



書名、価格、書影等は2023年8月現在の情報です。変更になる場合がございます。ご了承下さい。

